



桃家  
善帖

上流川岸  
伊藤屋  
物譜

5  
4465





安政元卯年

載旦

松根にまうて腰をたうぬハ子年の  
ことりゆふとらとや

生る人

門く雲に

ちの侍り

太白堂

孤月



5  
4465





春興

白魚れとぬハ水もろア

孤月

甲寅  
歳暮

ゆく斗七斤山ささの月水少

全



東君

先崎一斗あつむれ静きに

十うらむむの命一庵古

孤月

至京と春知 ちふんをりて

白甫

晴晨樽

雙鶴





十和景

春の川より女まきく流るる

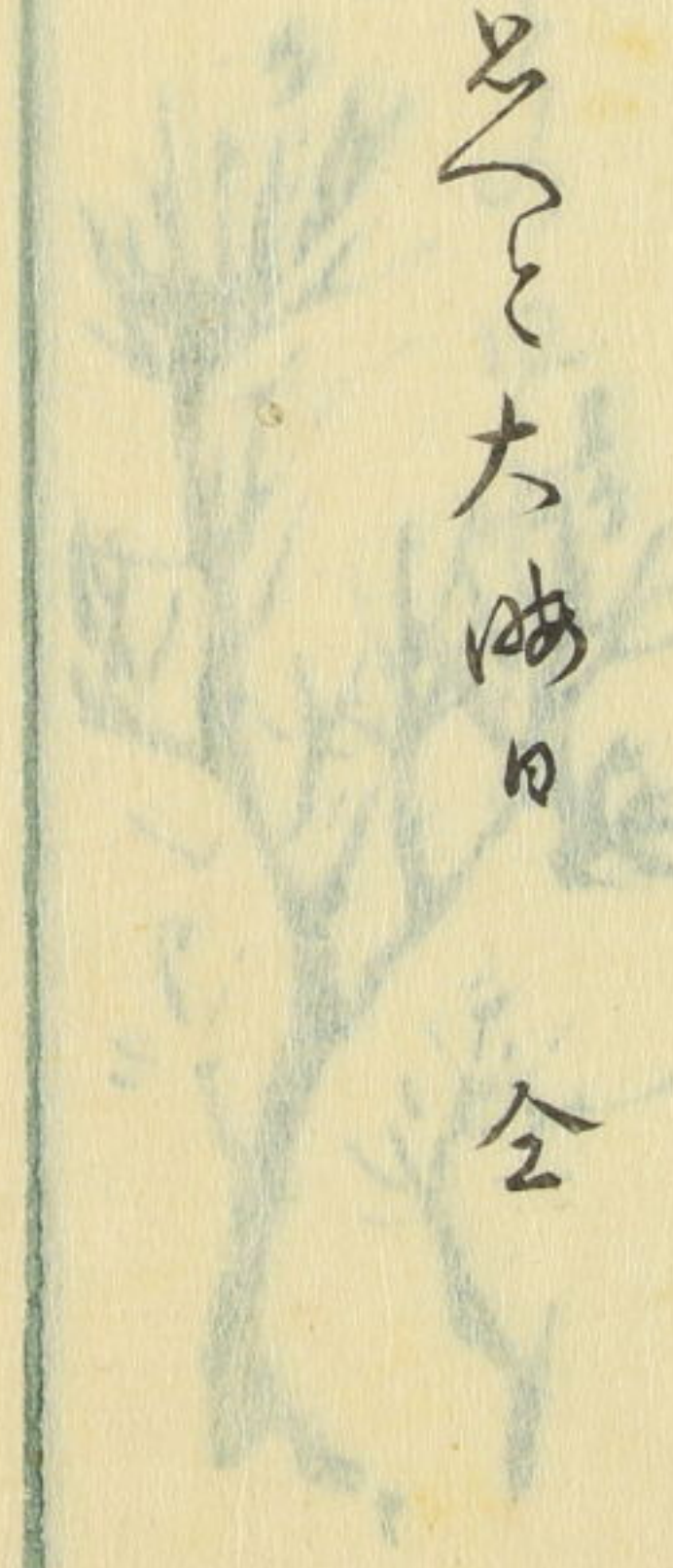
双鶴

曆軸

青景

雙鶴

以迄もゆく物ととくと大晦日  
全



新正

清泉堂

塘鄰

名もさへくまねく斗路の客の殺

春の光れ 深き森道

孤月

何方山の終りき急と昇るを

兔明



春香

柳をくくくや雪を障めに 塘鄰

晩歳

待とハおぼしちよと未去さくも 全



乃三

聖節

涼風簞

路月

をりささる玉をく清代の去の風

実のつと巻く 歸る 蓮葉 孤月

あつ方忌の掬振くをりささるに 有圖



行四

淑景



初蝶に嬉も誘ひいせされり

踏月

年尾

哀風筆

何事とせよして嬉し涙の凡良

今

新四

迎陽



家ハ向きありやうもものま

桃雲舎

玉帚

さ一もくもくちの山

孤月

笠のよと孫桑とを伝さく

湖石

新五

駘蕩

柳  
玉帛

流年

今  
くねくねのねよれて大世り



佳節

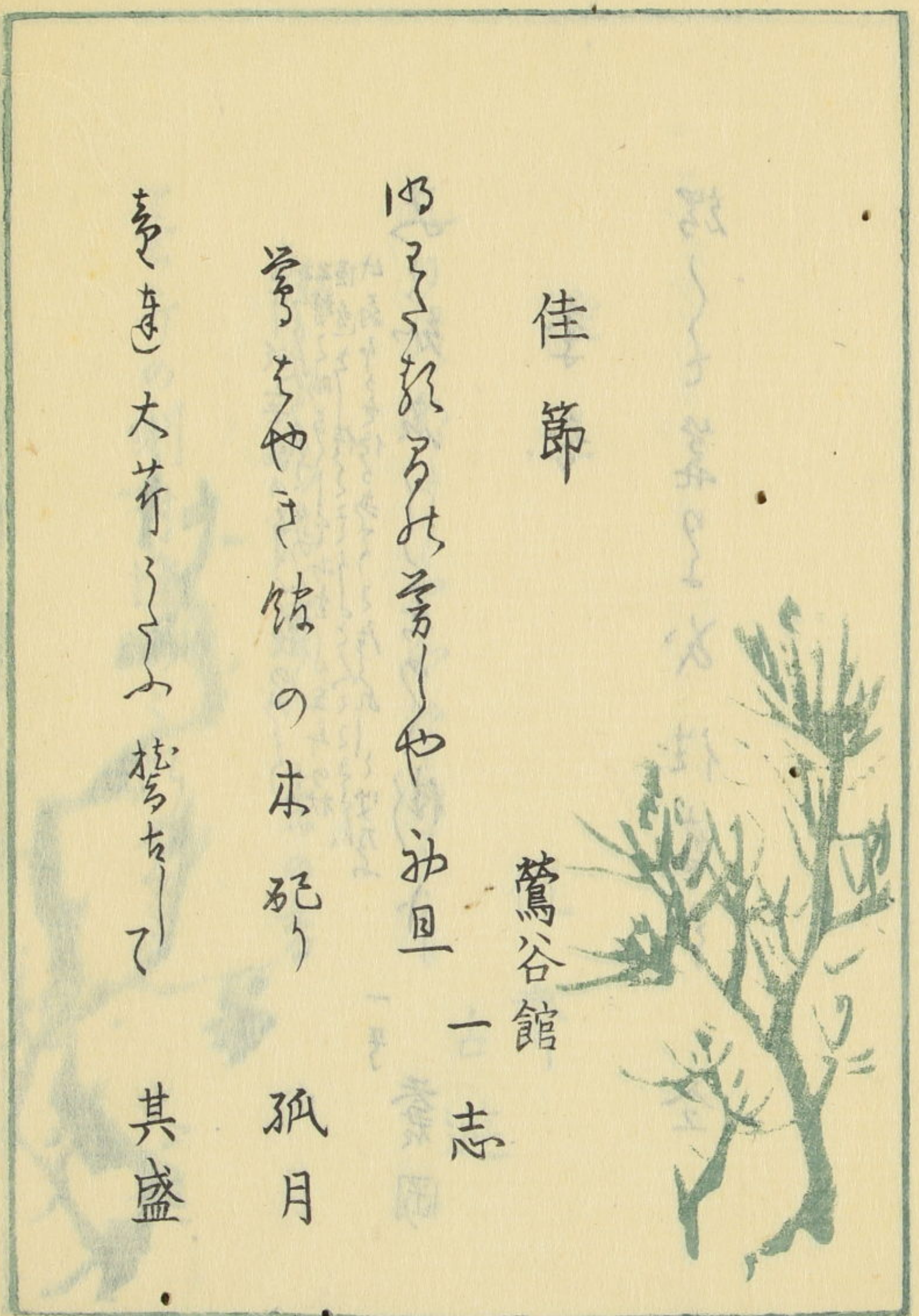
鶯谷館

一志

ゆきゆきとるは芳しや

孤月  
雪をやり館の本配り

其盛  
雪をき大荷くくふ松をたて









暖 和

白魚や名所よ住重き

北條尼

三 冬

女く鶴のふたふや隣のそと涼

全



藤 水

青 陽

振向う節の路や初日影

積翠亭

春 石

相よき家お梅柳うら

孤 月

けきハ何玉の歌と膚きく

蘭 溪



藤 水

春永

春永の柳を伸ら柳

春石

急景

急景のハハを引れ年の暮

全



春石

清旦

清旦の朝の光をよ鏡

桃有堂

私遊

千本のお花様をむす

孤月

竿の色を筏の色のあつ

夫雪



春榮

其地にむくけしむらさきも  
林松遊

大呂

林自堂

おとそをきかゆへ焼のまい  
全



序十

改旦

藤生舎

英理

同くはかき斬してそら  
のま

さや藤をけ表  
孤月

さへ頼をぬわ  
使まうて  
鷺船



春色

端とに 常時や 袋河 英理

臘日

一年の候と引く 除夜の夕 全



唐土

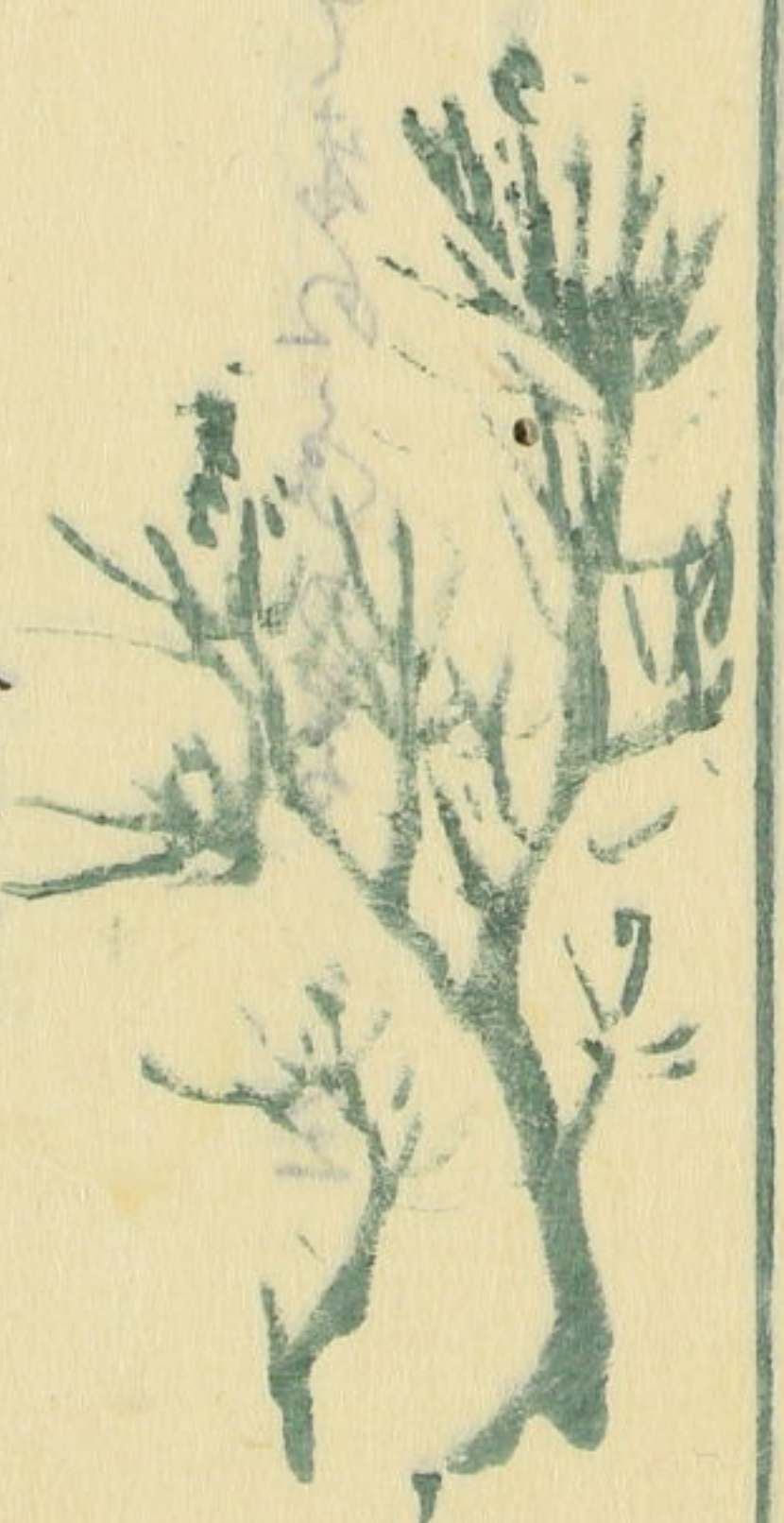
上日

太喜堂

幾ふ代の葉えを 宿の跡とえ 賀 鶴

築山 位あゝ去 孤月

燕来 洒挽 唄のをとてに 塙 麥





春光

春のちき枝さかゝる柳也 賀鶴

黄冬

能きふとまゝして春のちき 全



静鶴

立 春

立春

太整堂

孫とあも梅つてあ方糸也

静鶴

ちのちのちとさぐさぐの梅も

孤月

すの字と花のほい遠くを仕奉

蝶二



静鶴



序三

詔景

年増よさちの柳の柳

新詔女

命歳

大徳堂

何すも七皆いさましくの事

全



華晨

光聖樓

門松よ大くさのゆのゆあは

翠駱女

海まききまを二階千を

孤月

おものゝ照るまをの科記して

兔來

序四



兼天

次のゆくゆくはあまの梅のまゝ

流年

をりけりゆきんのかうしり

全



蔵書

三朔

風柳亭

えりれをや中あふきの夢

絲月女

降くぬかおうはらして

孤月

みりかて儀の五穀横きに

白甫



蔵書



和景

毛根生々 委ぬる 残の象

除夜

笑え乃ち ちよひと ちよむや 宵飾

風咄亭

糸月廿

全

銀月

江戸  
世  
土

三元

月も思ひ 込り 色也 今終の喜

映花堂

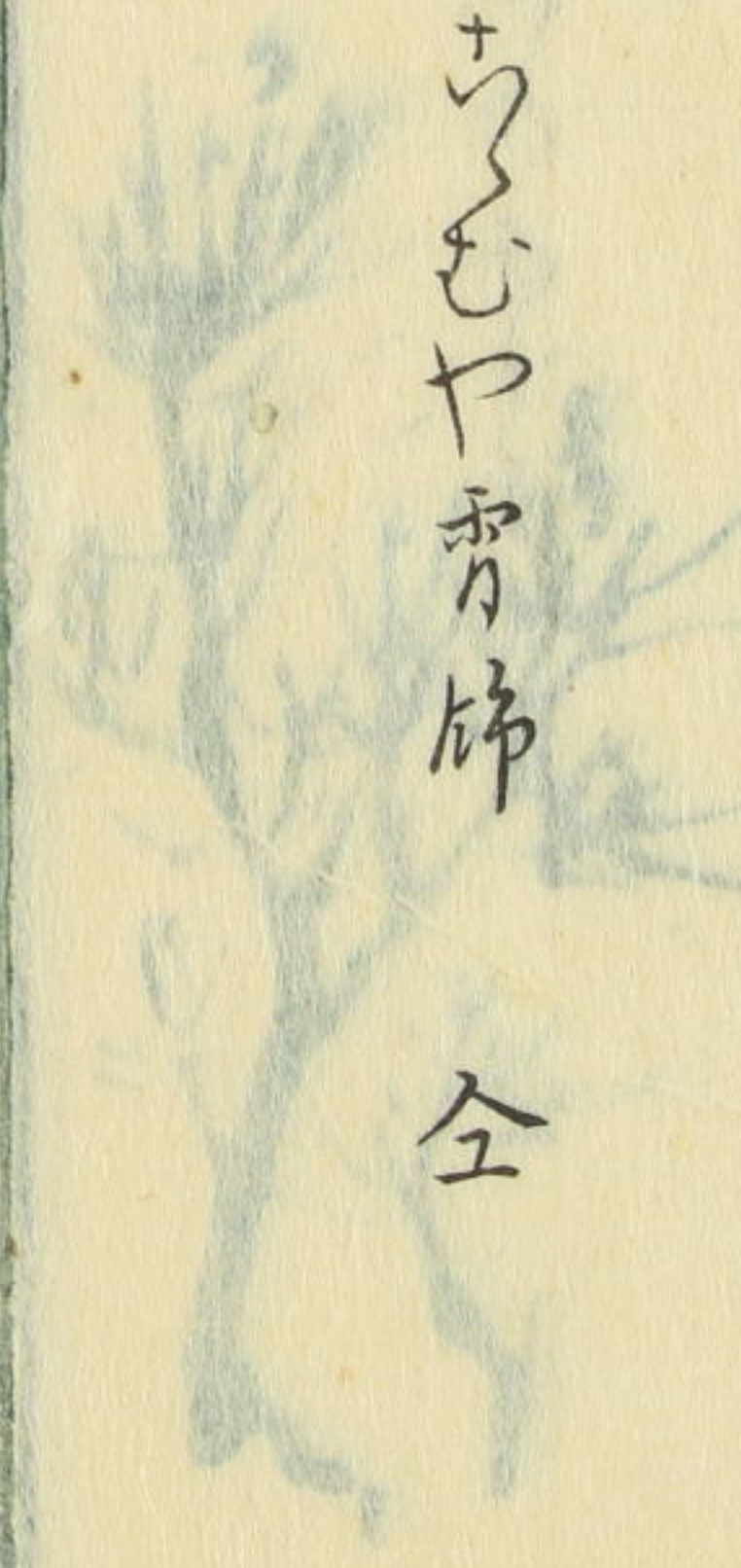
挑池

柳を さらりと 霞 里く

孤月

海 なる 白 魚 夢 其 旧 織 毛

兔明



春景

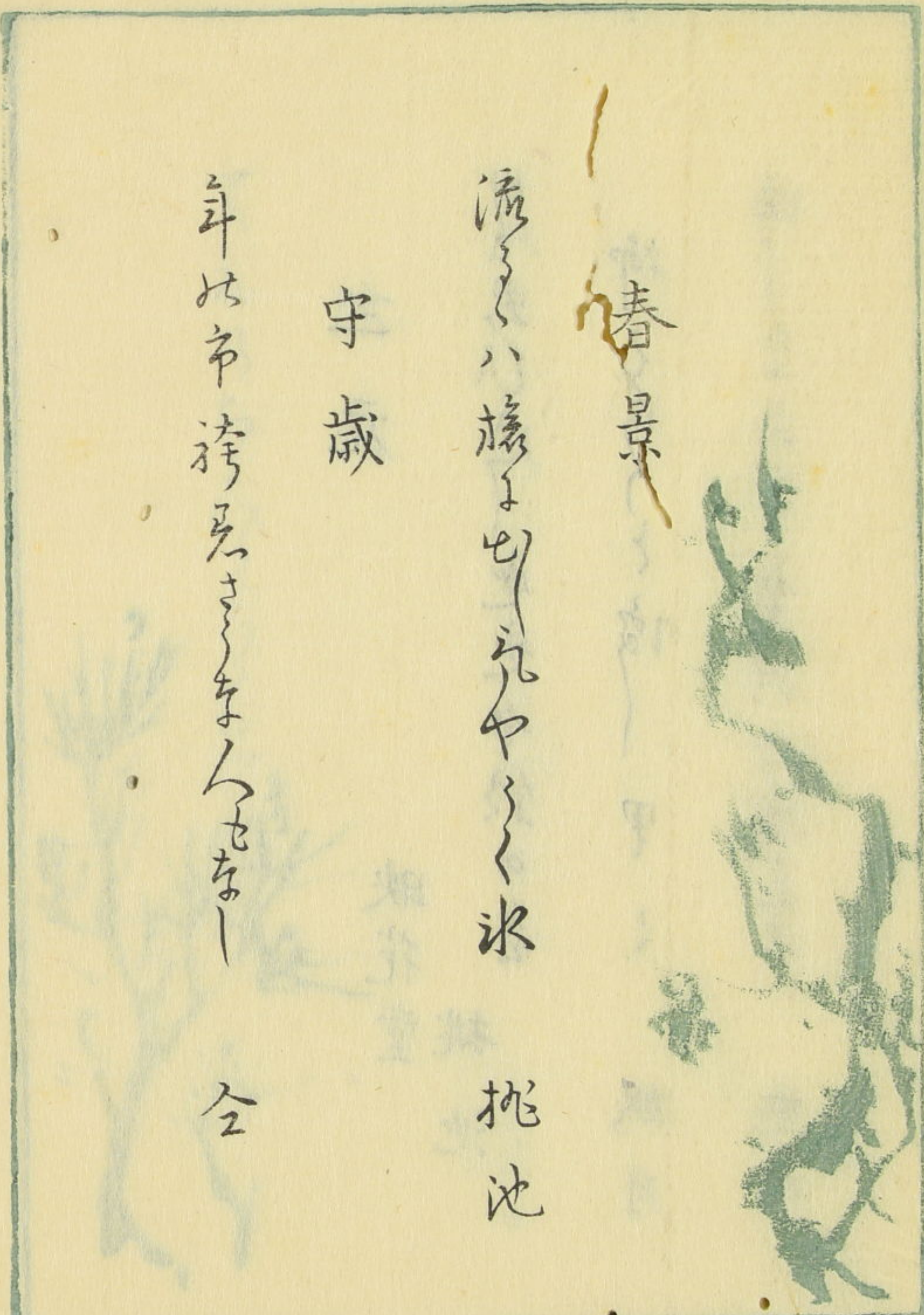
流くハ藤子也ハヤハ氷

挑池

守歳

年々市袴忍さるる人々を

全



新東風やふ二ハ分ハ一春の夢

徳和詩

巳卯年

うのうれ吹そそある小春水

葉柳もみすきりハるわわわ

々舞うるそりの舞や新鳥

全 其文

おちり梅を空つりきり梅柳

毛皮まひてみせきく雪のうけ

辰下とくそや新鳥

全片子

東明

月の梅馬ようれりまうき

ぬくくと梅を空つりきり

全片子

日よ向てるをやはすむや福壽州 全服田 志文

小雲もともやまゆゆ 七原 小

めくくると食ふれりまのり

まのふまの物言をいど 明のま 本を

梅まききにこほれて居るつづけ

まのねのるやゆふもまのねま

朝の修きうく 十代のまやうら 松の

居る人よまときままや松の内

よの押もまきまきよおとく

百葉とちもく 歌く産ぬけ 武吉梅 梅川女

言神の張も 若くつゝののこ

よをきうてまあともやす日永

とそめ海下すもまもまきうら 全 梅楚女

西日の松よるもまきまき

くの笑てまきまき 及のまきまき

産種のお令りもときれ侍いひう 全 まきこ子

梅の附もまきまきあまひま

ハナとめしちちやれぬま



三

ゆくゆく向て来るとん 孤鳥 孤洲

梅を食らぬ心ゆくゆく来るとん 白ふり

子くおとあつとくゆく大世の

糸くちやそまのふのふくく年 毛立林 甲松

藤入をを糸をいつひおくゆく

ひるゆく旅ゆくそよく杉葉は

去年をを揉めきて夏ををんをけ 全 柳青

三千世界むつと一月の松ひけ

東のくち 雀 鳥七 去のま

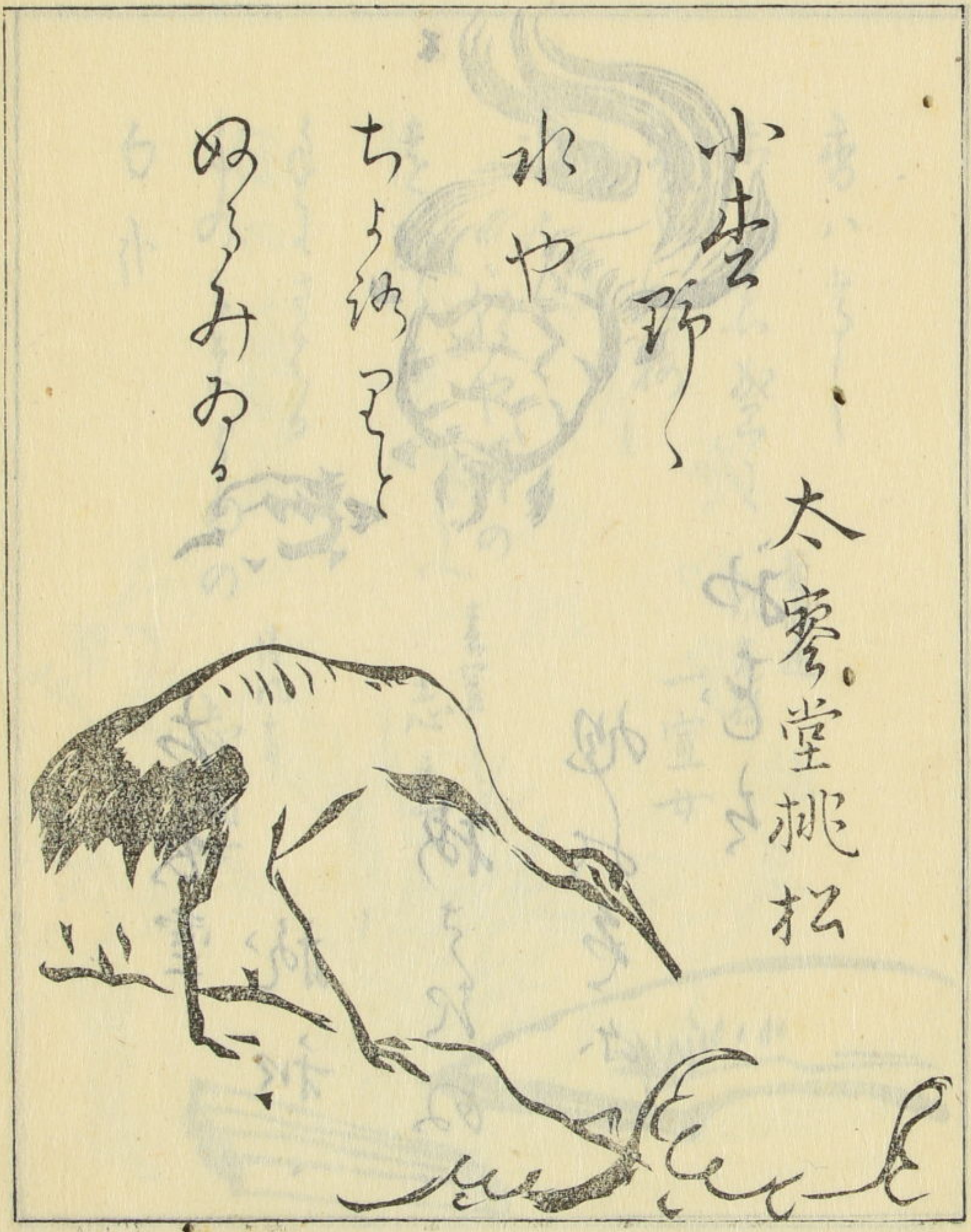
太寥堂桃松

小松 邱

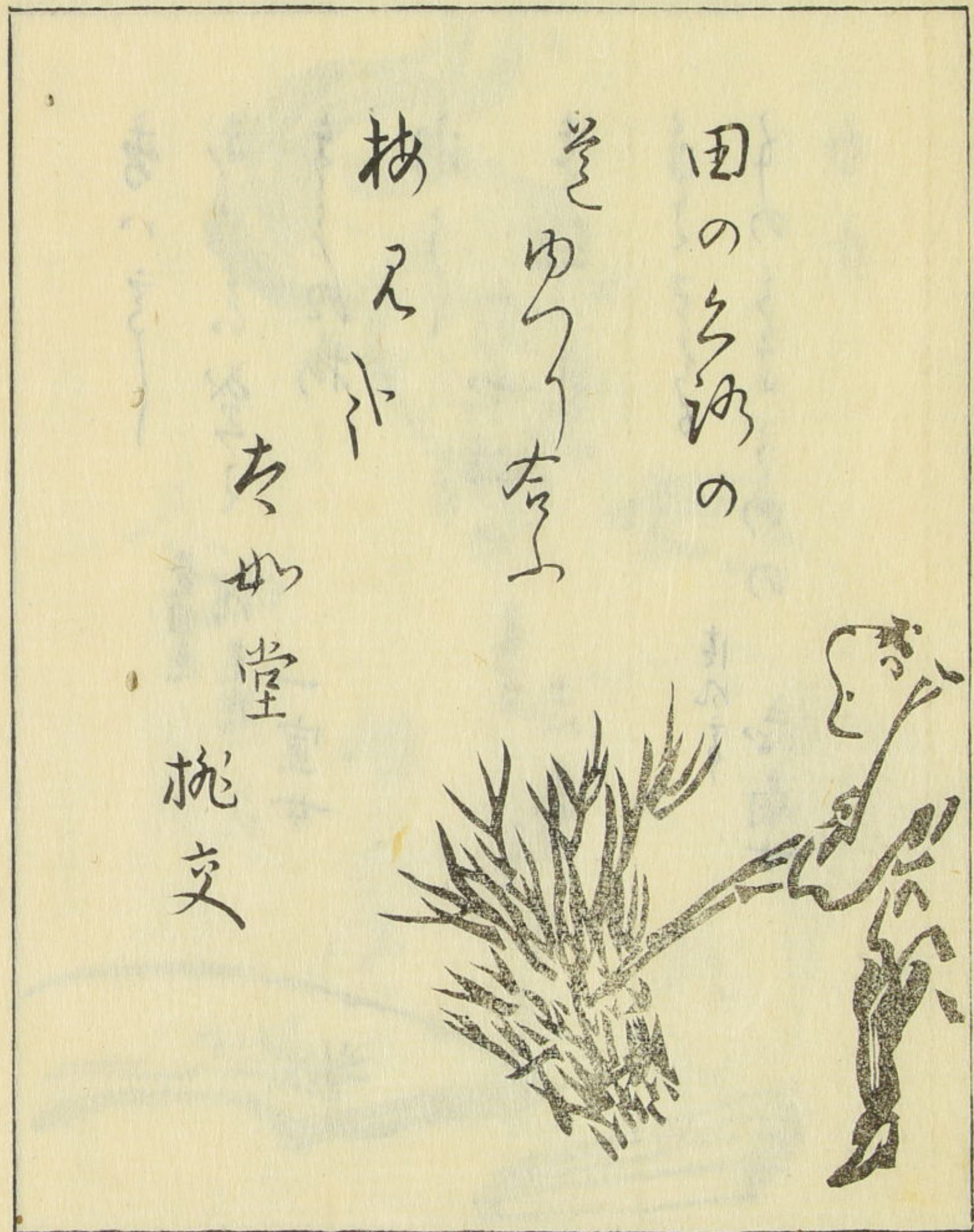
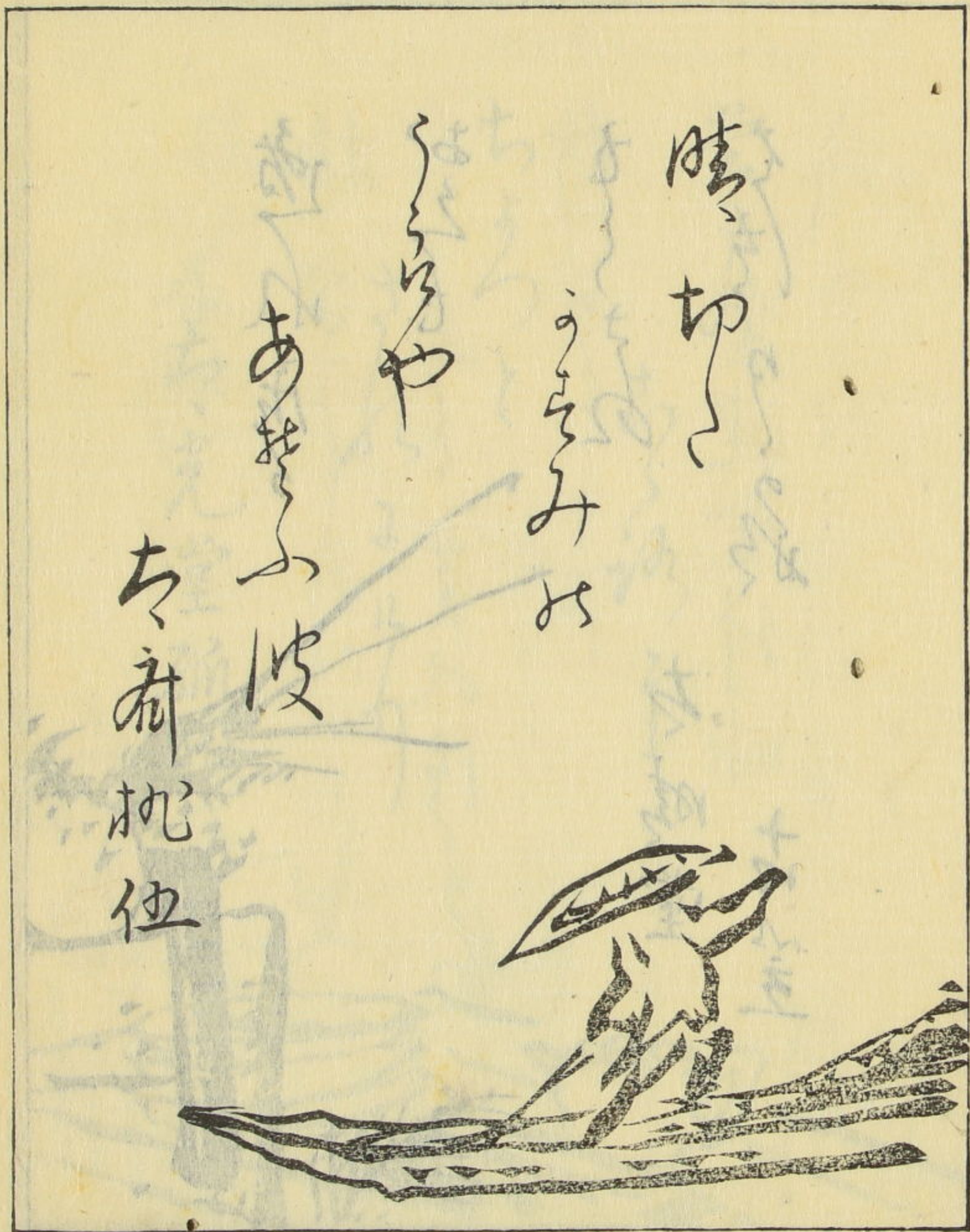
水や

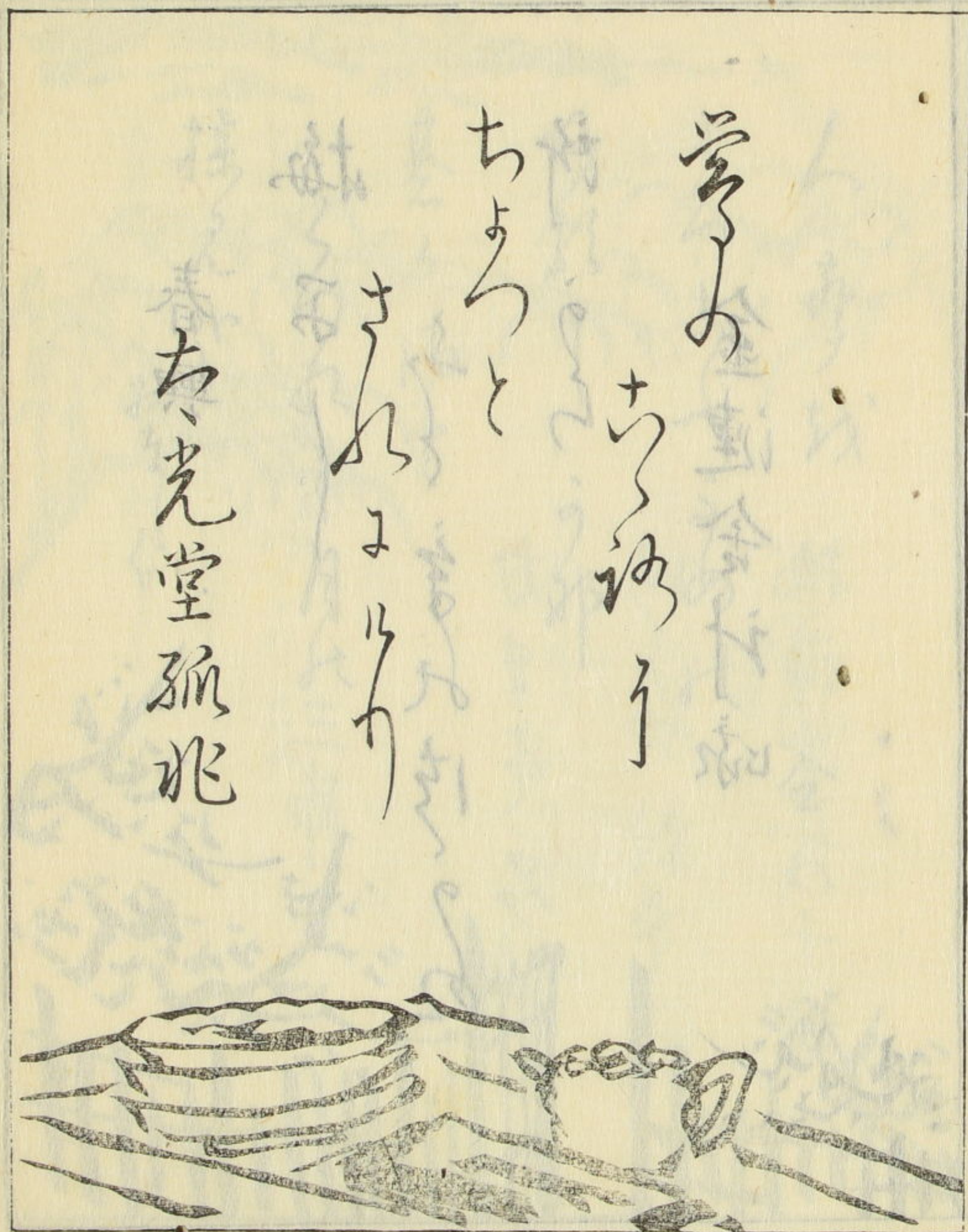
ちと秋ア

ぬくみわ









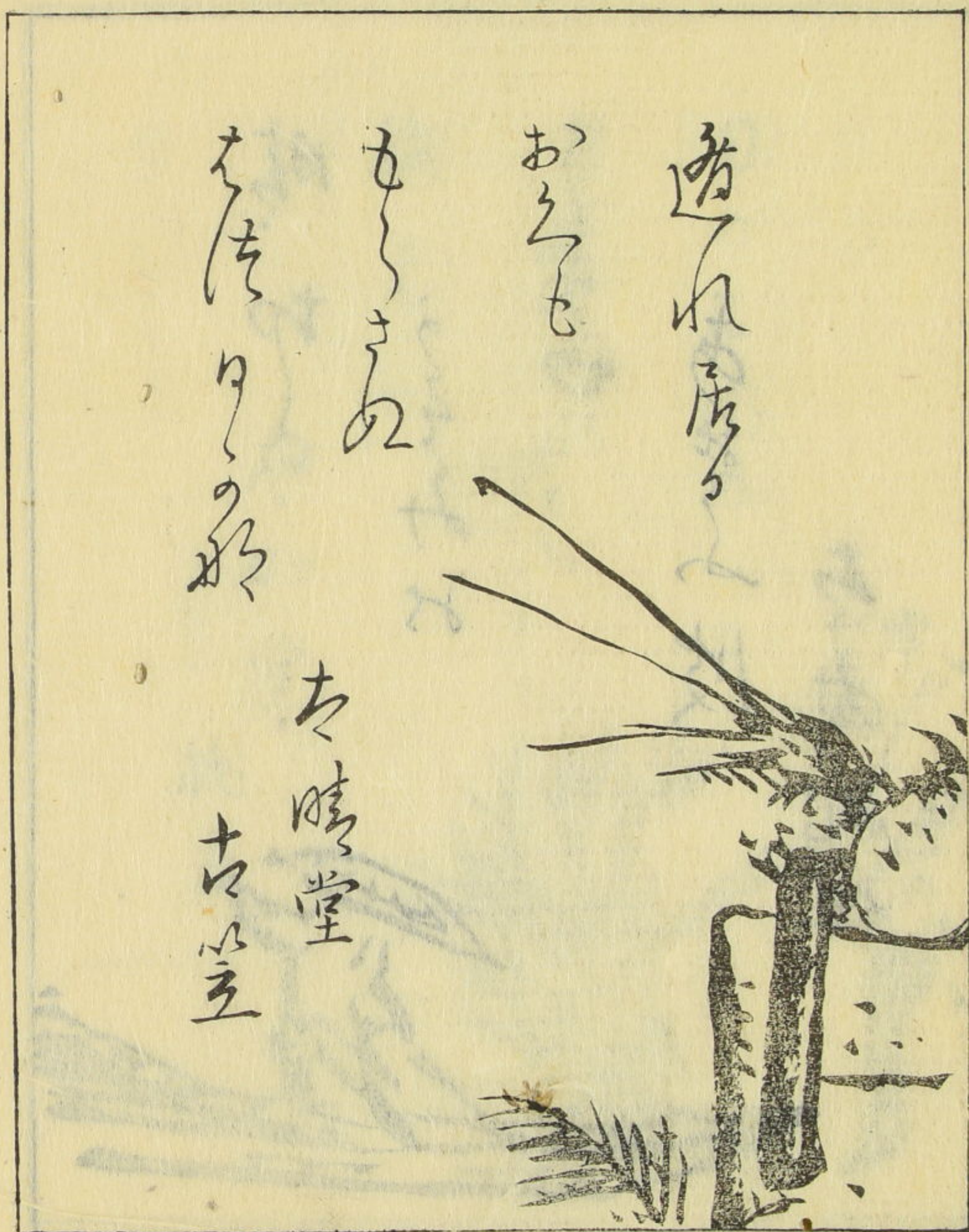
雪の

ちよと

さね

光堂

孤北



透れ

おと

ちよと

光堂

古堂

六



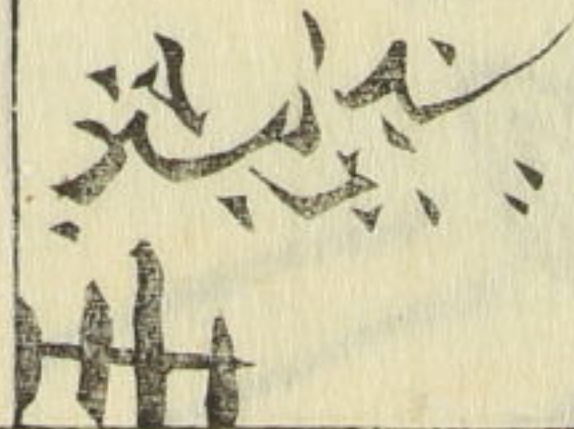
春興

梅子

ふとまれば花の

所

金連舎計咏



ん夢哉

よらふふふあは

何処か

暮らふ

くわねく月は

揉んば

おきく





三節

力まき 乃ひ毛  
阿多 雜草 腋  
挑補堂 茂十輔

百廿六



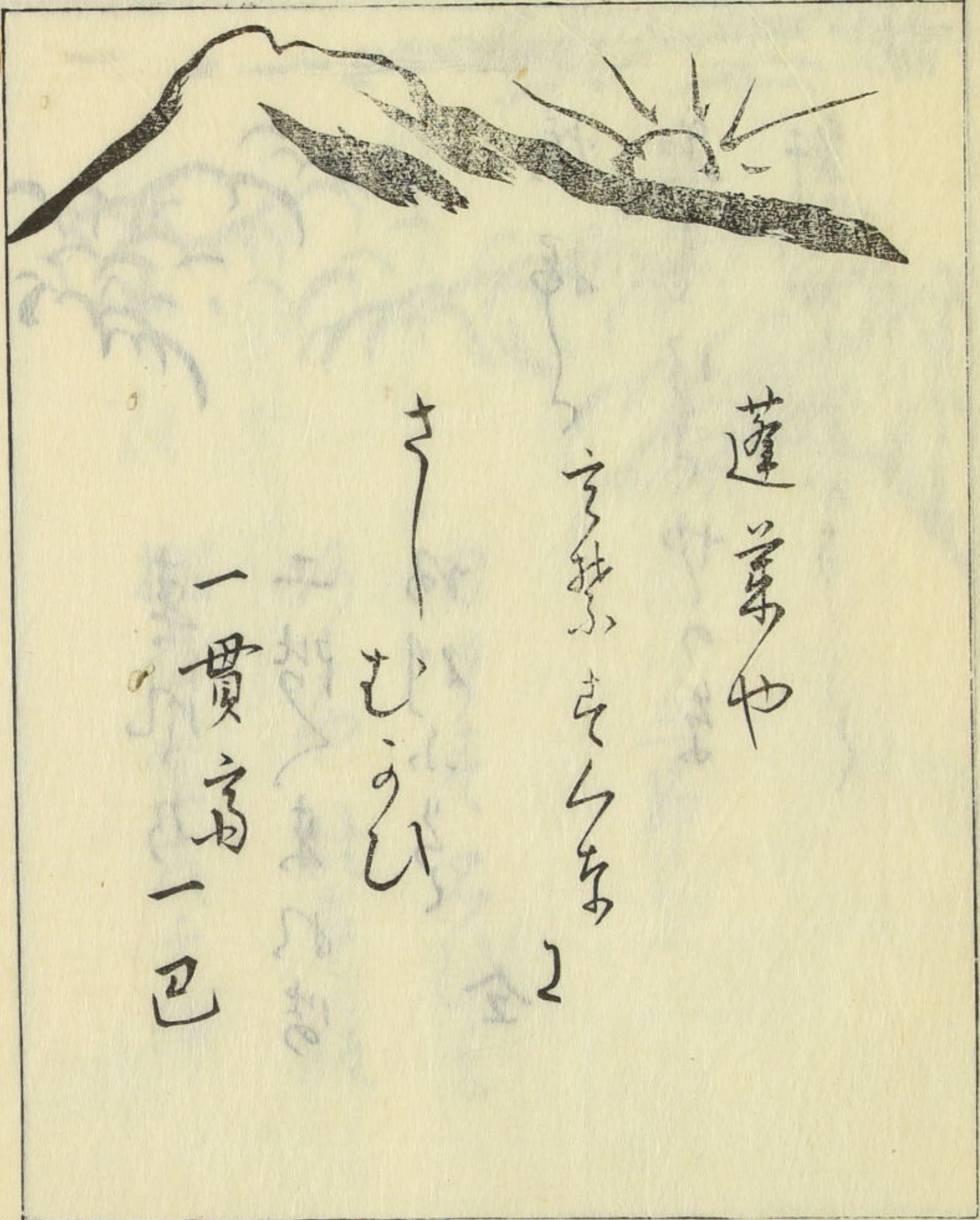
喜風 乃  
二階く 東れ 岸  
阿利 小く

全

煉掃

おと ぼさ かの ち

新 ぶ おさ しく

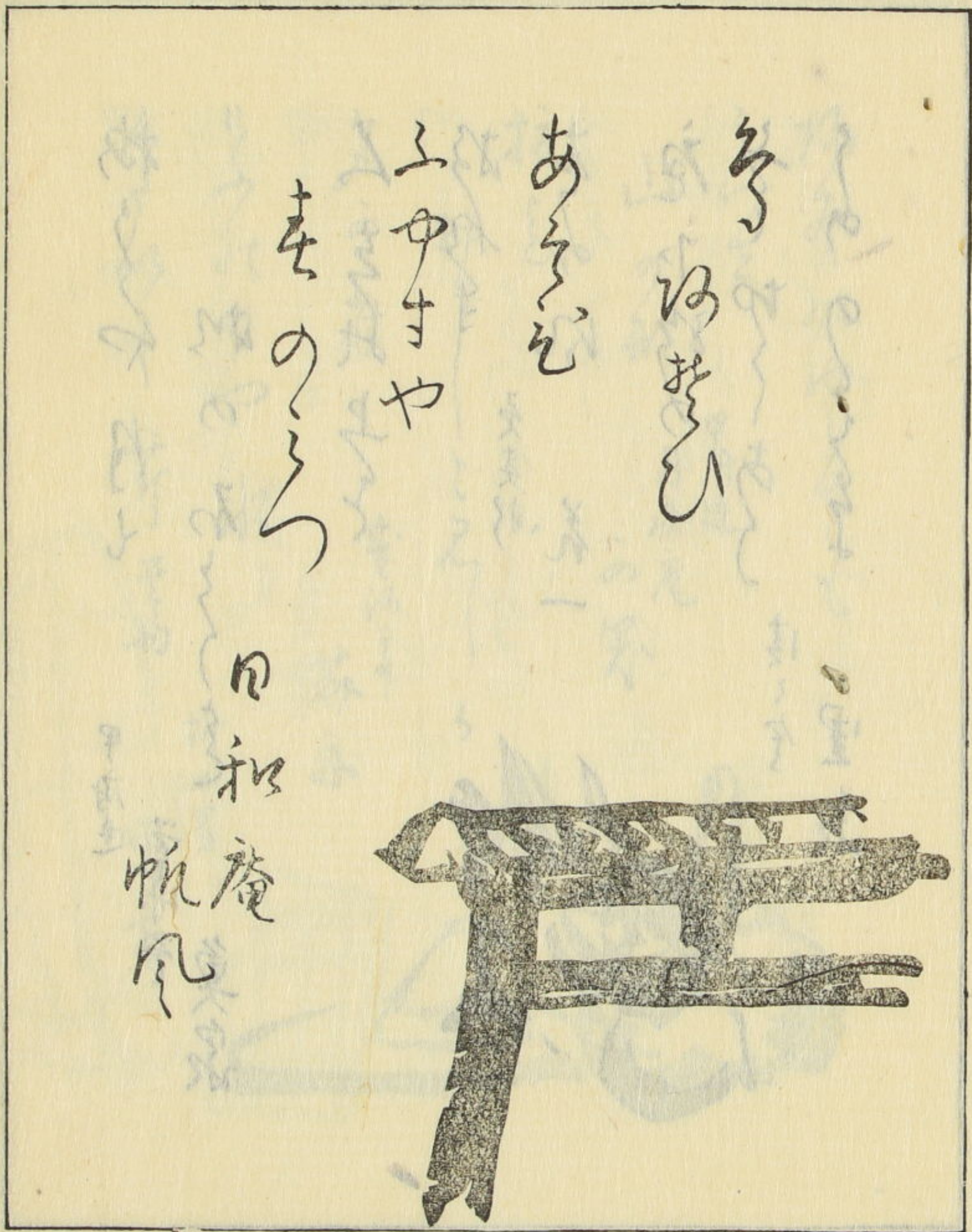


蓮葉也

言禁ふまゝ

一貫高

一巴



多

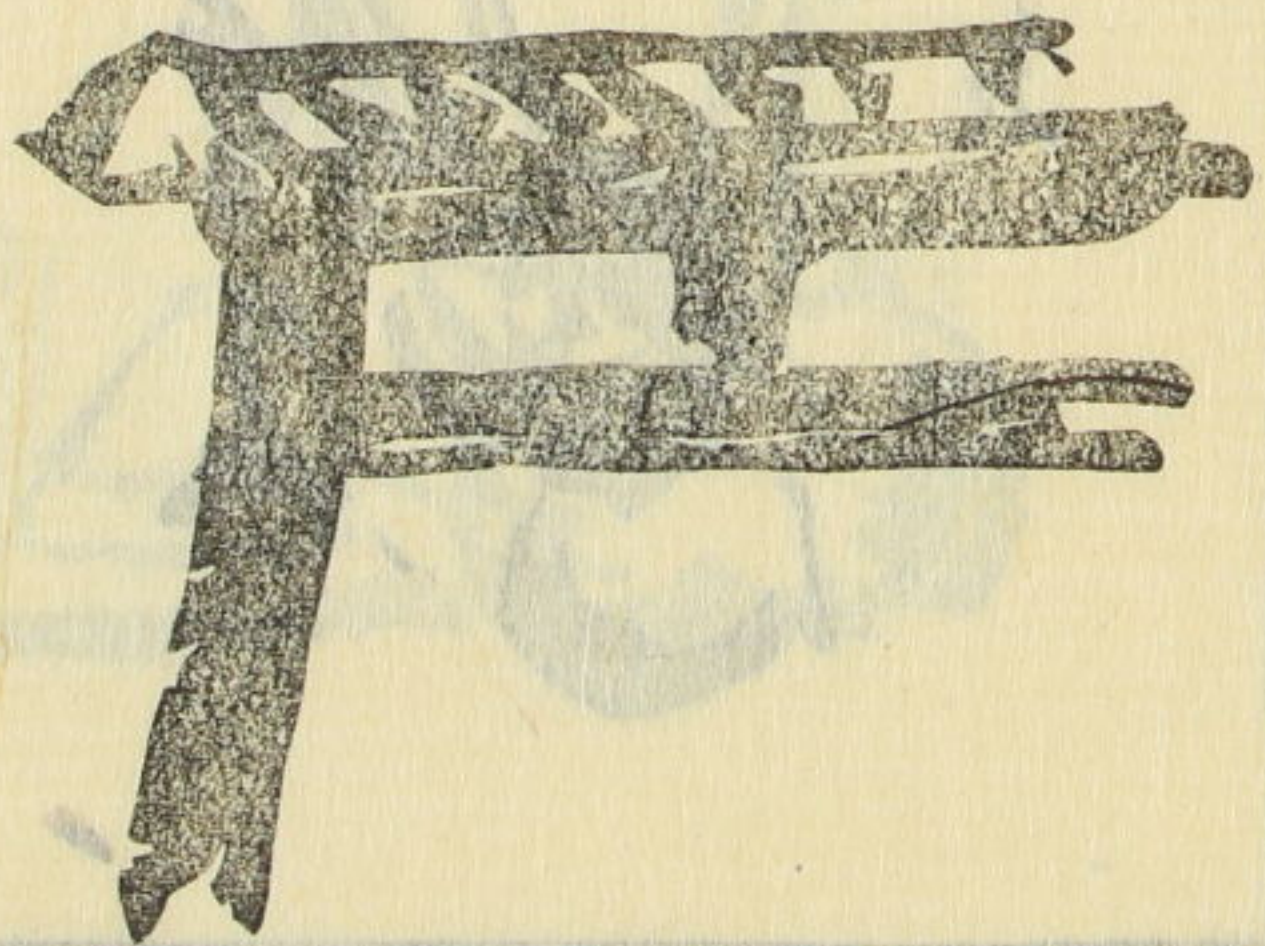
あゝい

ふ中まや

春のころ

日和

帆  
風



梅のや月七  
甲府達  
菅崎堂  
真泉

人まればよき

好むす  
貞美堂

春の風  
花一

夜下流の  
あし切あ

よののこま  
清く  
里泉



陽春のゆき

うらま

山の形  
甲府達  
月影庵  
の笑

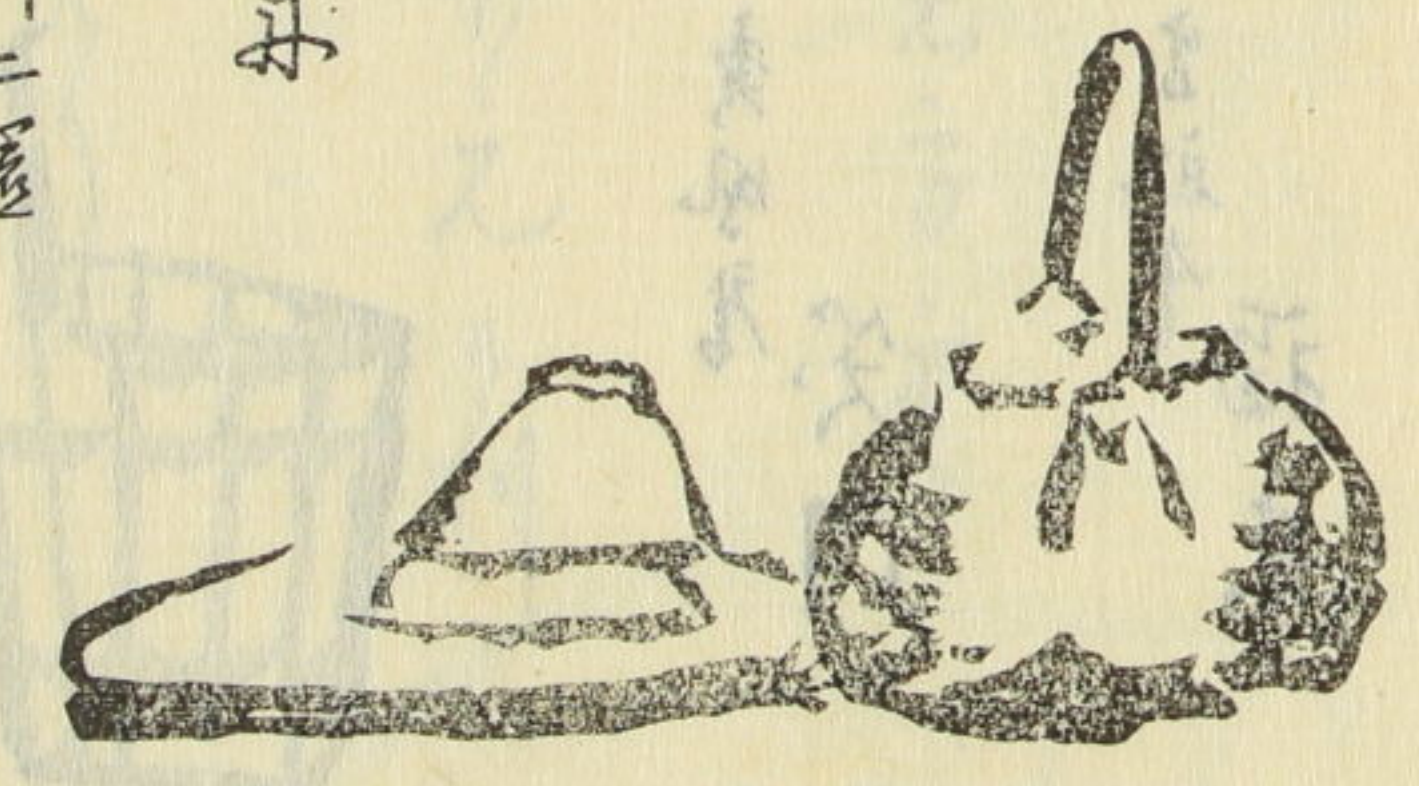
核を

おろしとろし

夕の霞  
菅崎堂  
蘇舟

夕の霞  
氷

夕の霞  
菅崎堂  
柳二堂  
里高



四五編の

梅さくふり

ちりみり

日北置

三慶

のこふ

さつきのあや

あえりり

秀風唐

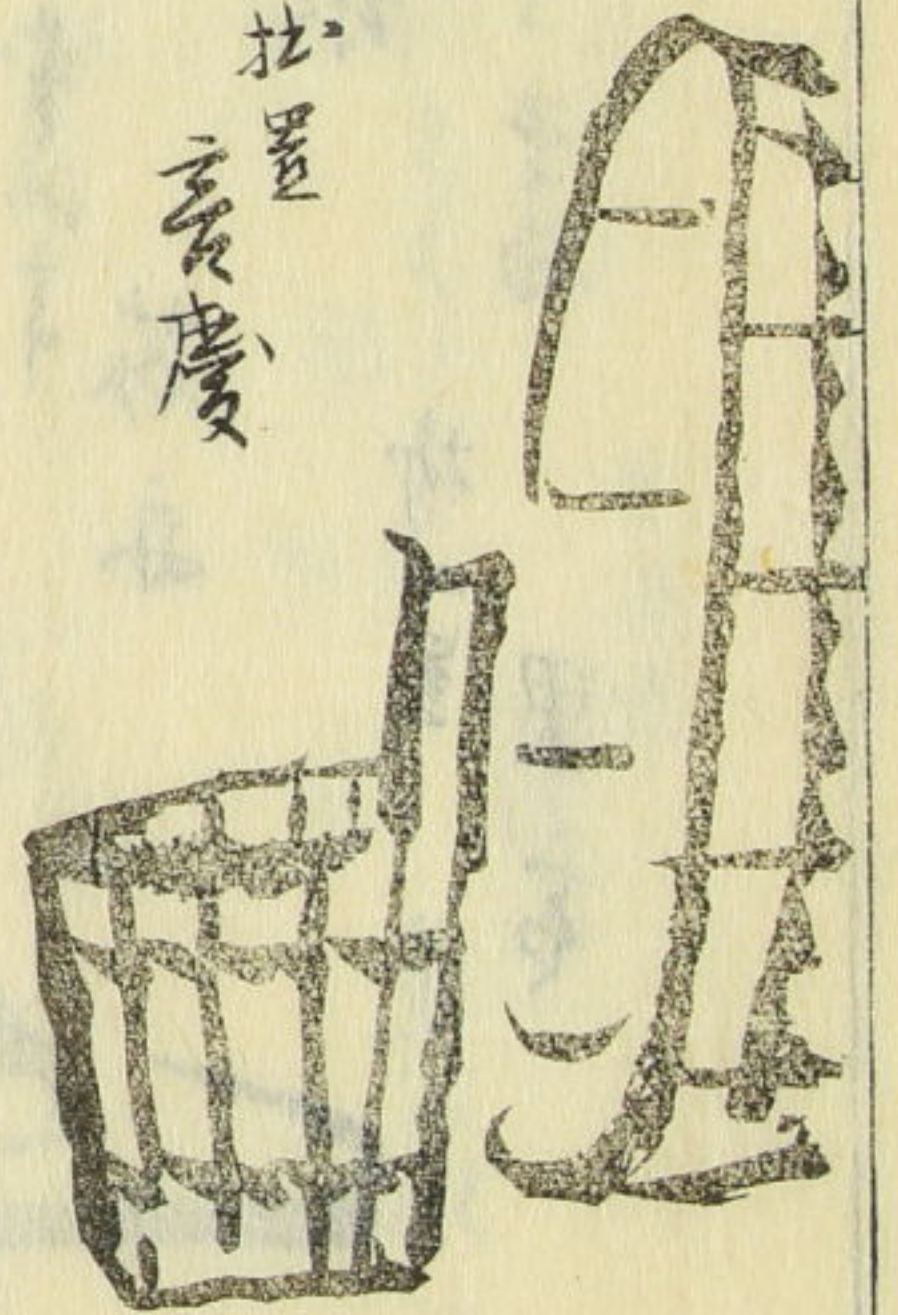
笑門

うのうめお織

宝社中

福来

ちむや  
ひとよつま



三節

寛きるきり

さつひやあき方

正りをるもの

ふのおりえり

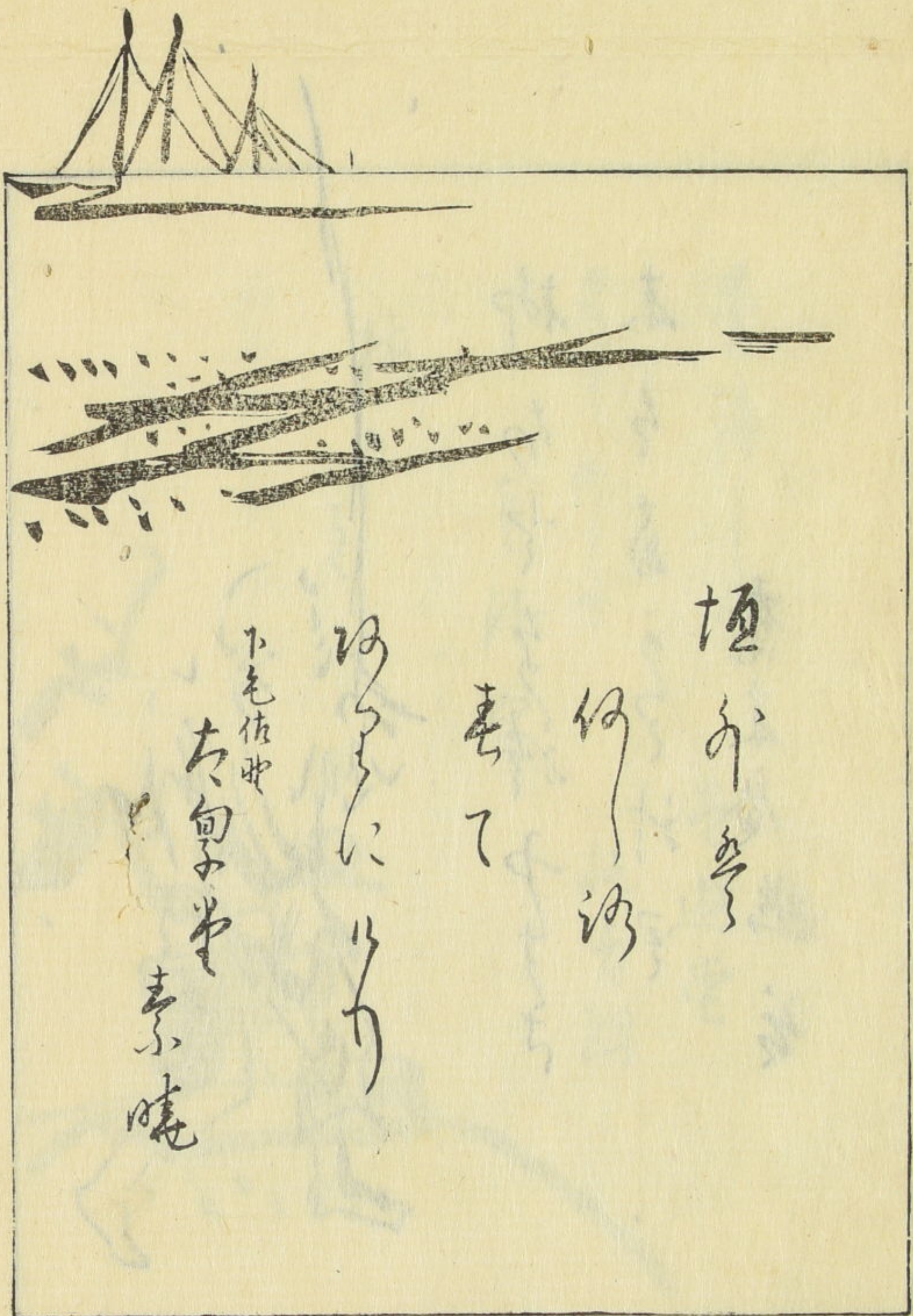
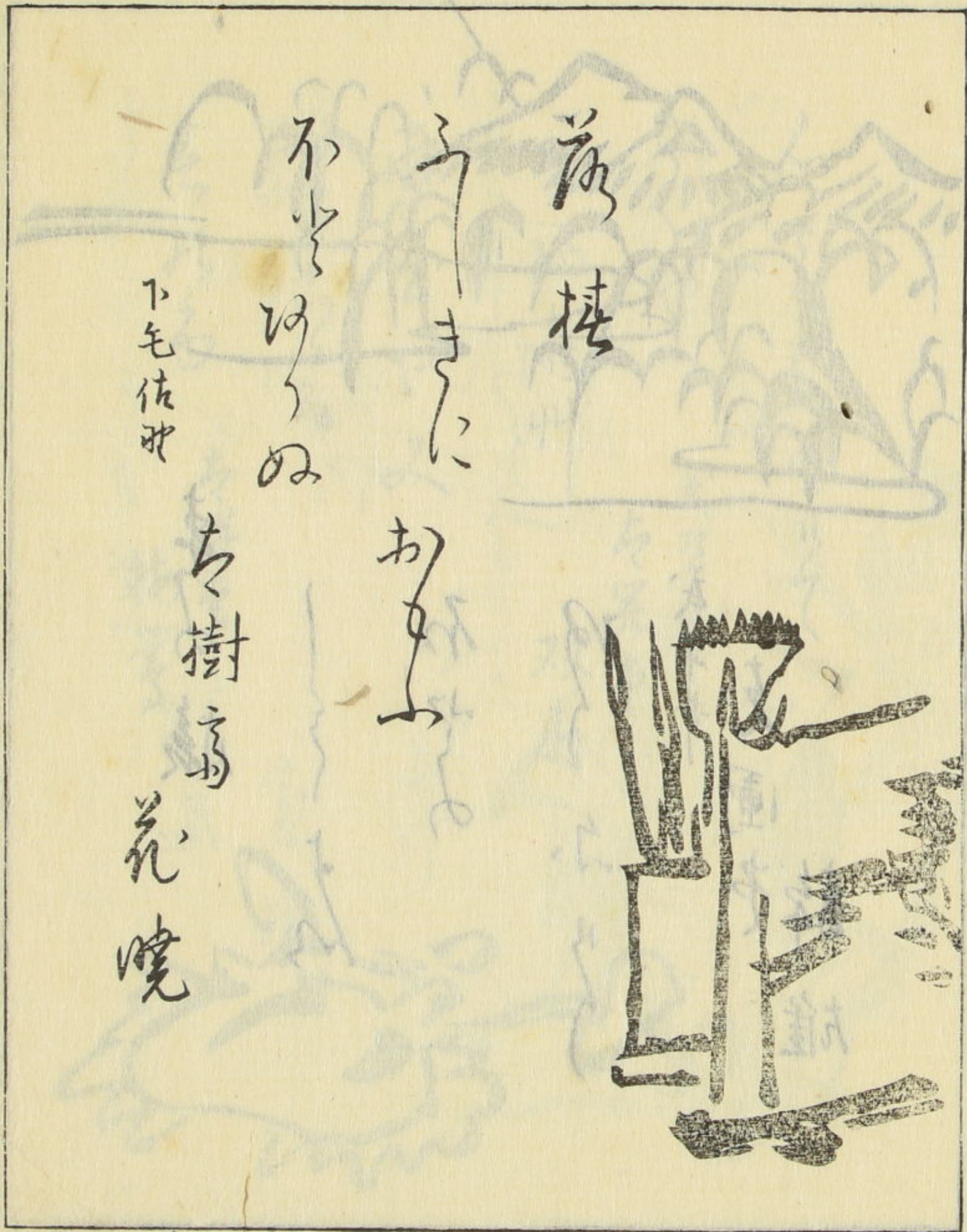
除夜の灯の

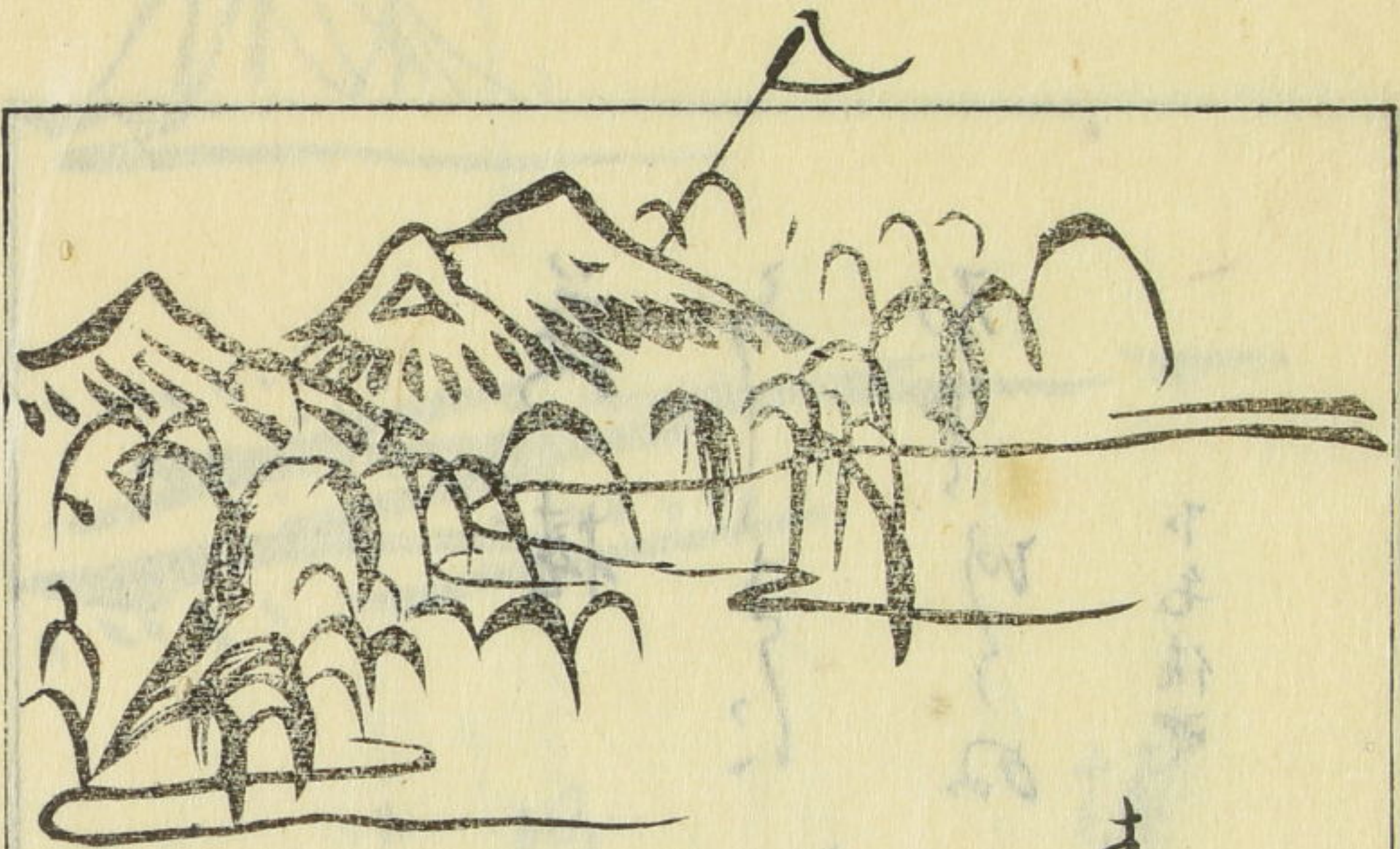
あふあふおひり

武麻せ々

右側堂枕永







春の娘

しづよ

石少の

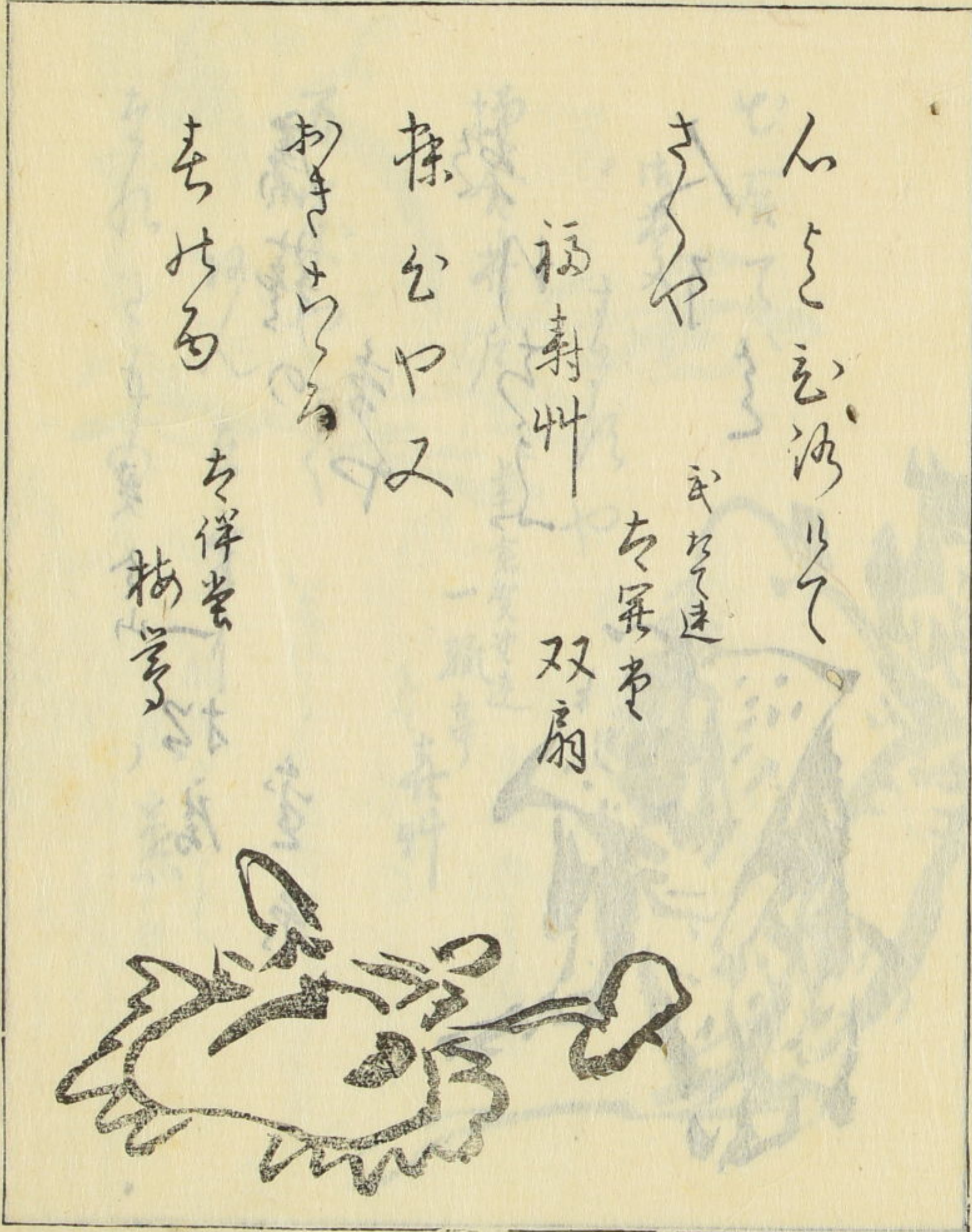
河の

氏平井

丸團

静雄

長七



心と玉海

きん

氏平井

丸團

福寿州

双扇

探公

おき

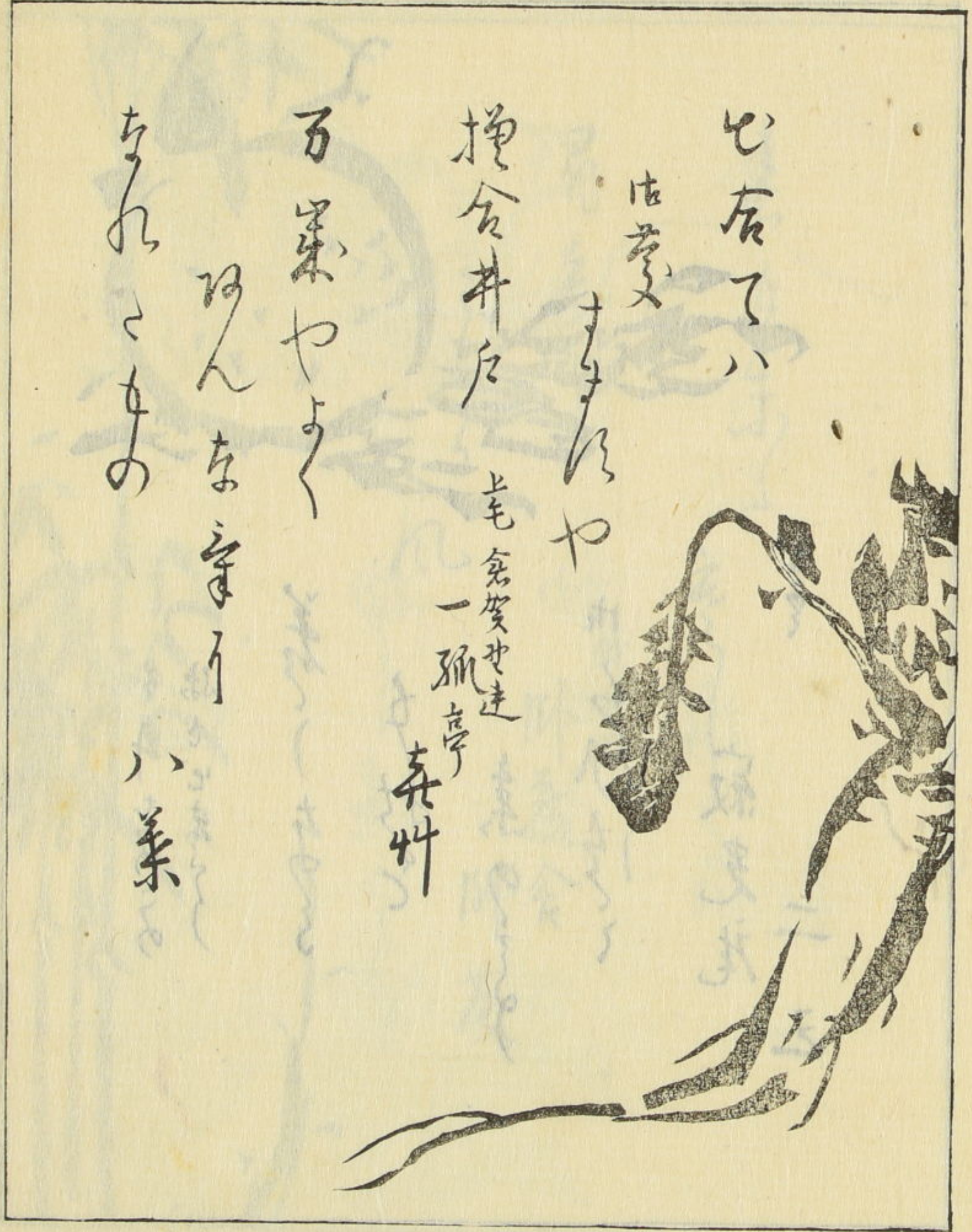
春の娘

氏平井

梅堂

長七





七右てハ

佐々又

ササノヤ

樽合井戸

毛倉架中辻

一孤亭

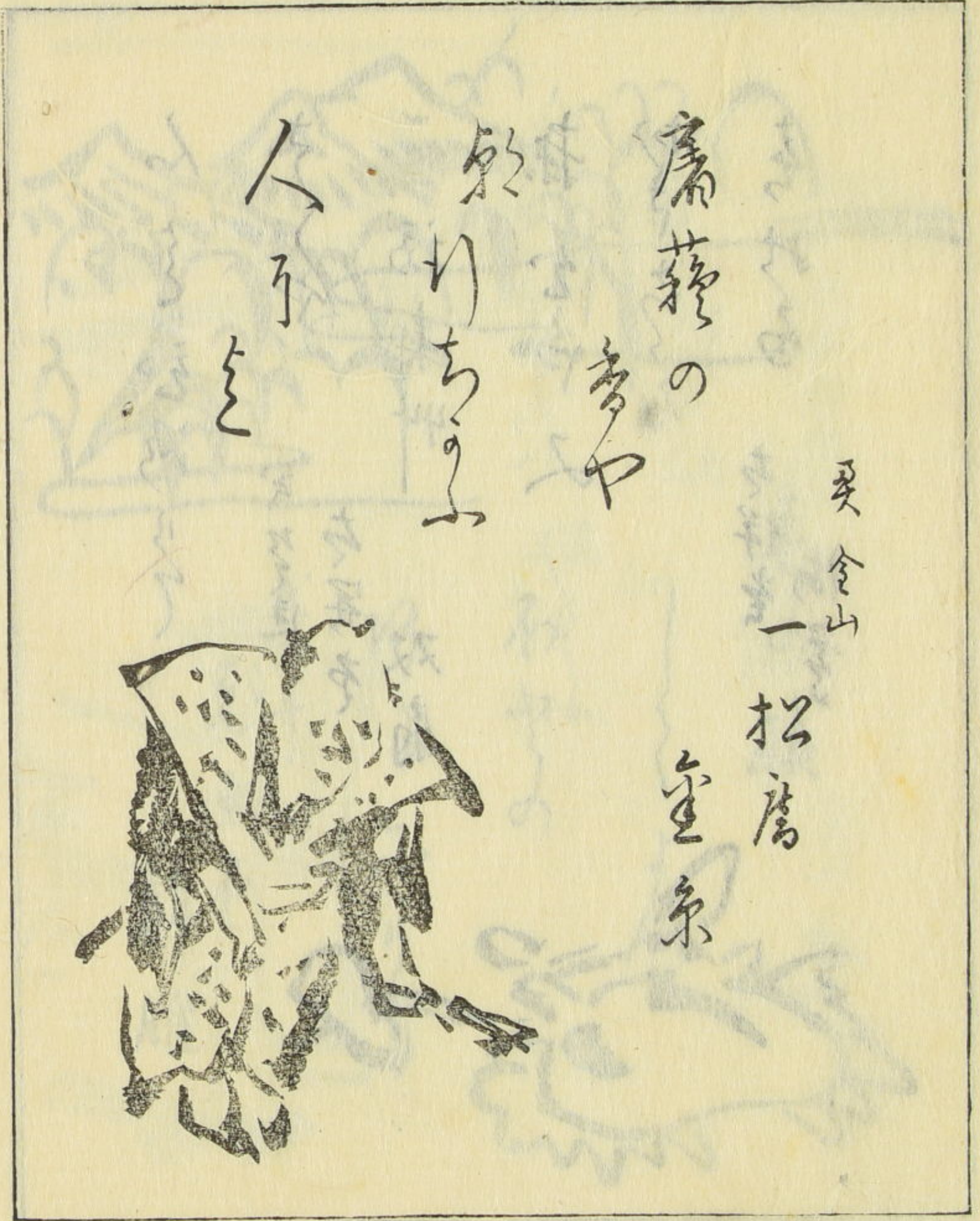
森竹

万葉やま

町人なま

たれともの

ハ葉



葵倉山

一松房

金糸

藤藤の

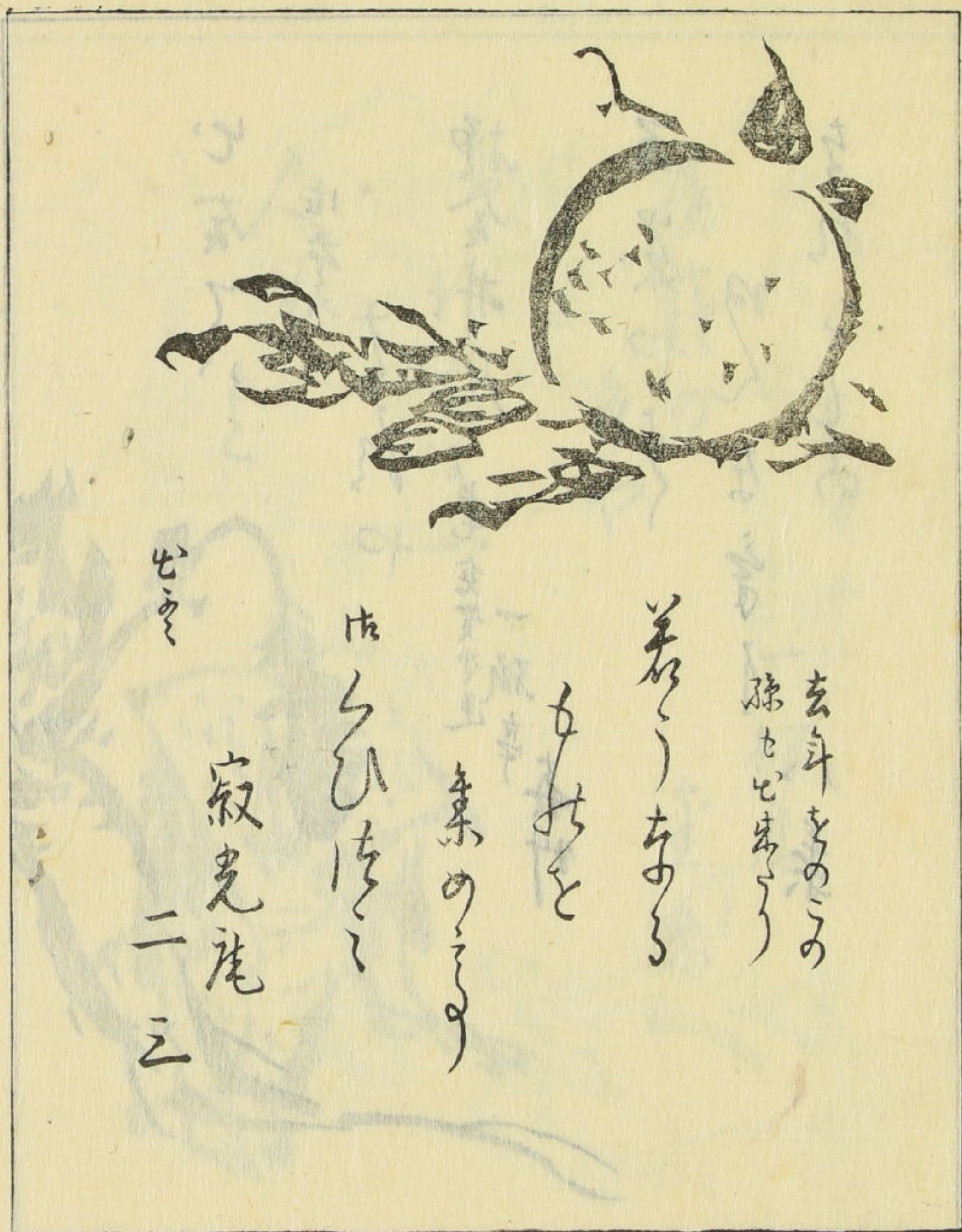
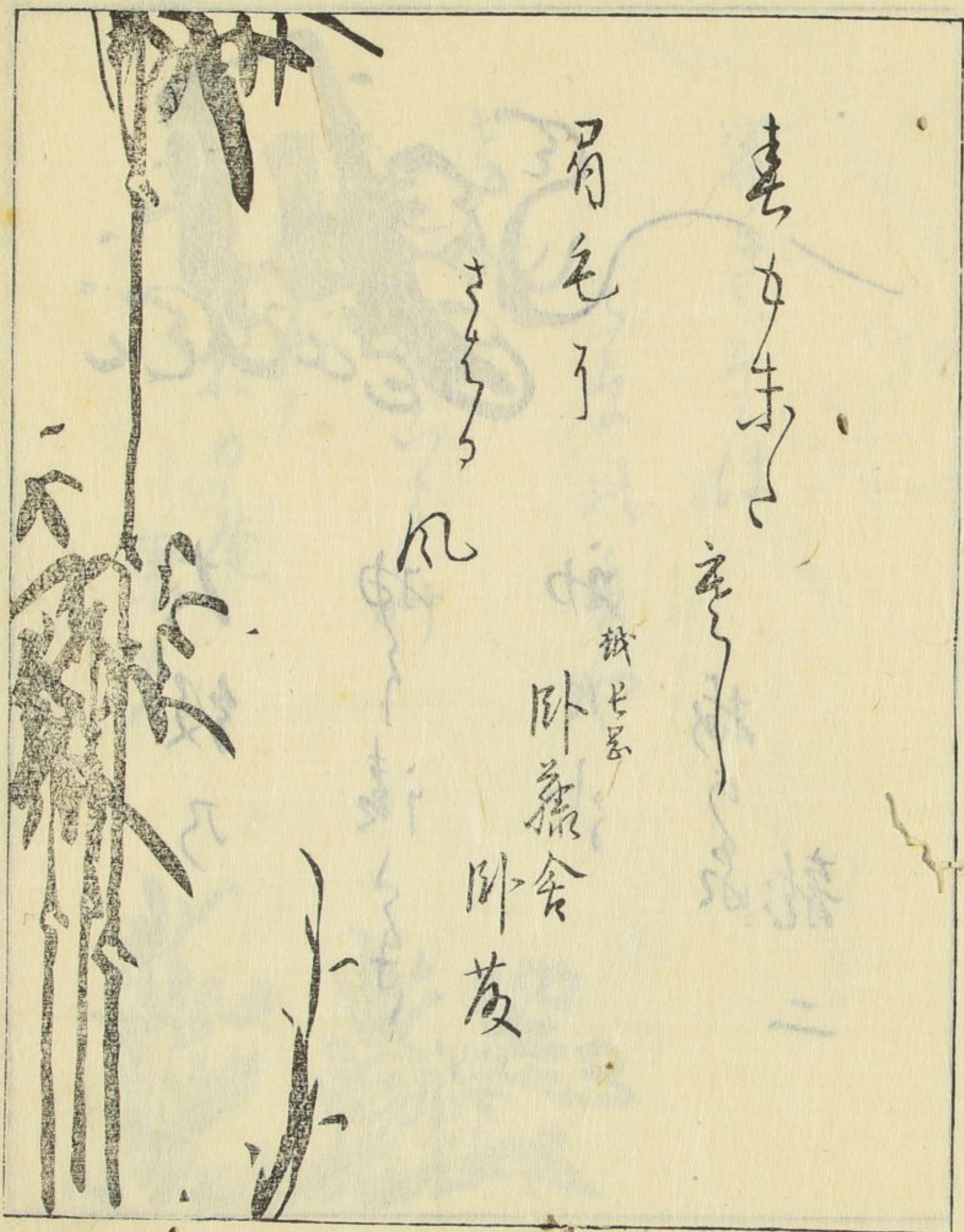
考ヤ

於

ハチ

人

と





大級乃

神々清々

初日

梅の象

龍二

七

冥ききは

をよみ考中

きん

初よりみ

云々

初り庵

東光



下毛大久保達

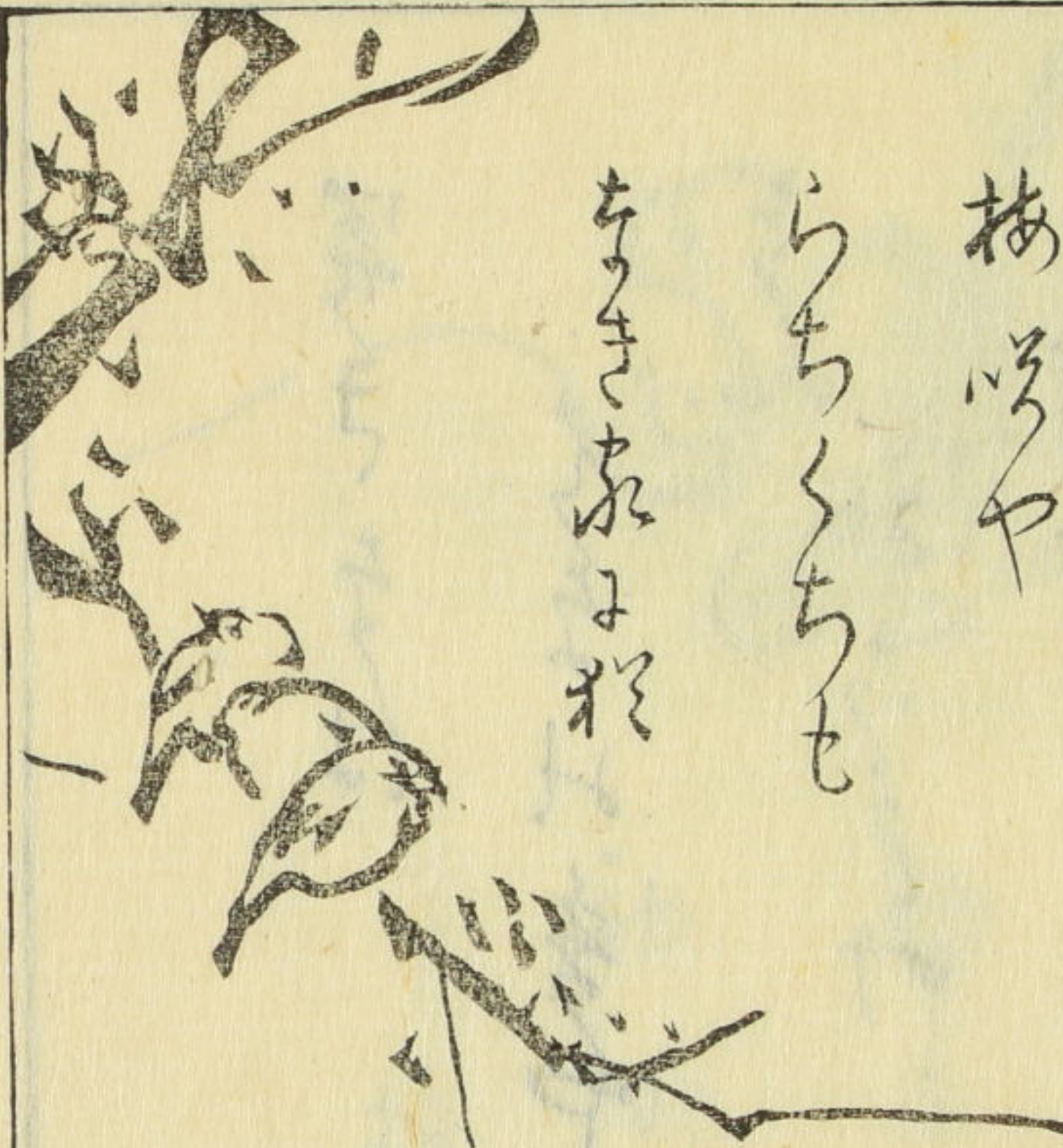
崎松尾

貞七郎

梅咲や

らちくちも

ちつきあし



古塚尔

清め

おき

新堀

素志

富峯

松竹の影

下毛川邊達

青林寺

柳凡

ふまぬ

古塚

金梅の

一節子

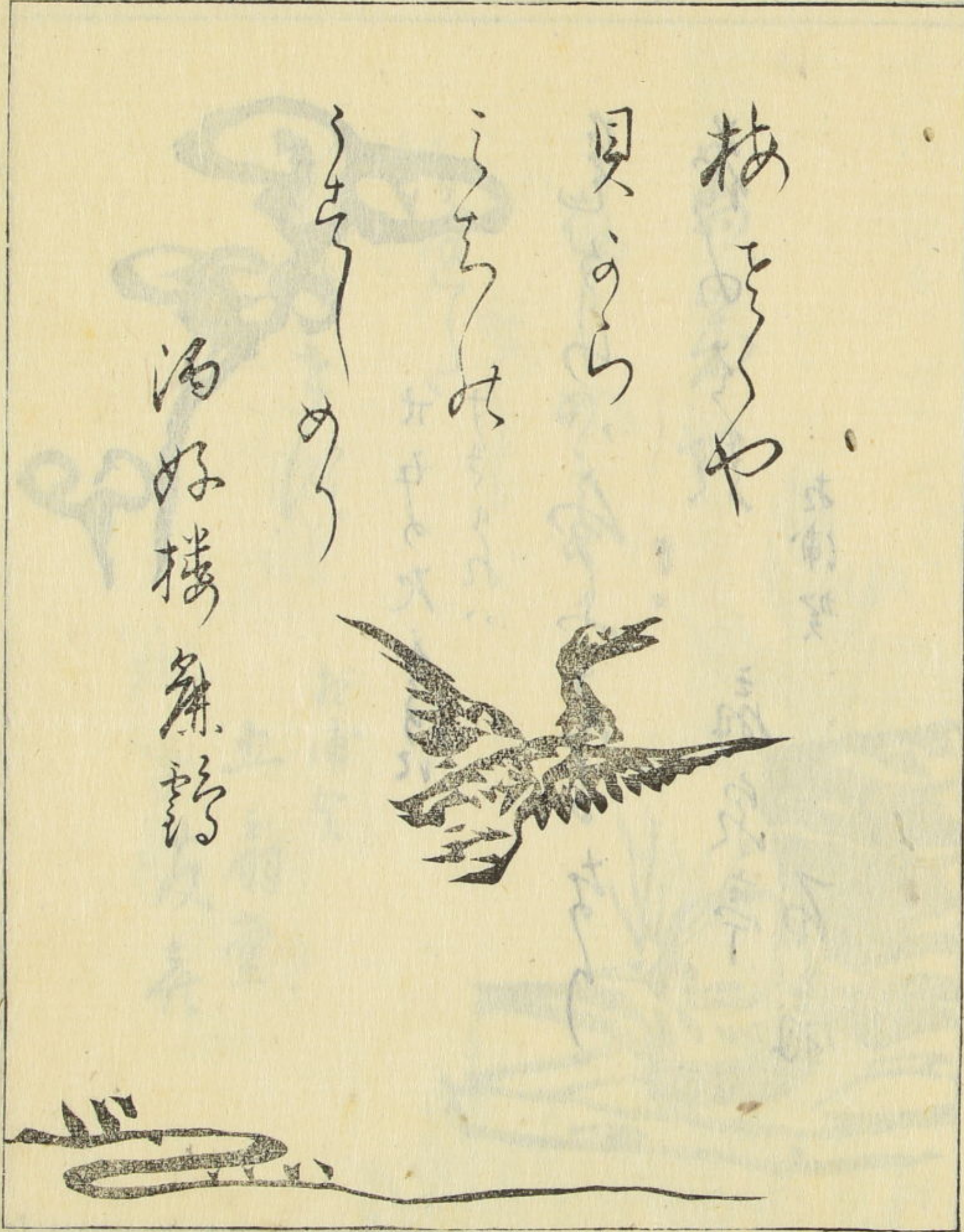
にんひ

永和寺

きく

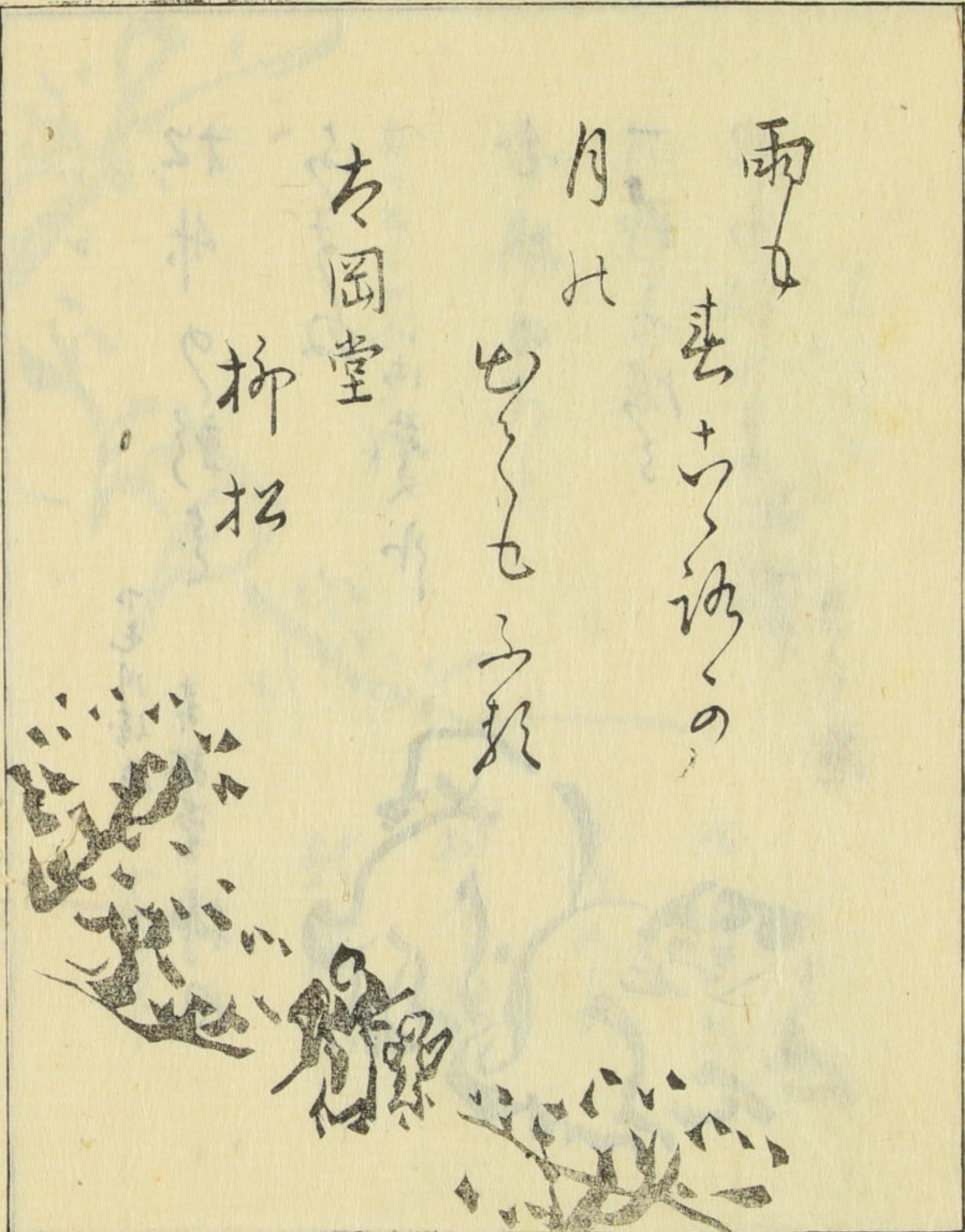


地



梅を  
貝から  
うらみ  
うらみ

酒好楼



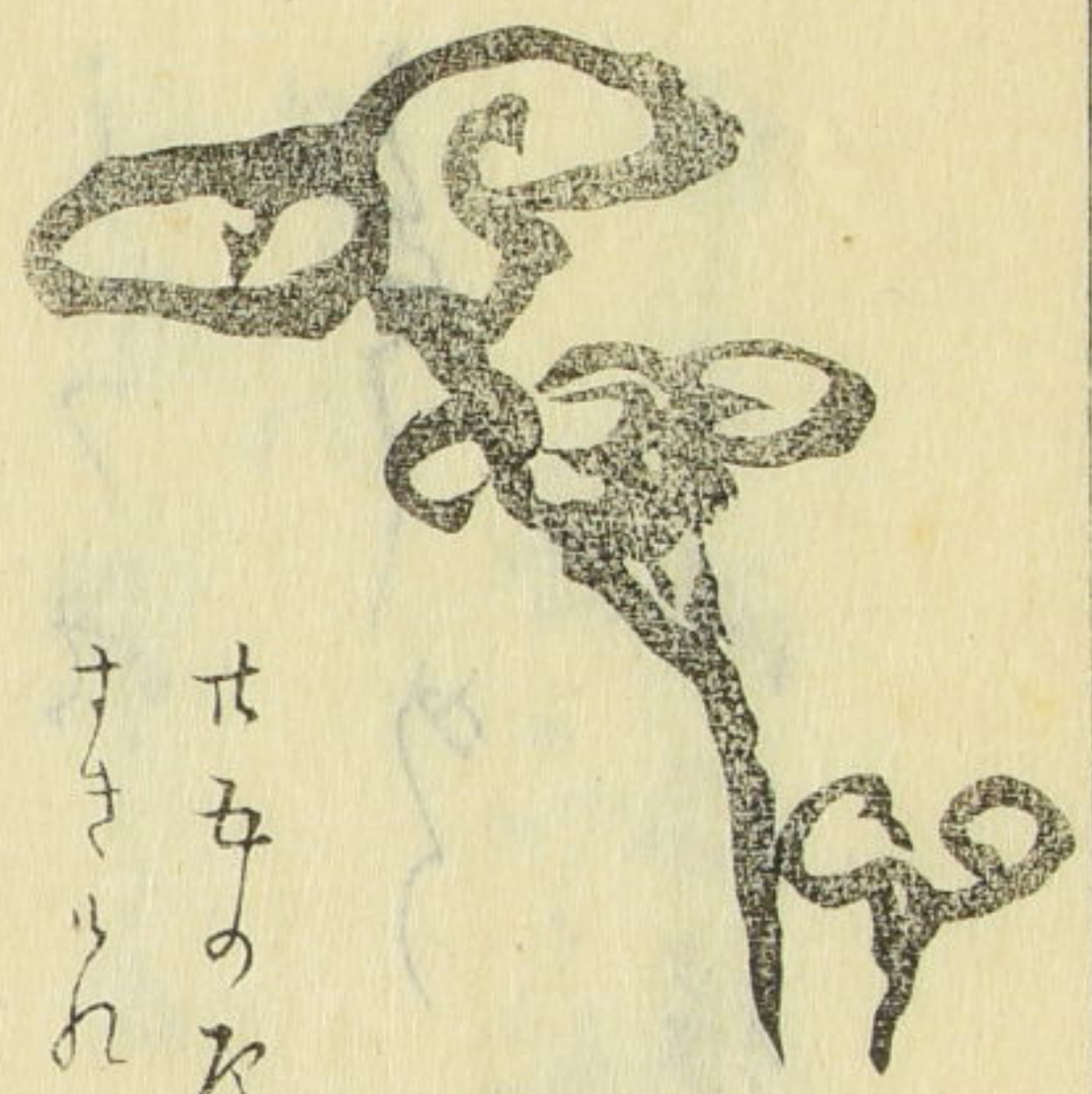
雨  
月

去  
七

方  
堂

柳  
松

七



廿五の辰をるかに  
すきりぬ

是ららハ向ふるなり

花のそら 扇泉亭

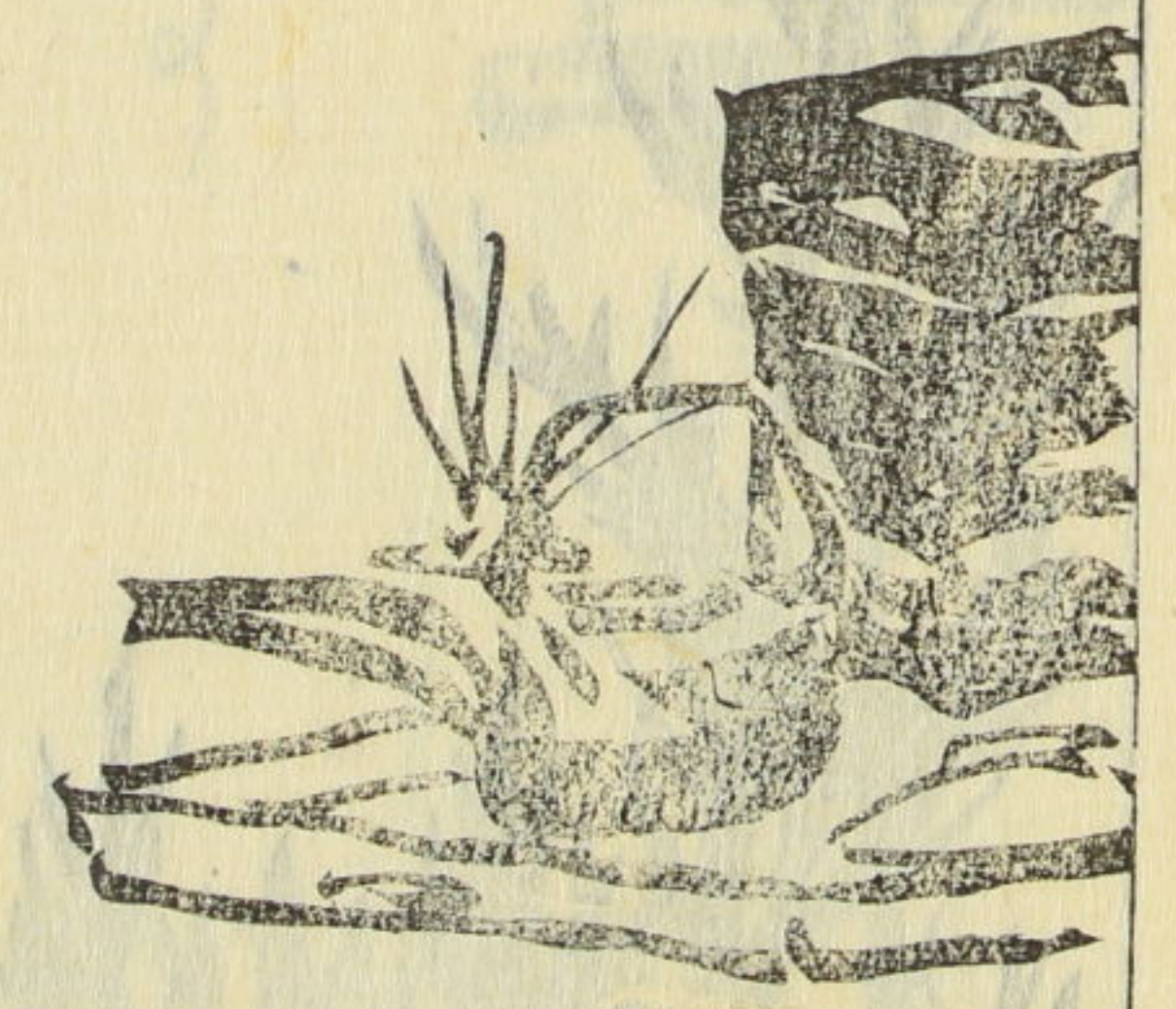
お浦賀 百麻

美草ヤ

たのめり

きり

顔七きり



お浦賀

血扇堂

友森

たぐはき羽根

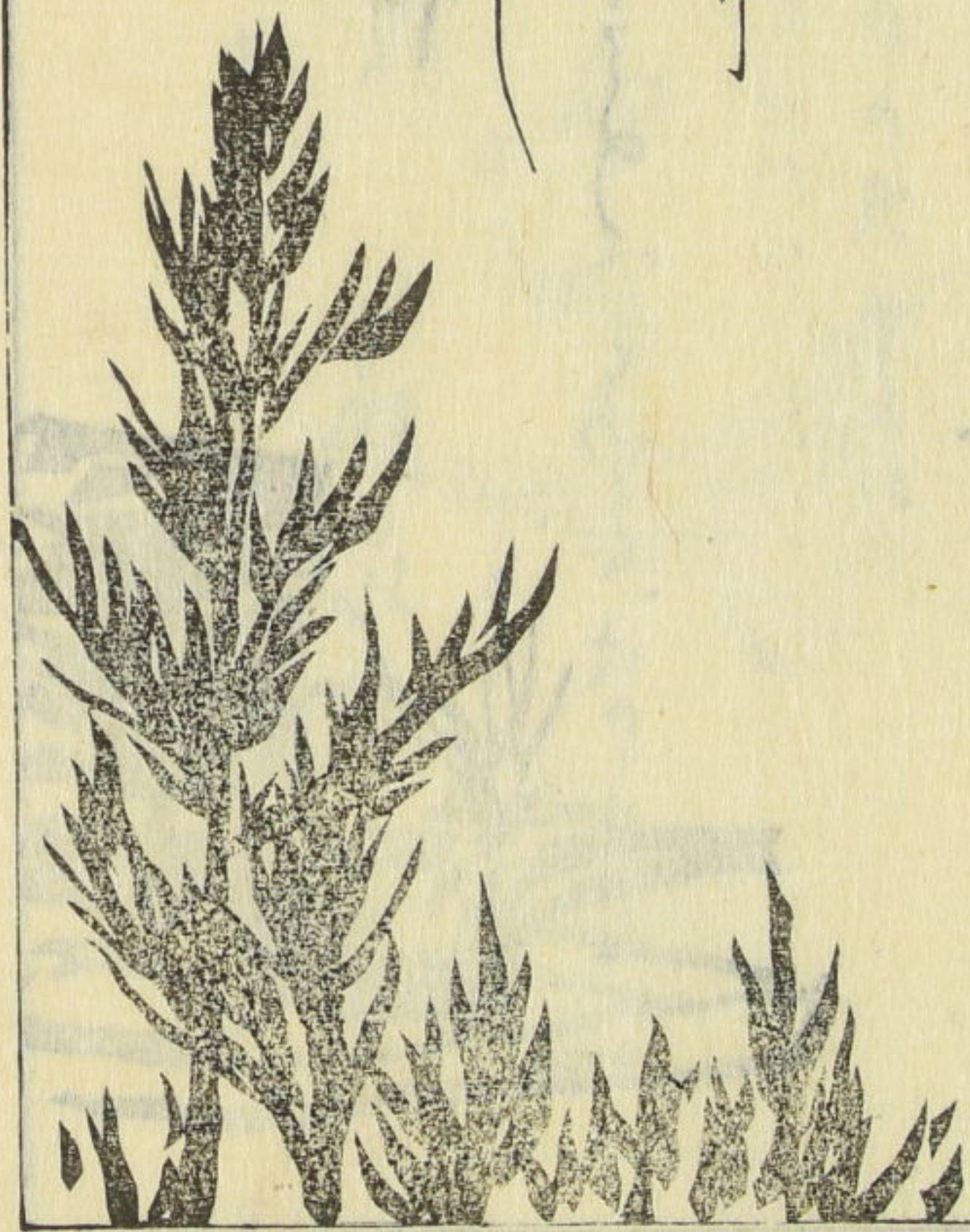
緋雪様

澗絡

折く

やう

とめり



たぐはき羽根  
たぐはき羽根



助鳥 おきり

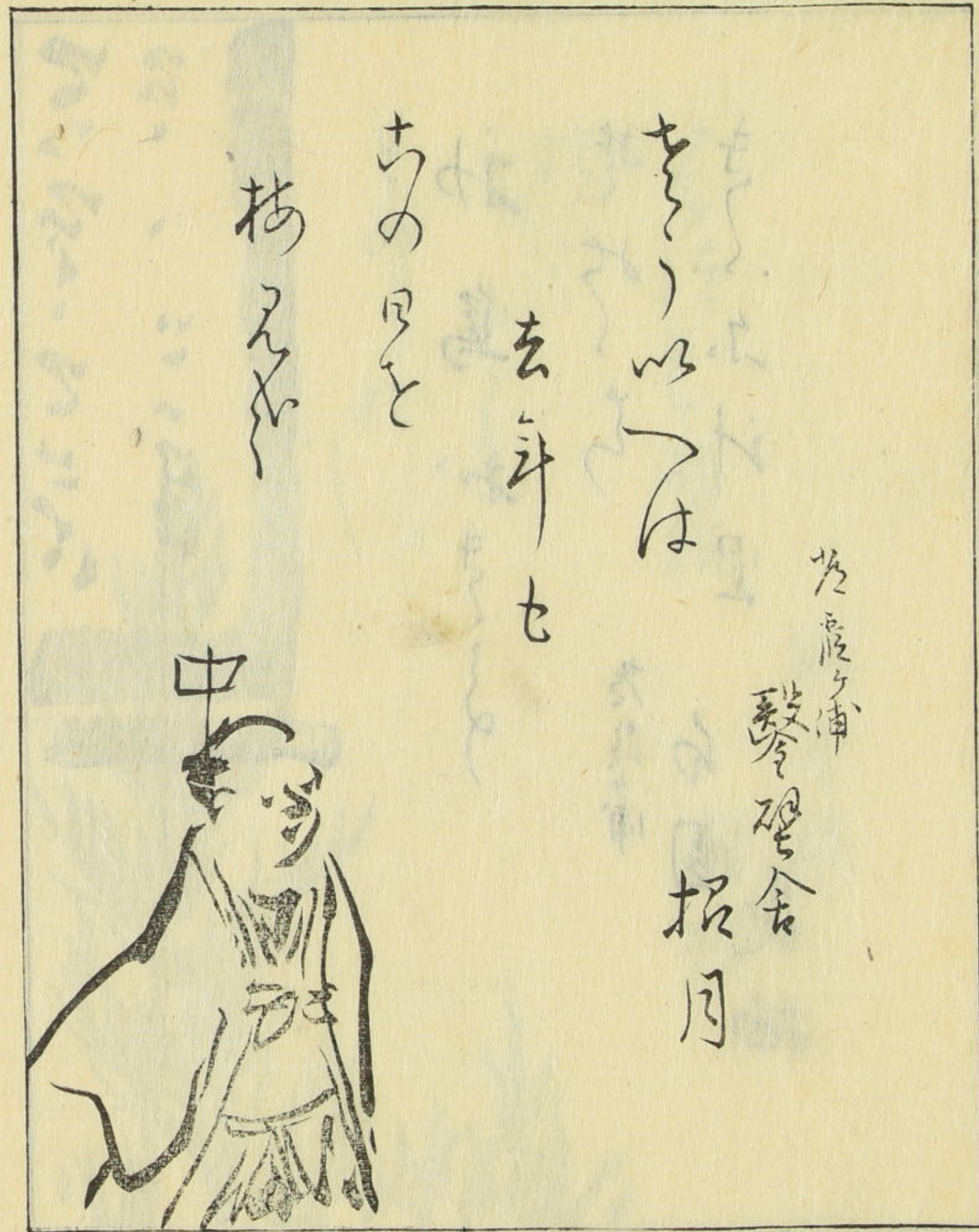
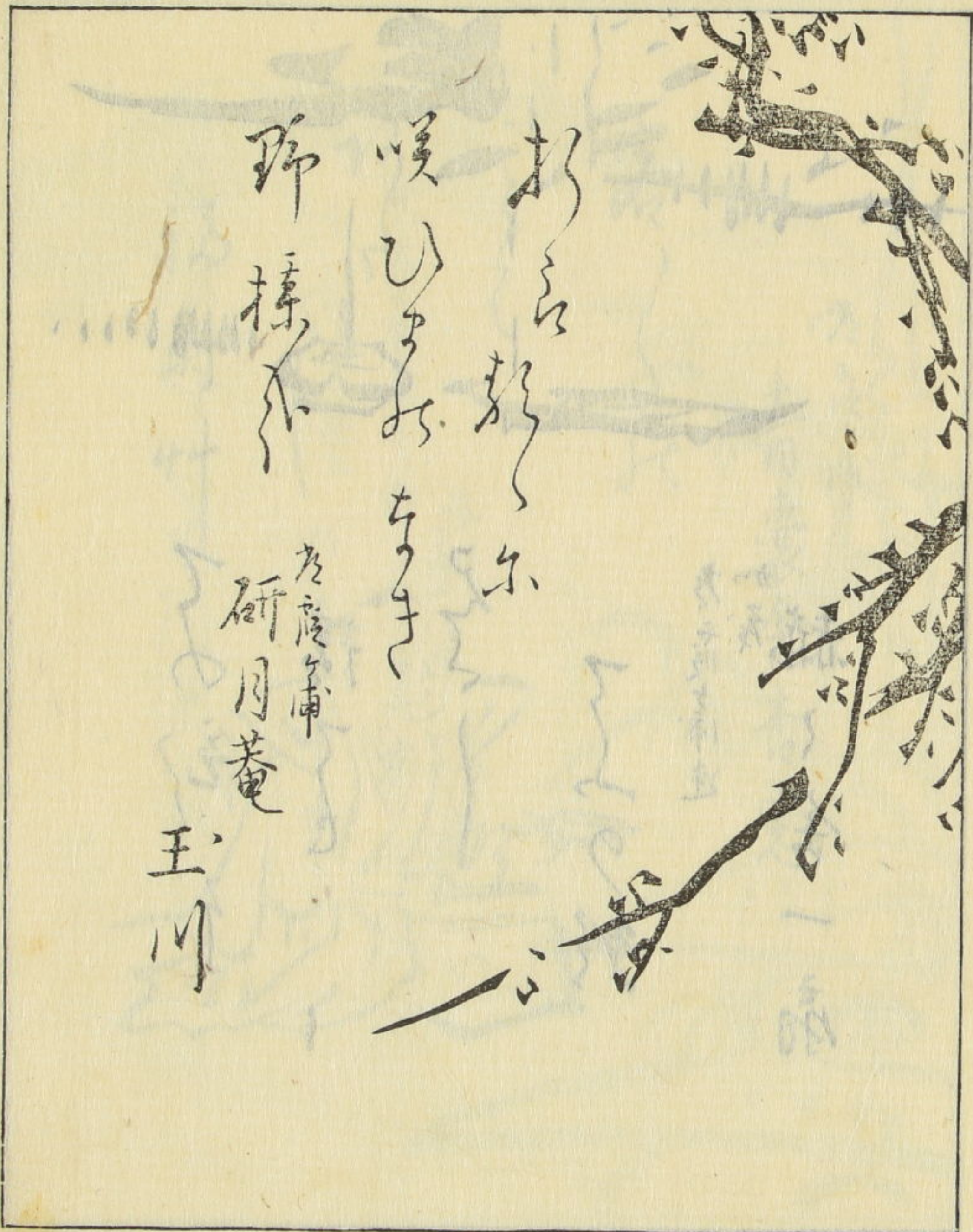
たぐはき

たぐはき

きりし計里

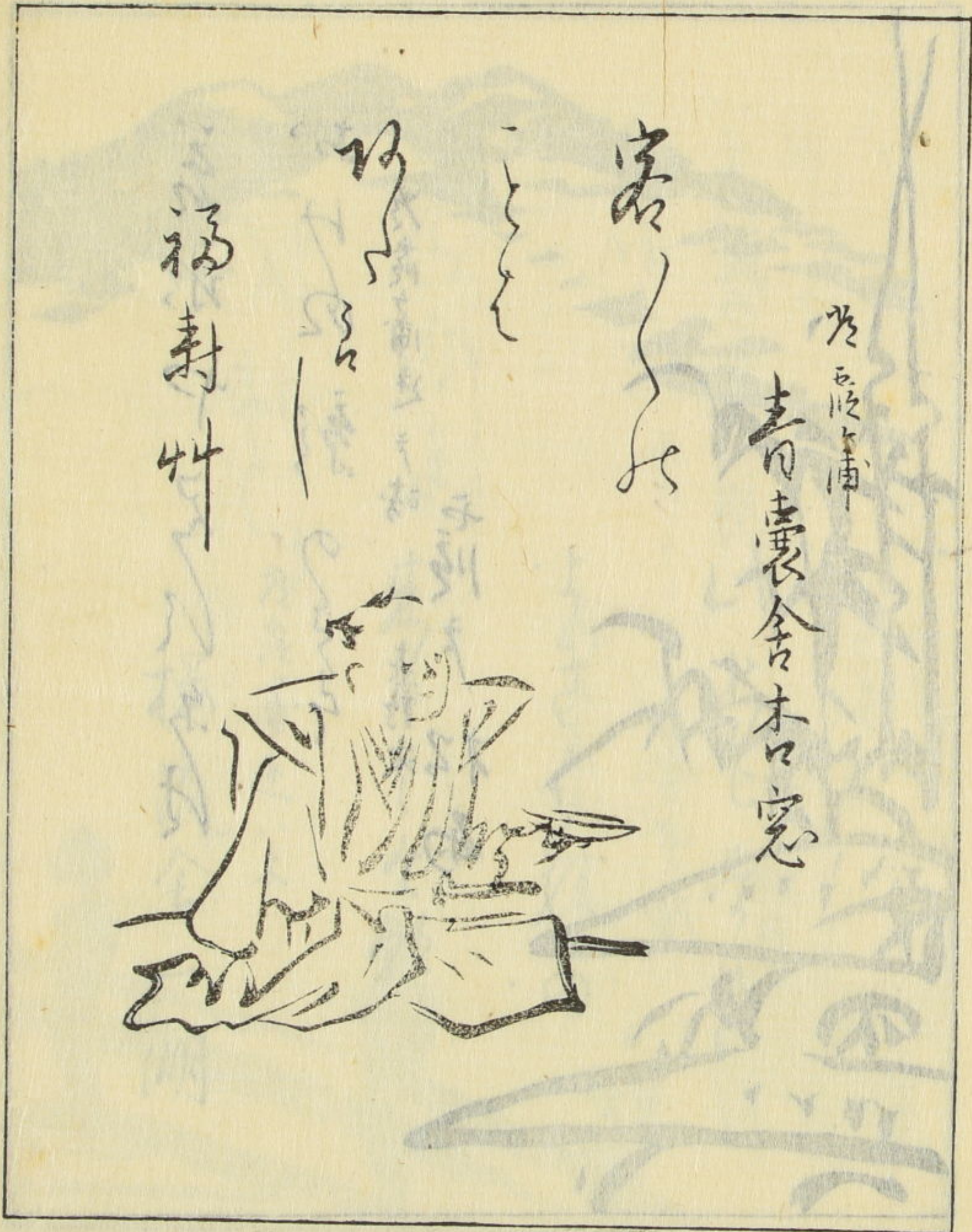
白園

花 栖



三

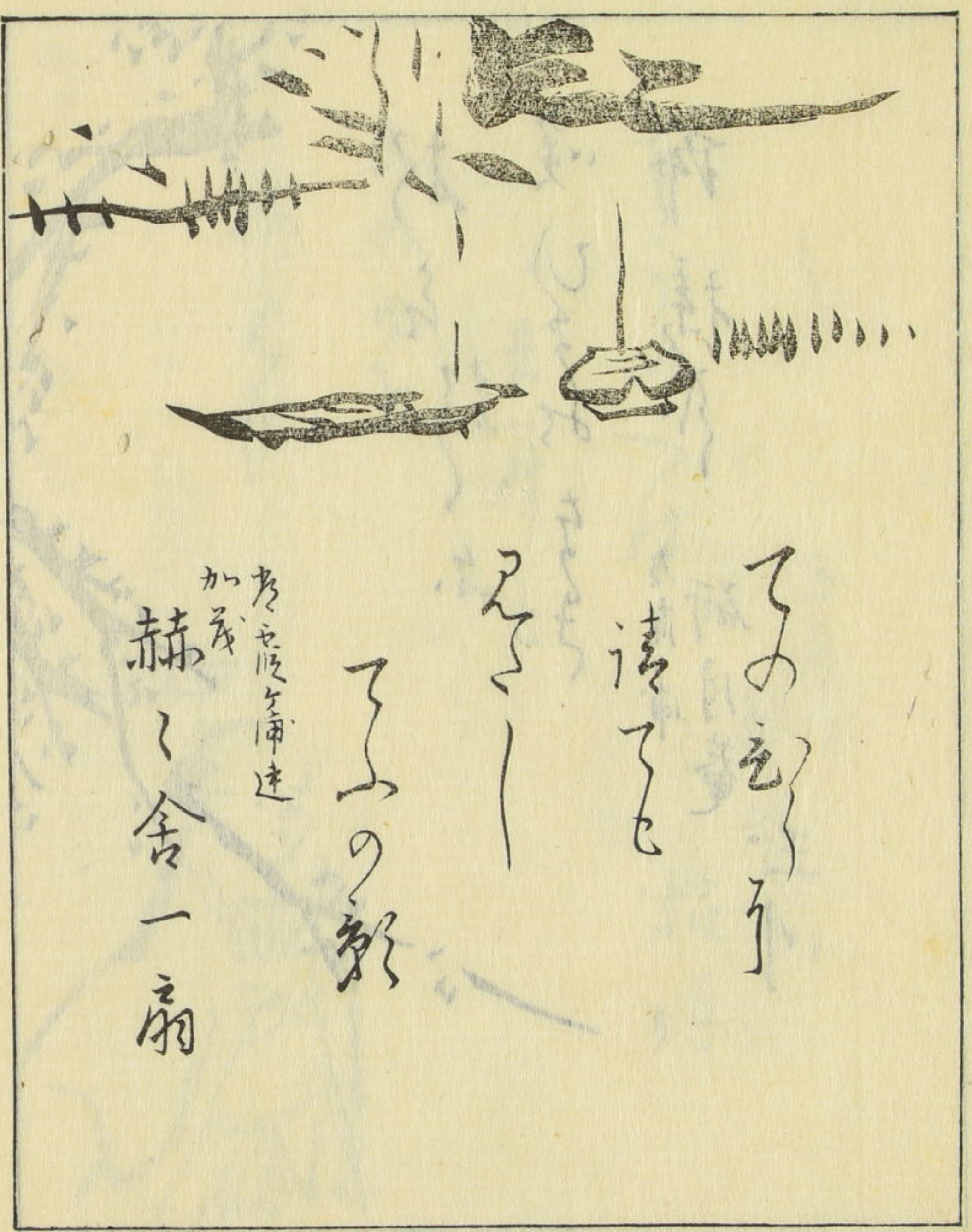




福射竹

窓

喜の懐舎木の窓



赤く舎一扇

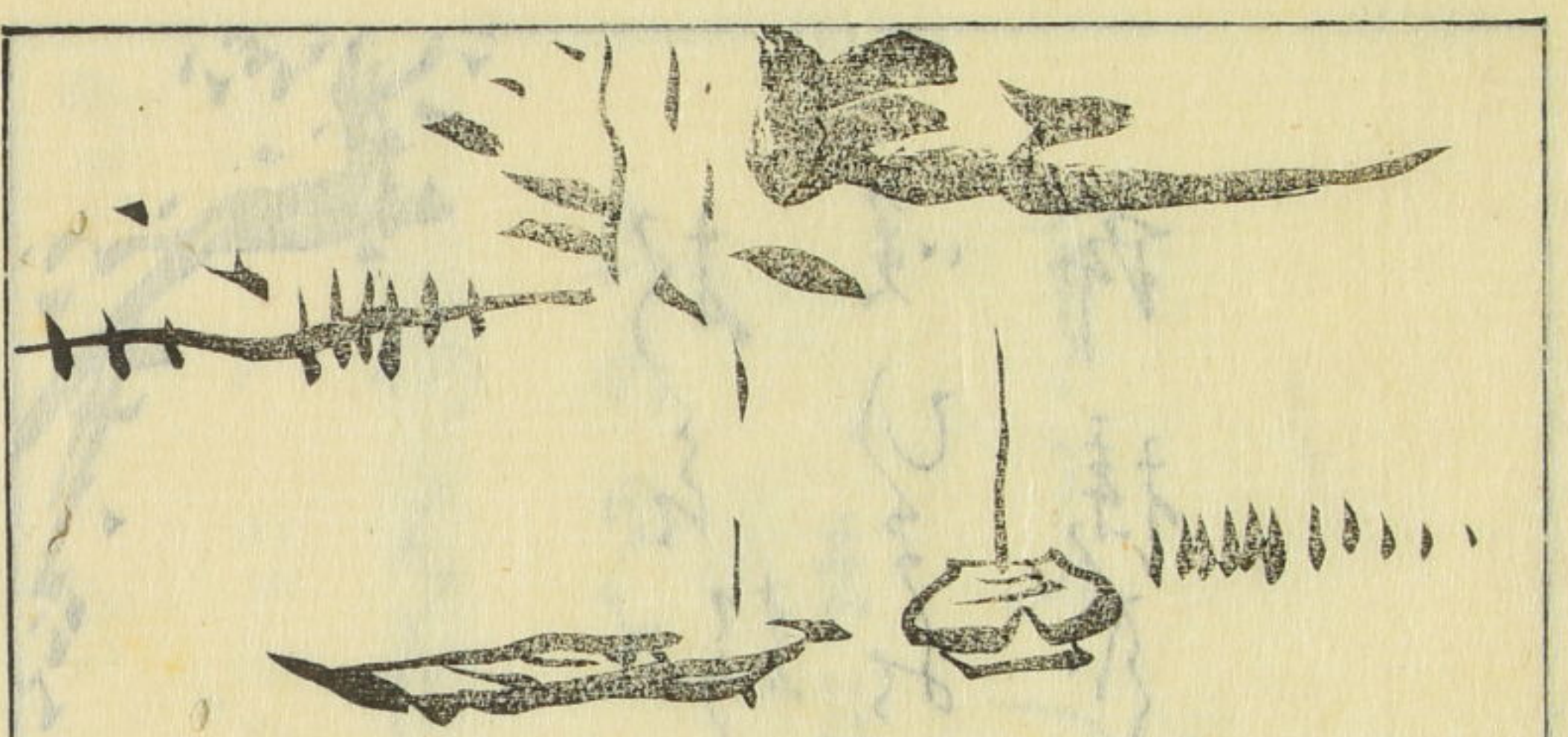
ての窓

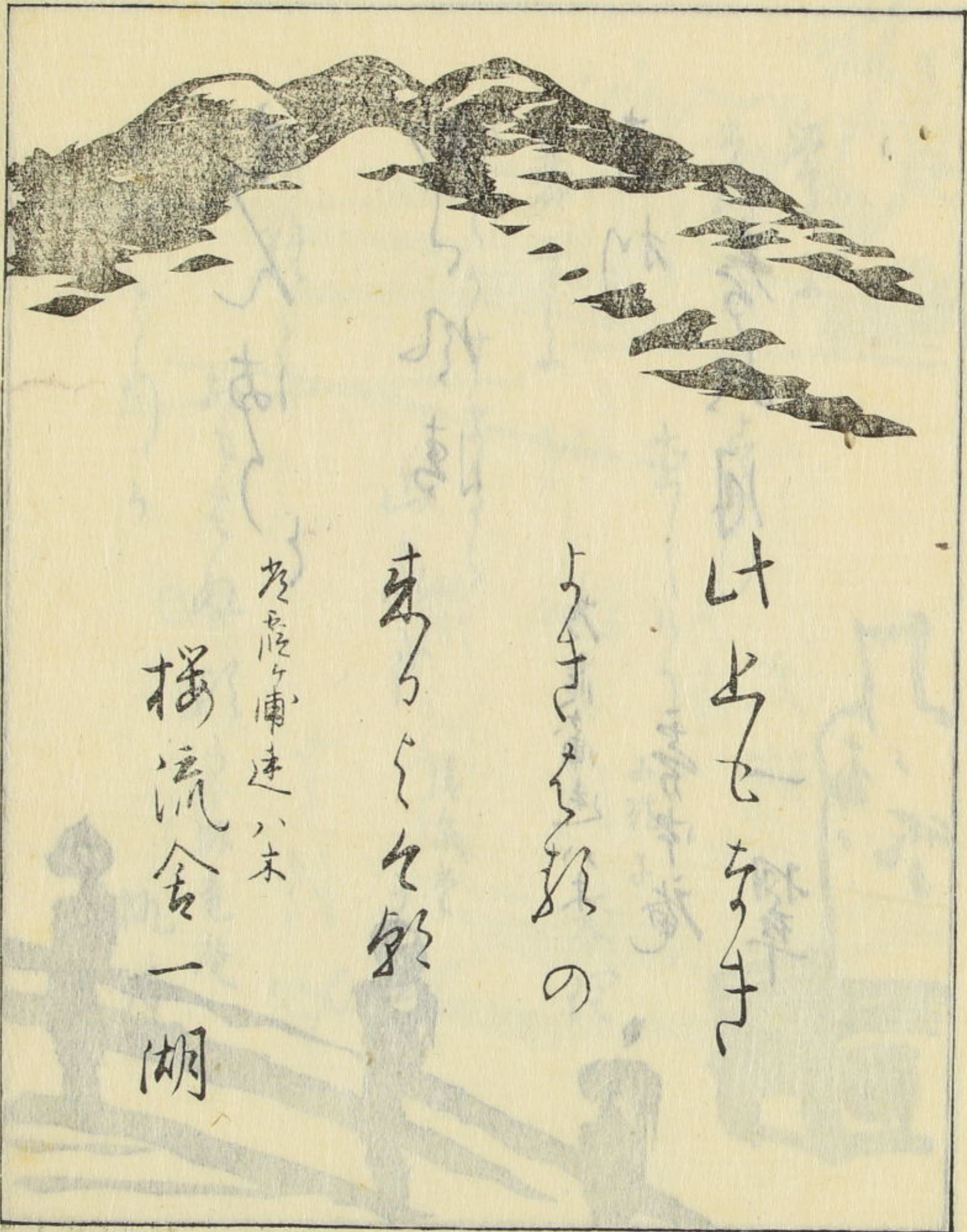
ての窓

清くも

えさし

赤く舎一扇





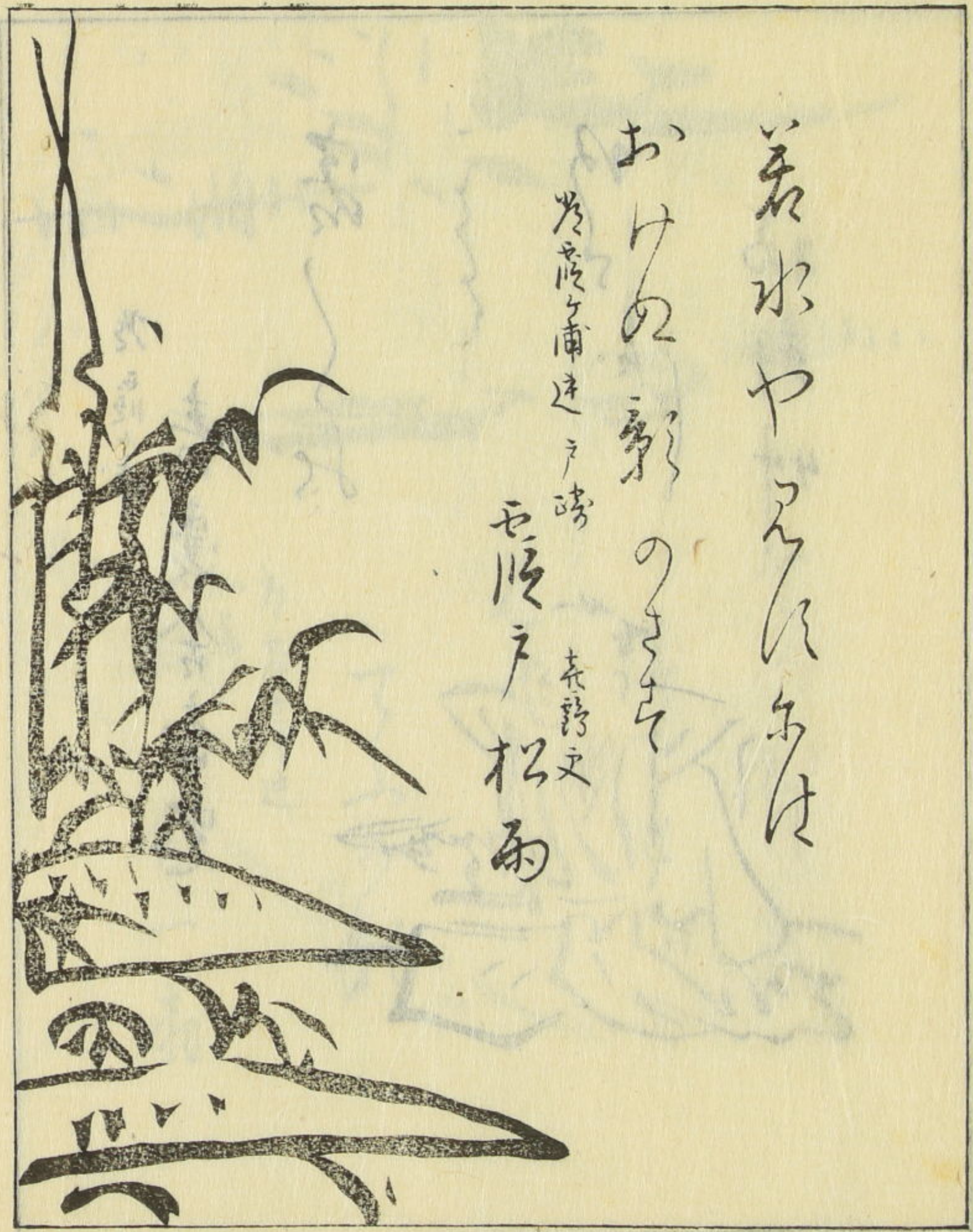
けしきをき

よきをの

まろくを

松原の浦連ハ木

横流舎一湖



美水やるはあけ

おけの影のさき

松原の浦連ハ木

表野文

七原ノ松雨

ちんぽう

おの風情

奇柳

春月

乃辰南達八木

書中卷

一冊



ちんぽう  
居

ちんぽう

子花子

文記

兼干

ちんぽう

山泉

清泉

文魚

おの

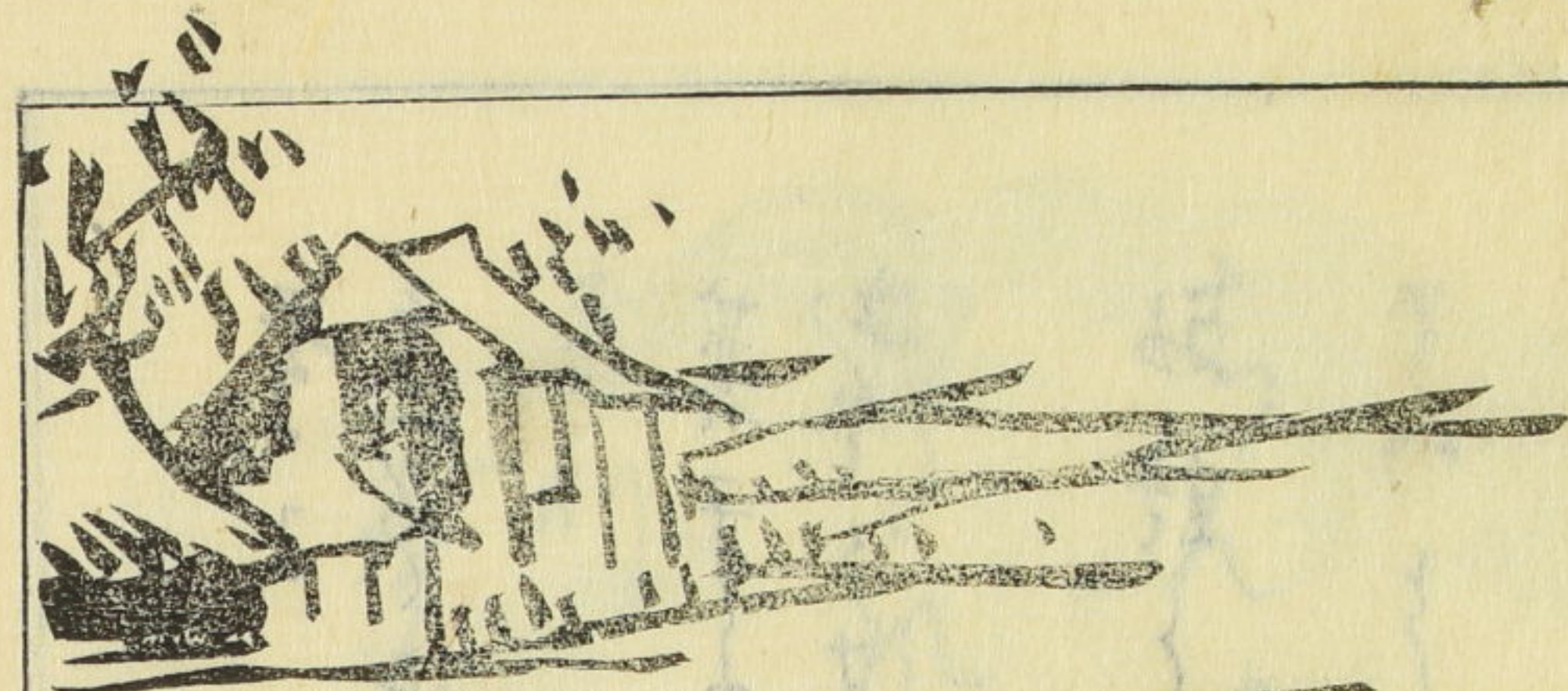
おの

枕月



七六

三五



初日影

きんや

筑波

山の谷

大土浦

大郷吐霞

初日影

予う山莊何れ  
た木あきとあれハ

春の句に

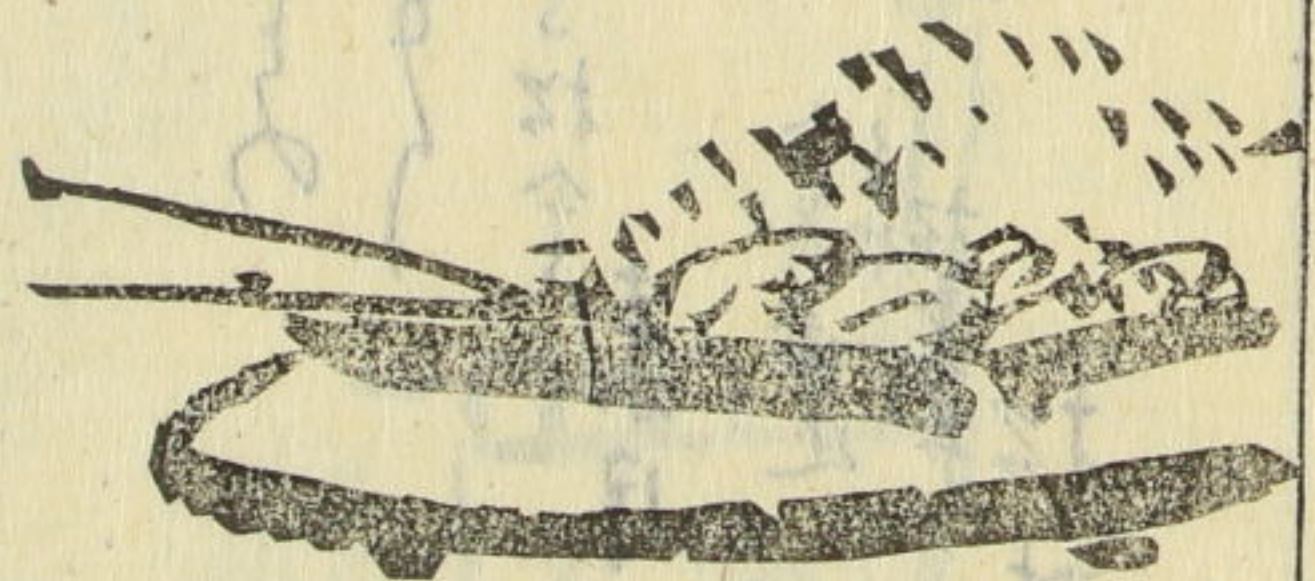
おや

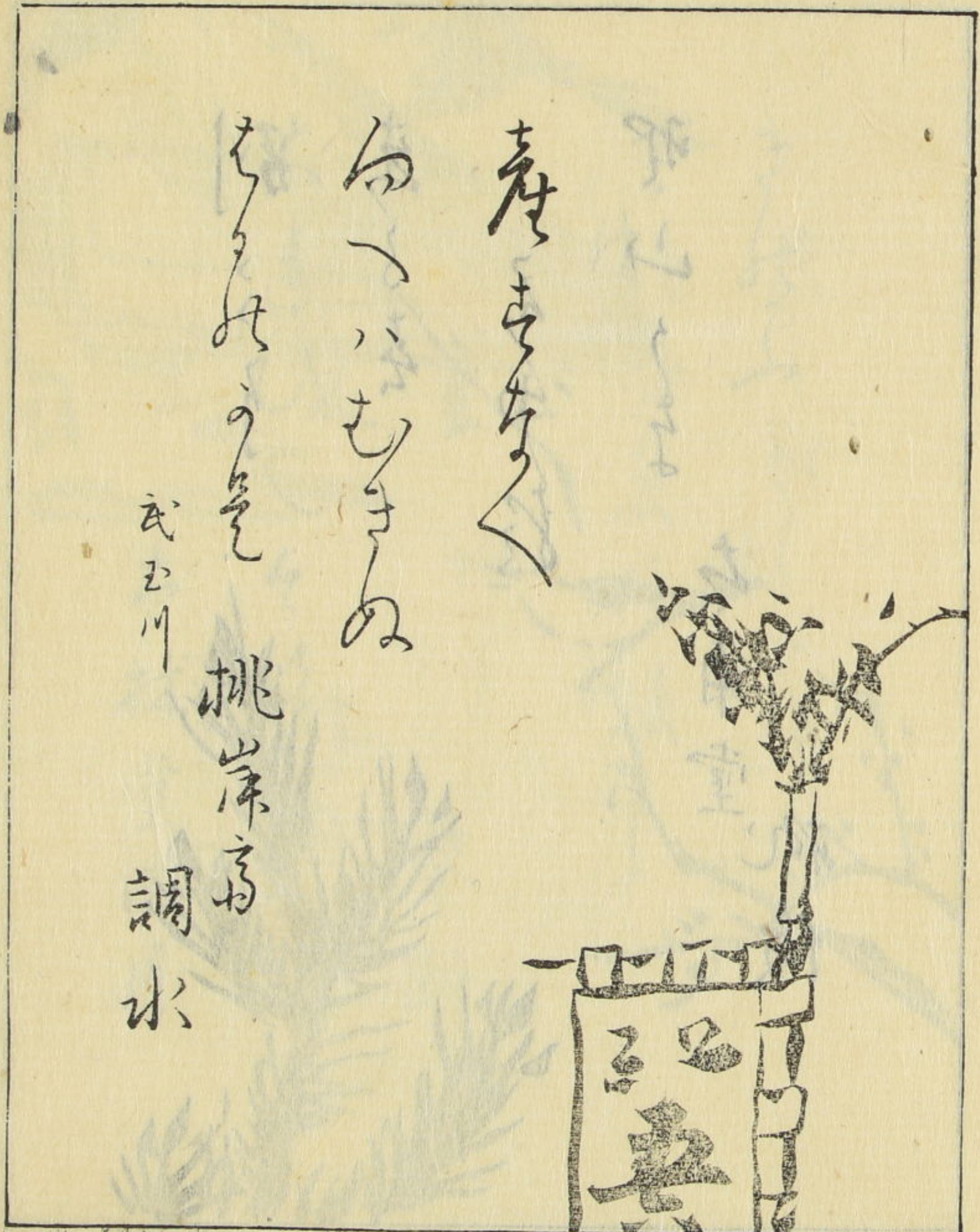
先祇の

をき

おき

お映堂秋蝶





春を待ちく

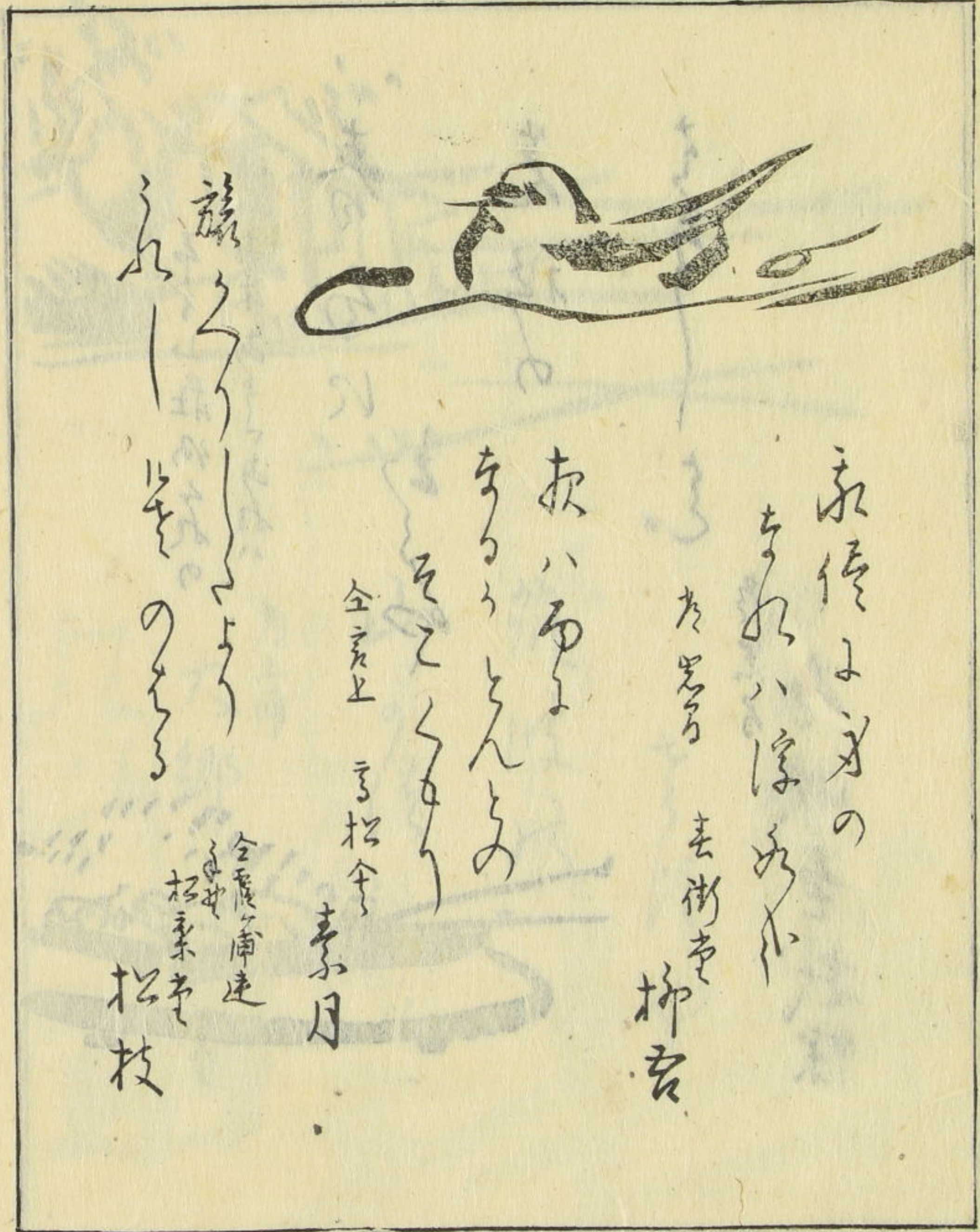
向ふはむきぬ

さうなうそ

桃葉高

調水

式玉川



心

永修子才の

さねハ浮水ハ

たきり

去樹寺

柳君

おハるよ

さううとんま

そこくちり

全言上 言招令

素月

全廣南達

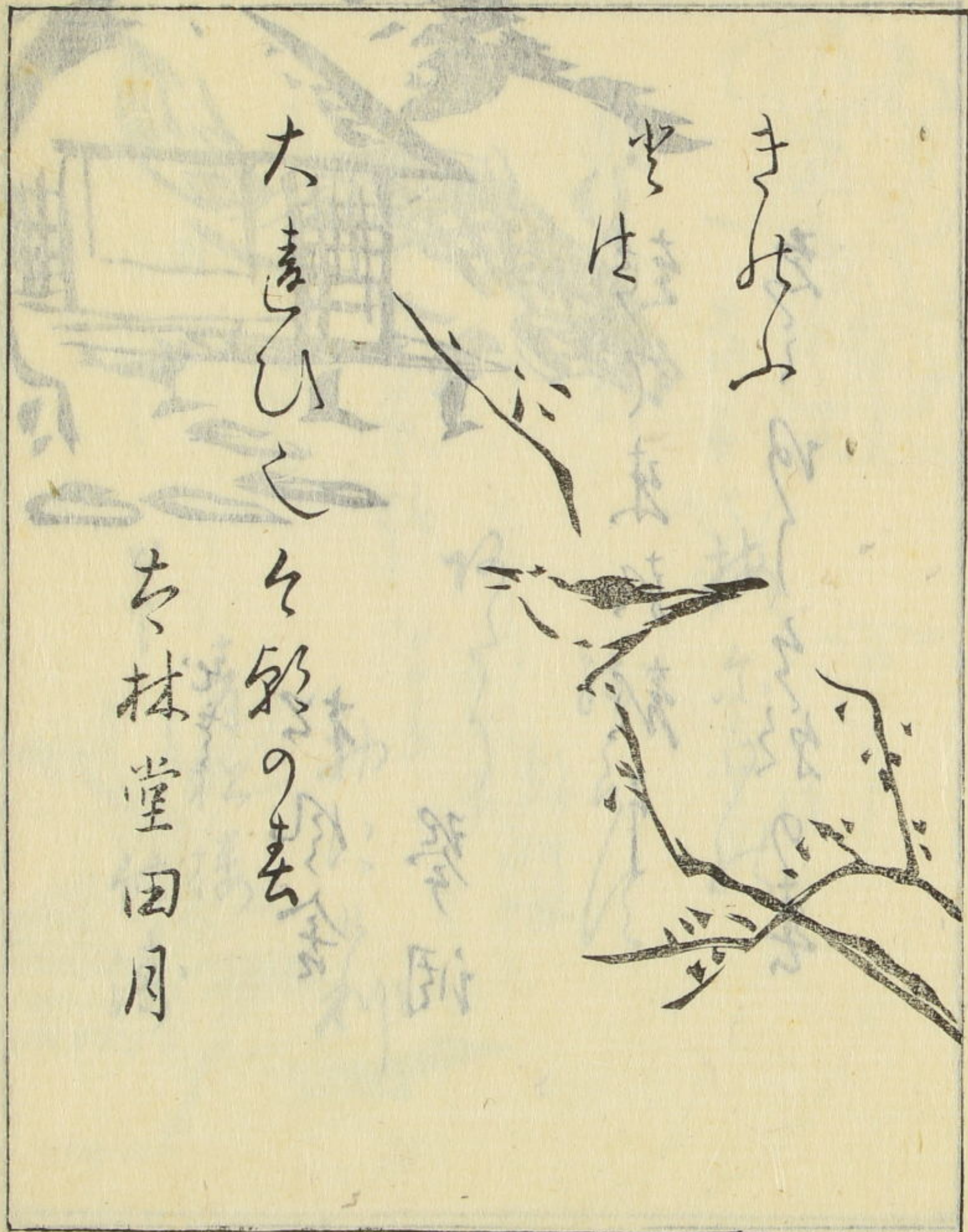
松葉寺

松枝

藤さうしんま

松葉寺

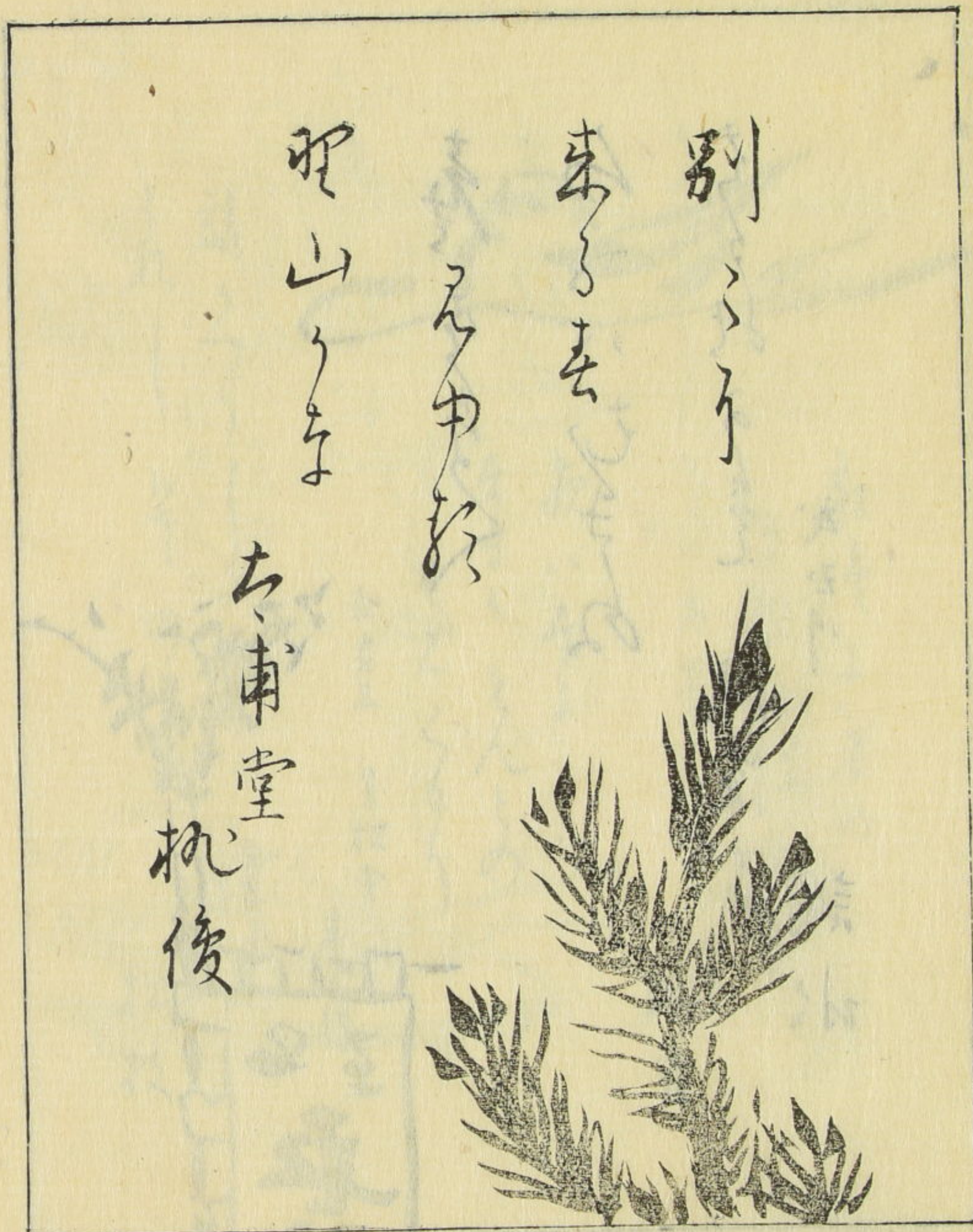
松枝



まは  
せ

大遠の  
く  
々  
の  
去

右  
林  
堂  
田  
月



別  
く  
り

来  
る  
去

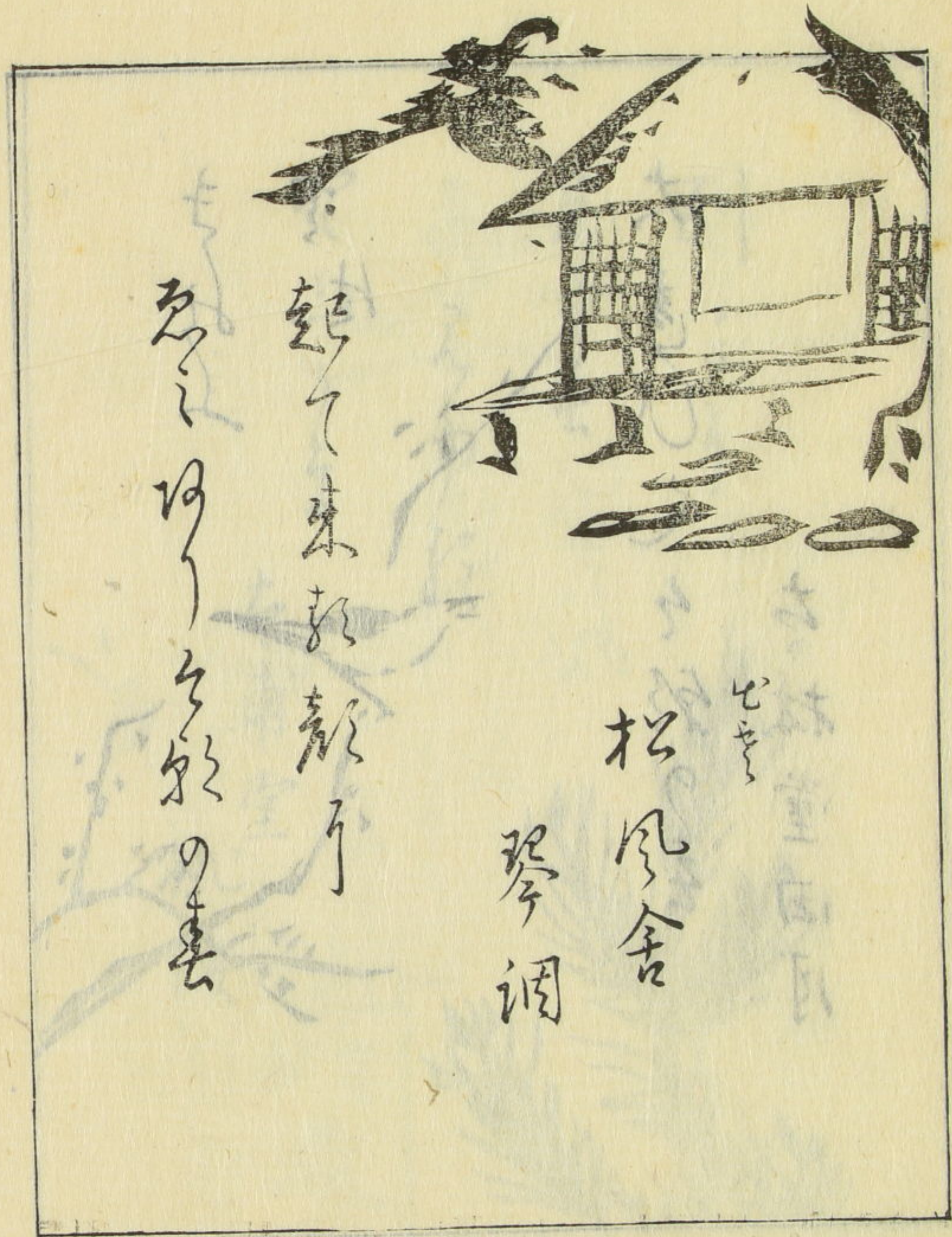
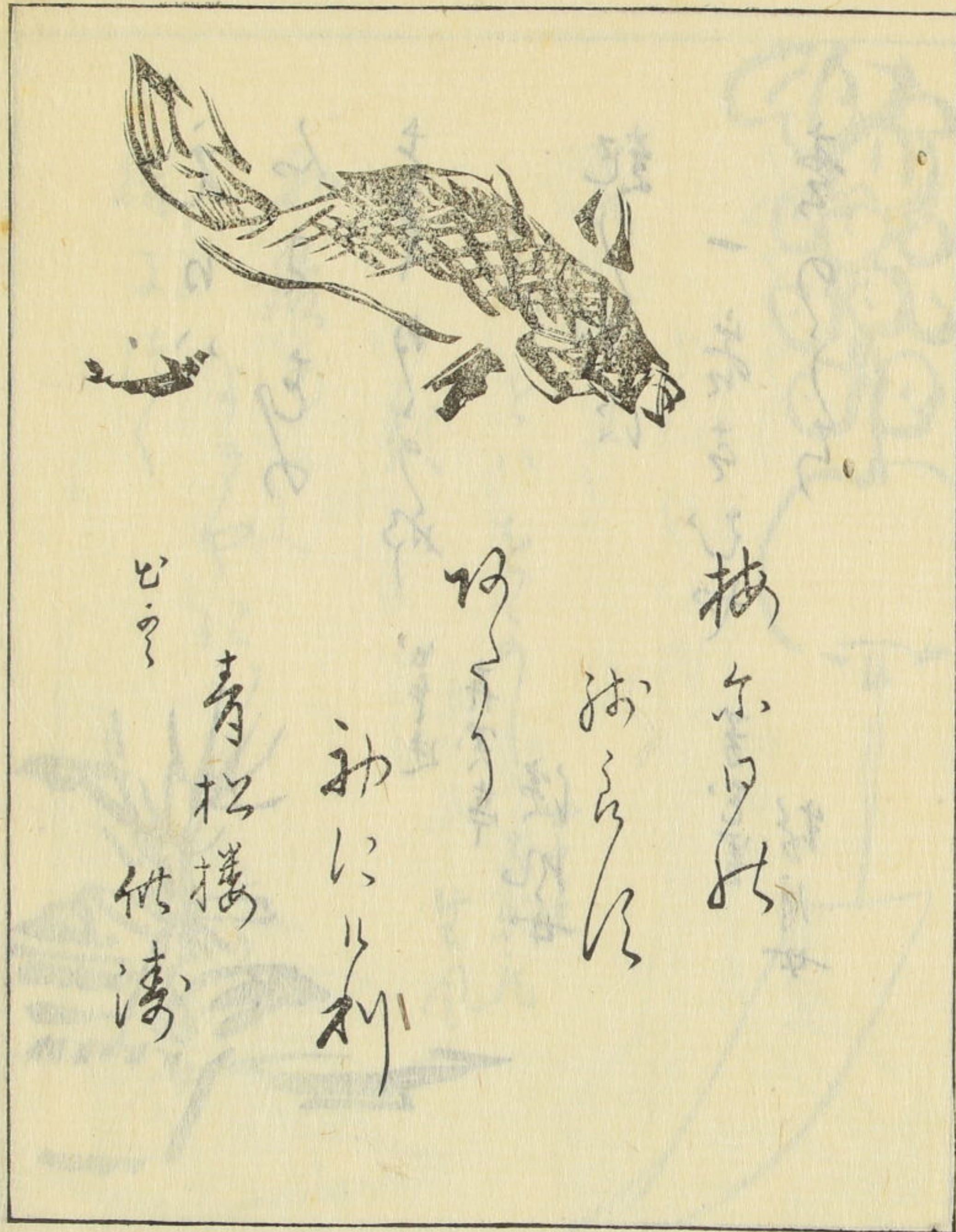
右  
申  
於

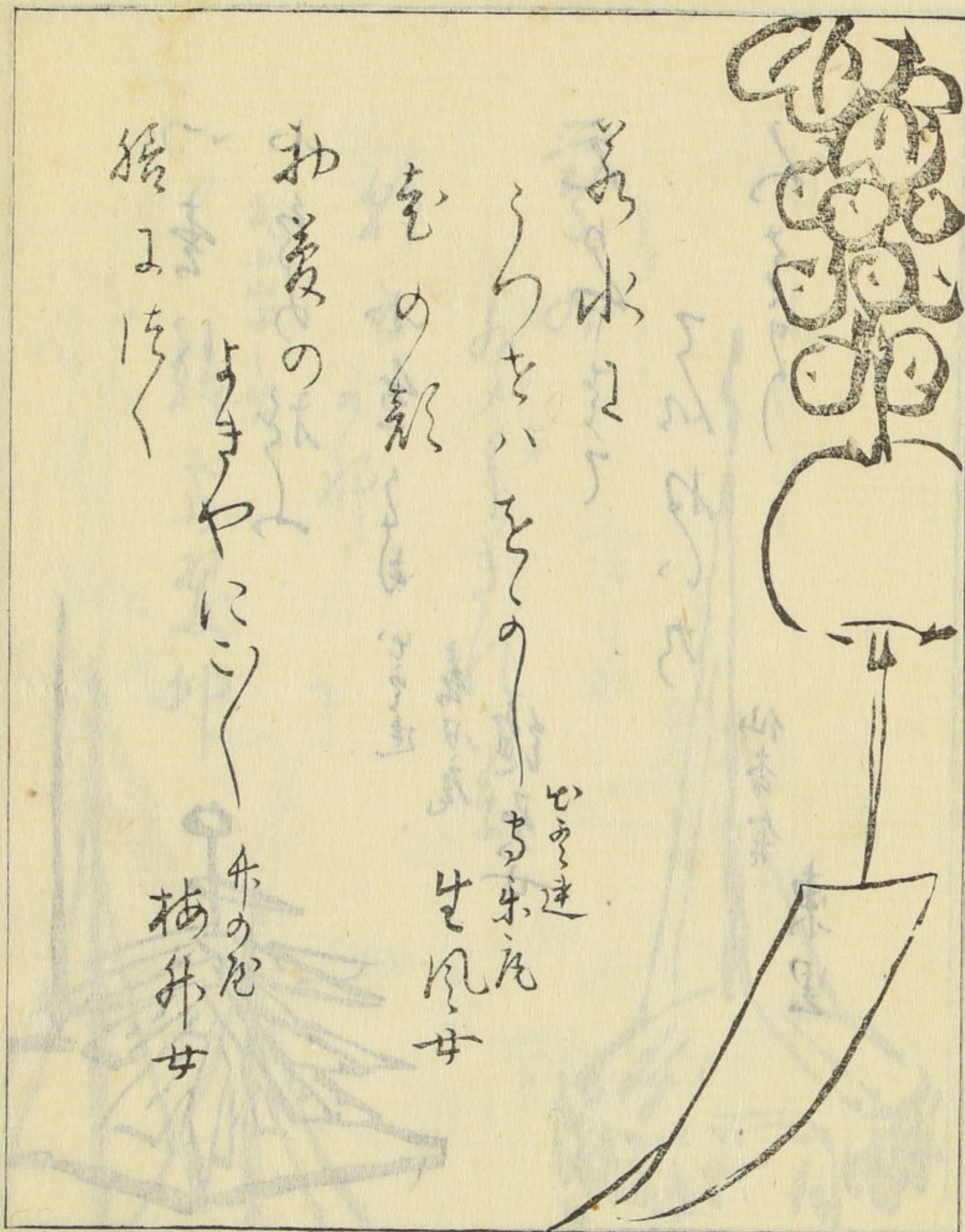
明  
山  
く  
ま

右  
南  
堂

枕  
後

十  
月  
廿  
日





水

くわをハ

をの

おまの

はよ

かき

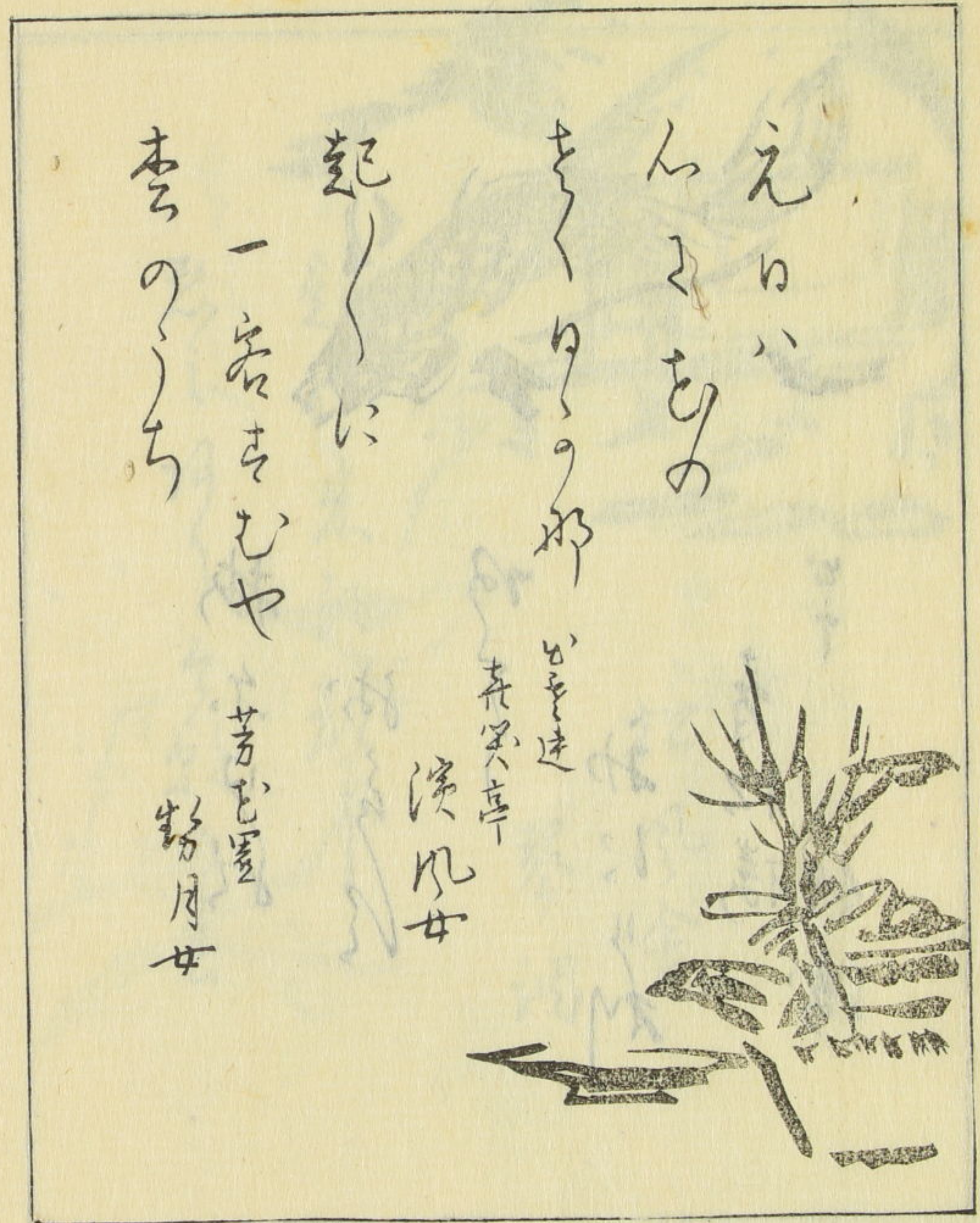
ちり

せ

よき

梅

三十一



え

ん

き

起

一

春

かき

森

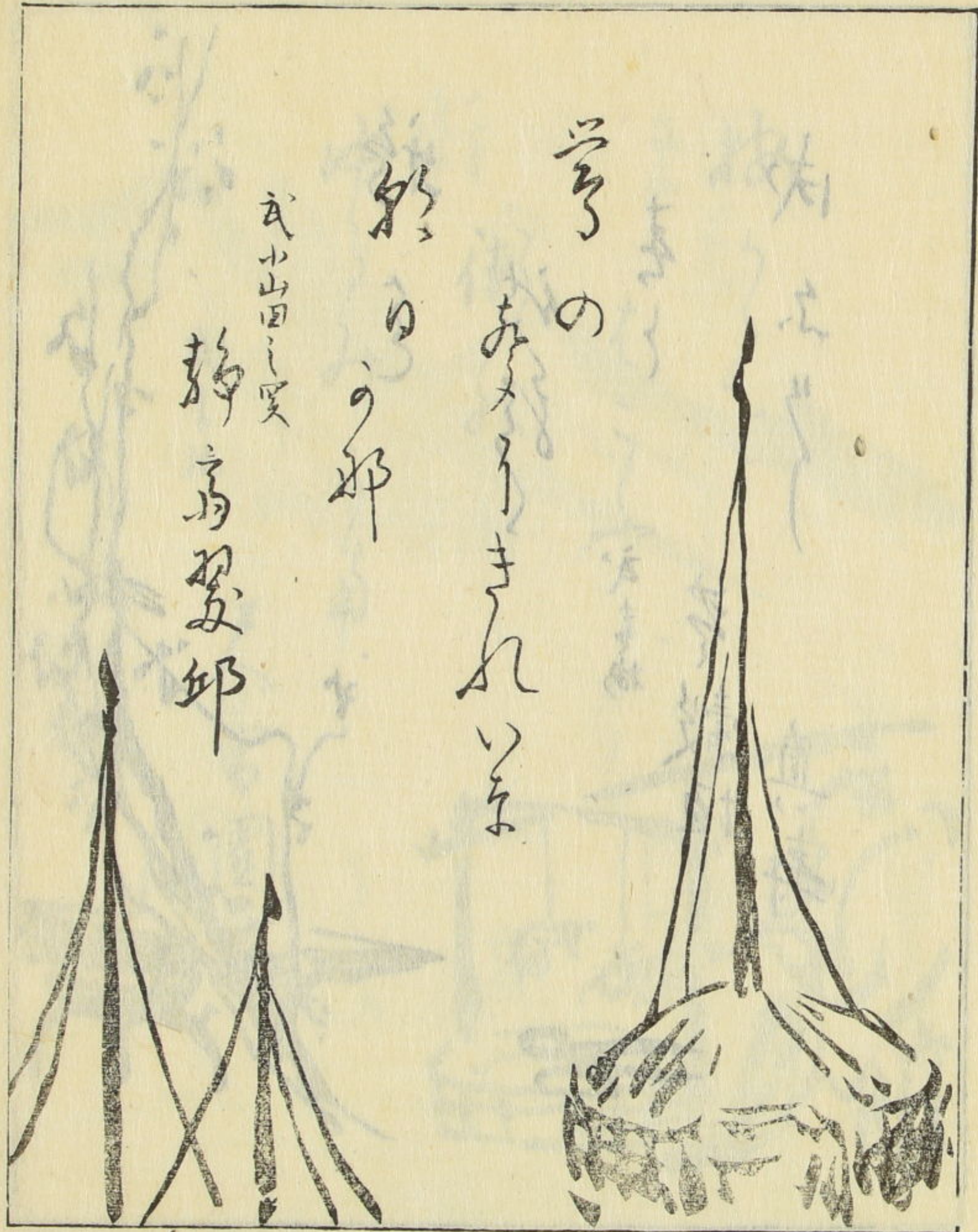
淡

芳

野

三十一





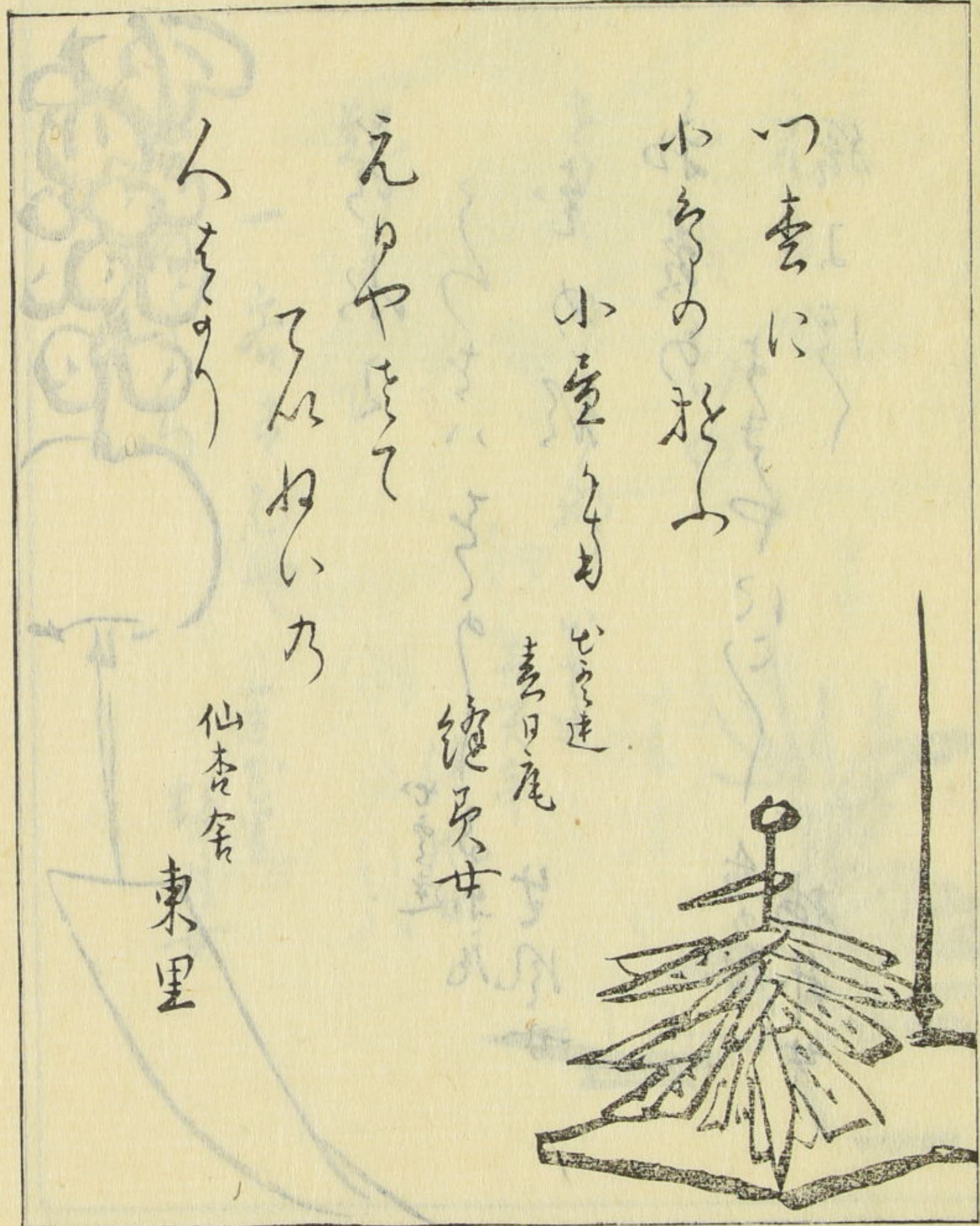
浮の

あまうきれい

終りの

静高安邨

武山田



つきに

小舟の

小舟

春日尾

徳貞

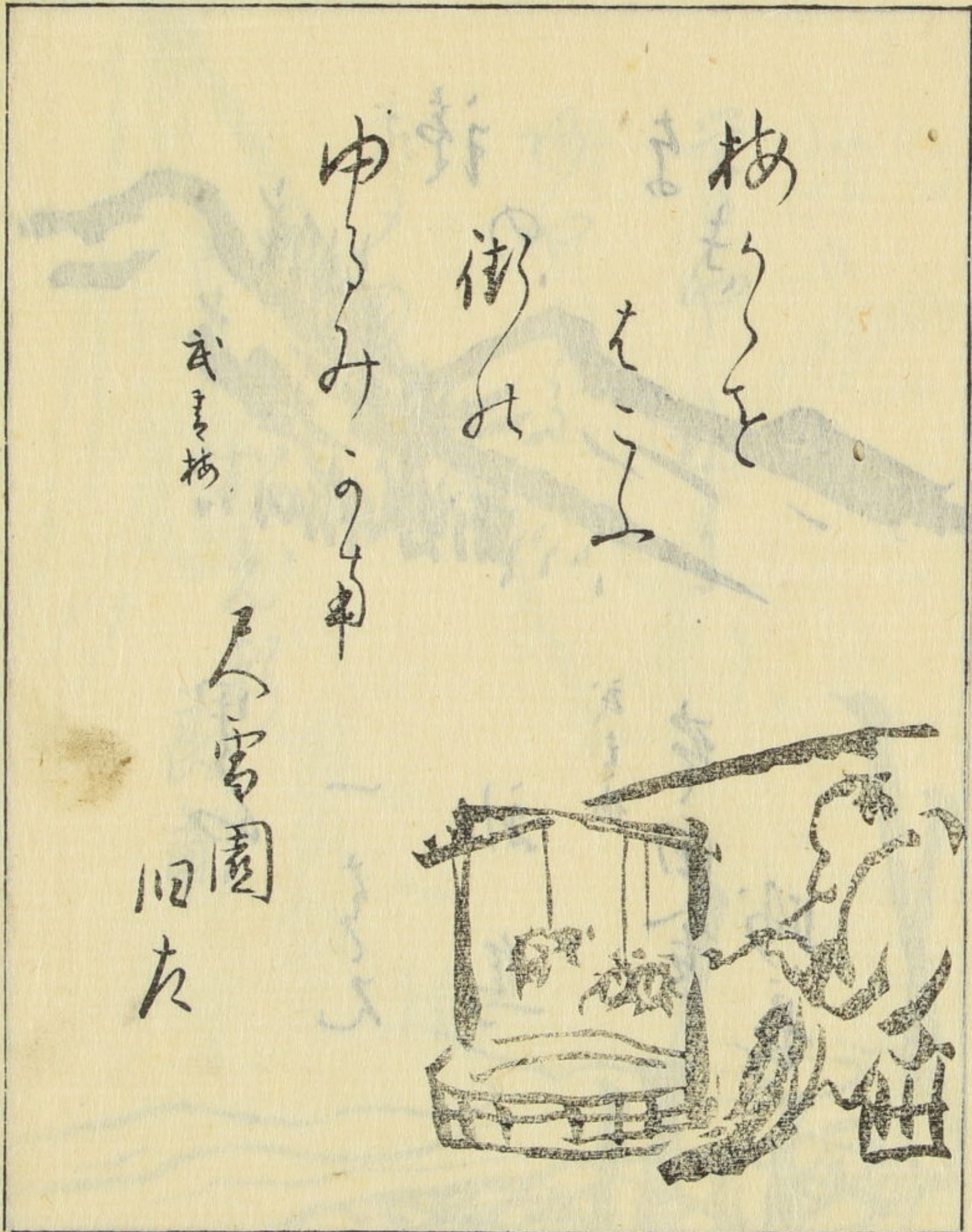
えりや

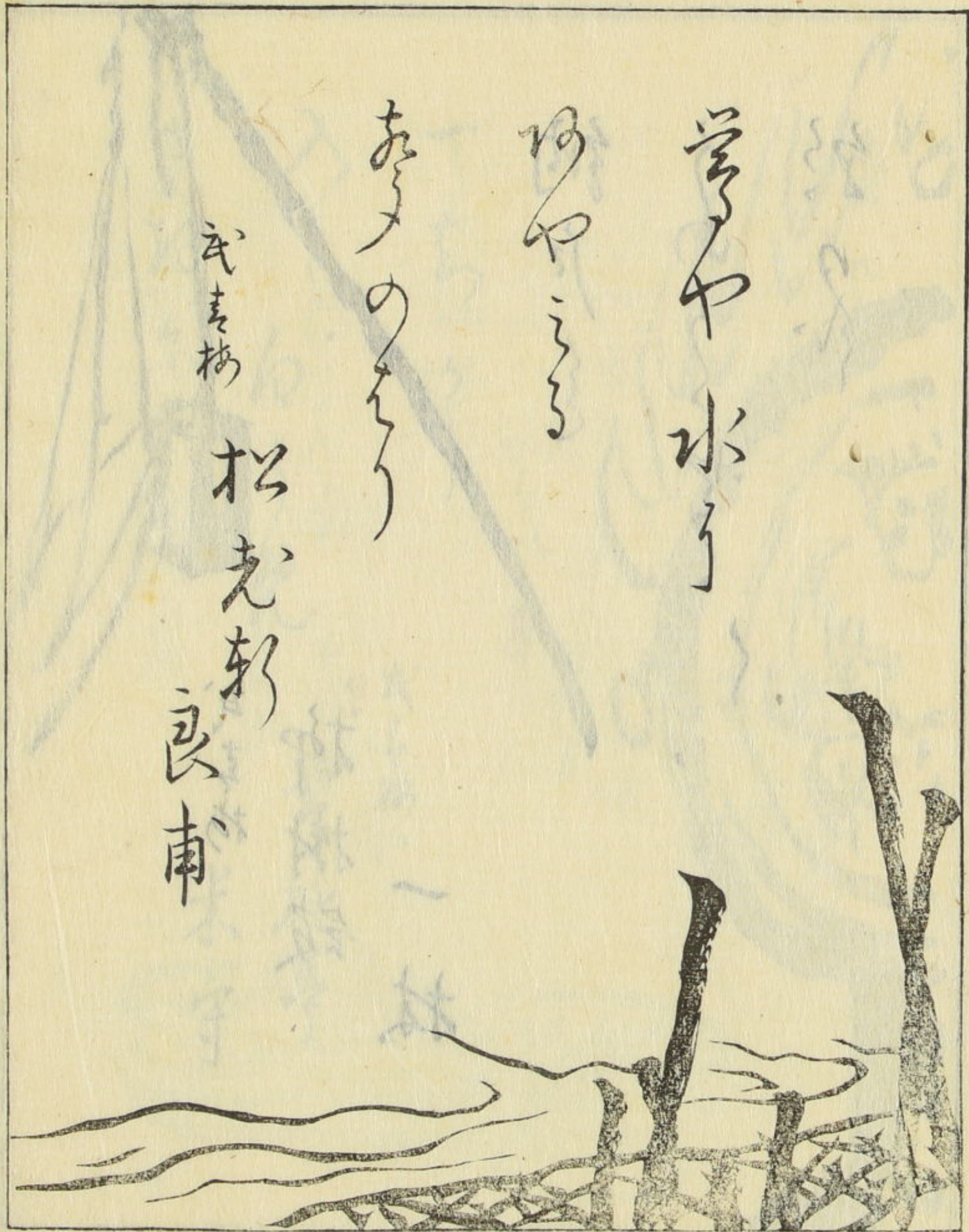
こみね

仙杏

東里

んを

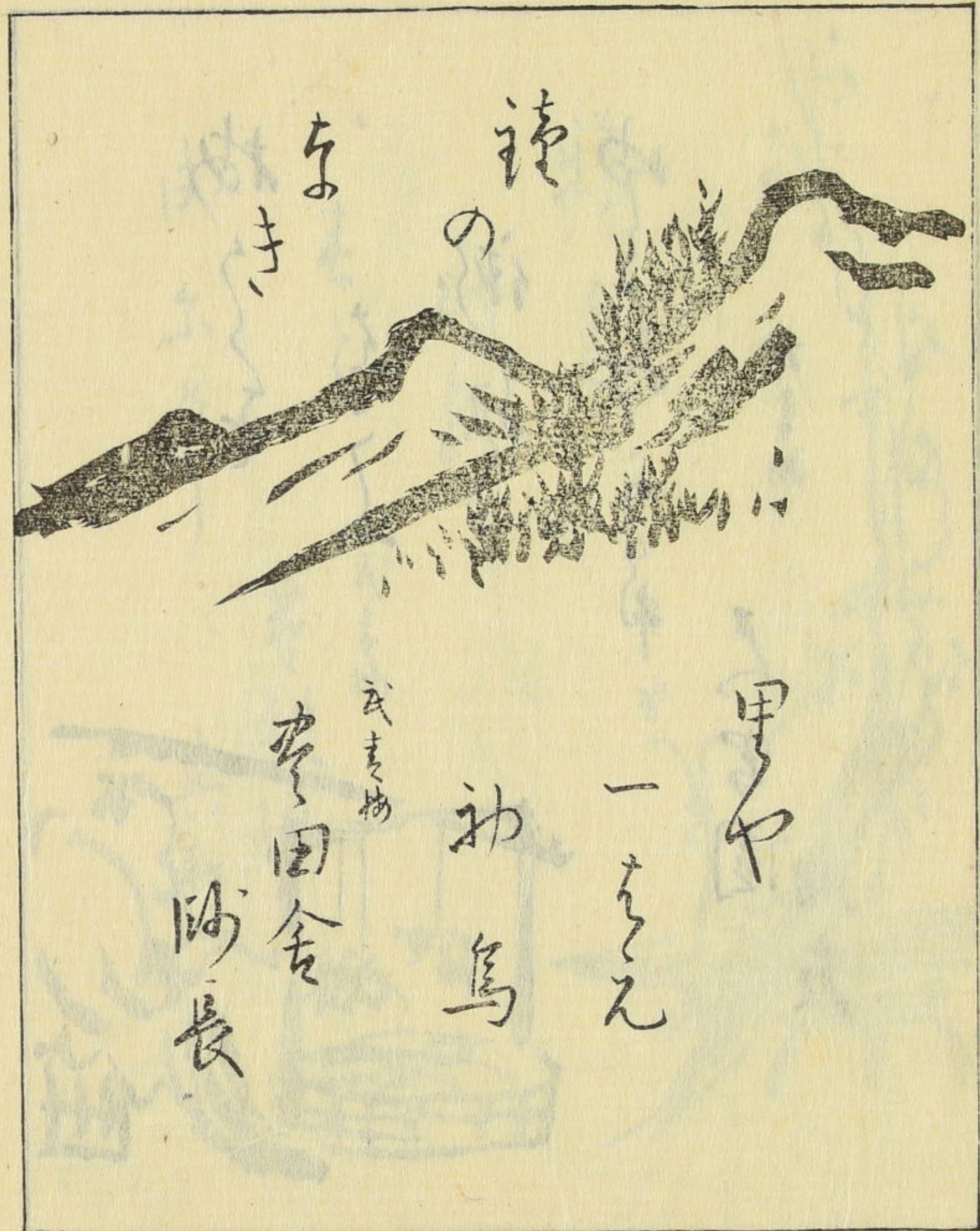




雪の中  
水  
何や  
あまの

武吉梅  
松光朝  
良甫

三十四

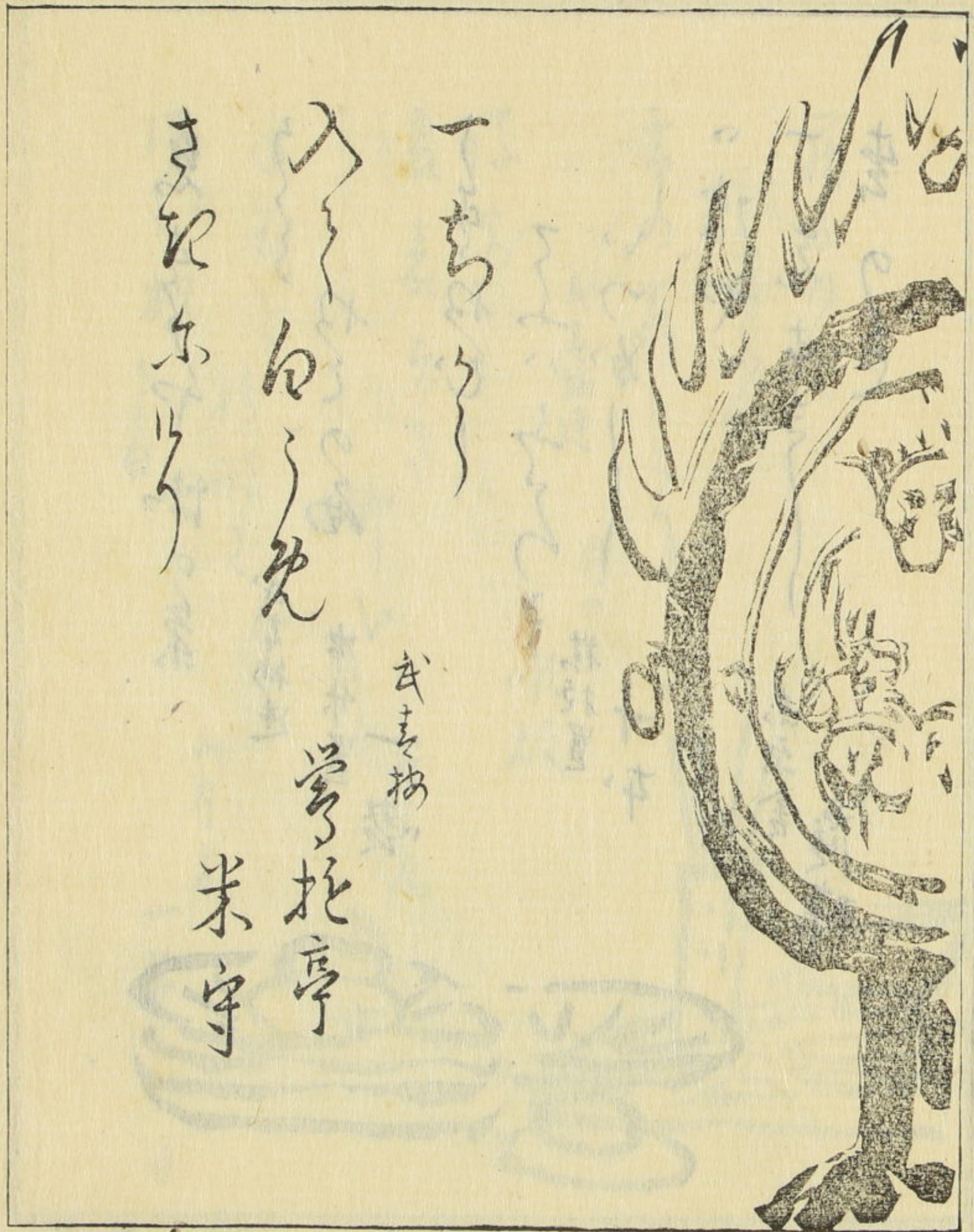


禿  
の  
まき

甲  
一  
助  
鳥  
長  
舎  
長

武吉梅

三十三

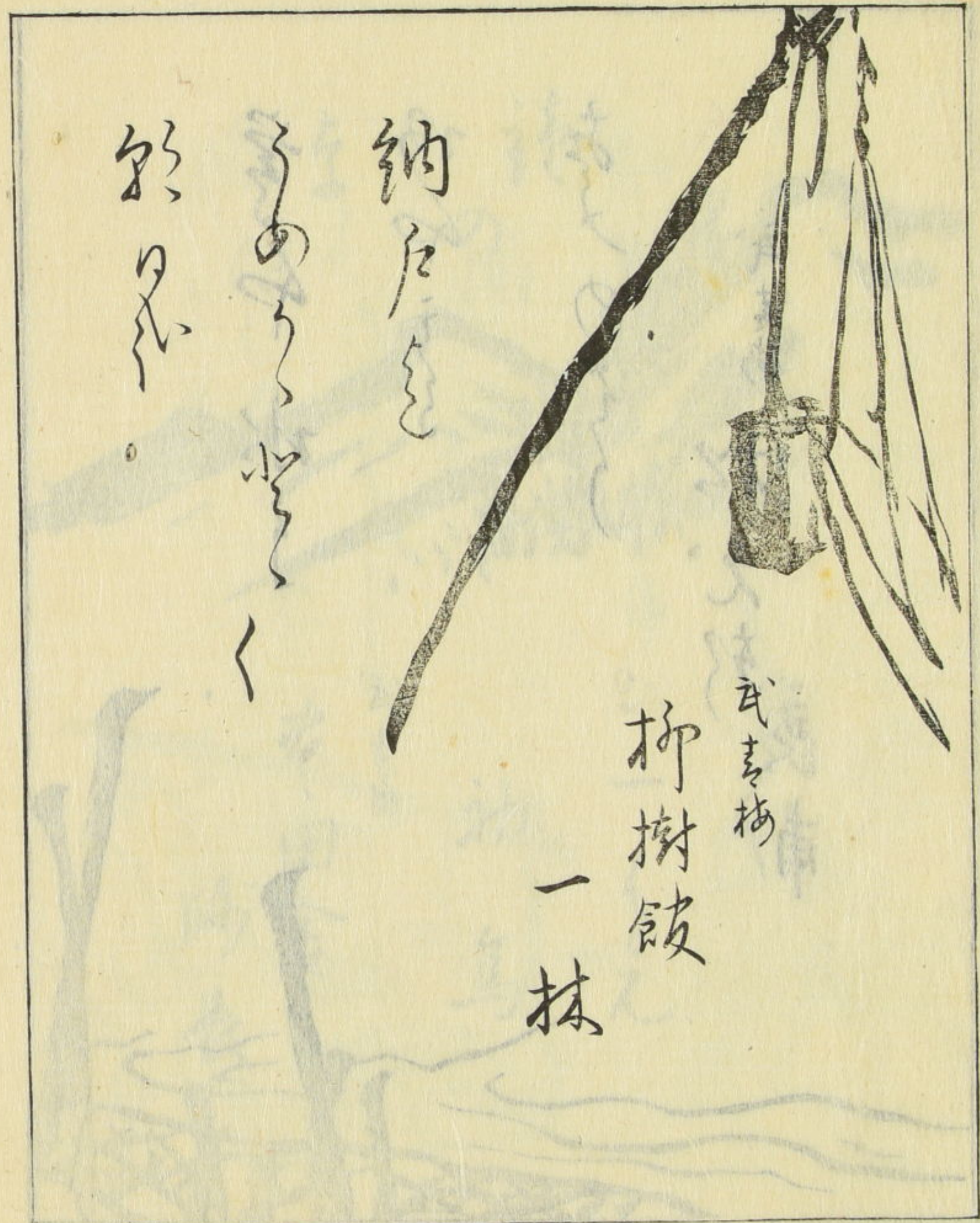


一  
 入  
 白  
 免

武吉梅

常托亭

米守



納戸

納戸  
 納戸  
 納戸

武吉梅

柳樹

一林



五くのはるるはひ  
漸快くかよふ

移れぬ

不さる

うの中

武大久世

ゆりのね

相く中

風眠



自画



玄の居を結ひ、琴字を考へ、号く  
東と云ふそののそと、南と田沼といふ  
孫子大及、色か、山あり、人皆に神た、  
地のすまらぬ、いよ、を、玄を、と、正て

所 東

十南小のら

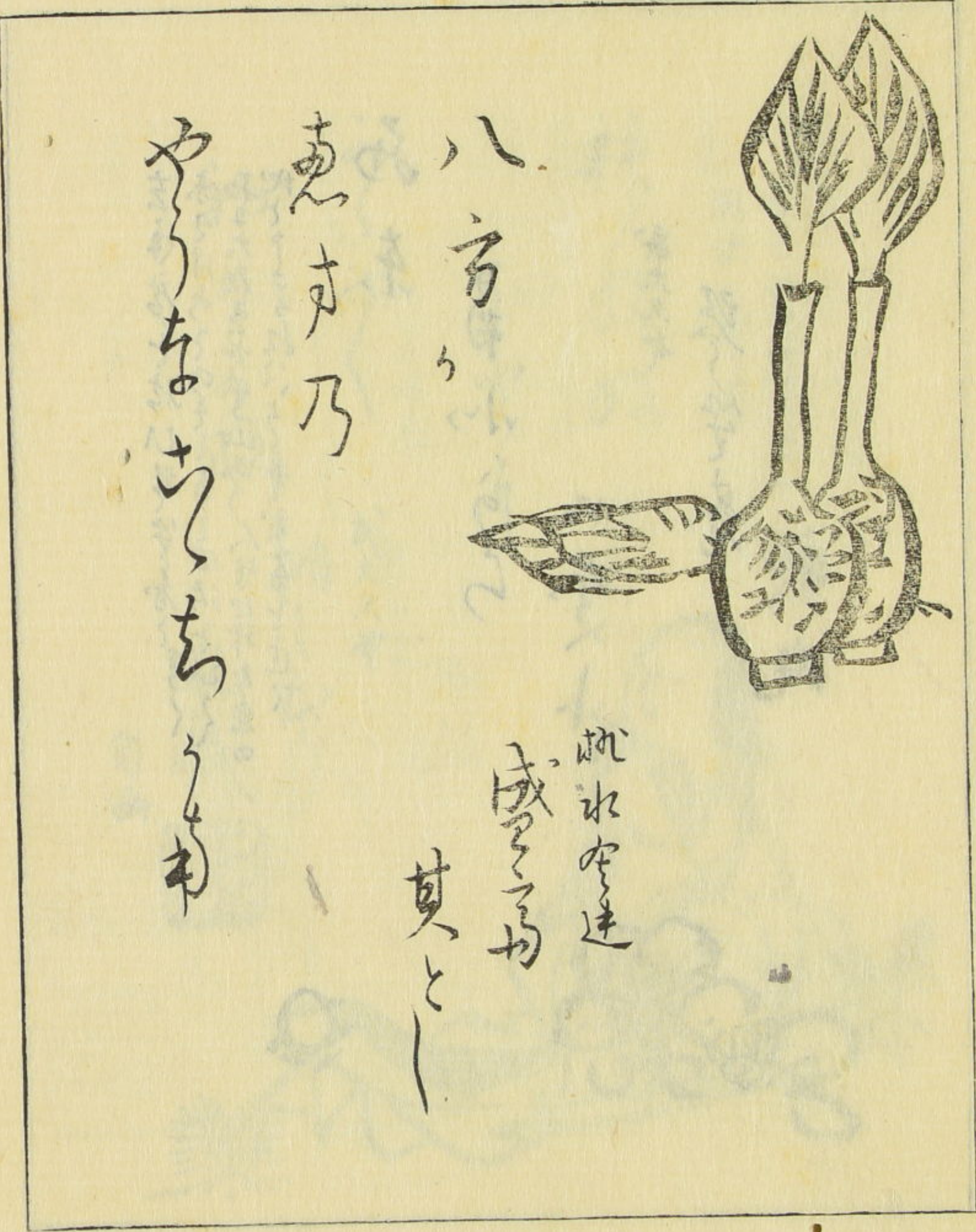
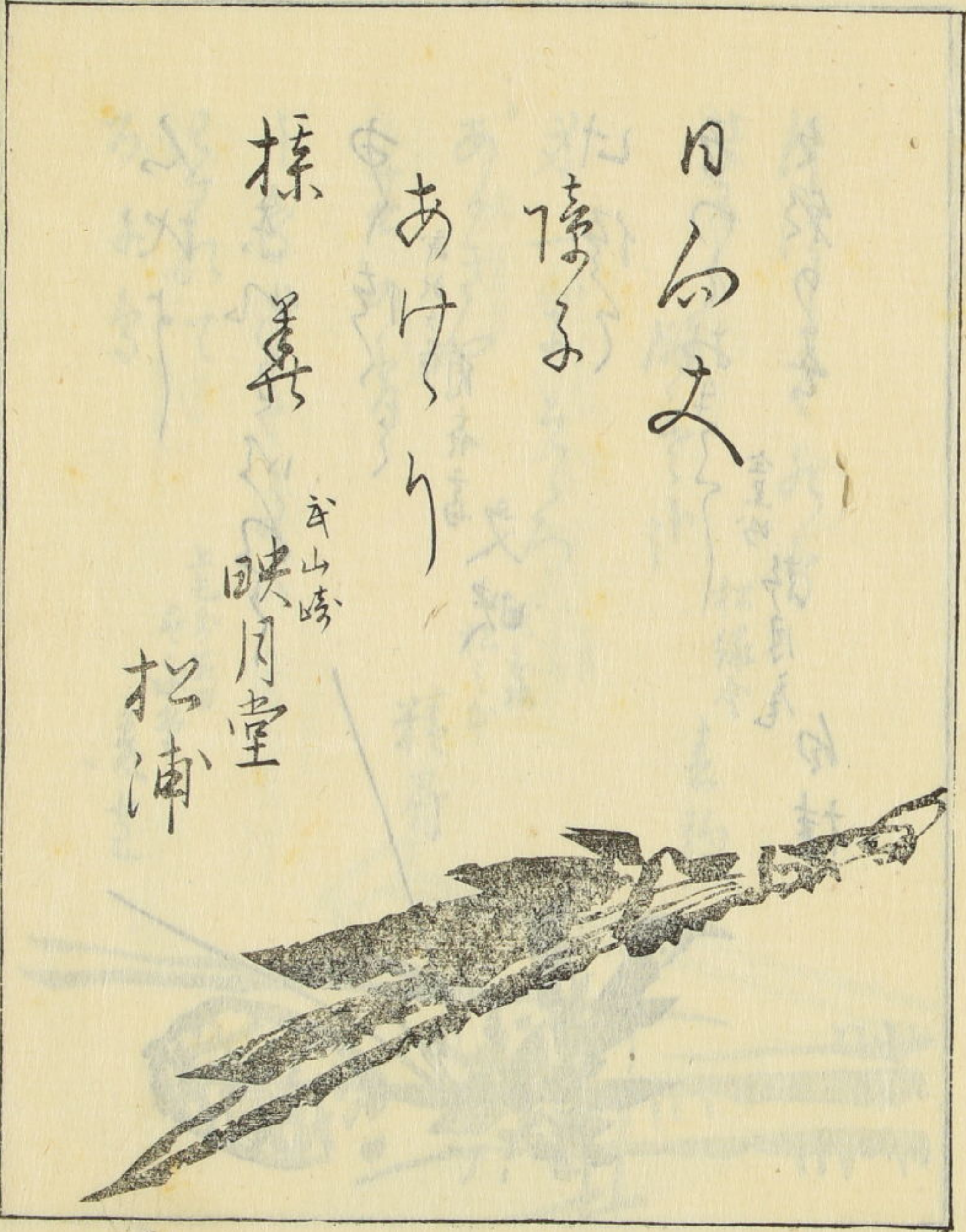
以、花、又、小

武大久世

琴、字、考、へ

歌、丸





心地よ

東にそよ風

ゆくゆく

みづの

自春高

文映

けい

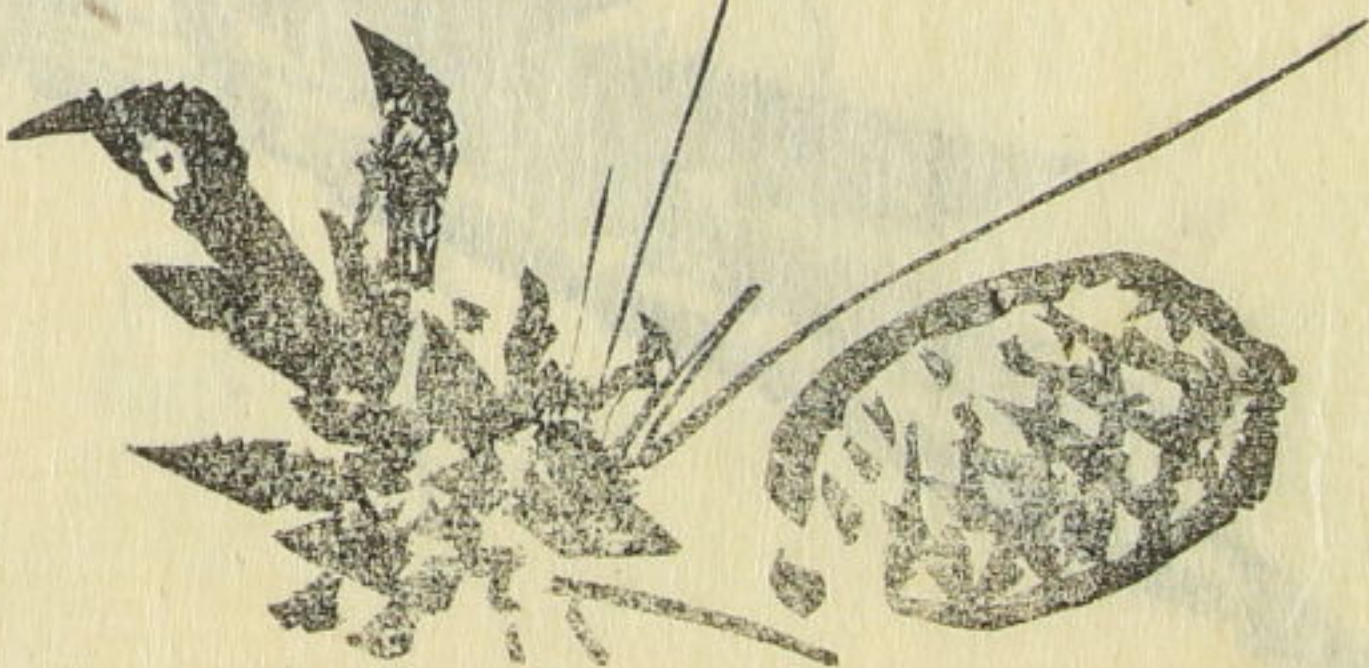
そつとゆき

全果

新月尾

白桂

夕顔のま



三

月にそよ風

ま

松縁全

ま

あま

あま

式ま梅

精眉

ま

千鳥ゆき

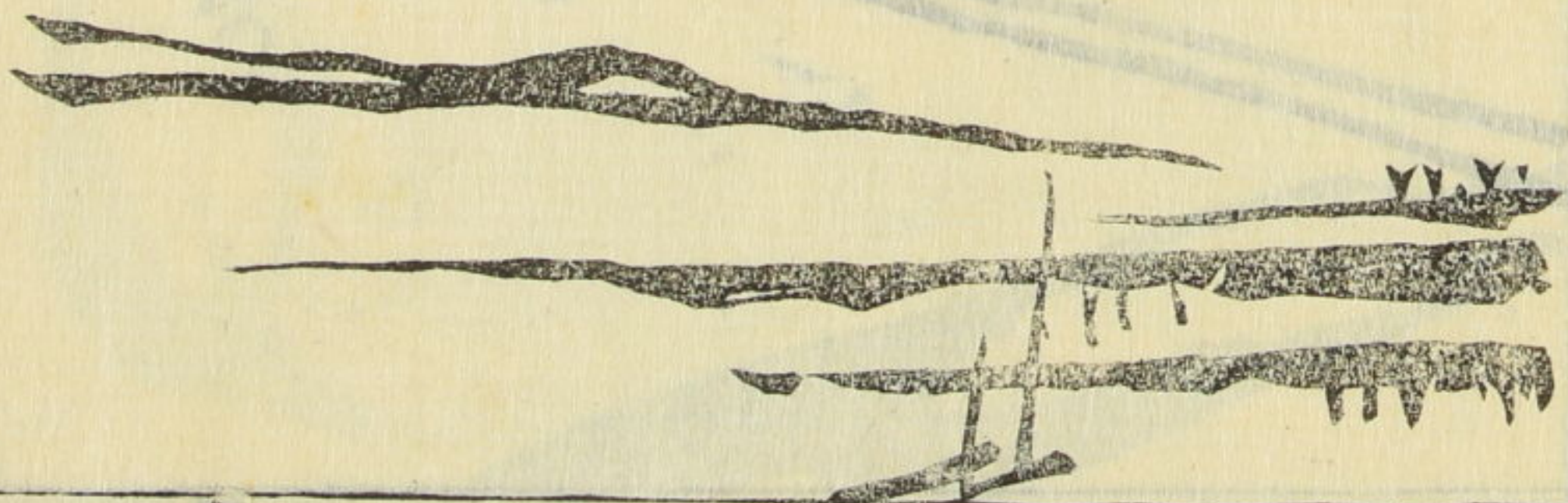
ま

上毛お

右永堂

万子

ま



三



梅々部

きくのよき

鼻の先

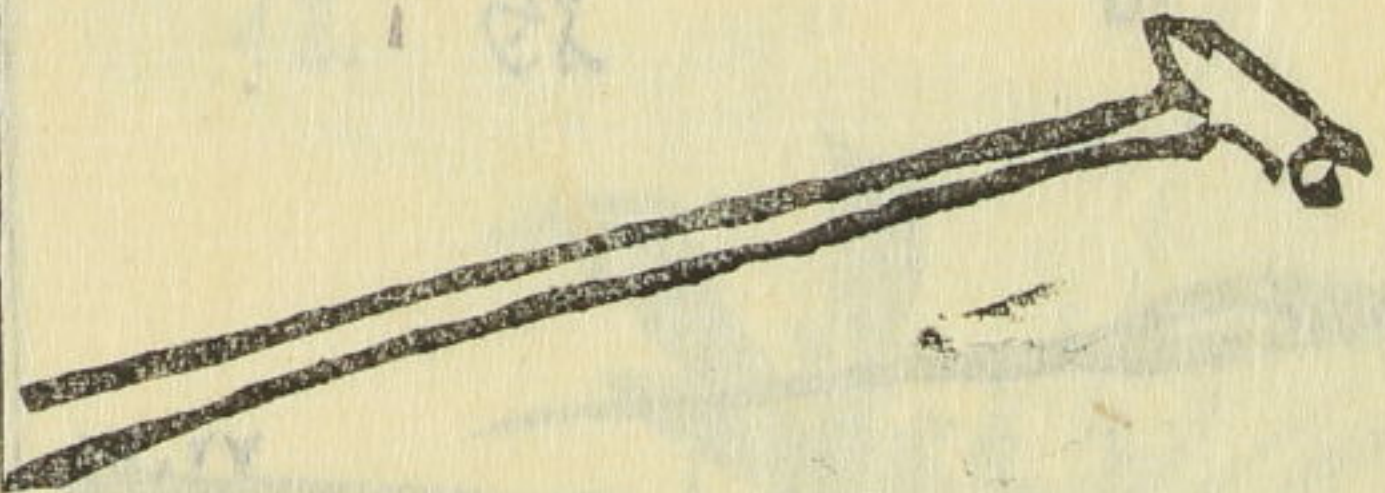
式美生

梅顔金月莊

夕々ゆ

〜

三城



恵言の

まろく〜

全五反田

可愛

梅々

をよぬハ

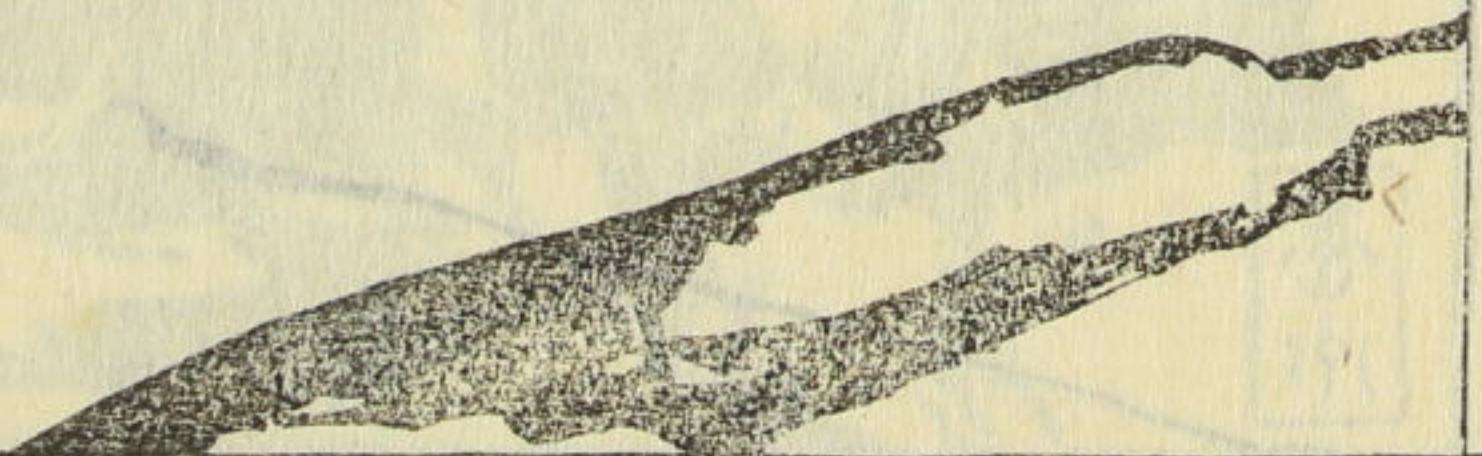
全ヤ美生

井ろく

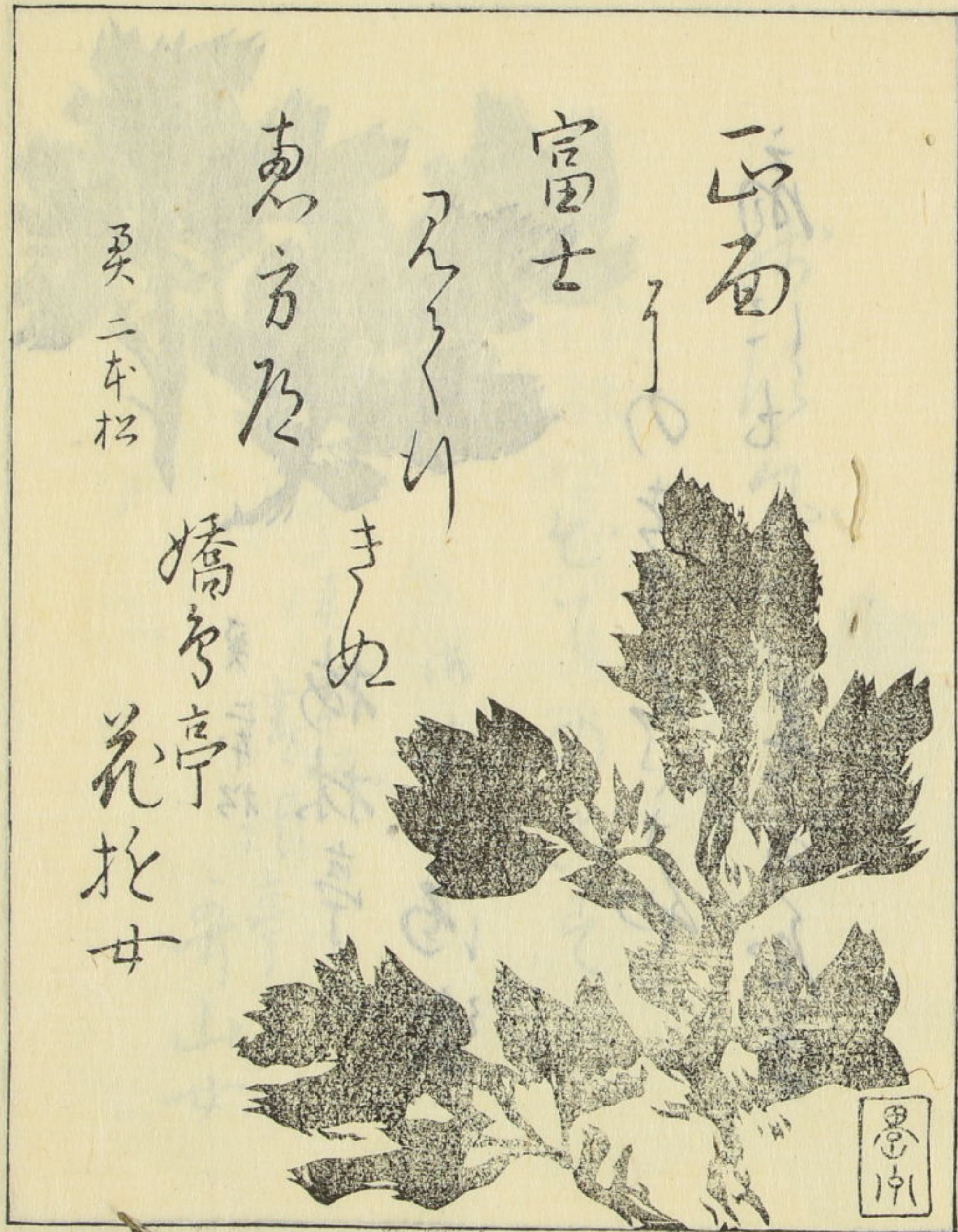
ち園堂

ろく泉江

梅々



三城



正面

富士

つるつる

きぬ

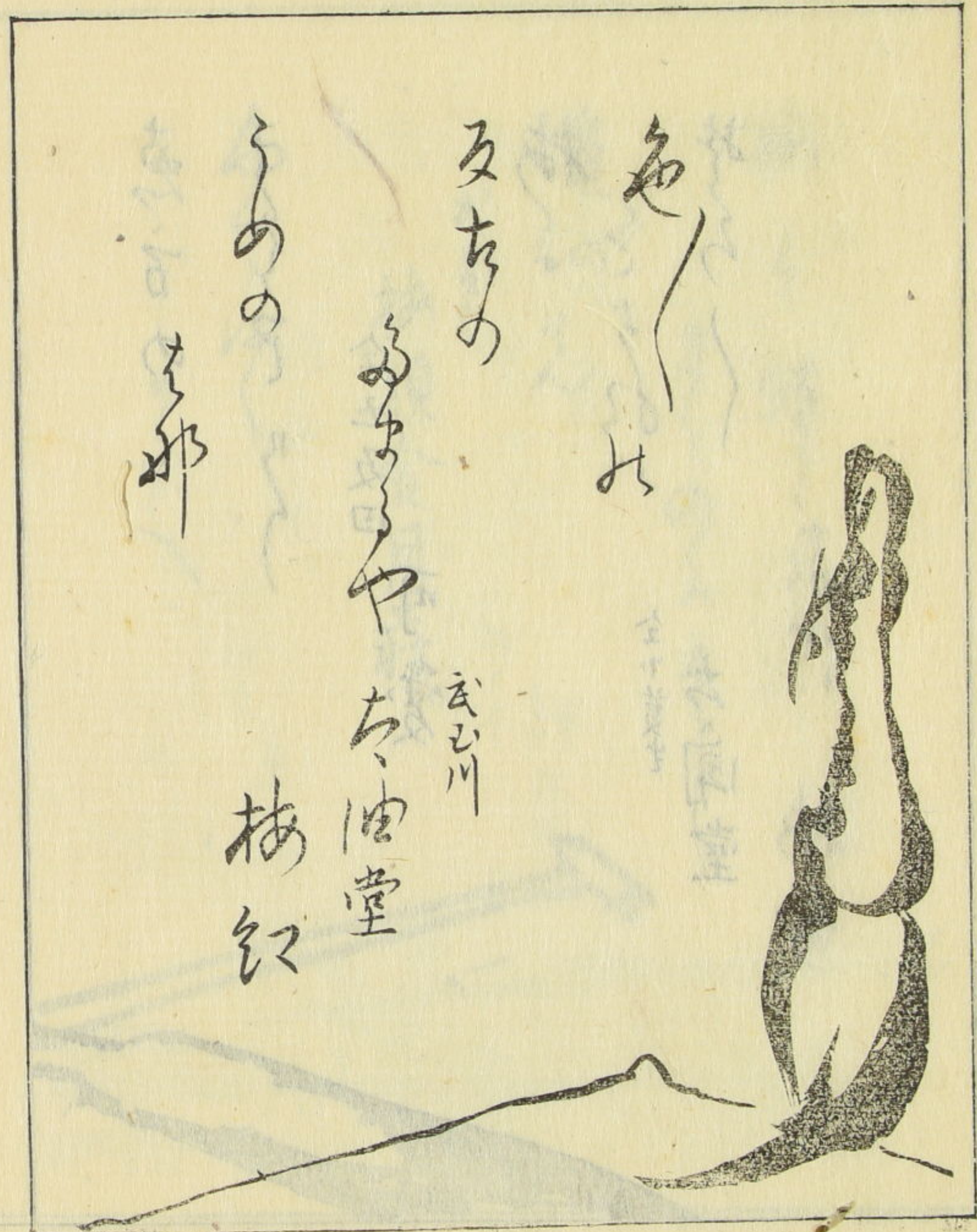
恵方

嬌亭

花枝

夏二本松

豊中



色

反古

ゆき

油堂

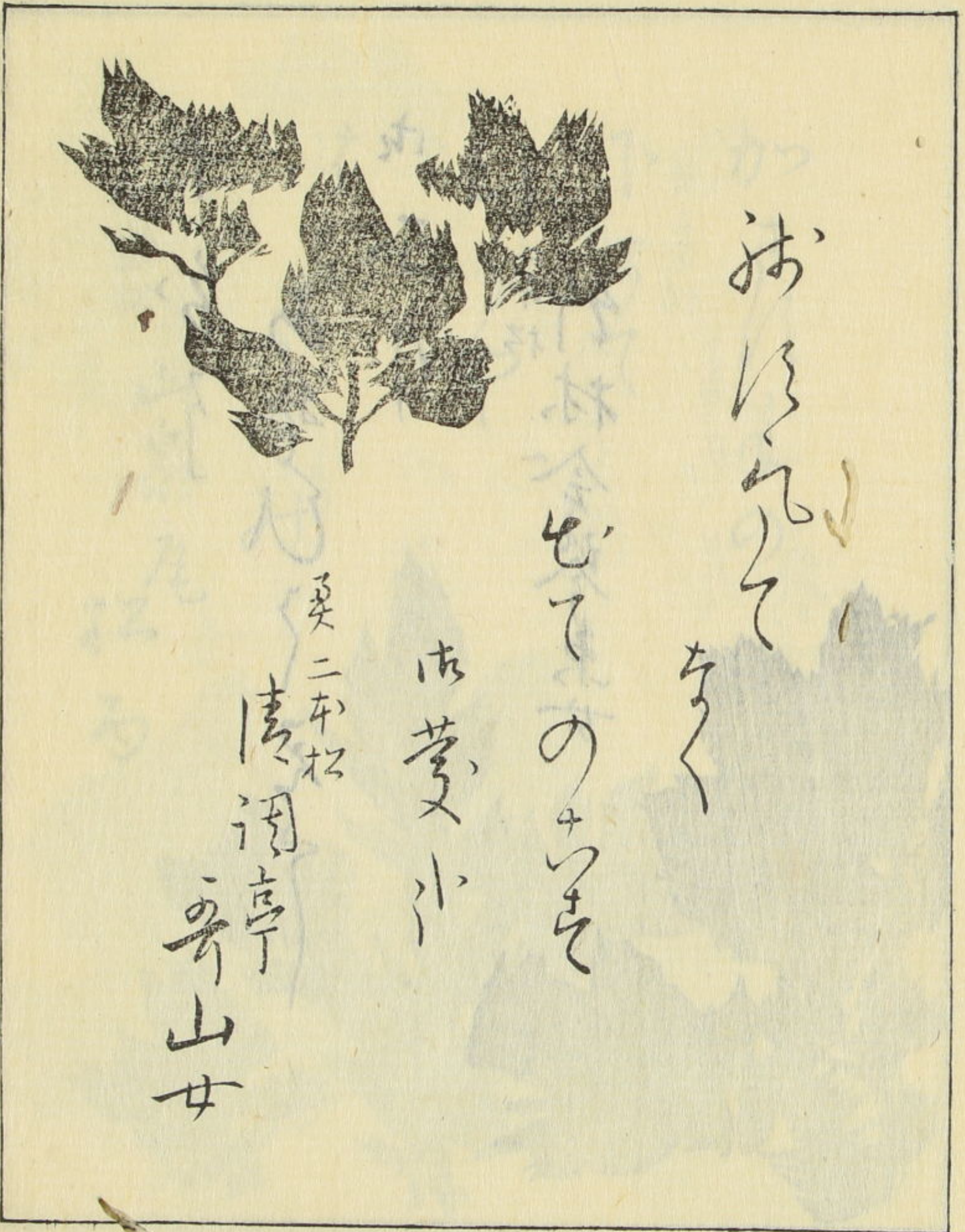
玄山

うの

梅紅

を那

豊中



おほく

をく

せてのつを

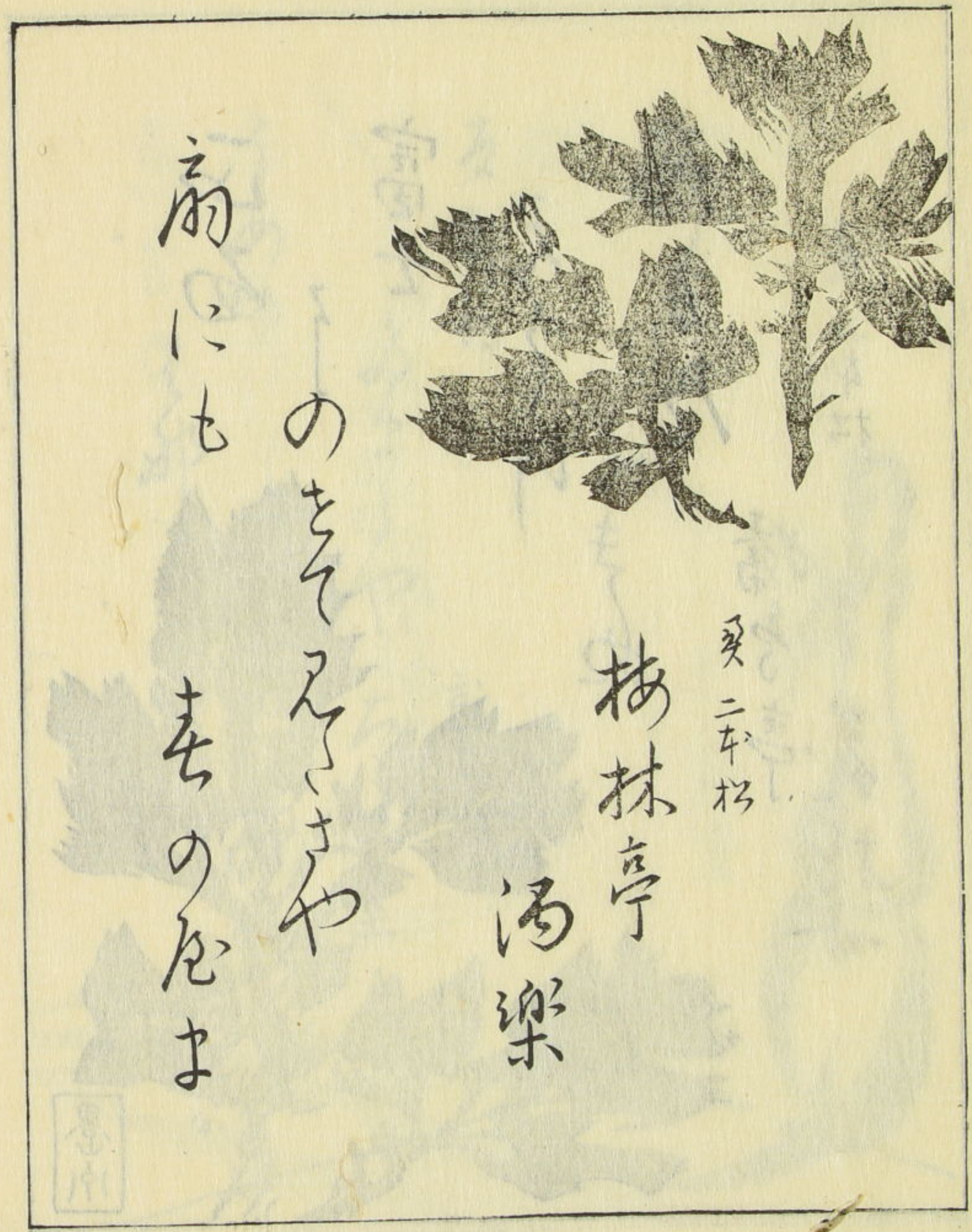
あま

夏二本松

清潤亭

香山

四



廟にも

のきそんさや

春のたま

夏二本松

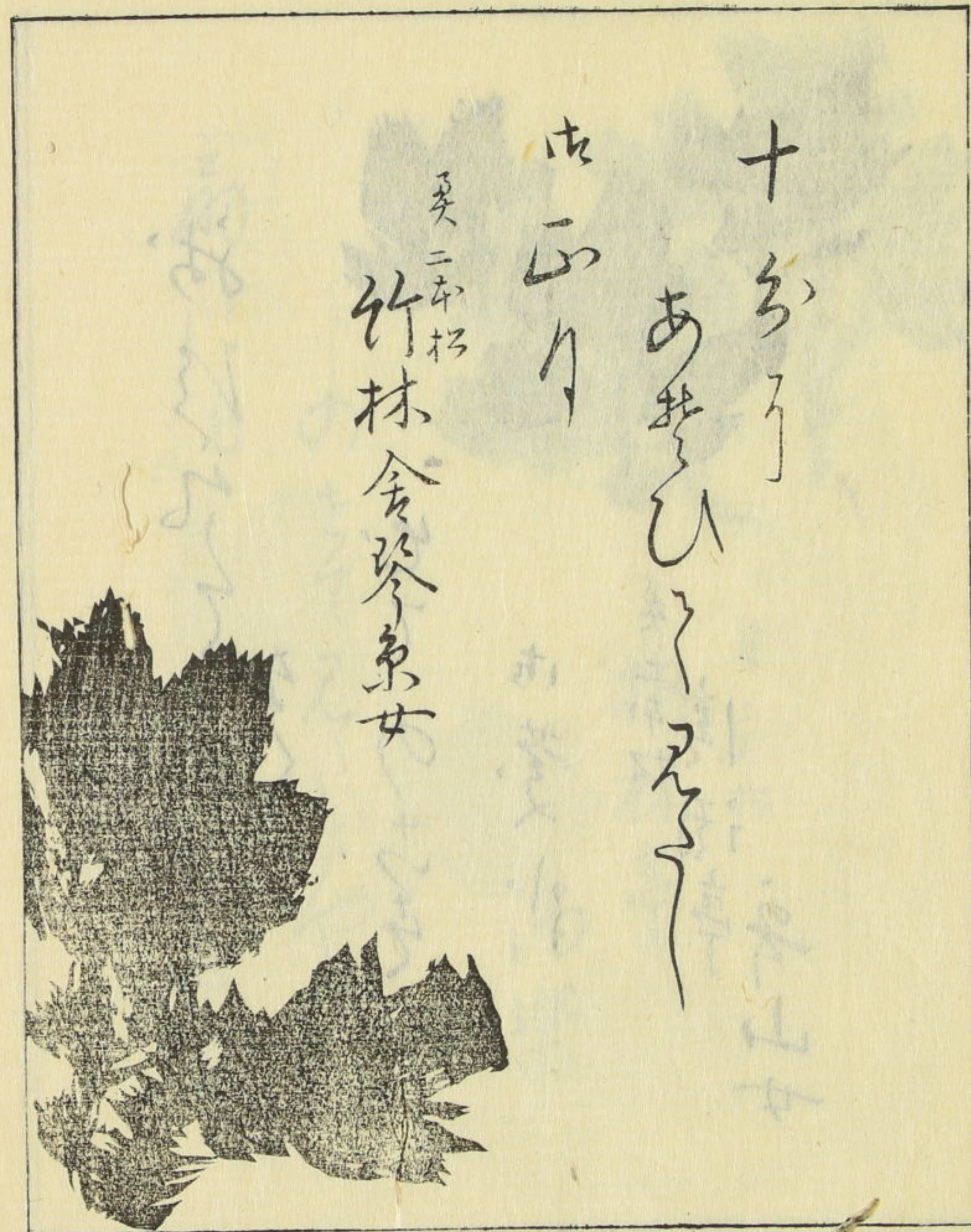
梅林亭

湯楽

四

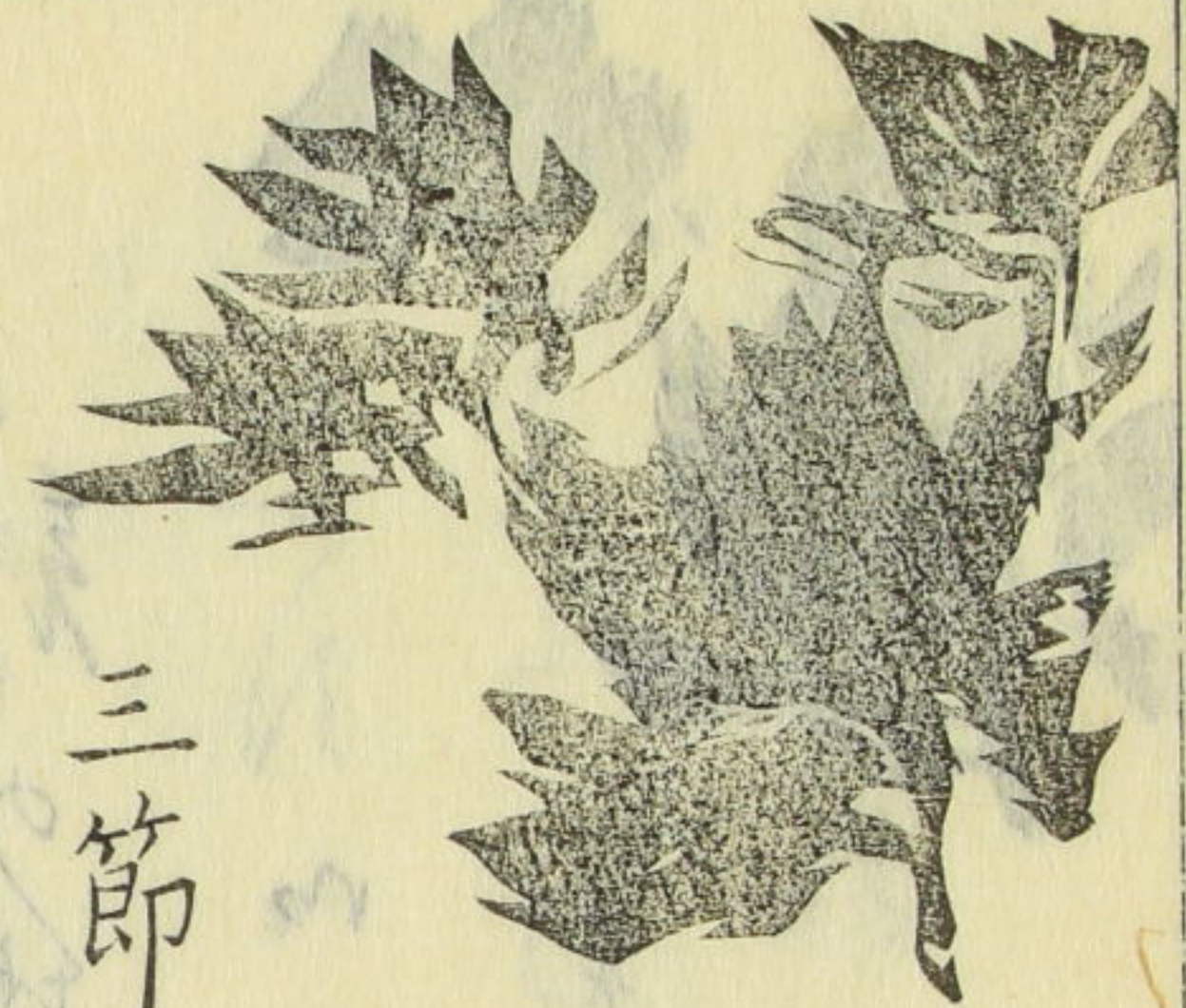


四十三



四十二





吳二本松

融堂

桃莊

三節

都のゆき  
鄙のゆき  
都のゆき  
鄙のゆき

雪のゆきを  
のちるゆき  
斗ハ  
銭  
素也  
大晦日  
おきく

全

ふつきの

日の長りぬハ

きくの

不

秋尾

喜枝

夏二平松



うらひすれ

鳴鶴

夏二平松

玉川堂

清川


さげや

あさけ



淡園公  
蘇子  
蘇子  
蘇子

人少  
人えり  
宗先  
昌歎  
文旦



夏二本松



雨  
柳  
考

夏二本松  
子翠堂松韻文  
右録堂  
挑央

四十六



秋浦の  
 積り  
 浮帯市  
 和香

美水や  
 汲来りてちハ  
 早しの霞  
買二本松達 十一女 枕と女  
 をこしつたんと  
 みるりりるの多

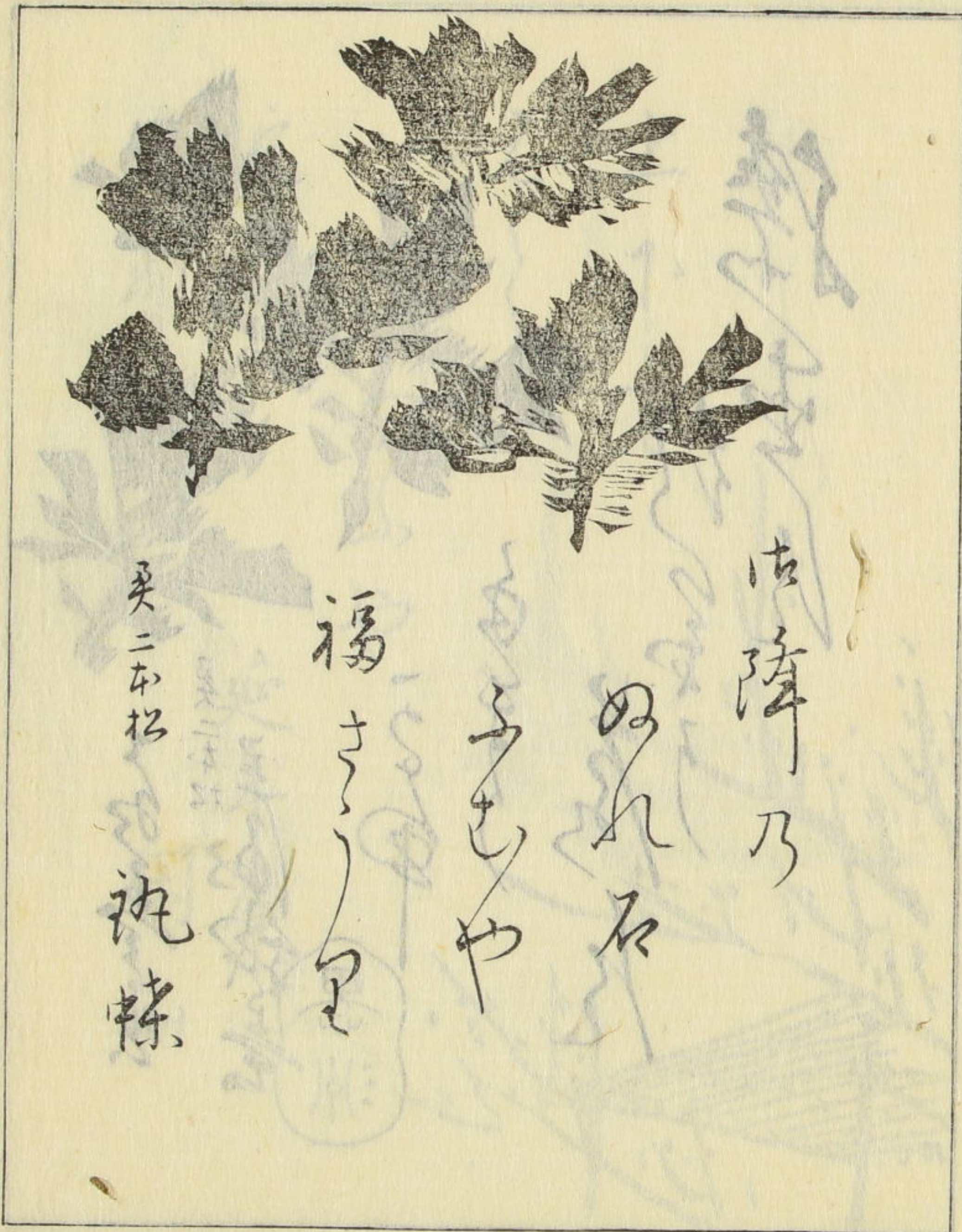


秋巻  
 素萩

月と雲とぬさるる  
 初日の出  
買二本松達 枕林舎  
 赤猿  
 ちりりりり  
 あり  
 きれりり  
 け  
一樹尾 冬末



四六



法降乃

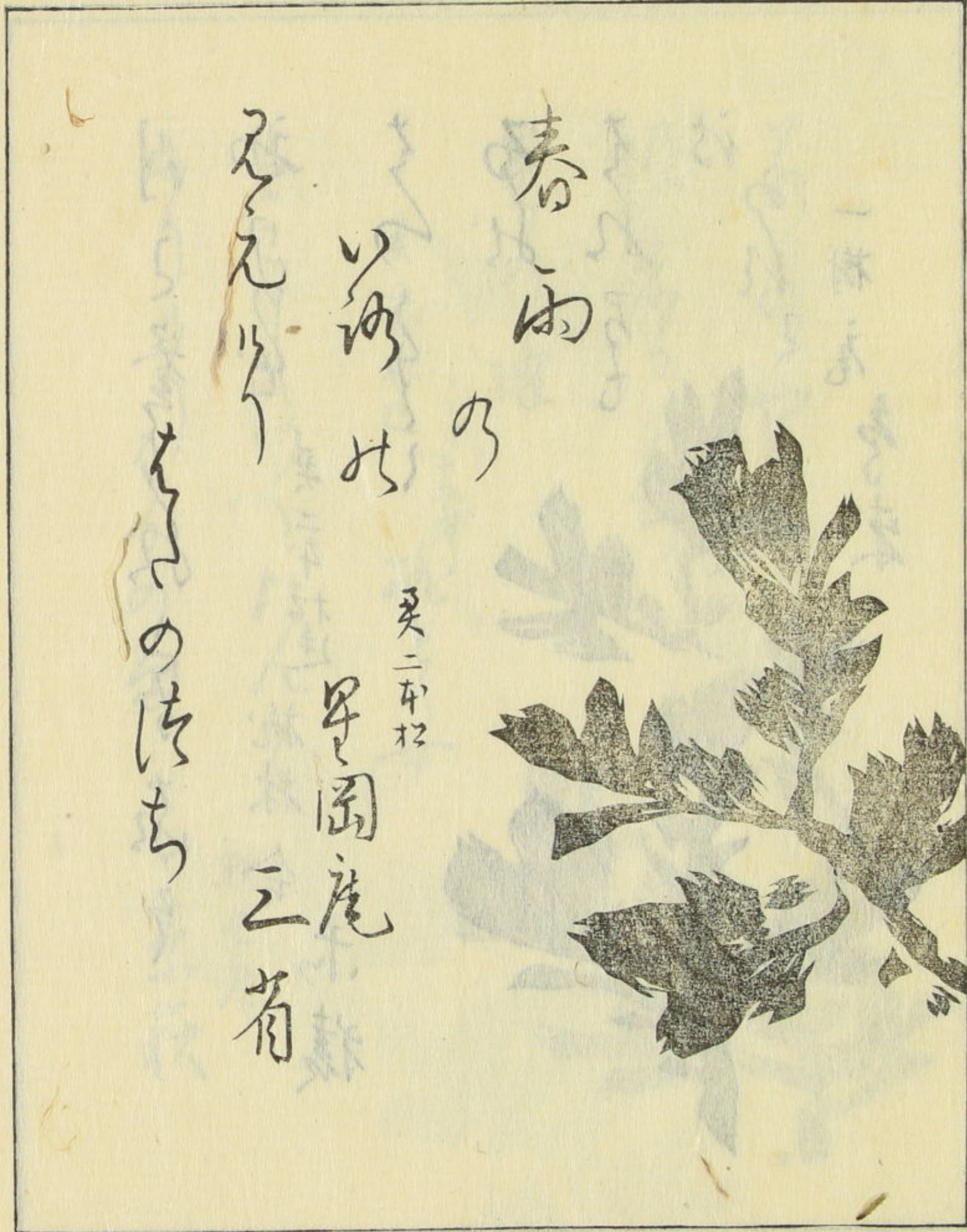
のれ石

子也や

福さきり

癸二本松

祝標



春雨

の

い海此

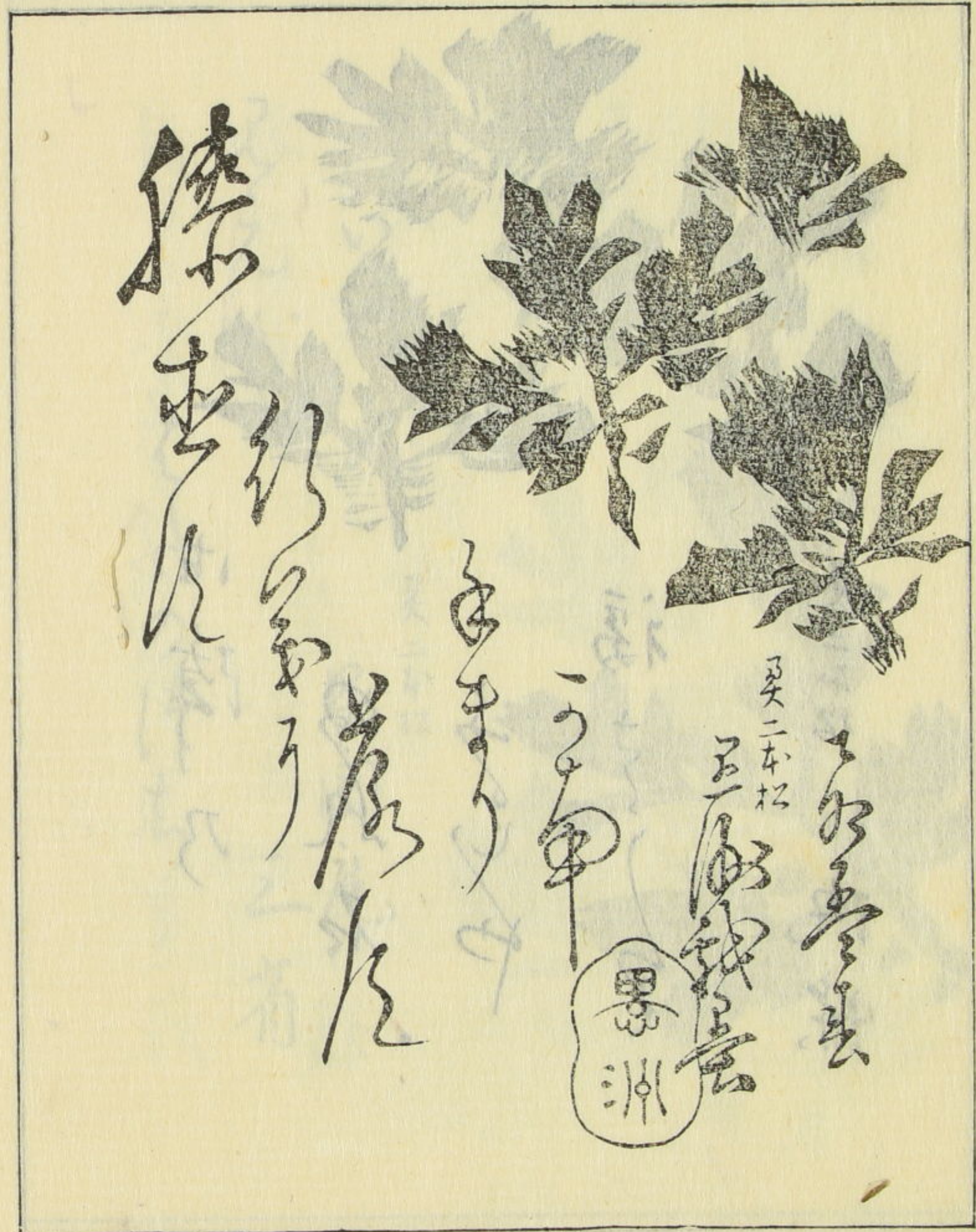
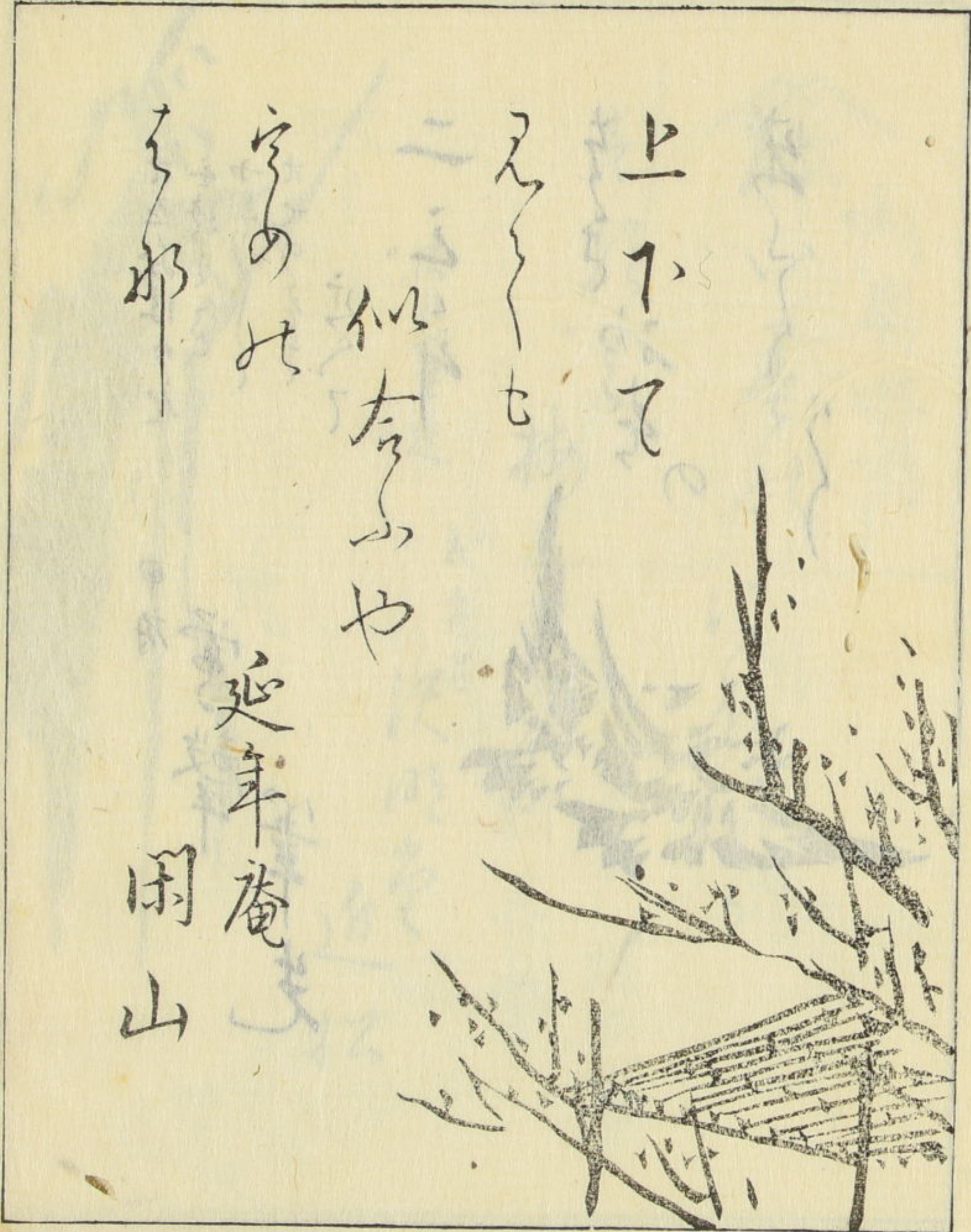
ええりり

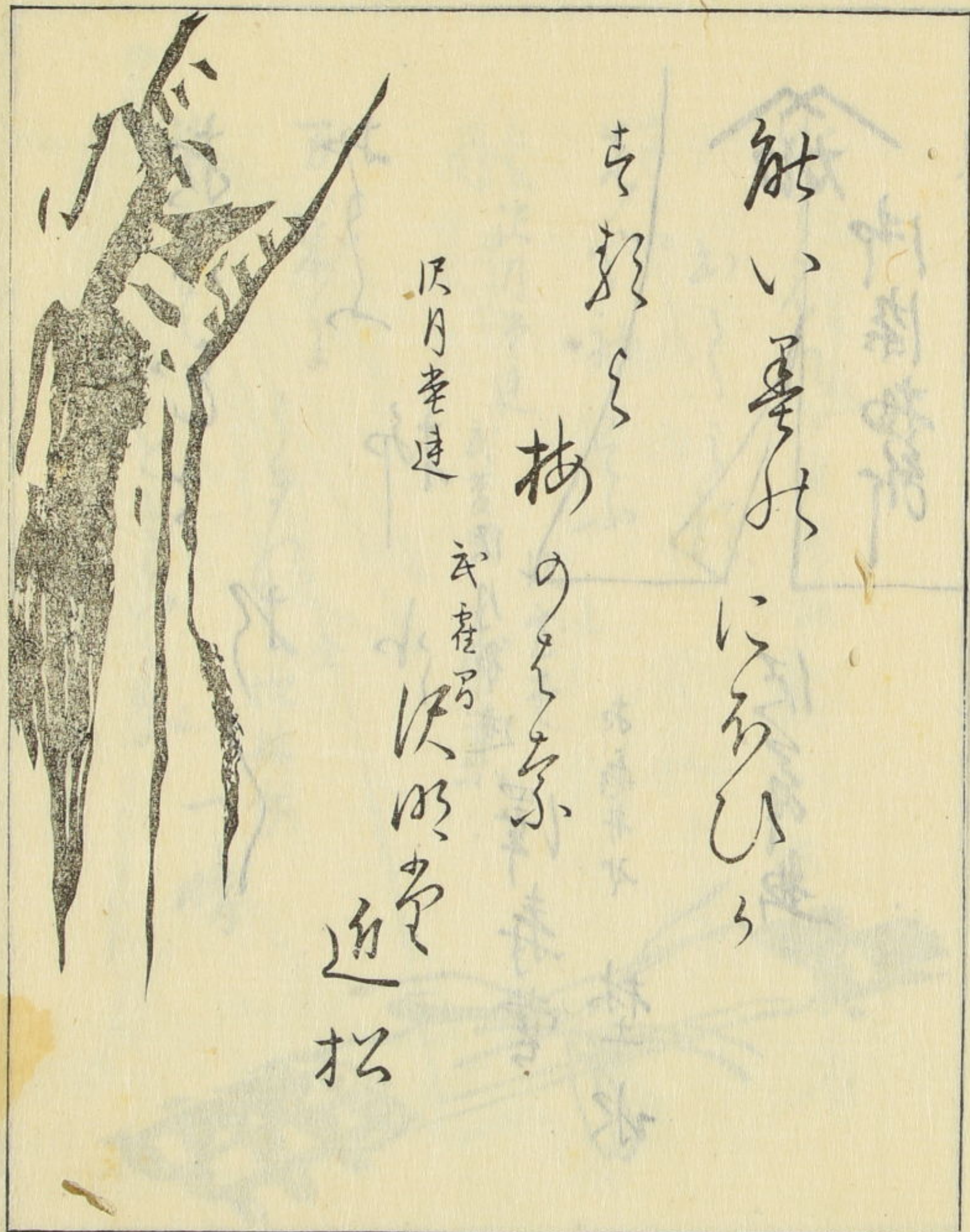
癸二本松

早園庵

三省

もこの法ち





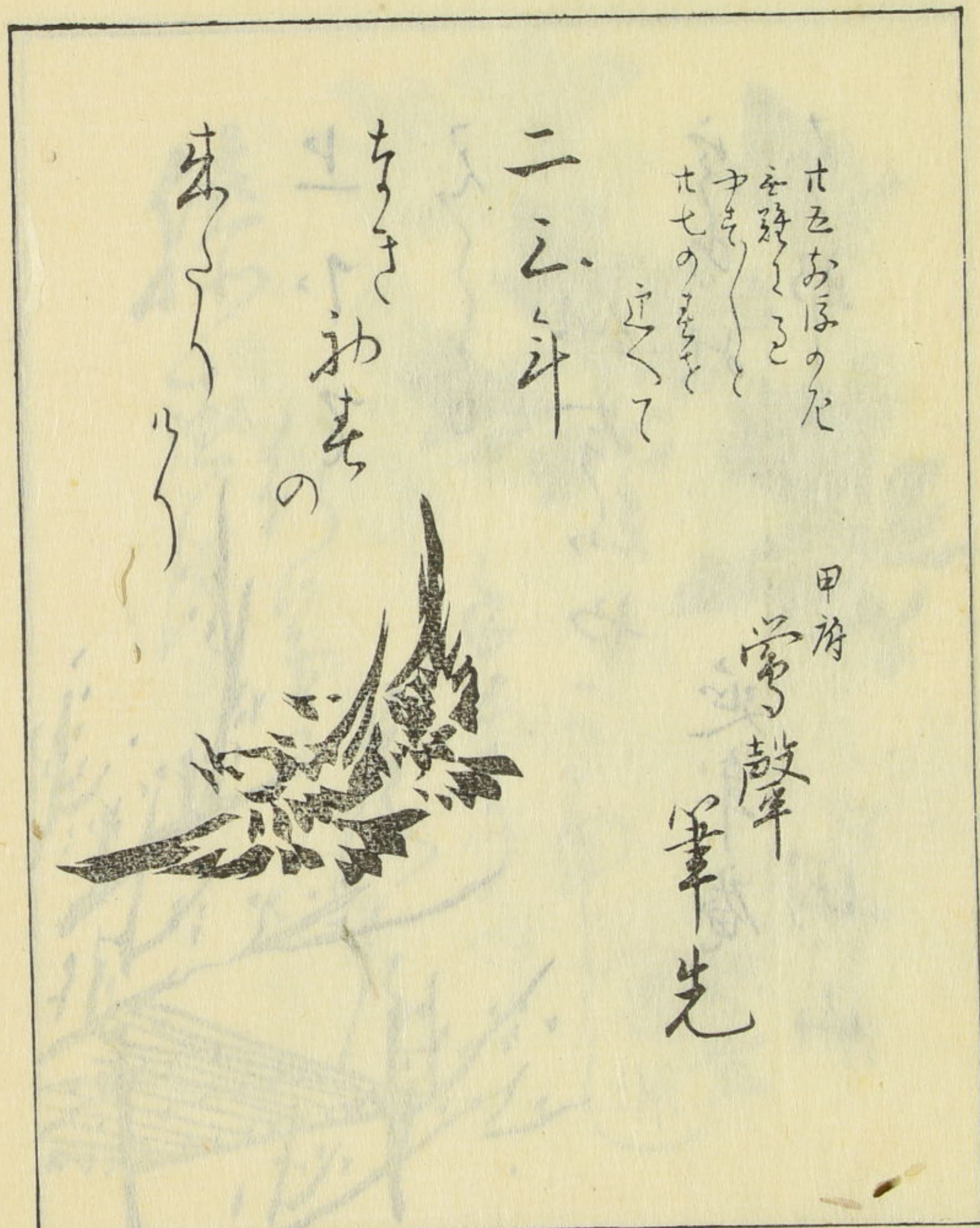
能い事此にあり

を

梅の

月

近松



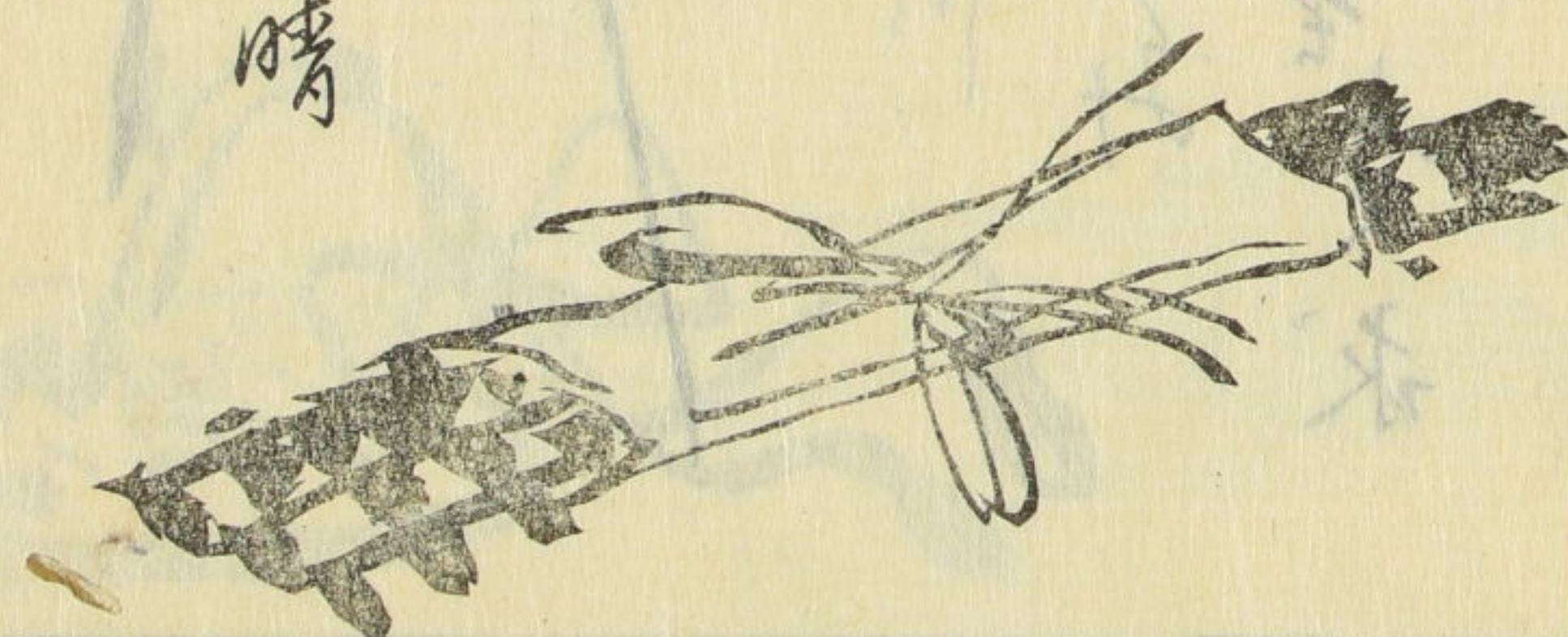
二二斗

甲府


常盤 筆先

五風集

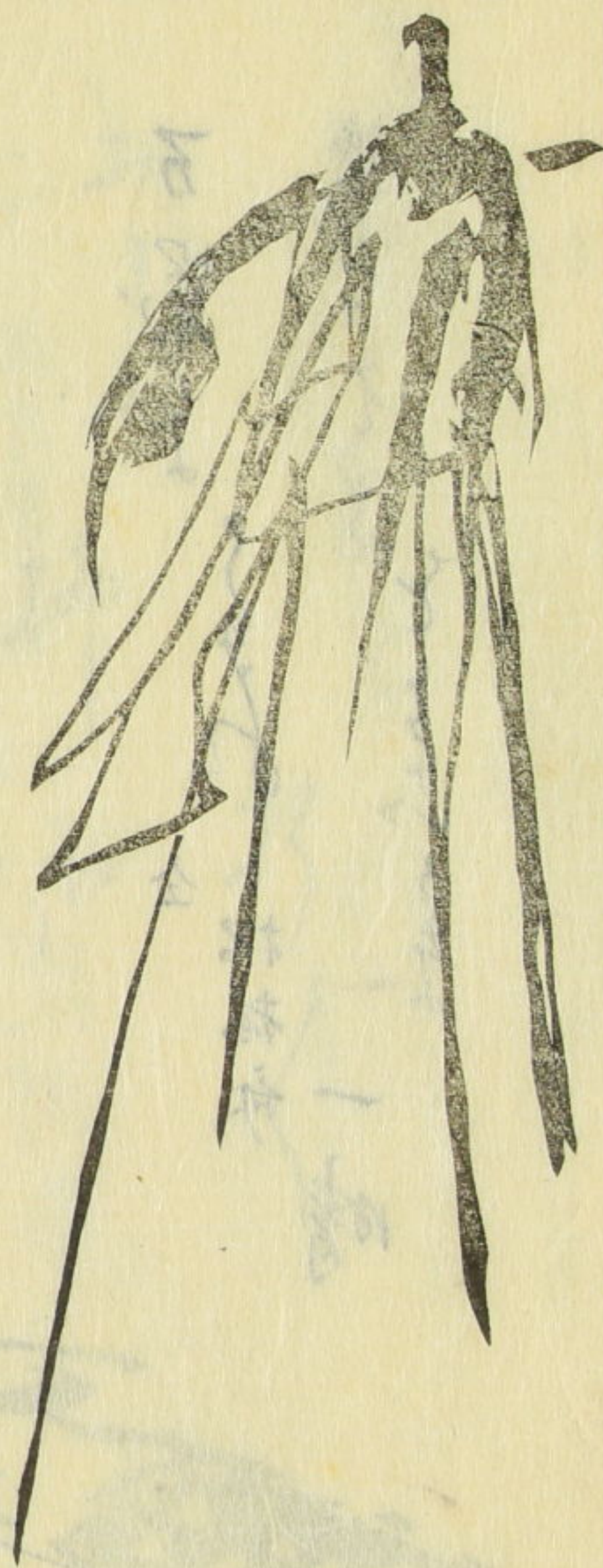
心くろくぬハ  
 おくくく  
 先や初こふ  
 活月亭達  
 武荻田  
 南才系  
 活月亭達  
 武荻田  
 南才系  
 万葉  
 松林所  
 一晴  
 竹ちんをる  
 ととふうをよ



加  
 御座物所  
 活月亭達  
 澤壽堂  
 お徳井也  
 塾水  
 活月亭達  
 澤壽堂  
 お徳井也  
 塾水  
 活月亭達  
 澤壽堂  
 お徳井也  
 塾水



# 屋間種



物

知

よのんのあのみ

辰月半達

武蔵松 清川堂 貴求

至下をのけて  
 七行や  
 福寿村  
 辰月半達  
 辰保京  
 辰光寺  
 東川

百葉尔  
 仁俊  
 辰保京  
 辰光寺  
 辰保京  
 辰光寺  
 辰保京  
 辰光寺

屋間後

簀黄挽

香々々

祝々々

家の向

て〜〜〜

何〜〜〜

此

武吉芳

右影草

松俊

全金川

右芳草

松影



北十三

以〜〜〜

何〜〜〜

柳此

〜〜〜

武吉芳

右飲草

花城

主〜〜〜

喜々々

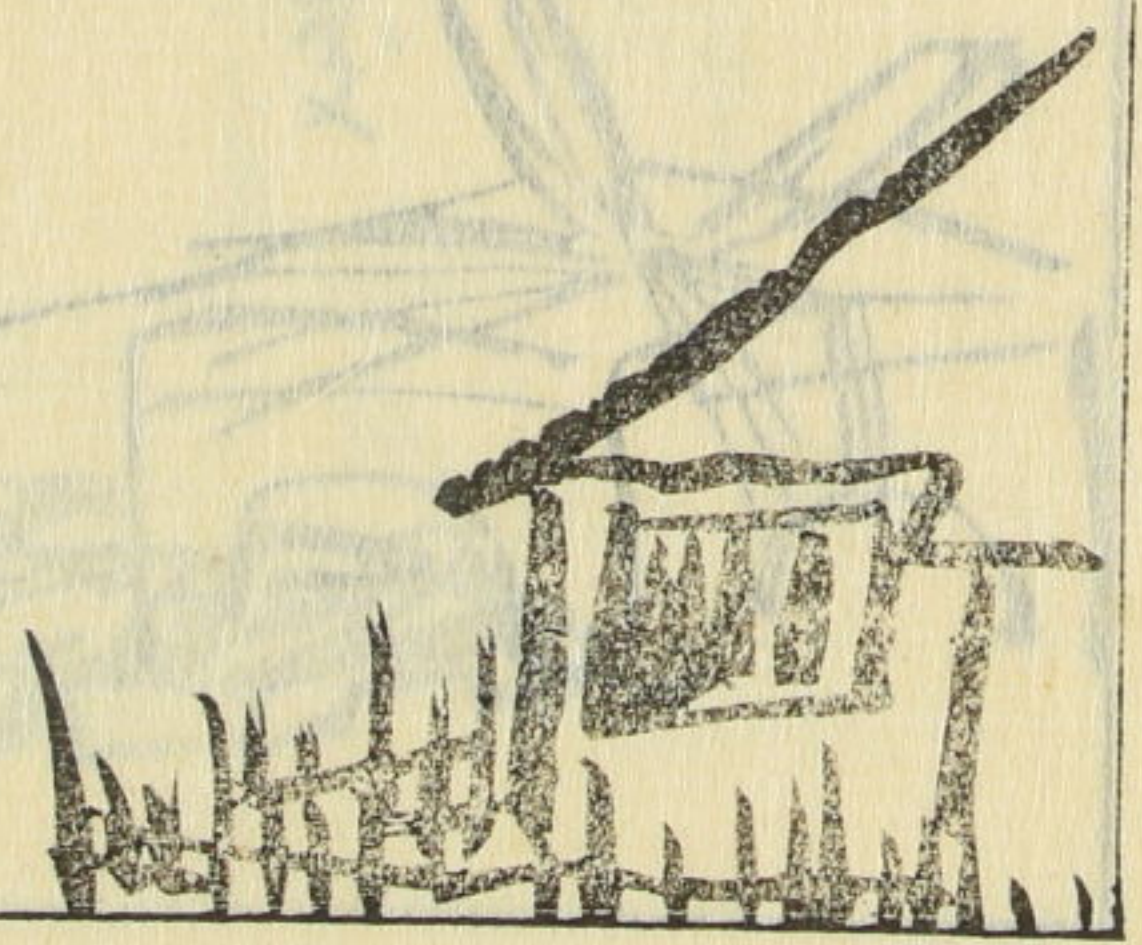
右群草

采富

申〜〜〜

祐日

北十四



七草の秋の序と  
しらべあつて  
卯のまをいふ

あひ入方の

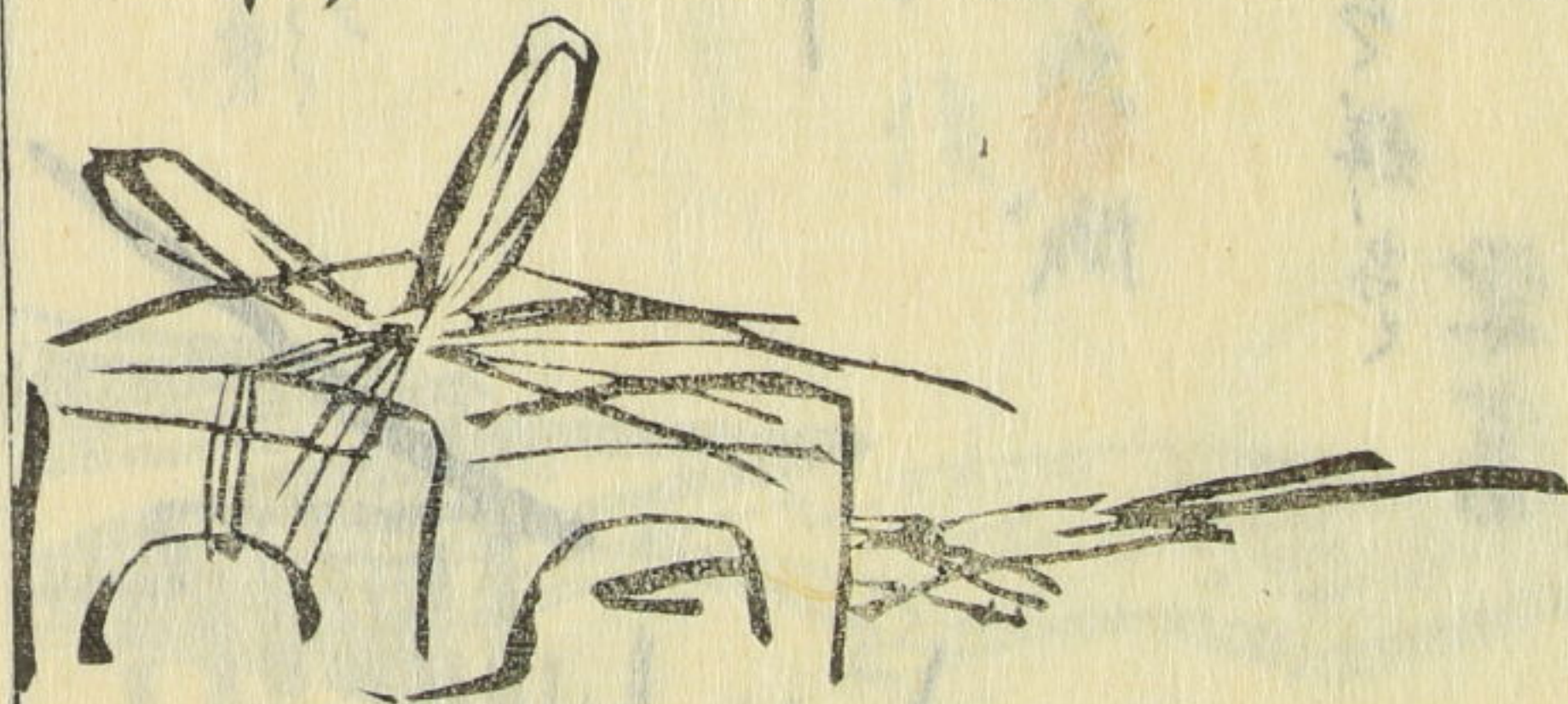
恵方花

々々の

々々

武七草

江月亭免形



梅の月

よふこむく

きくりり

お雨谷連  
積り草

余愛

七十一のまを庄で

子供あつ

こころに

ふれい々々のまを

秋葉令 坂月

ふくもを又

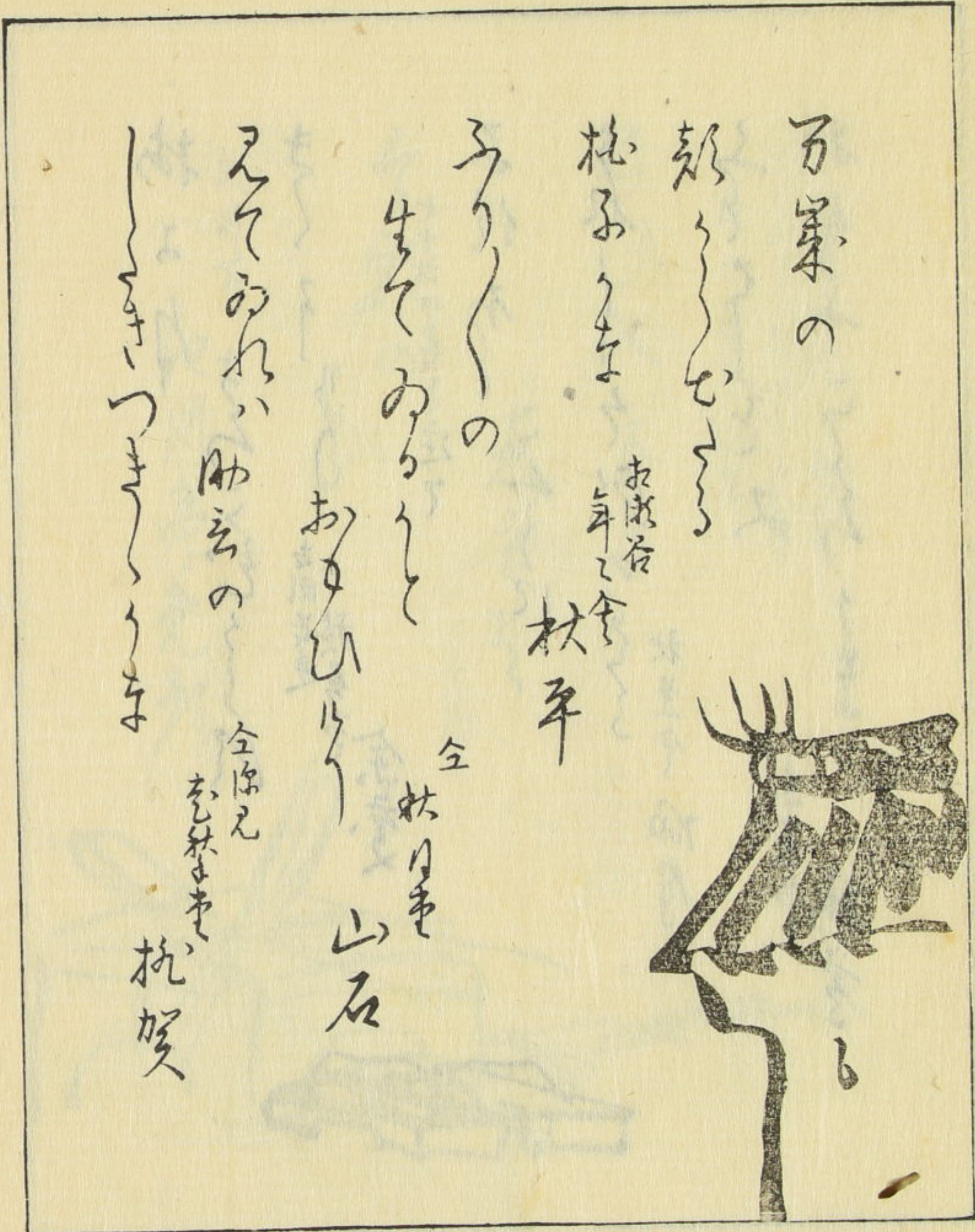
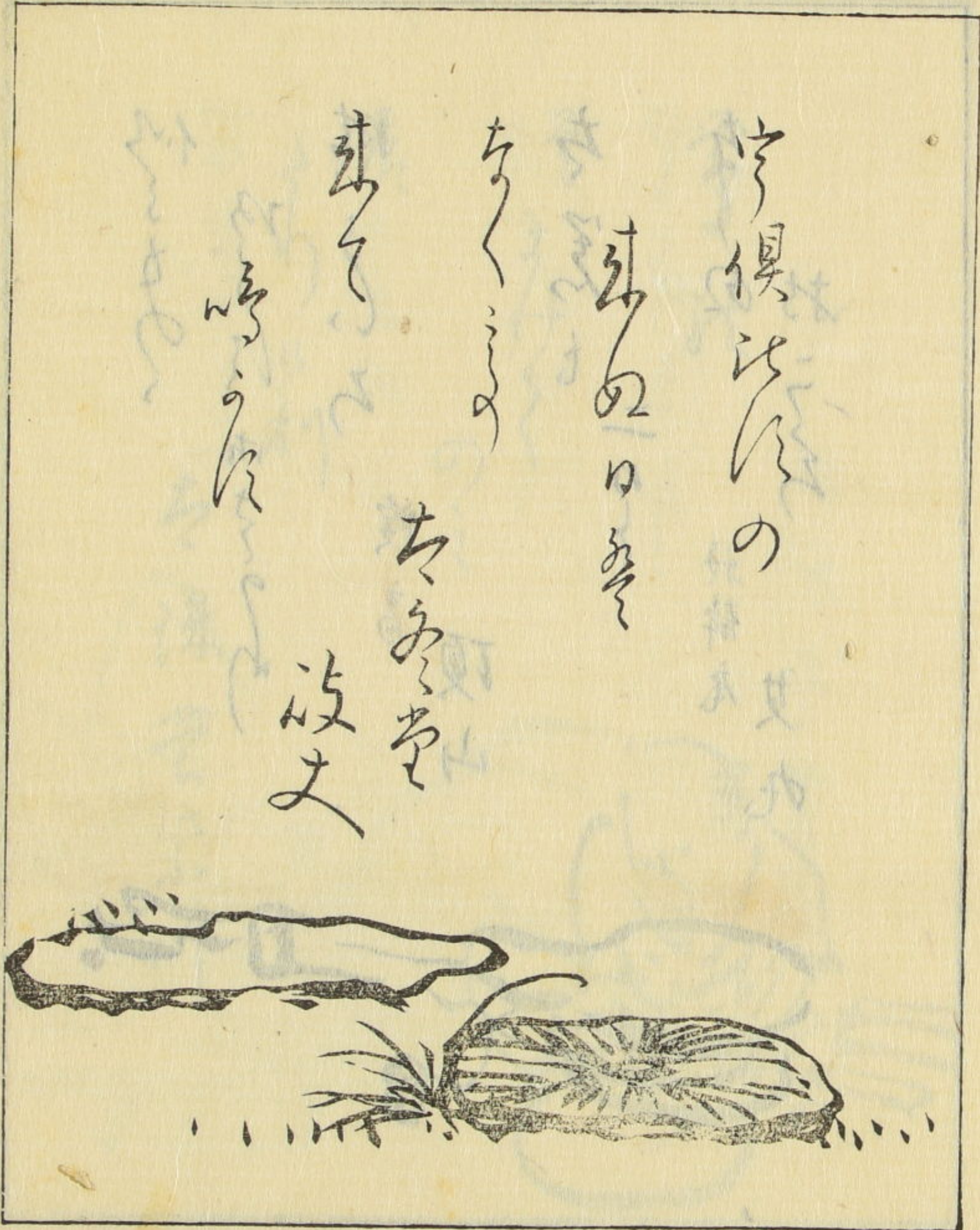
東東草

持智ふららうま

梅草







似るもの

阿の山 水さうり

晴るいろ

候高

頂山

ちまも七

二り

ちまの

特静庵

其丸

持ころ



学は

そまけ

のこ

居

ころり

ちまも川



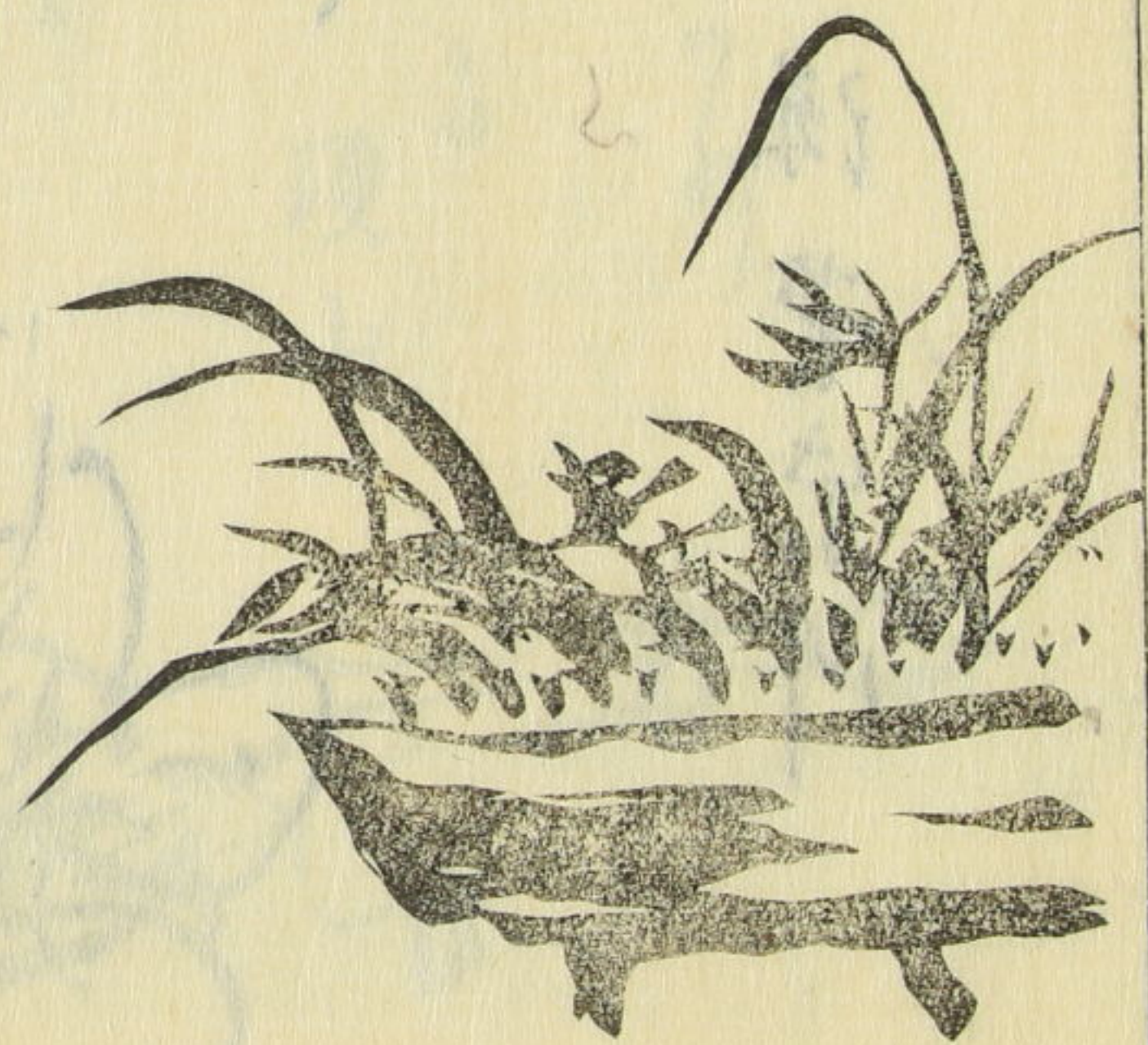
万葉

抱ふ如ぬ

きり

まろりな年

杭州堂芳里



暖る日此

いこせは

あまの巻

安政の  
清代工師  
修きつ

一糸庵

敏子



樂き乃

日く照増や

玉のそら

おき

花中庵布泉



万葉ハそれをも

とくも

又くさるも

毛版木連

ちきり

下詠のをも

凡柳

くぬけあり

ち優き

くものをも

柳糸女

垣うらふ

しりてきまふ

ち容き

よみか

ちあき





之ま好のち  
初縁と終

けとハ

何といそそ

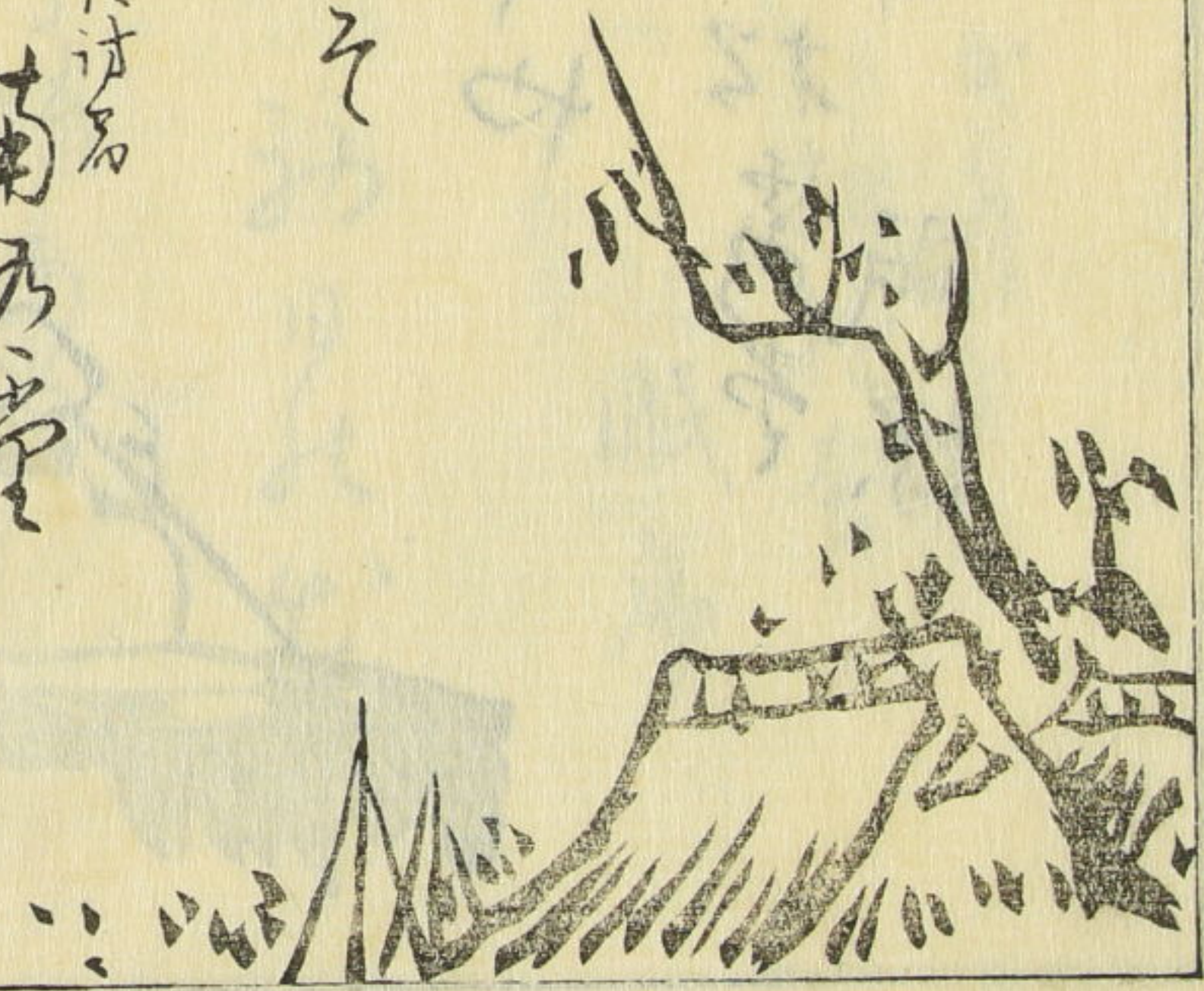
梅小く

武後討名

十南あり亭

文徳

南嶺亭



新平海客

けとハ

女とれけ

きん

南嶺亭

武大板

十南園亭

きん

一棟

武ア川  
之牛馬子ハ洞日也



い川  
七  
七  
と花の  
西きらん

流るる

喜む柳と

板小

南嶽寺  
武井井也達

有樂

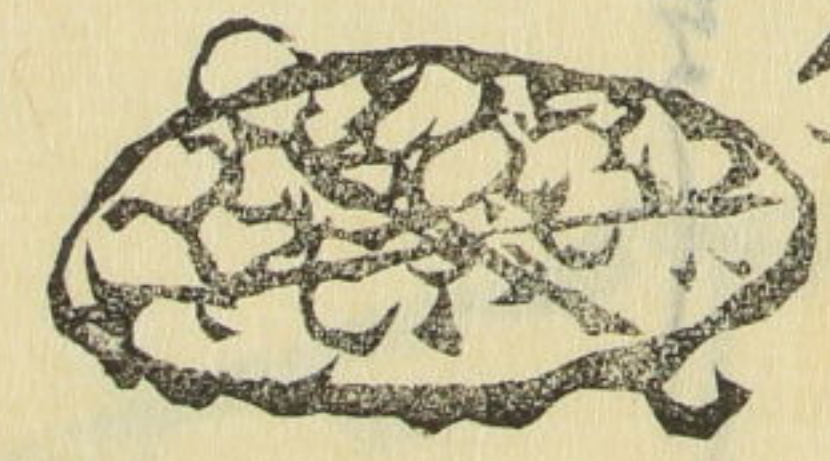
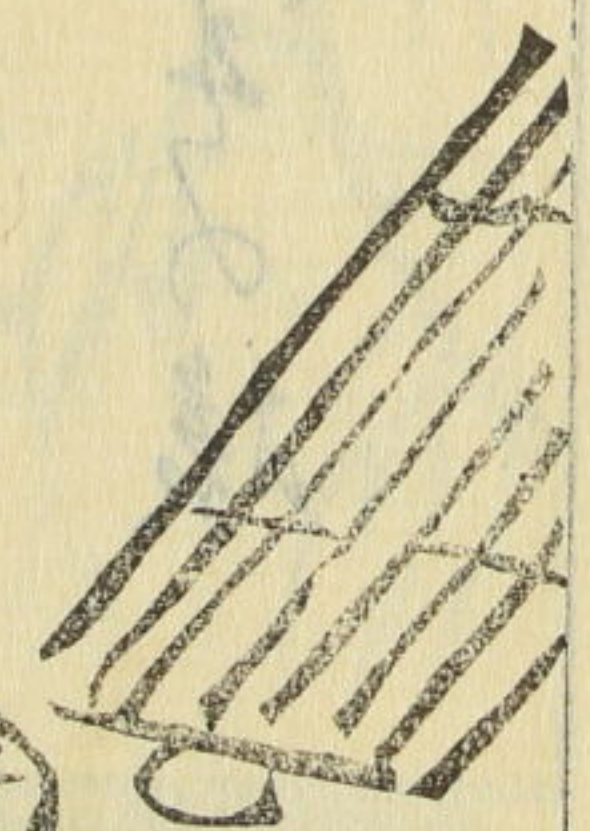
くわ

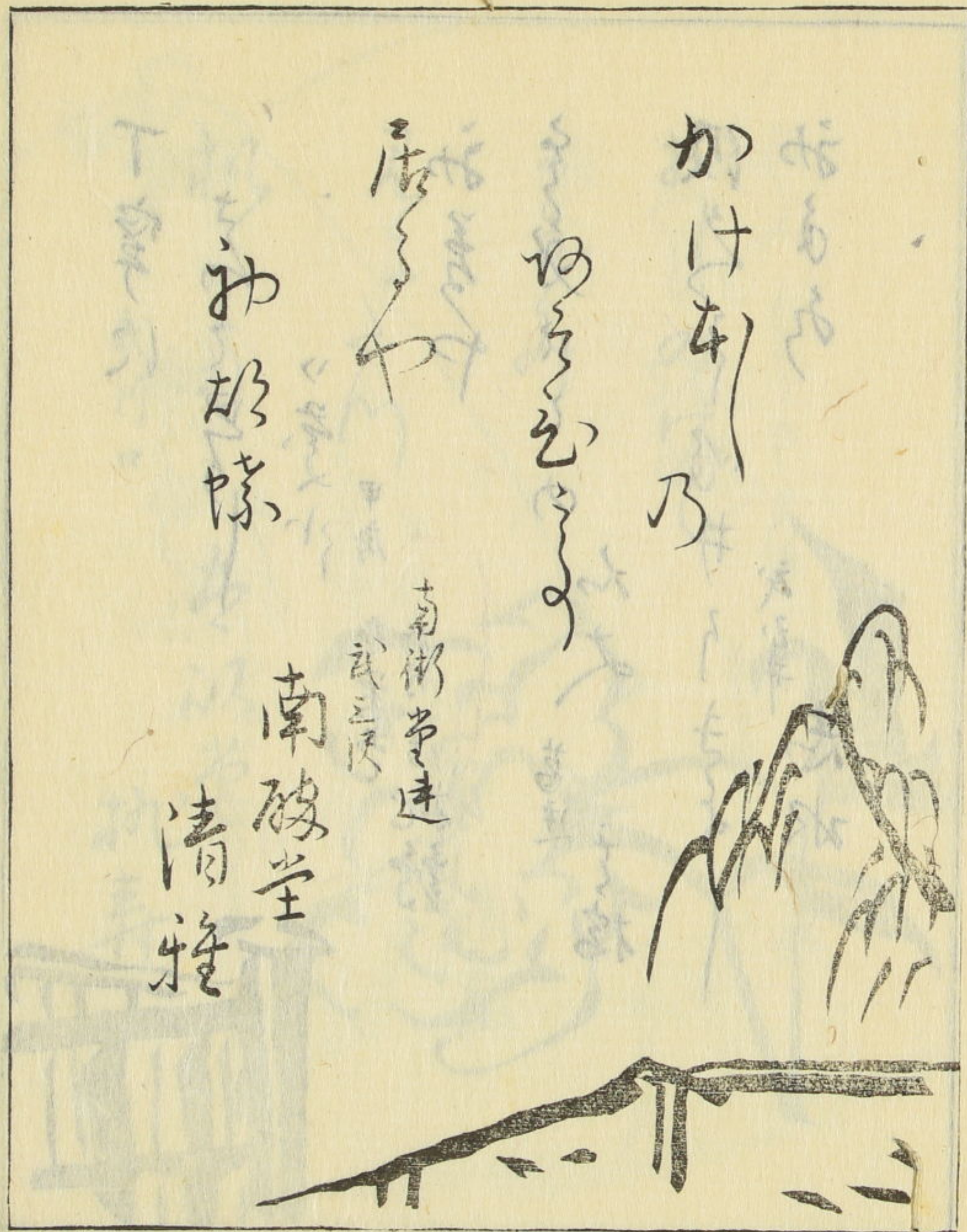
採るぬき

南嶽寺

来るる

松盛





かけ  
乃

あまのこ

居

物  
好  
景

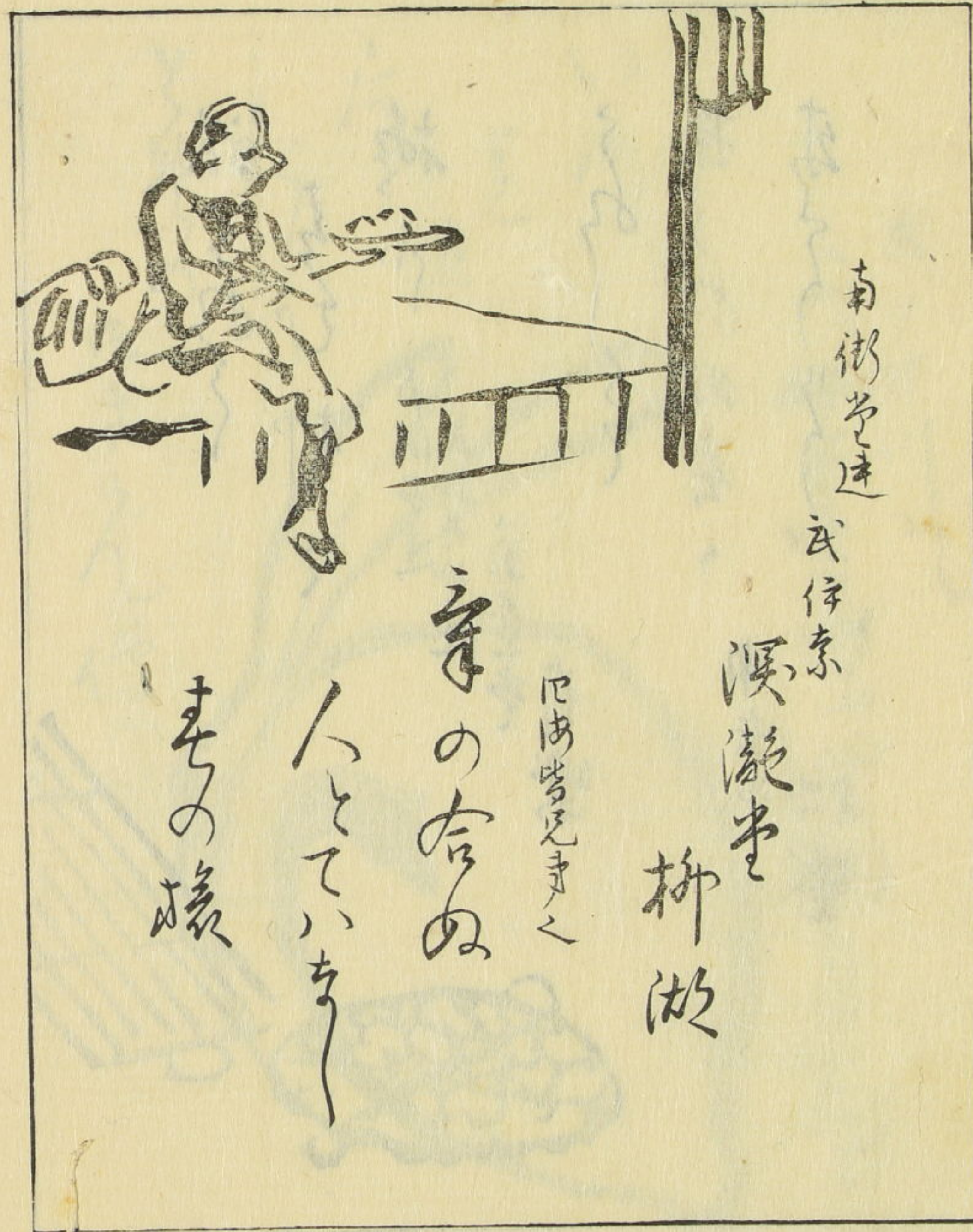
南  
街  
亭  
遊

武  
三  
河

南  
破  
堂

清  
雅

六  
十  
三



南  
街  
亭  
遊

武  
三  
河

深  
瀧  
寺

柳  
湖

字  
の  
有  
ぬ

巴  
由  
皆  
見  
ま  
く

人  
と  
て  
は  
き

ま  
の  
娘

六  
十  
三



丁寧に

さりとて

ツタ

甲府

乙葉書

柳月一号

おまや

そま

ん文

葛

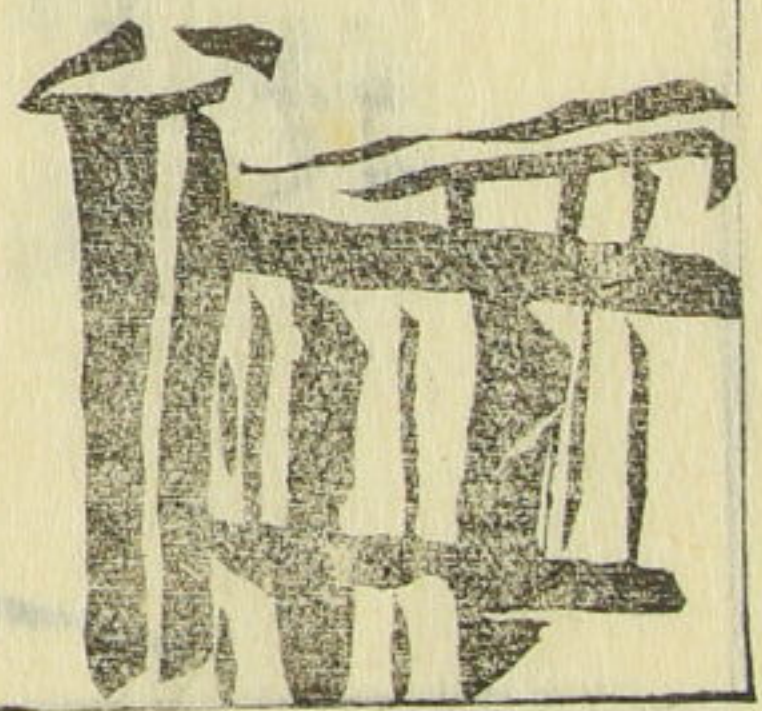
葛

汲之

武玉井

おま

志水



おしのけ

うきみ

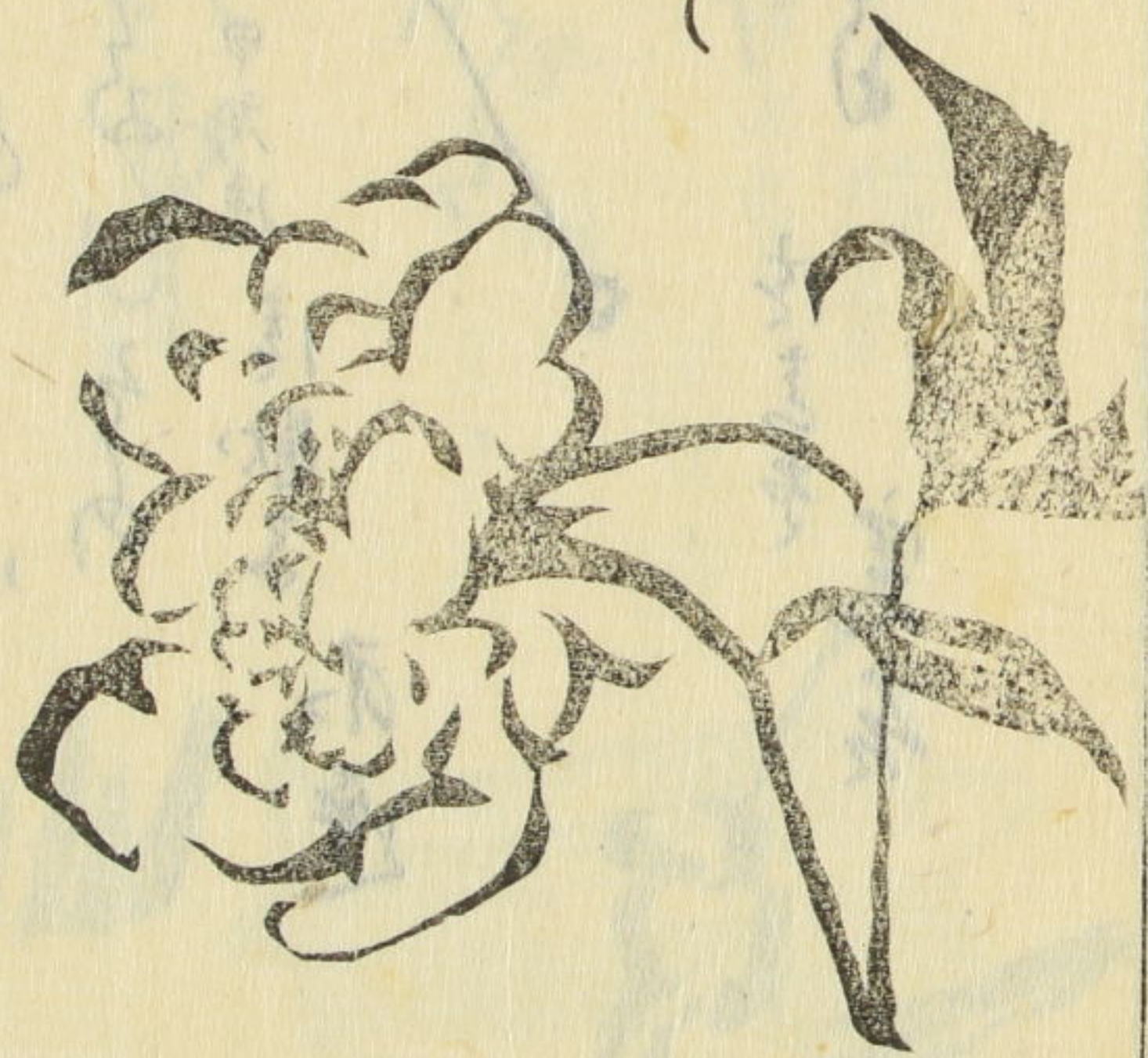
えよ

おの

乙葉

武川口

執寿



品

まゝおろし

うねり七時

うねりその

甲附連 信猷子

不遷

漏降

うねり

あふまきのう

信志

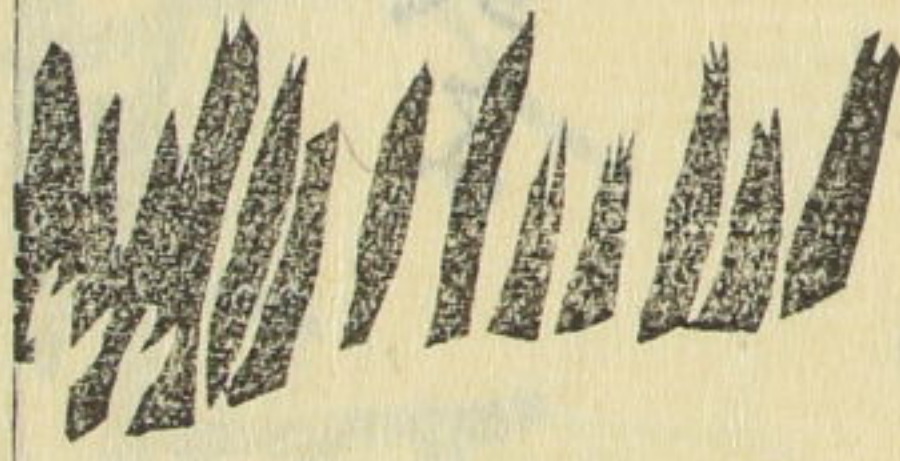
定石

ふりか

うねり

丁急中

氏山崎 春陽



歌ゆき  
式決  
右壽堂  
文子

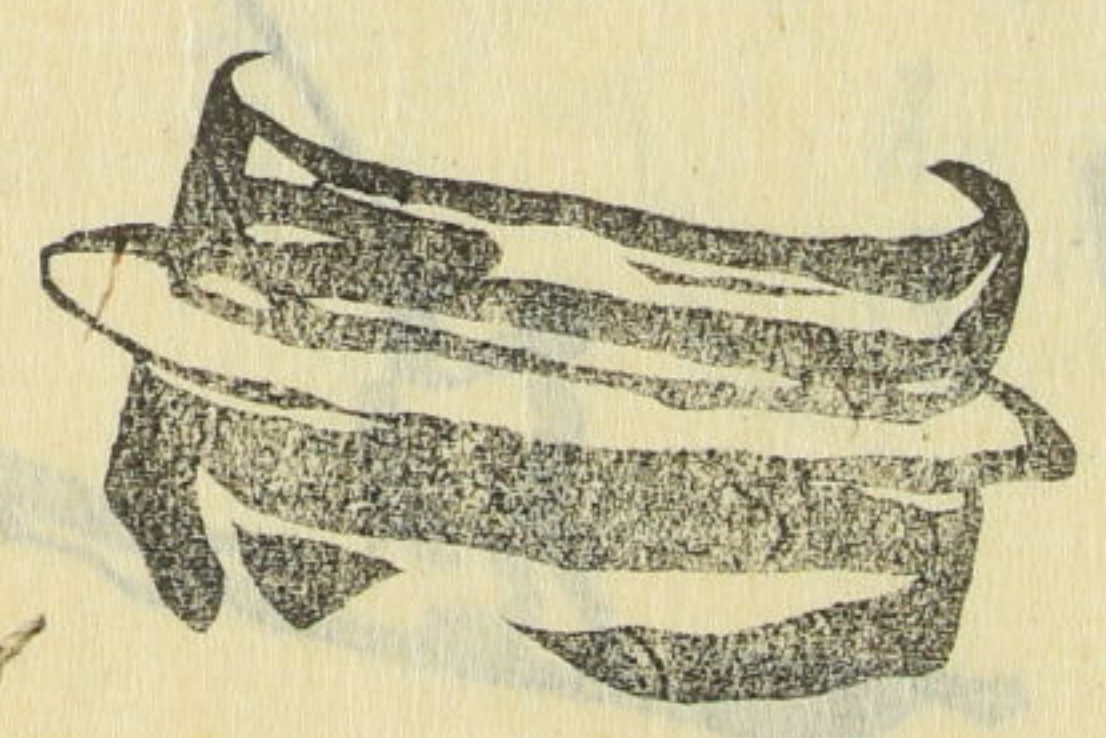
何〜〜き  
初日の那

あつたうと

初冬の心

あつた

全世田  
美里亭  
枕漢



納木の苗伸〜と  
春のあめ  
上毛板所  
右壽堂  
翠

あつた

〜つらなうと

全南大教  
後代  
三月

〜つらなうと

全南大教  
東向





三節

盃尔のせきめささるる  
君ら喜

くめは影

あめむむ

やまうまの影や

冬の尾のみそくそく

大根浪達

号車庵光雄

福軒州

葉のむね

ちま堂  
達

くちの

名くり

を陽を  
誇笑

卯くそむ

枕高

籠や

くのそま

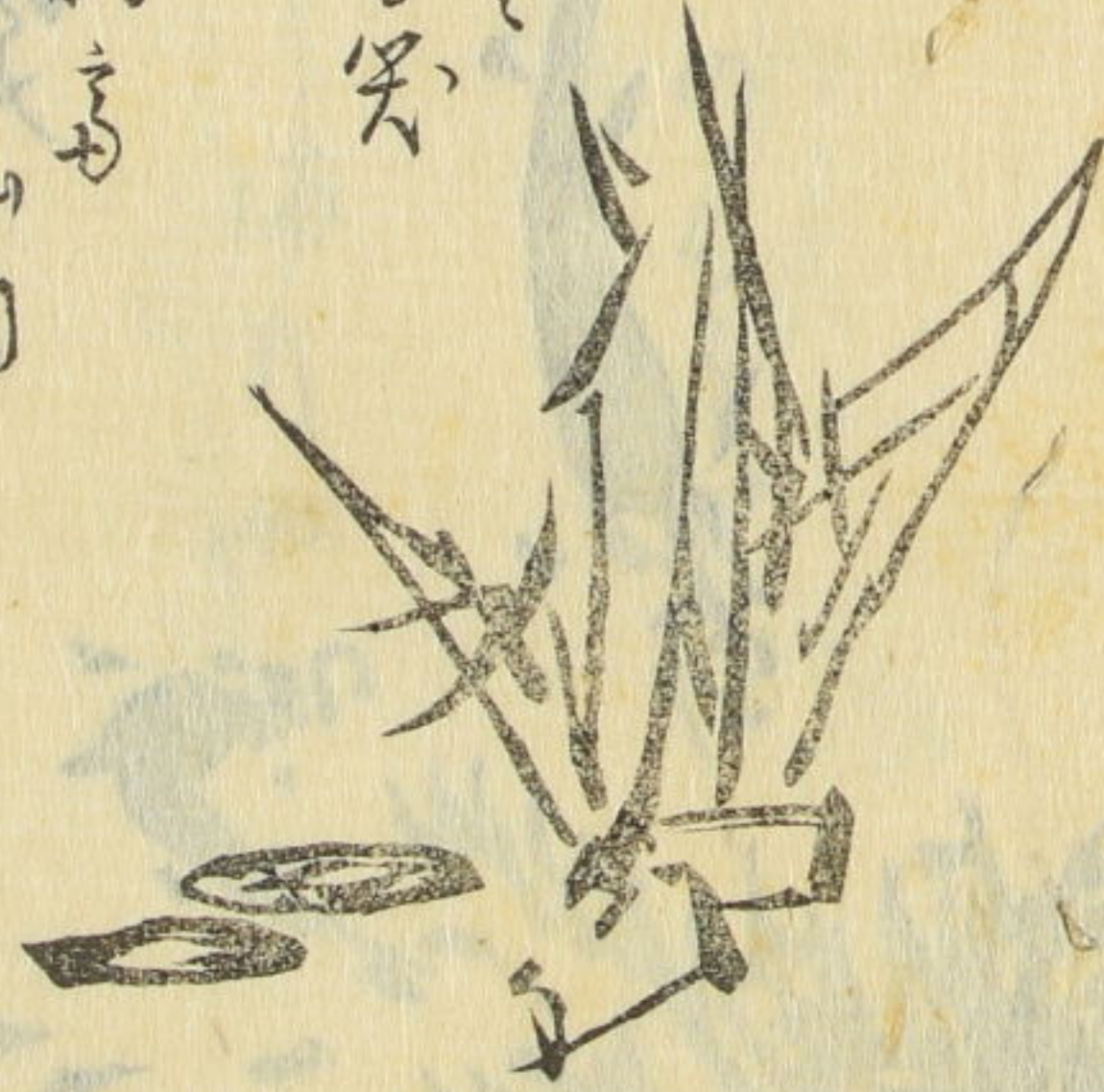
仙羽

柳芽をせりり

を輝を

あもあまきいろ

君よ



石階也

武七考述

喜芳橋

掛史

申しこてあはる

うのま

萬葉乃

神子おゆきな

あさゆい

友知巻

扇計



三節

以法と抄く 抄のき記也

惠方ふ二

結接をりのちしゆり也

くののこま

さくまのやとの名抄の

為書

有米通高

桃仙

武玉川

三節

掌より 糸きき 来より

福射州

うのきくや うみく向を

泉二水

月影と地る侍々きり

年の市

武玉川

吉州庵

一水

三節

初終の こほ

まより

世界小

ふ本め

雲う指みくくくくく

尾拂あんのきひーら

上手まより

月仙堂

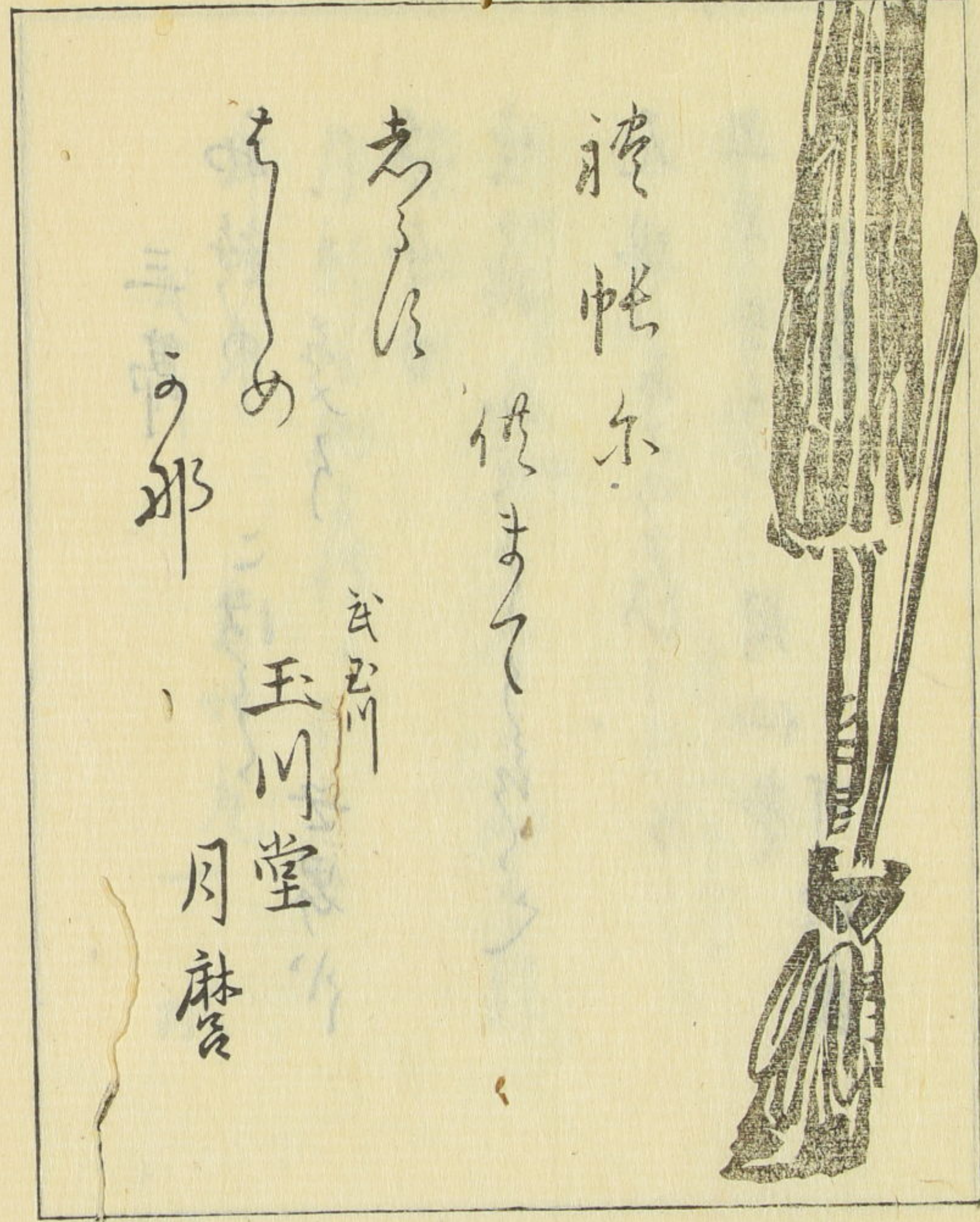
武玉川

可於良



三小十二  
子あらん  
武夫之口

風柳舎  
乃壽



玉川堂  
月磨  
乃那

乃那  
供まつて





柳竹堂

柳竹堂

夏のむくろくろ

何ても

春のうらみ

あはれさうりまを  
かきて

池上にも

うき芳の

甲

なごさ

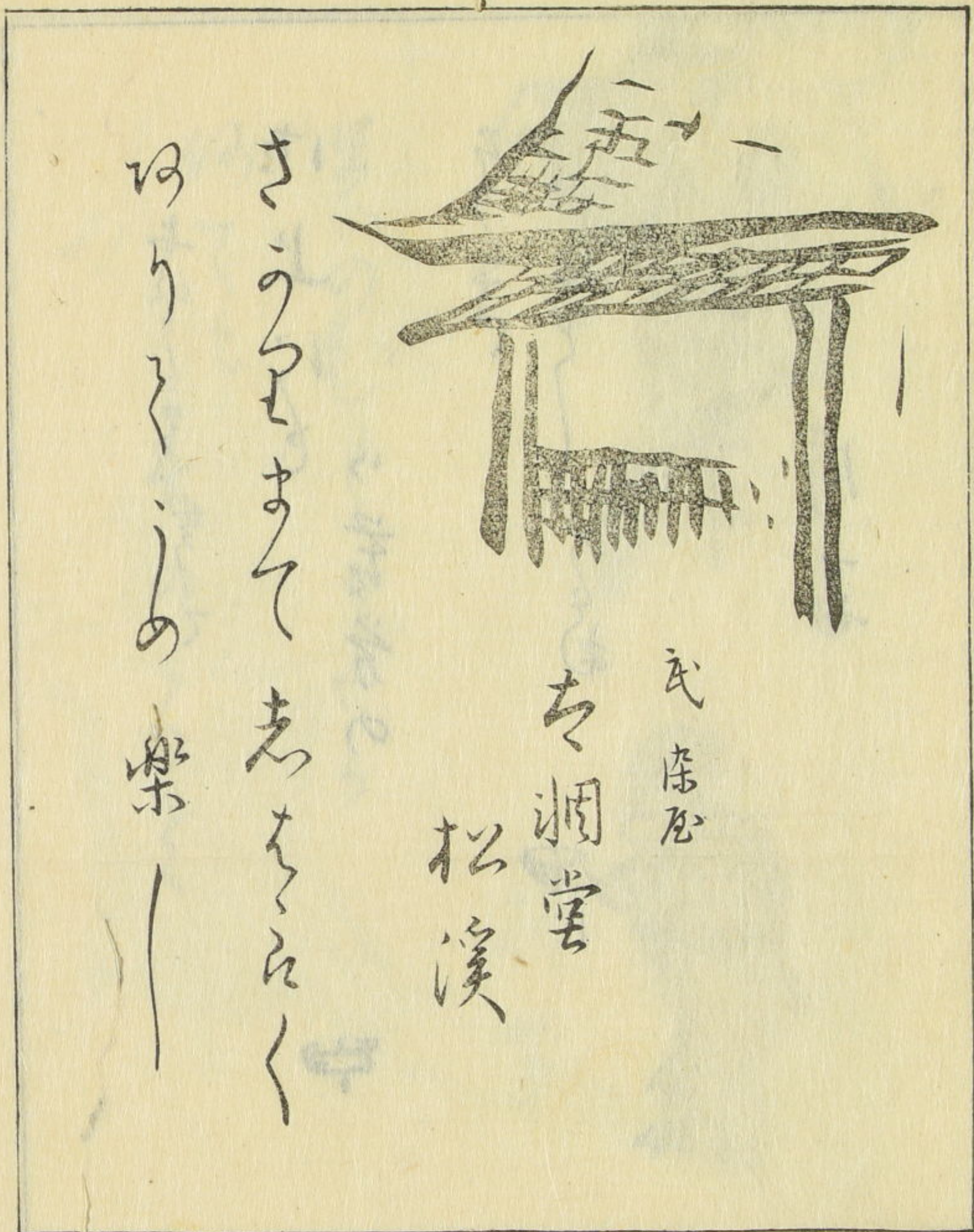
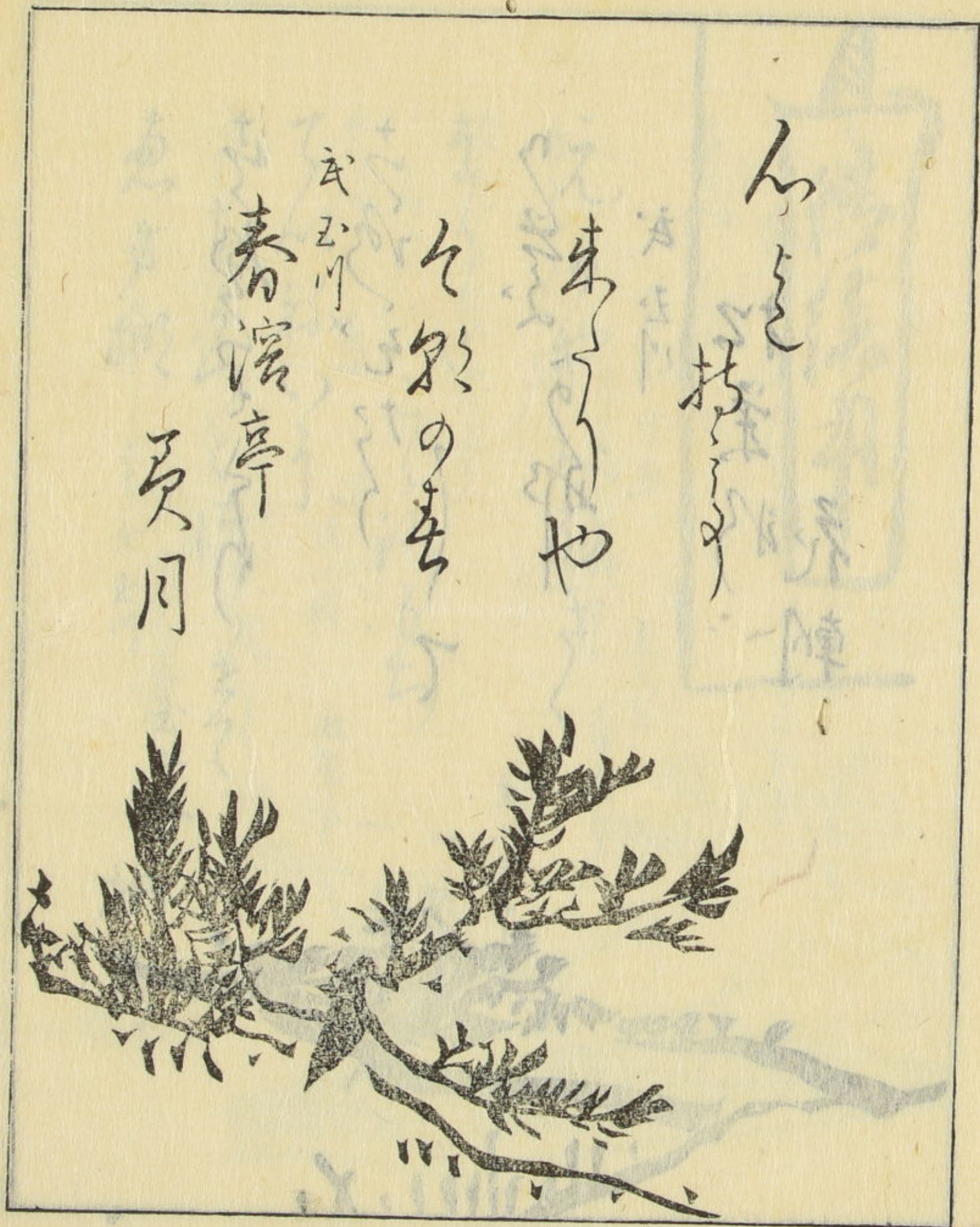
ことし  
うらみ

あむ川

七式井

月高





古風のそと

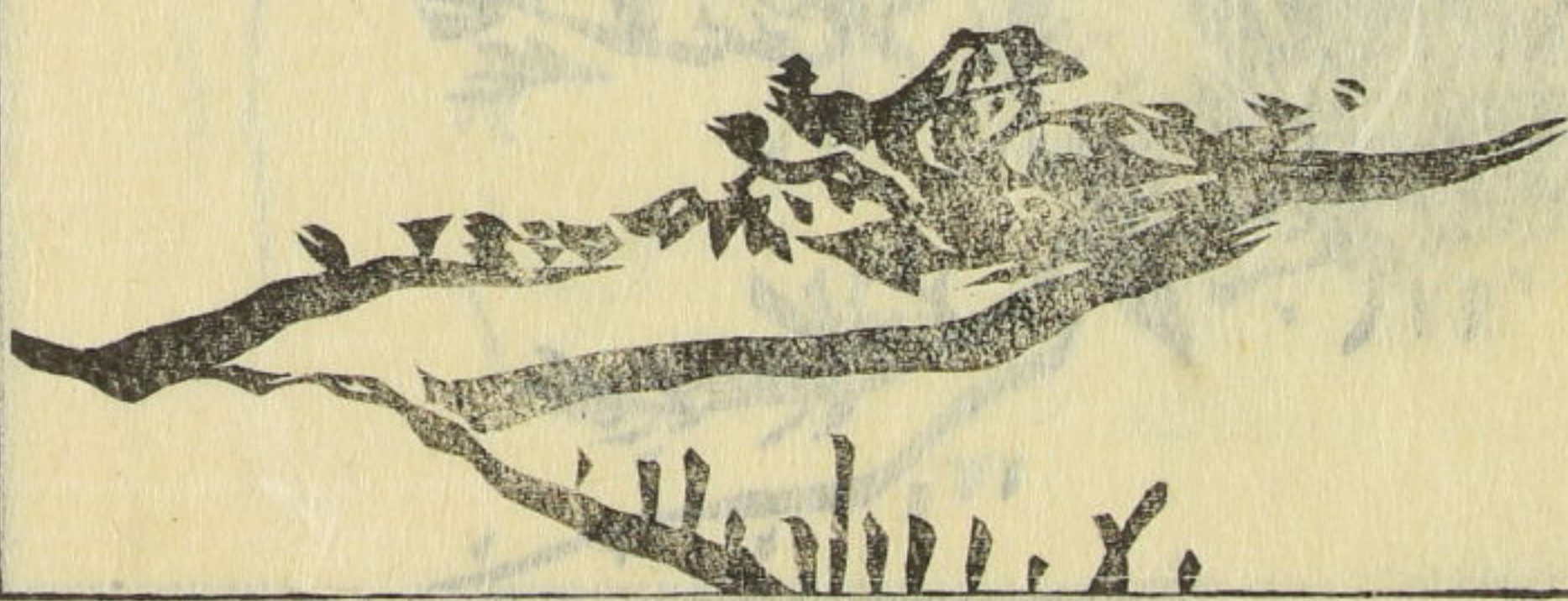
古風をたぐ

りそふの那

氏玉川

松葉

花朝



目録

えりやおのま

えりや

えりや

えりや

えりや

えりや

氏小令井

一 批令

于廿八

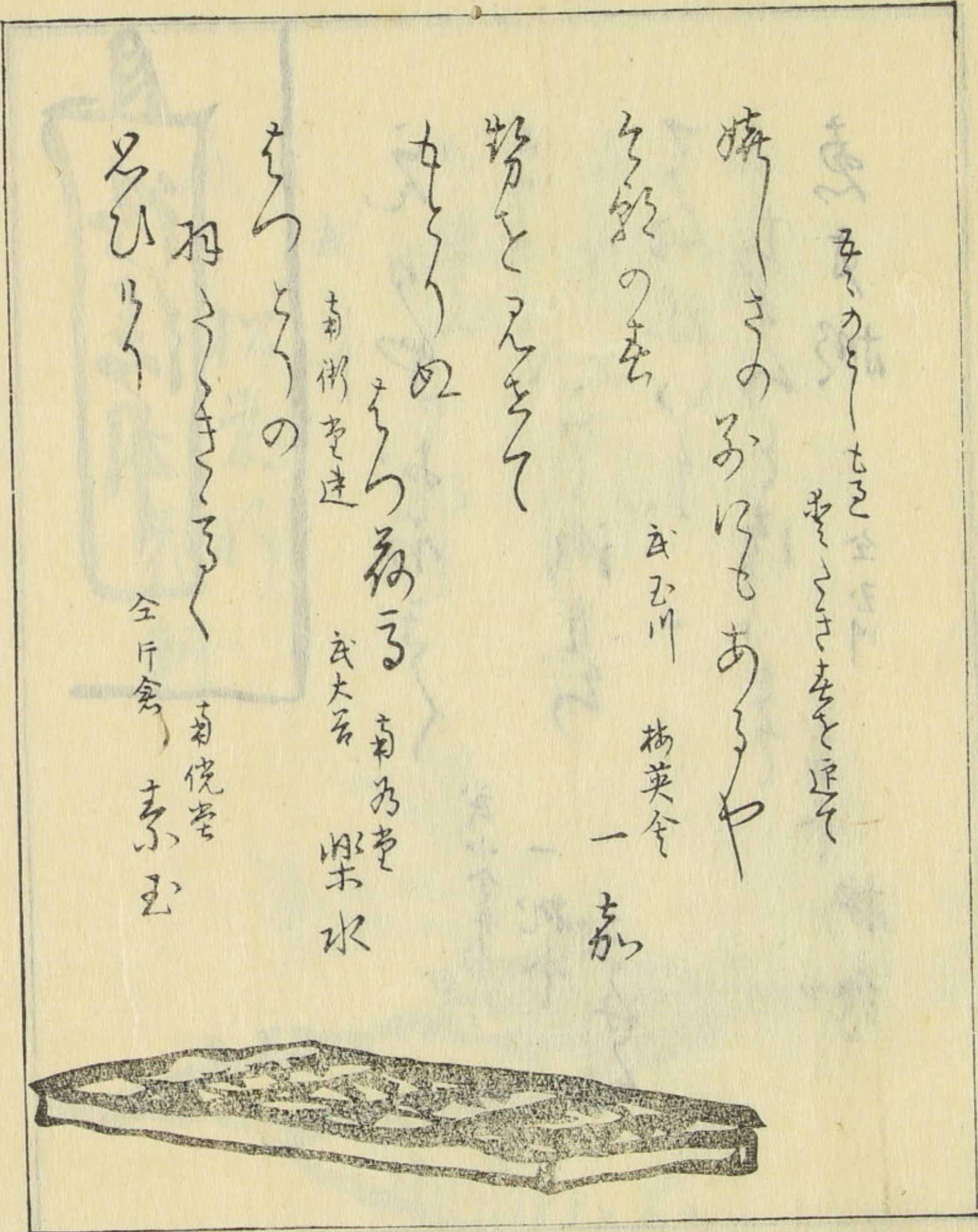
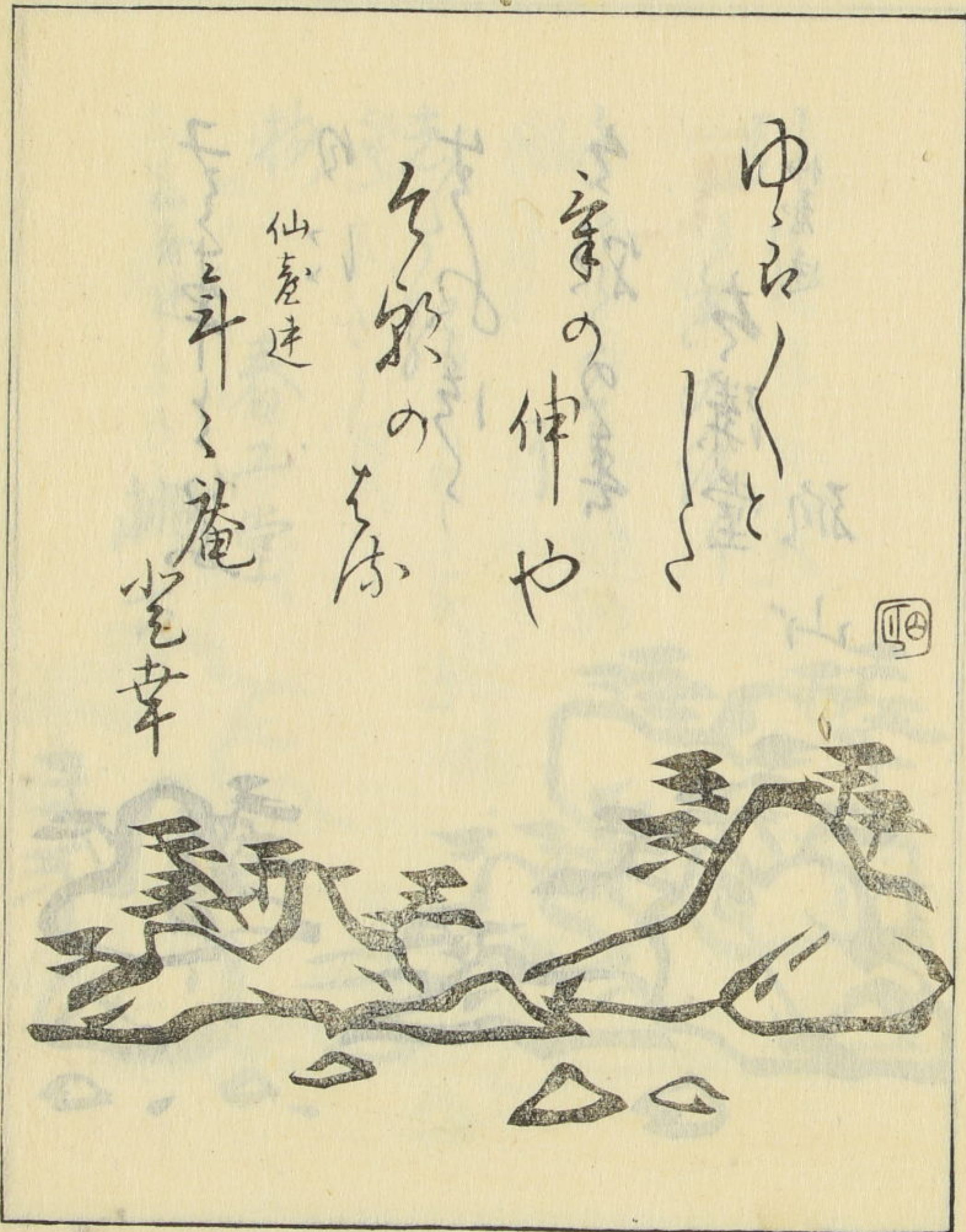
玉井令

梅秀

全玉川

二五

二五



子と車とらふ

目に

生ぬはく

今如の妻

左隣堂

仙居達

孤山



別

美のゆ

手はく

志く

梅

春工堂

仙居達

桃古



去来の三月月子  
母のつらさ

名姓をいさよ

忘 去るるり

去るるるり

梅 子

笑をいれぬ

仙遊達

去月尾枕明

去来の三月月子

去月の尾枕明

秀ハニ去一  
何事れと

去るるるり

仙遊達

去月尾

枕明

去るるるり

去るるるり

梅屋

二之端

其石

去月の尾枕明

去月の尾枕明

仙童連の巻

仙童連 様誂

仙童連 様誂

庭下詠を

てふのちよき

をうせり

喜矣冷 枕詠

田舎者

らしくはをんよ

昔年

四百

枕詠

心

心平気

皆就て居

仙童連

をうせり

昔年 枕詠

きこり

歌を

居る子七

枕詠

難者

里水

くわ

袖を

ぬ

玉川

於水

心平気

仙老連

此は兄弟同士の

象

枕井

とよひの

去ハ美文

評定書

白友

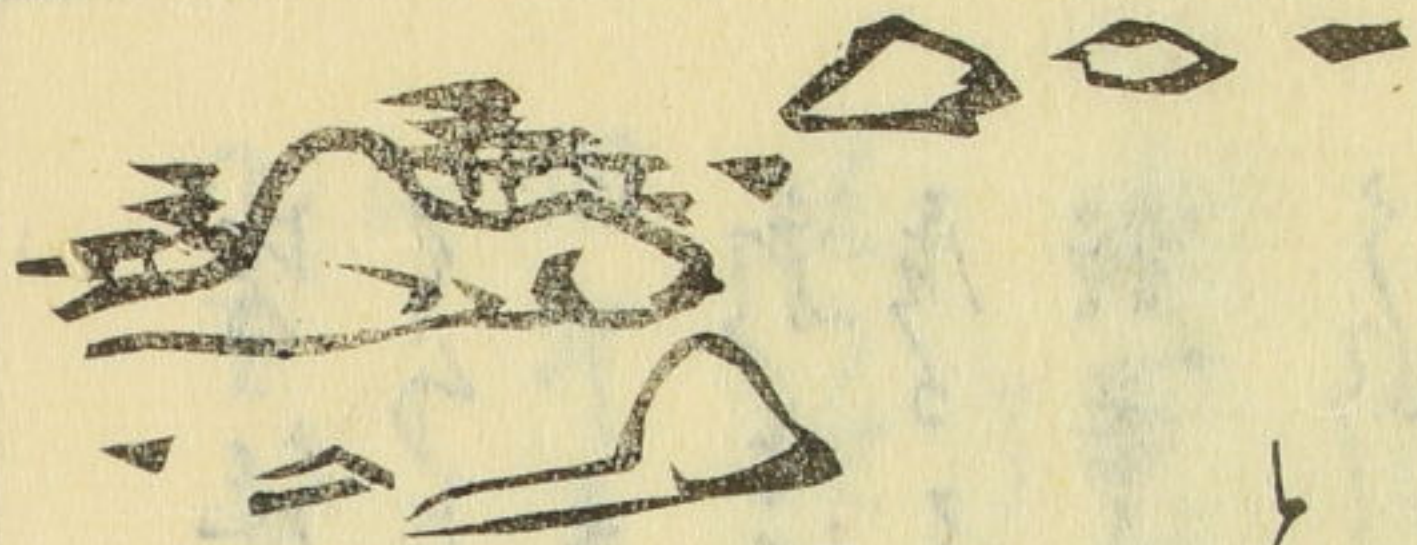
先年

と下す

之りの

支調

枕六



仙老連

林堂

枕六

何より

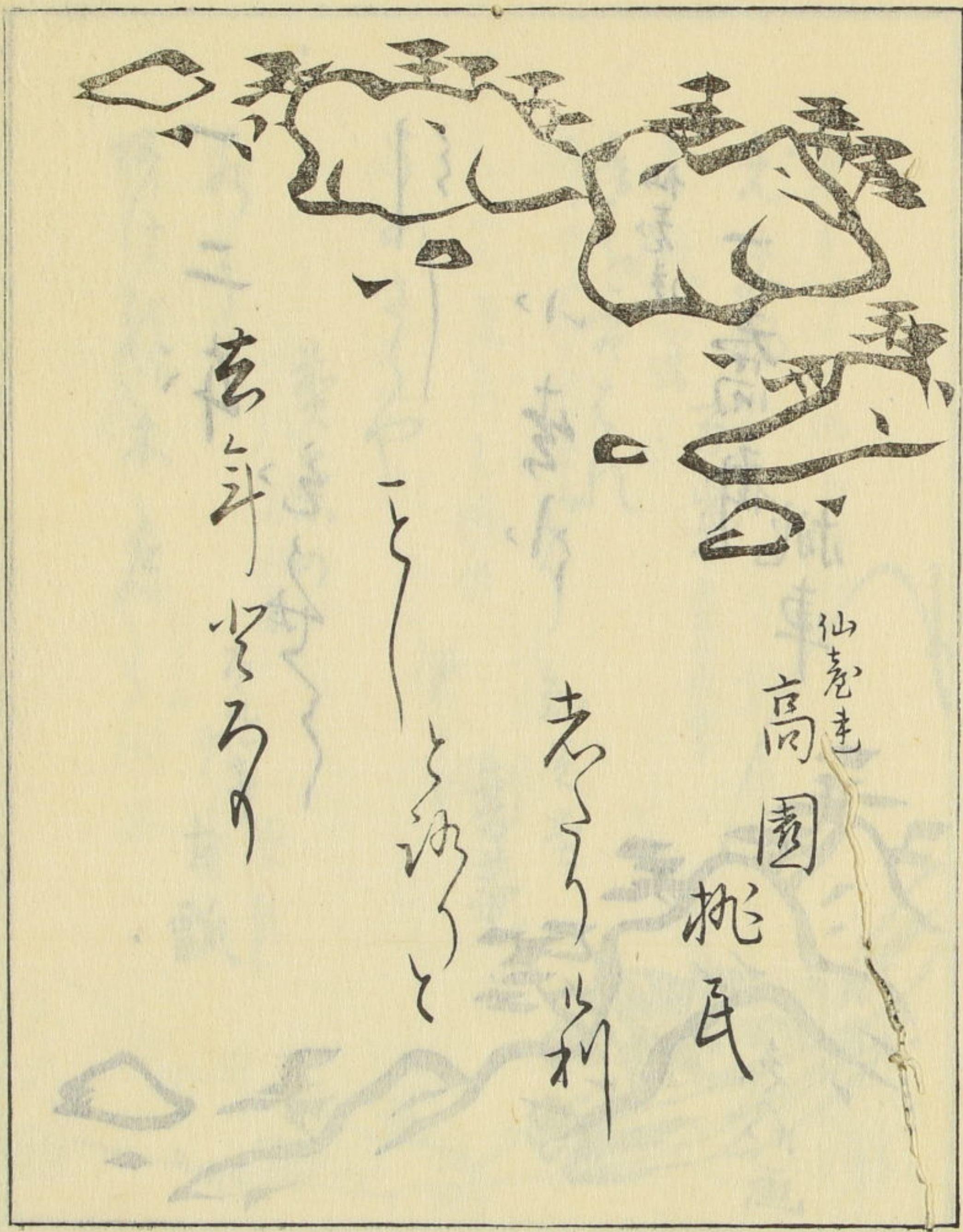
喜をむ

た

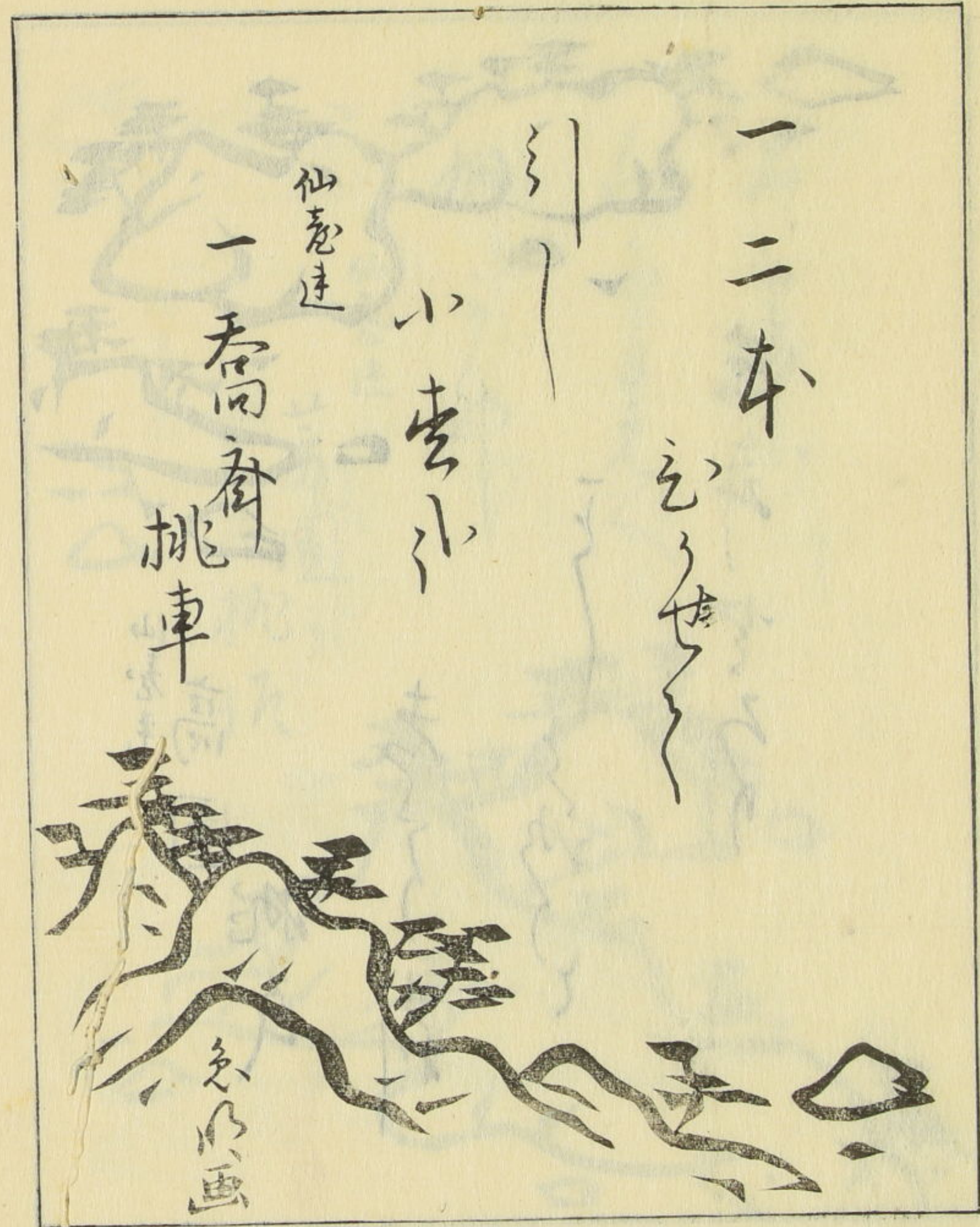




仙苑  
三石



仙臺連  
桃車

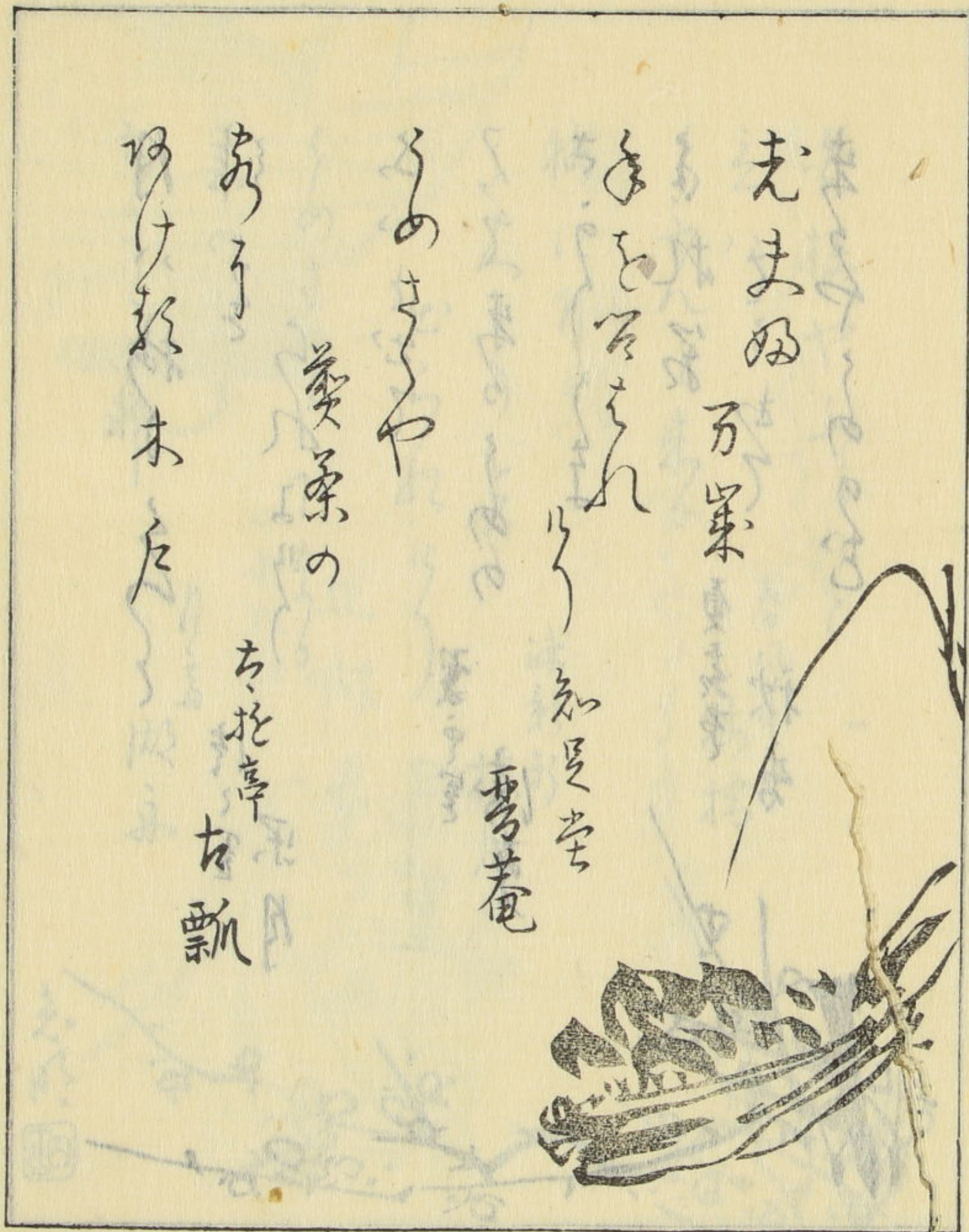


一二本  
之

小堂

仙臺連  
一喬向  
桃車

冬以画



老まぬ  
万葉

手と  
知是堂

雪菴

ふのさや

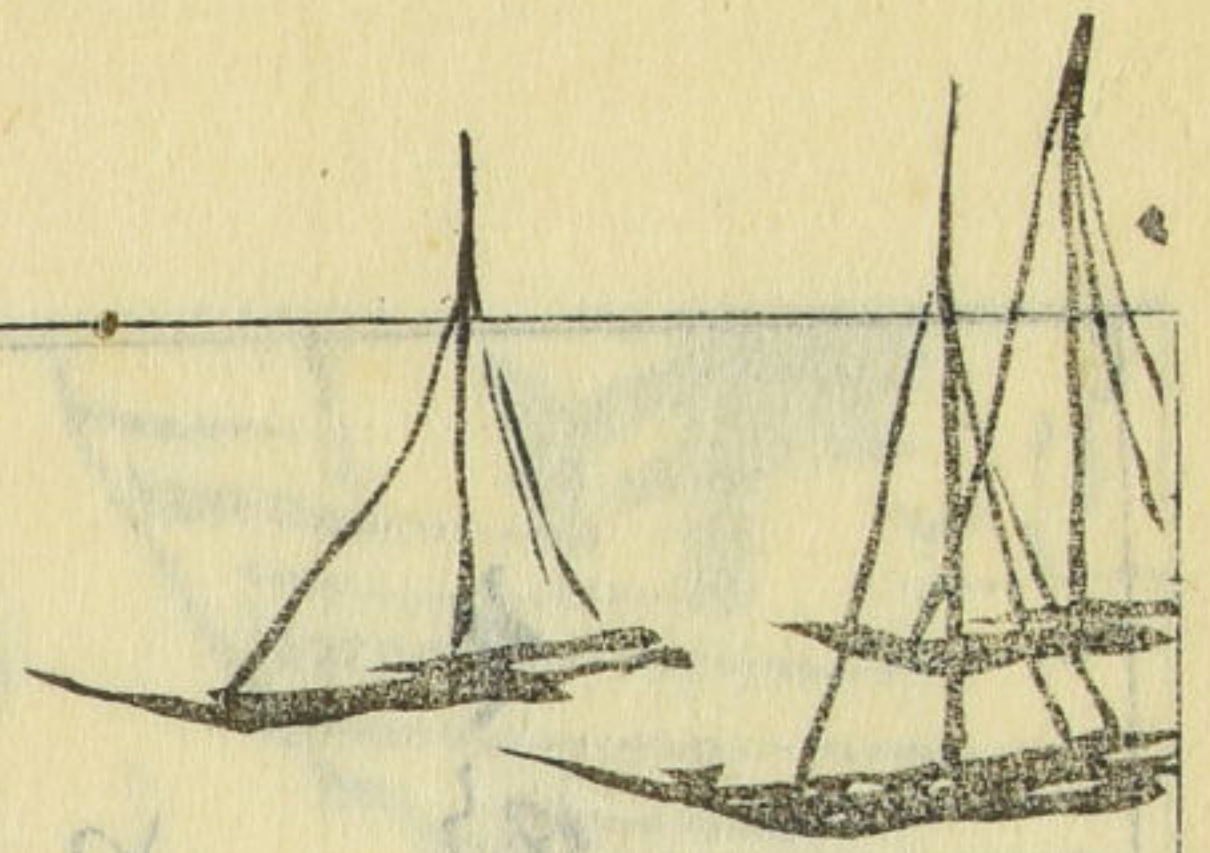
葵桑の

古瓢

何げ新木戸







七返むとや

ふたりの船と

芝波

丹無山

西山居

耕石

初めはそとや

月の

三枝柳

おもしろく

九月

一多ハハチ

一多ハハチ

おもしろく

おもしろく

枕棟

うとひきや

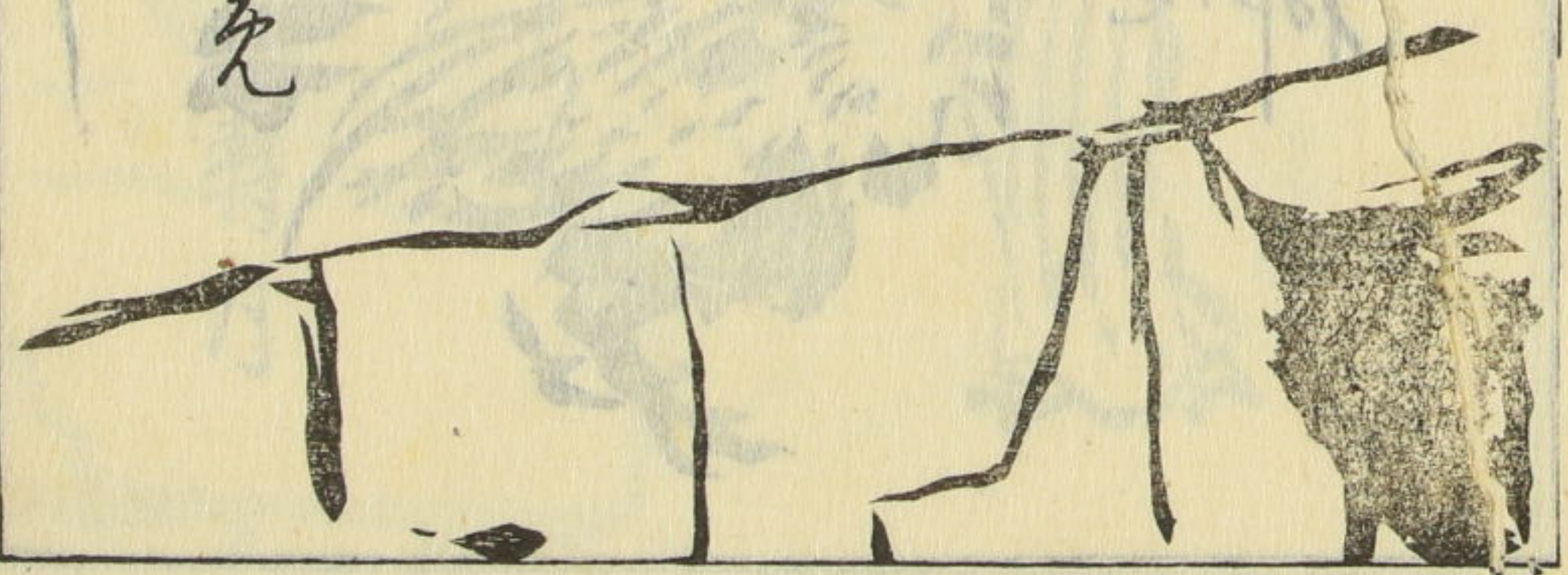
おもしろく

未合す

井底水

お睦

十とく免



不<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>禱<sub>レ</sub>む

の<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>る

の<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>

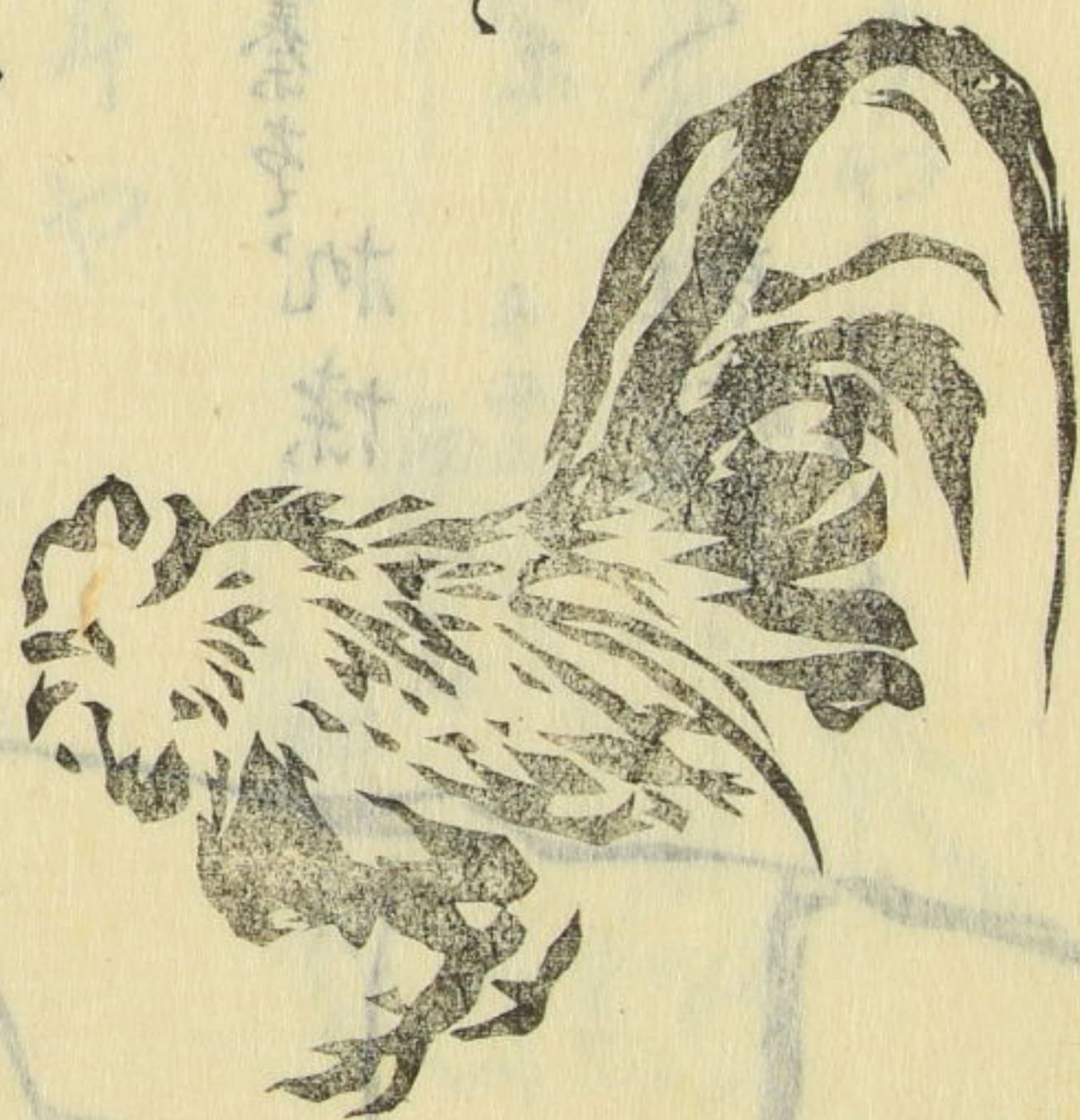
を<sub>レ</sub>ら

り<sub>レ</sub>か

せき

柙<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>庵

如<sub>レ</sub>柳



大<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>接<sub>レ</sub>ぐ

大<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>に<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>

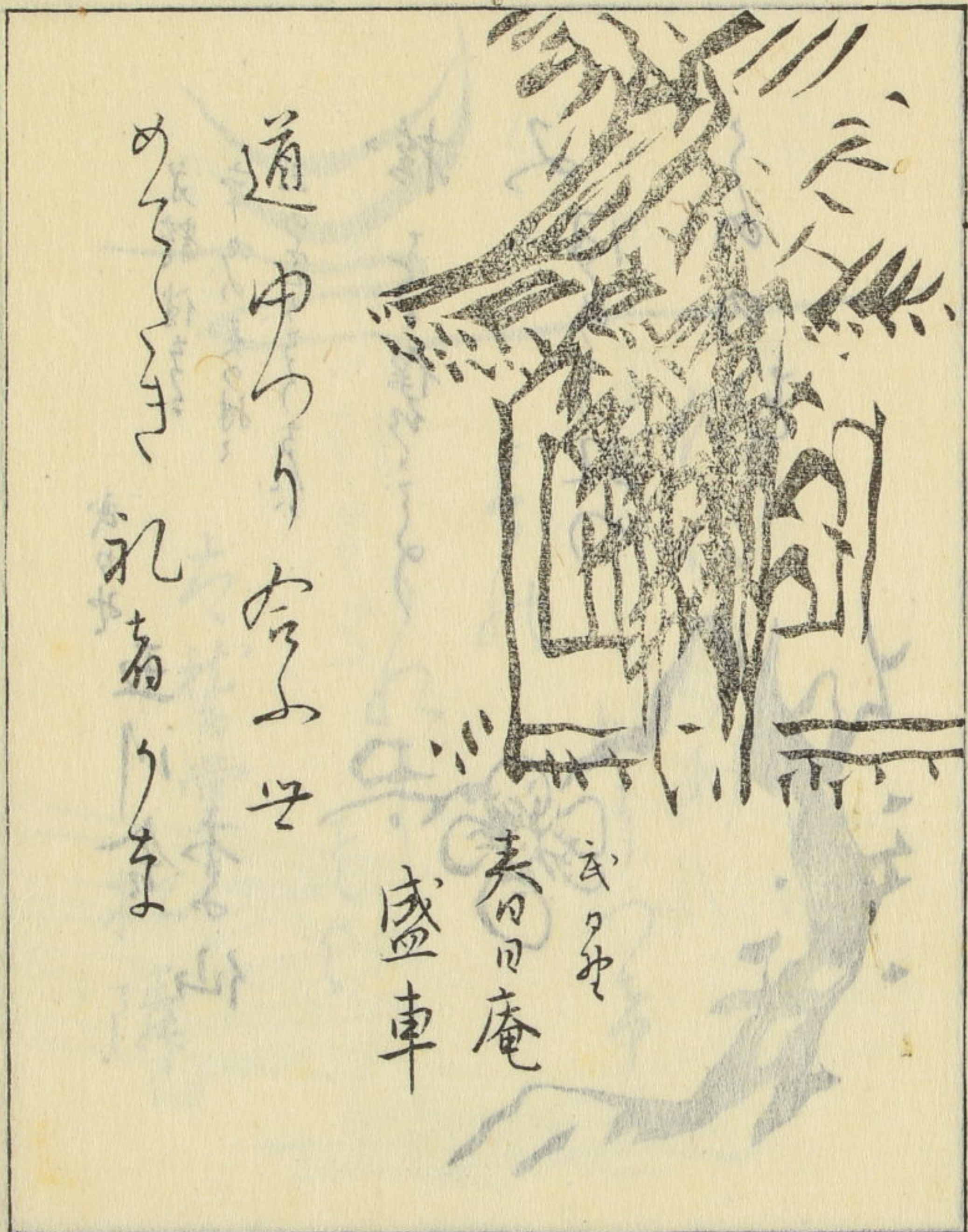
梅<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>む<sub>レ</sub>な<sub>レ</sub>よ

或<sub>レ</sub>玉<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>夫<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>口

初<sub>レ</sub>柳<sub>レ</sub>庵<sub>レ</sub>寿<sub>レ</sub>月

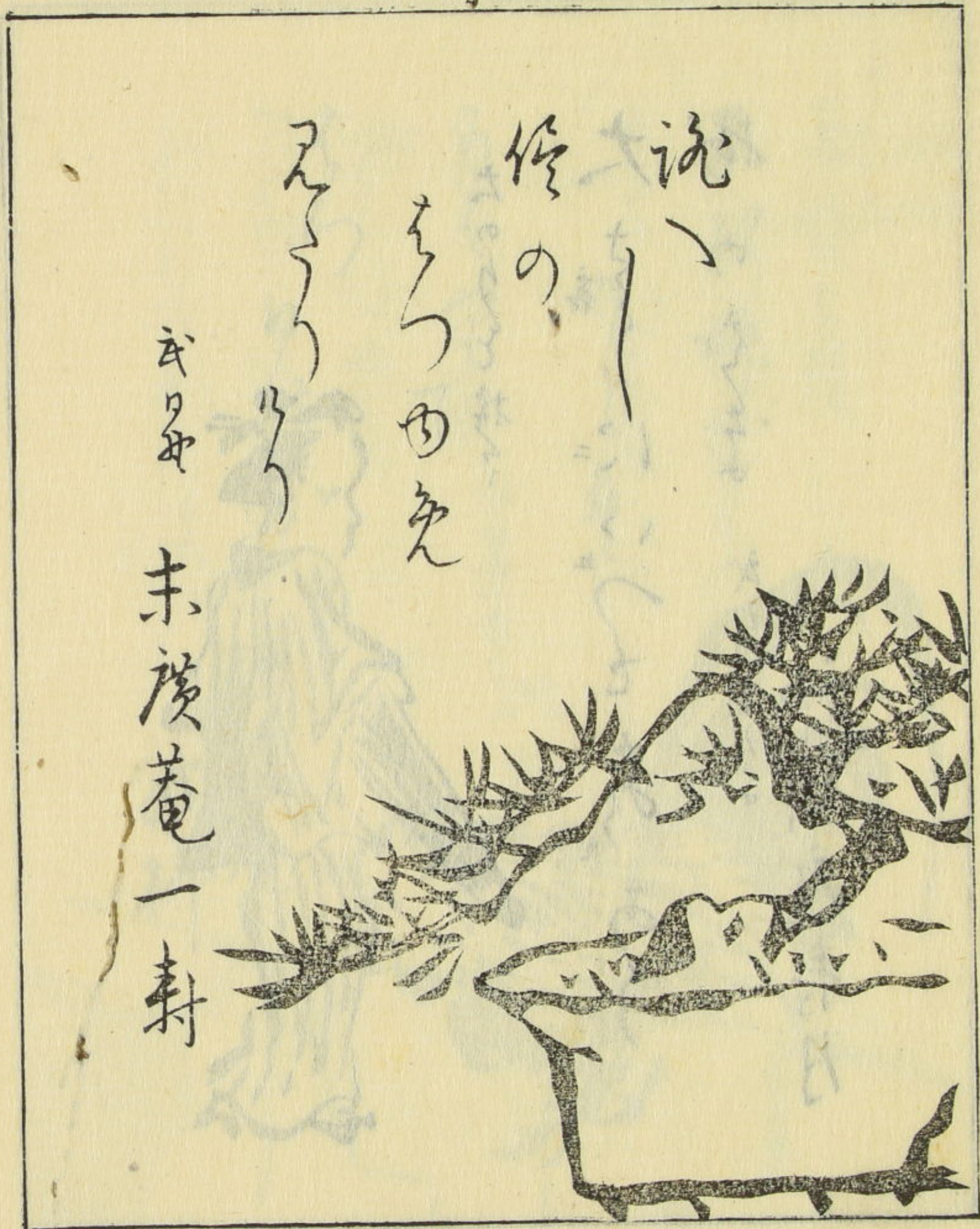


八<sub>レ</sub>五<sub>レ</sub>



通申のりおふそ  
めささき  
礼者うそ

式日  
表の日庵  
盛車



説  
修の  
まつゆ免  
るさう  
り

式日  
末廣庵一軒



何に侍け

かろつ事

喜れ

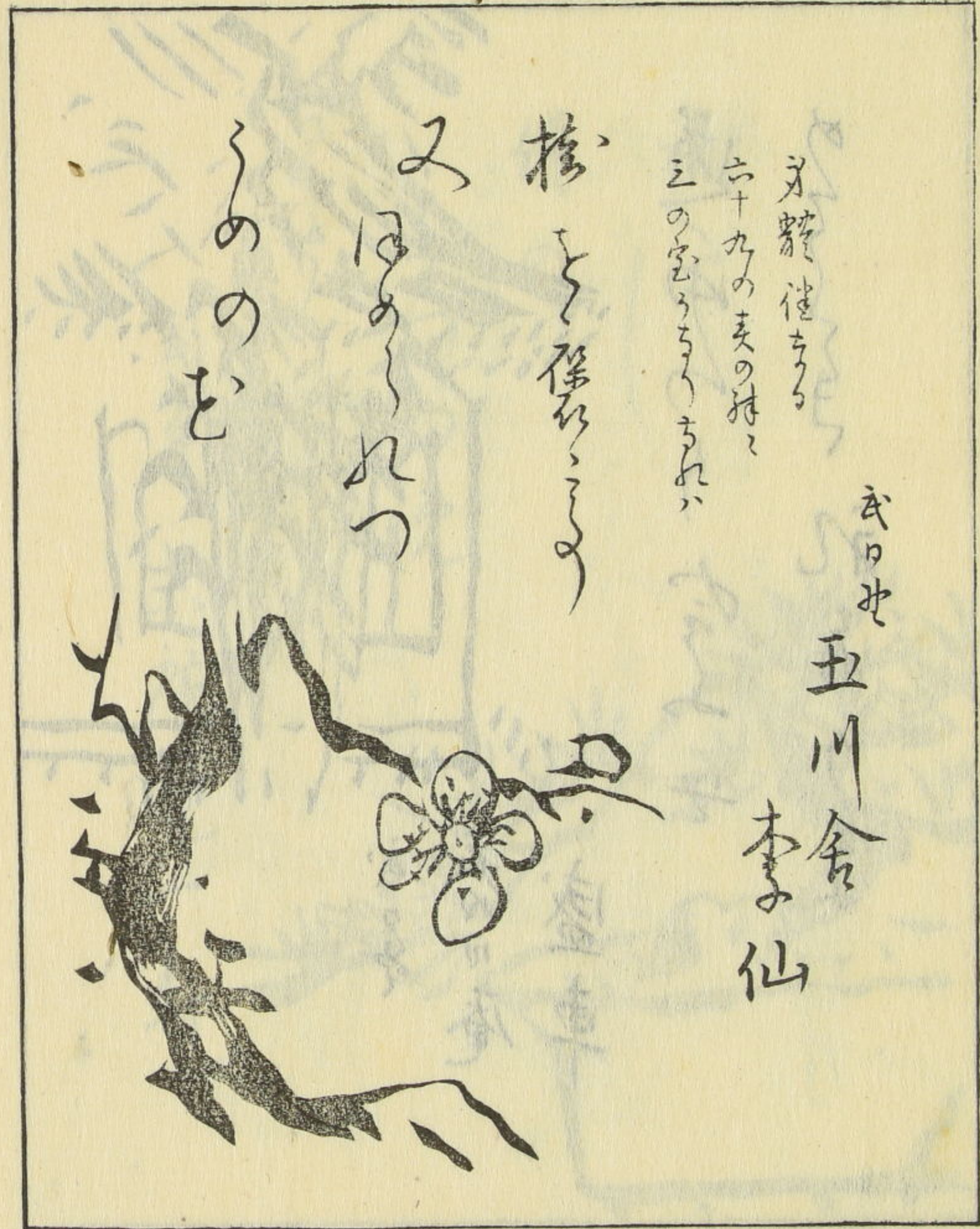
うね

ま

右松堂

松隣

八十七



牙龍健きり  
二十九の妻の持  
三の空うちうきれ

武口也

五川舎

李仙

松と保あきま

又

ほめれつ

うののど

八十七



和子

ふく 法をうそ

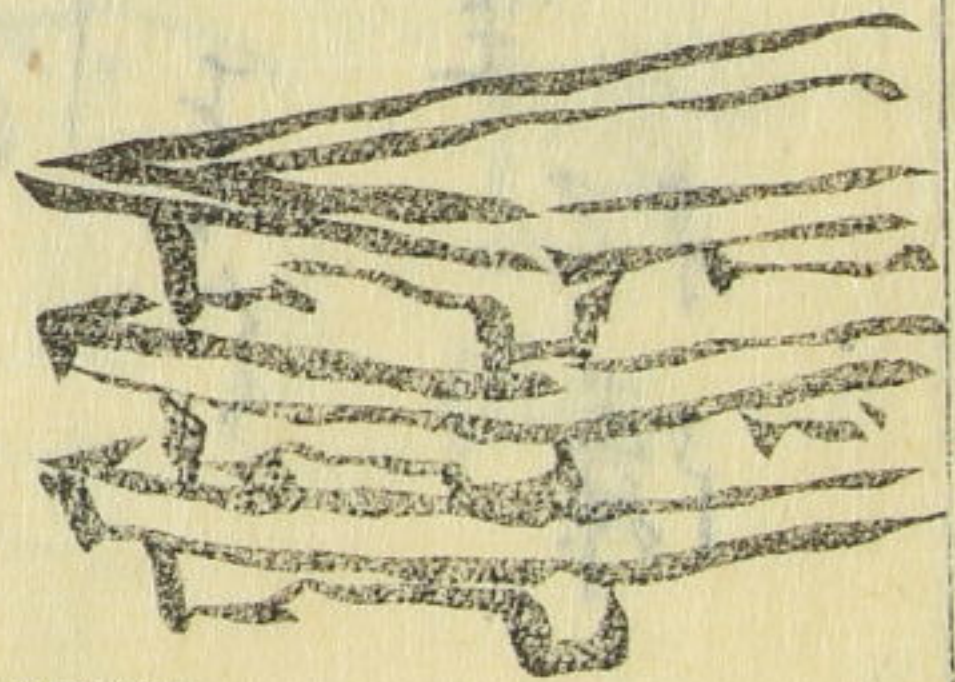
くき

あふ 葉ふ

徳を尾連

徳有尾

石二



夢のあつ

法やむら

徳を尾連

ふりり の 木

徳松尾

扶人

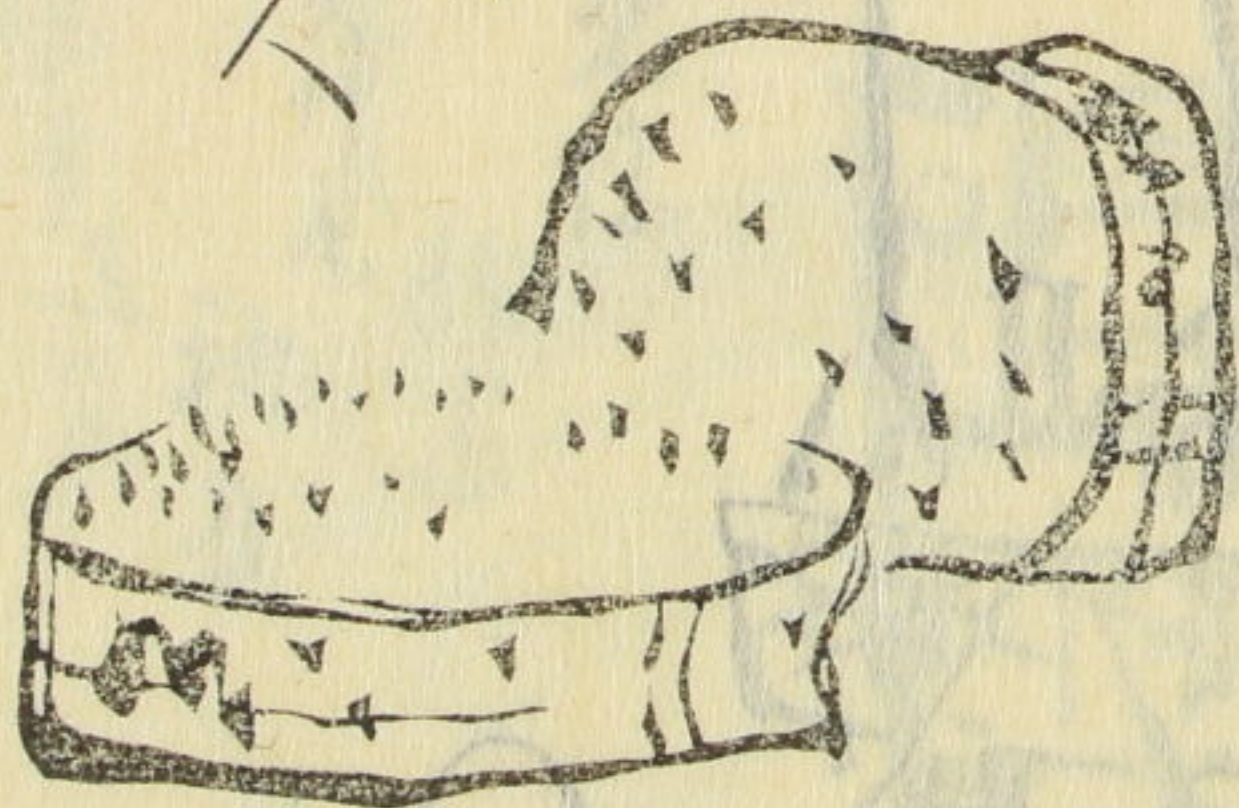
うらひすね

しゑりて 何ける

志中 ー ー ー

梅香尾

病者



11

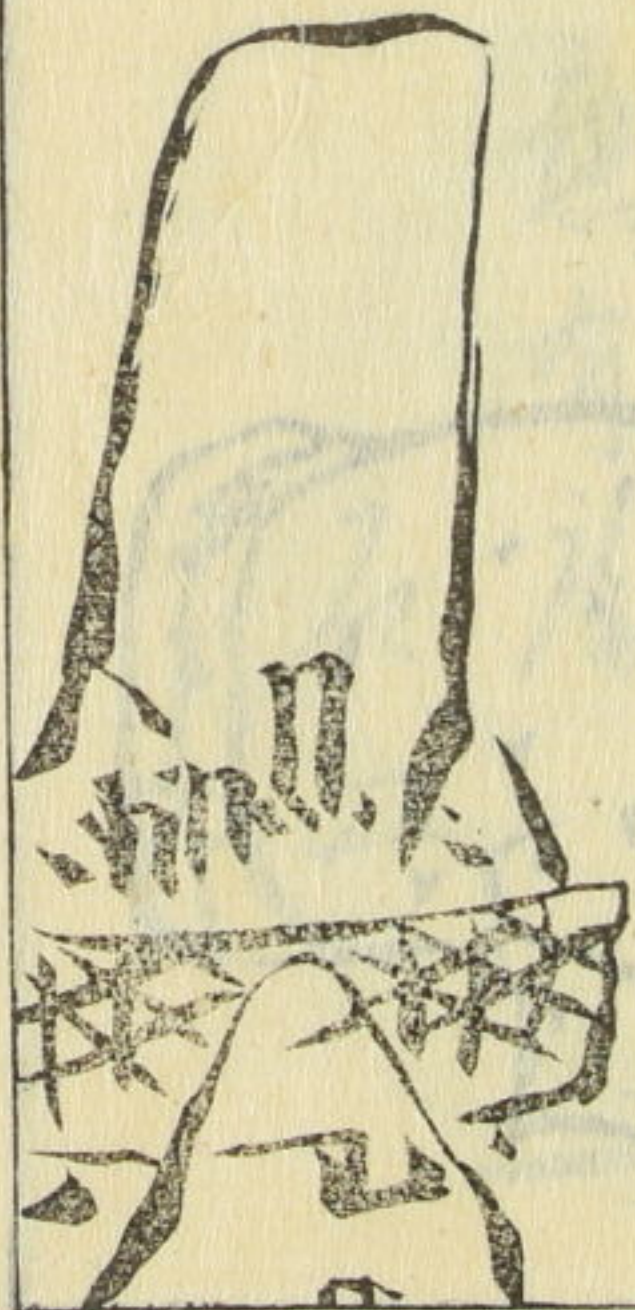
右移堂  
杭印

常也  
崎多は

ちんく  
ま

りて

居



草花ふりて  
依りつ  
春の水  
りて  
うきうき  
秋の  
すなほ子あはれ  
柳

某月居連

喜葉尾

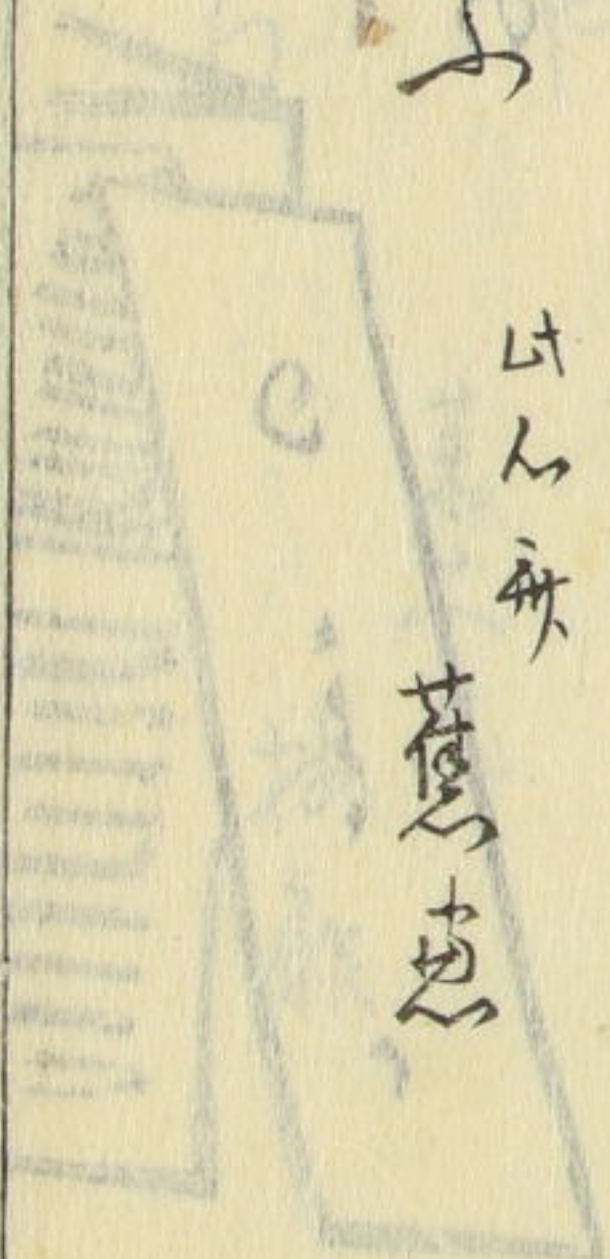
愚探

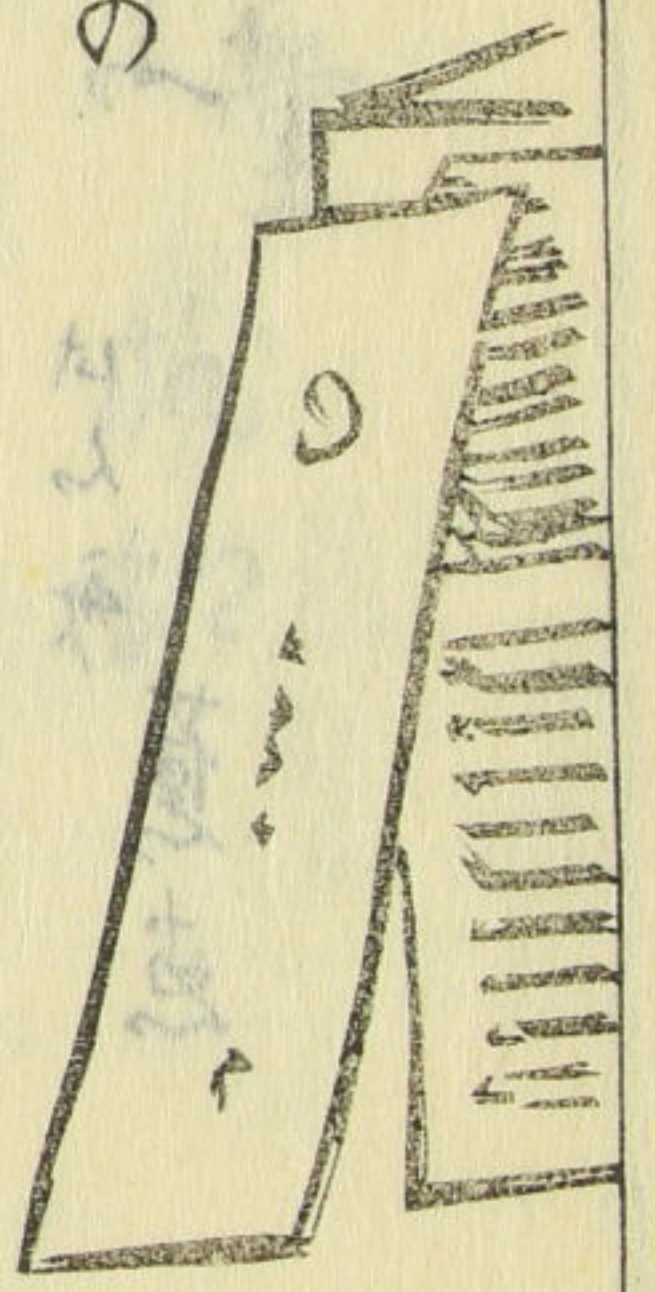
冥州尾

秋登

はん

慈





蘇於標

福ふらふりの

あさりりり

葉月屋送

又とささ

梅月堂三ツ丸

けつらねや

葉中尾

くめりりり

梅乐

えりりや さささ

葉仙堂

風歌

こころ乃  
おささささ

たまききと

そくく述

いさよ 葉月屋送

葉葉尾

おきこころ 叶

あやや

且樹尾

りりりり

一風

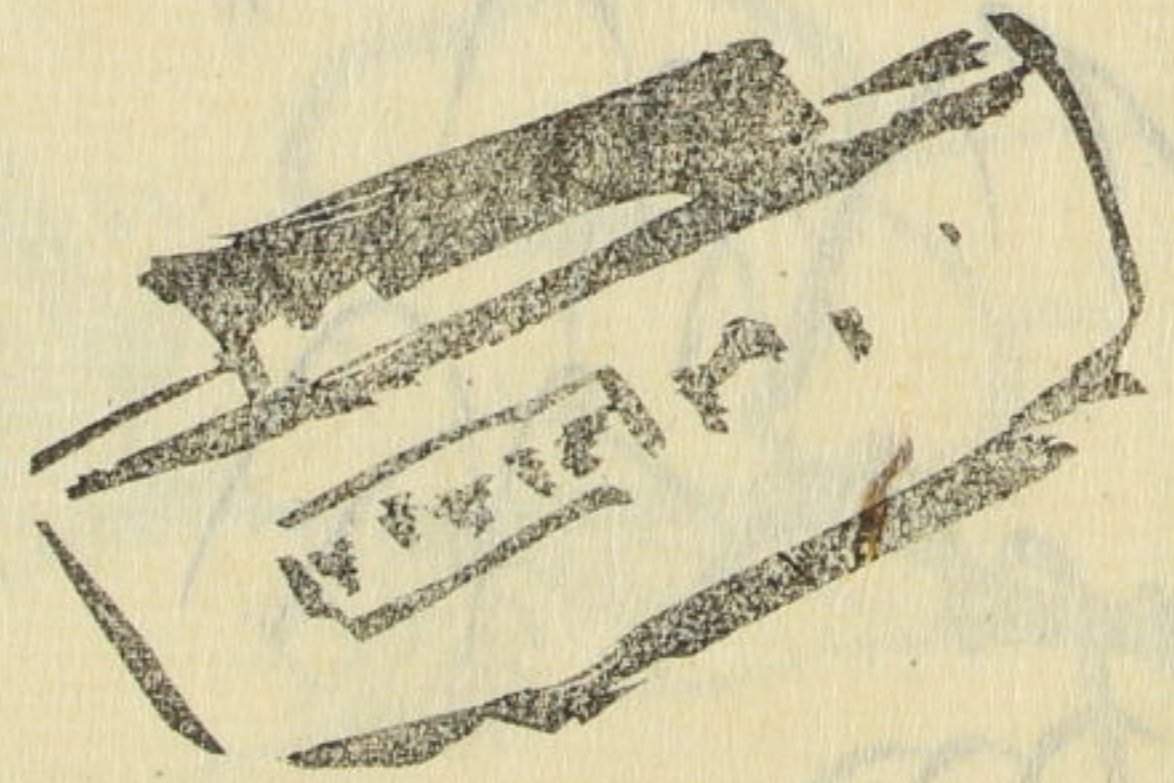
けくくのりや

葉文尾

やまきき

あさささ

梅歌



二十

二十

雪のうらみ ぐらぐら

葉の しみ 葉月居連 依藤水

雪のうらみ 全 葉紅巻 主歌

交ああさむ 柳風

柳か

夏もるの 云快橋

人のあ 浩山

けきのま



謡 初

可也 炎

猿 毛

おー 双一

幻堂露夕







一松亭

幸甫

万葉に

のの焦く

白か

申す

誠也

東光敏

あや

そのあえ

友榮

正りの

全

栄林亭

あのかき火の

里溪

かきす  
かきす

屠蘇の碎

いづれも  
棧燒

と戸きり

か破る不仙

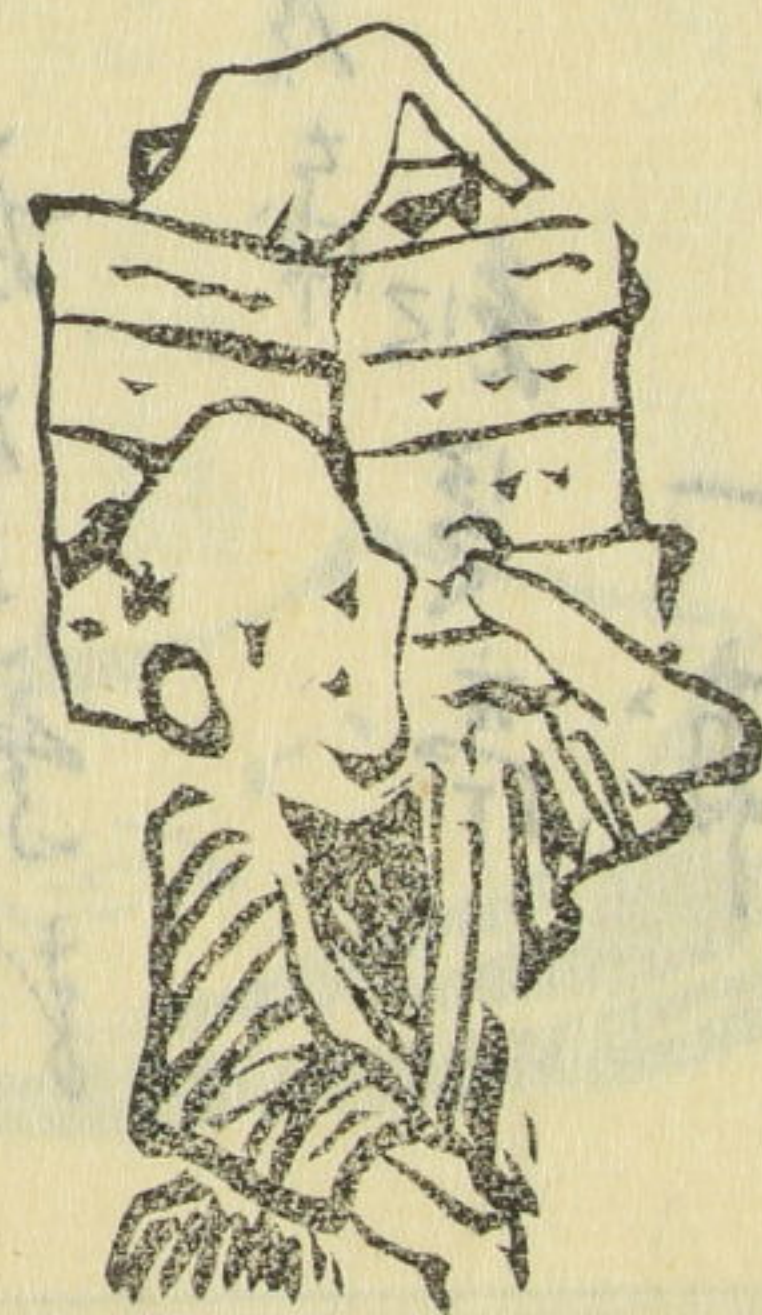


春の雨や

朝露子

清々

小満



乃古庫  
古来

一仙

案にあま

あや梅系

一々あめ

おひら

おろし松

大徳の

清々

十左の山

森勇



武七田  
南御茶屋

森高

あき月

全巻令

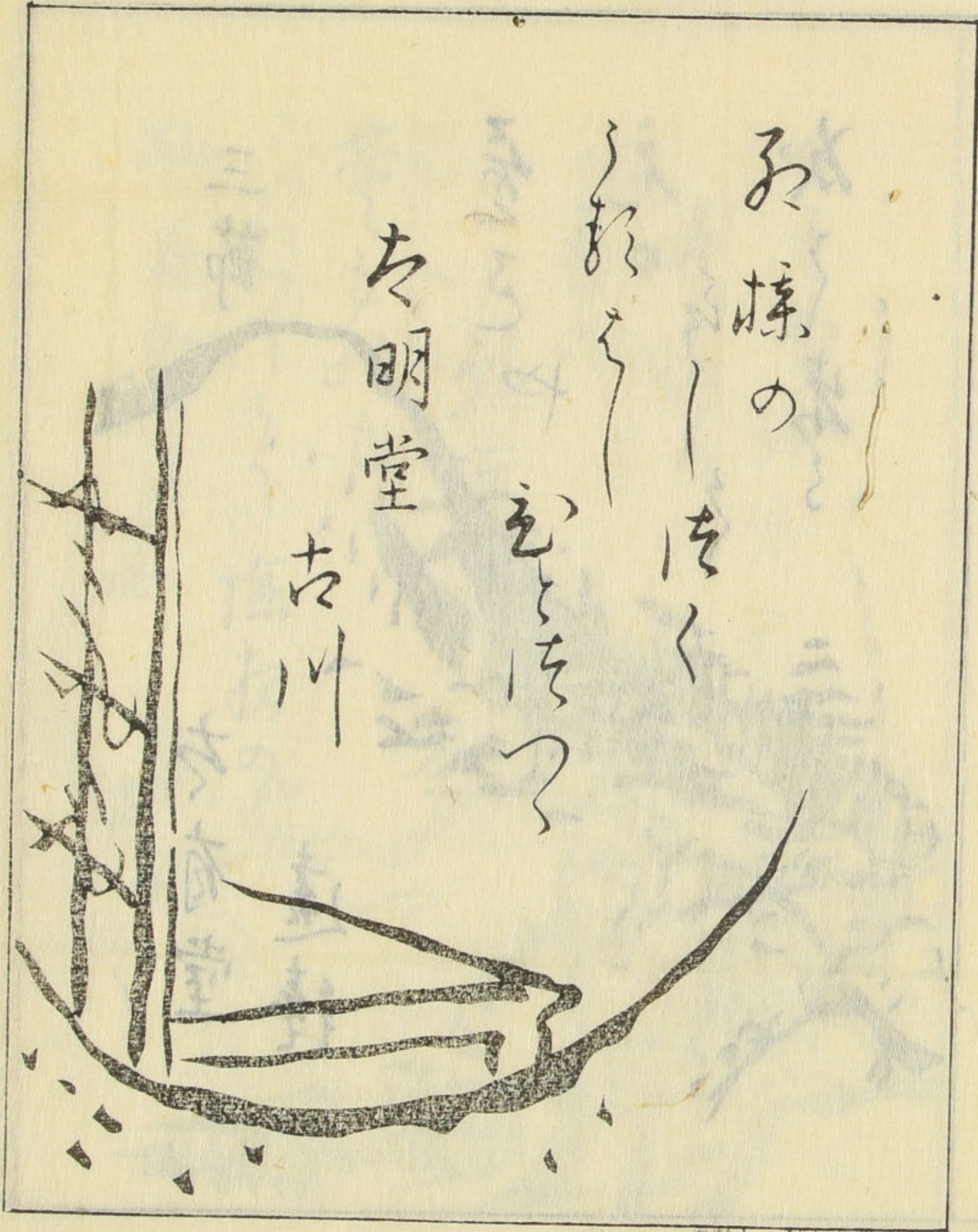
南川茶

布丸

全

批御茶





三節

曇るこや

えの

かゝ来々



有堂

遠鐘

九九

日七旬ふ

色あり

春の

影を

帯をたれ七

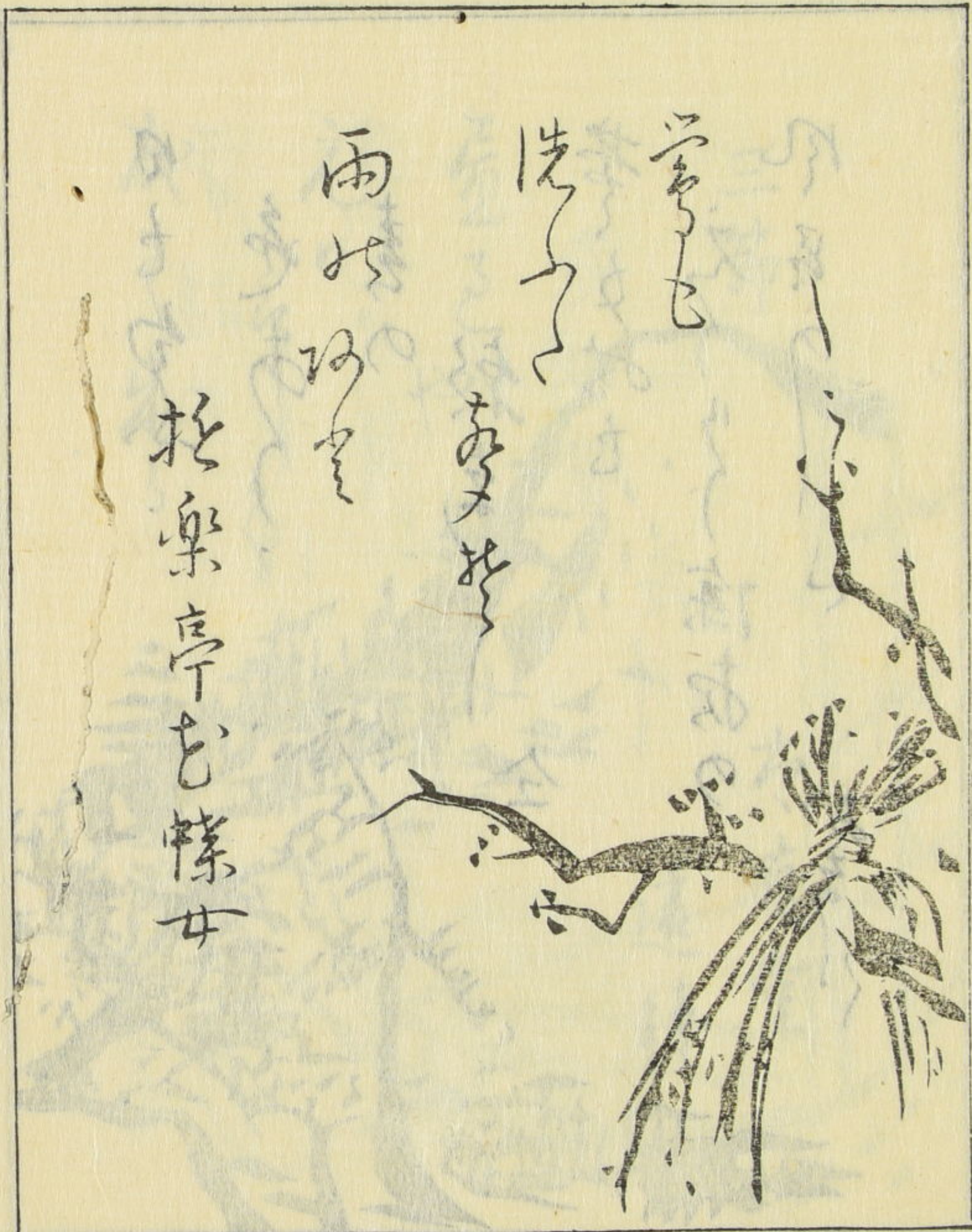
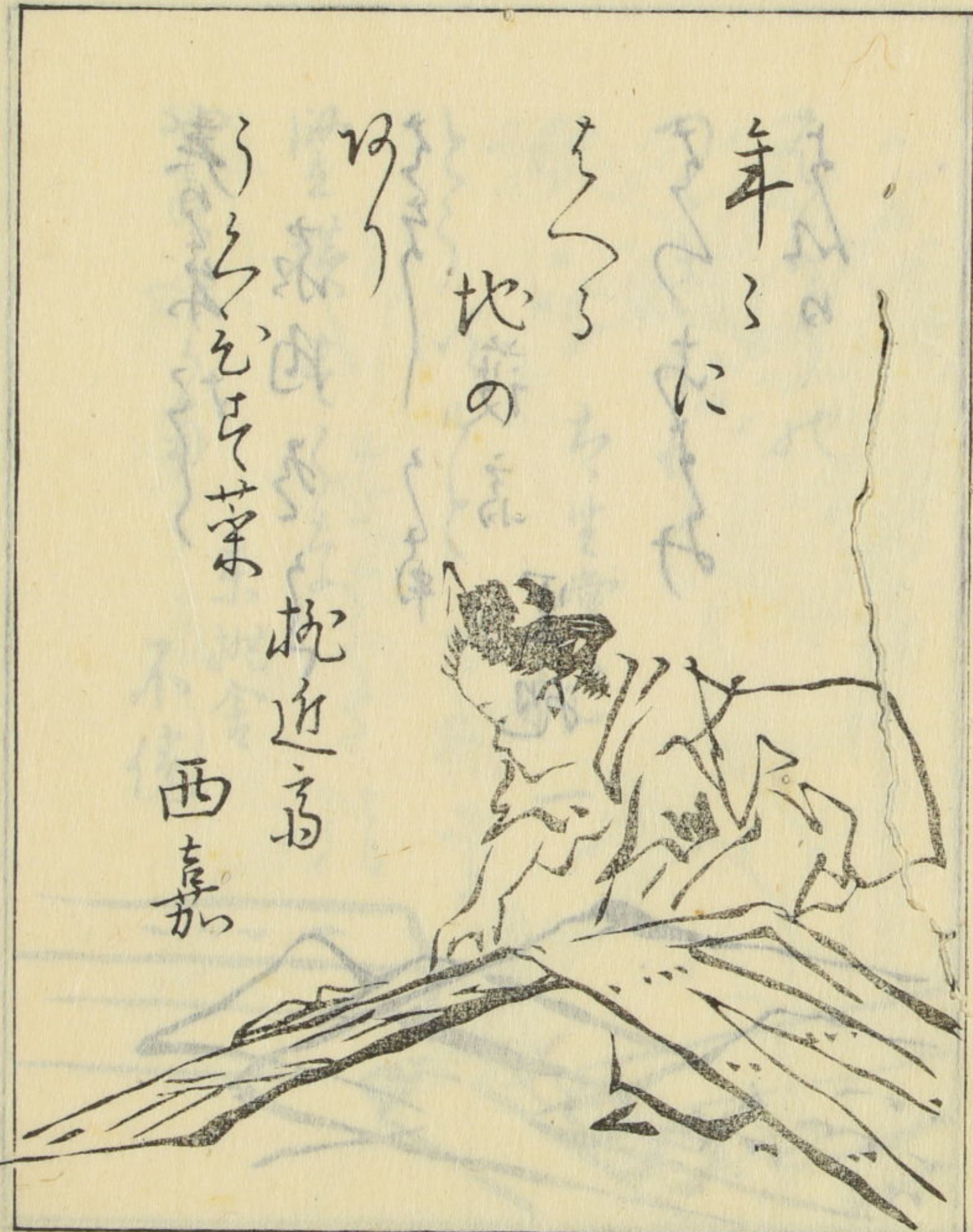
えりり除おの

風呂の

おきく



九九



夫の来たる

京内をくぐる

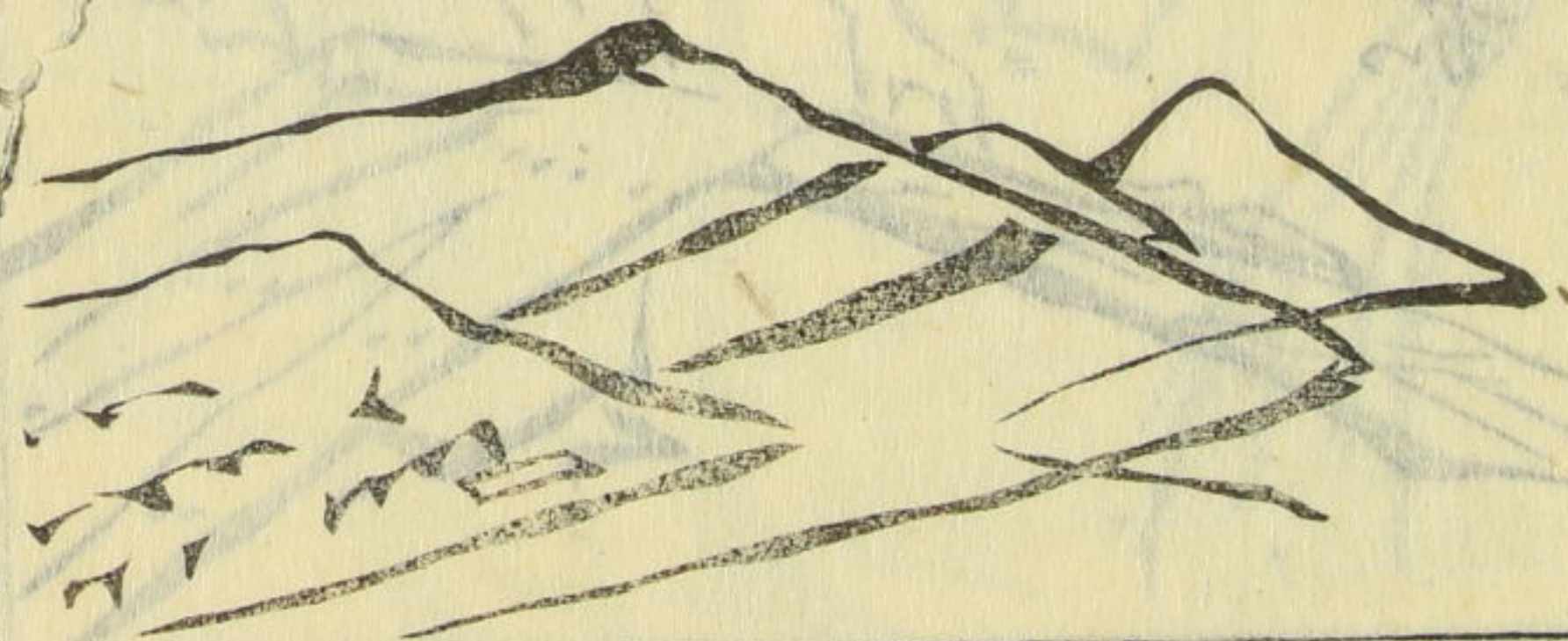
をきくうす

後高

里旭

をらあまみ

よひ日



九十六

をのりた

つきりり

お生堂

枕一

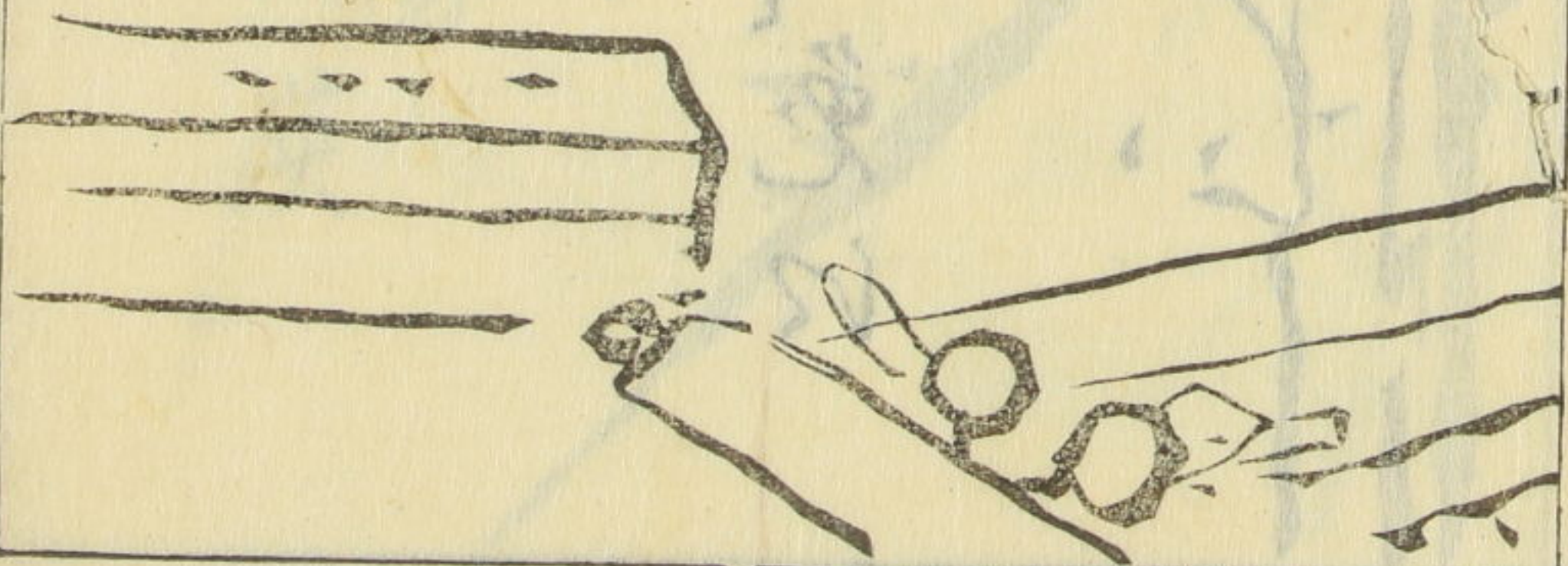
とくひと

ゆき横をくぐる

東桃舎

不徒

やまのきりり



九十七

雪やふりしむら

きりん

おとこを

右 瀨堂 免江



弱し系

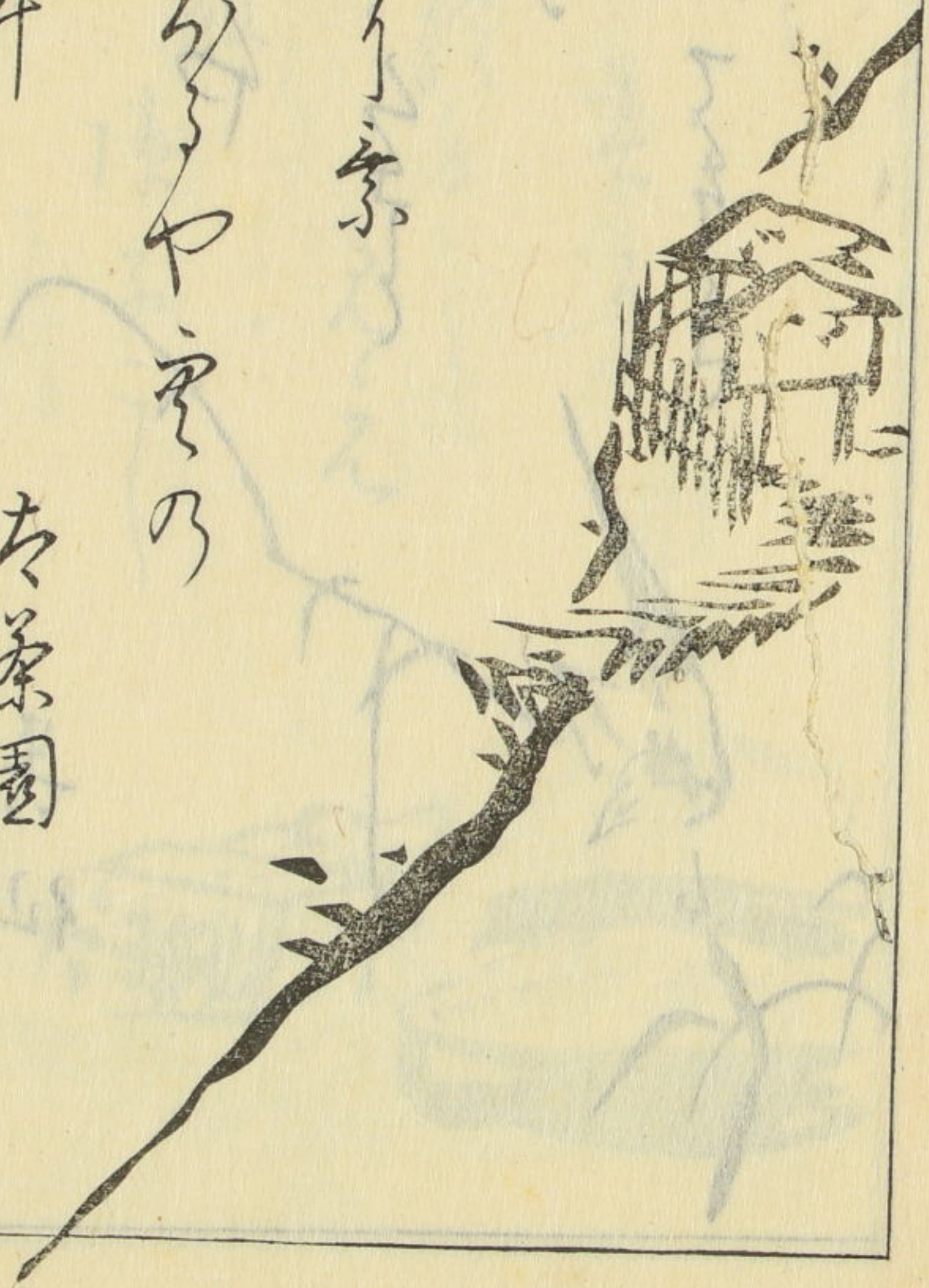
あつちや

去年

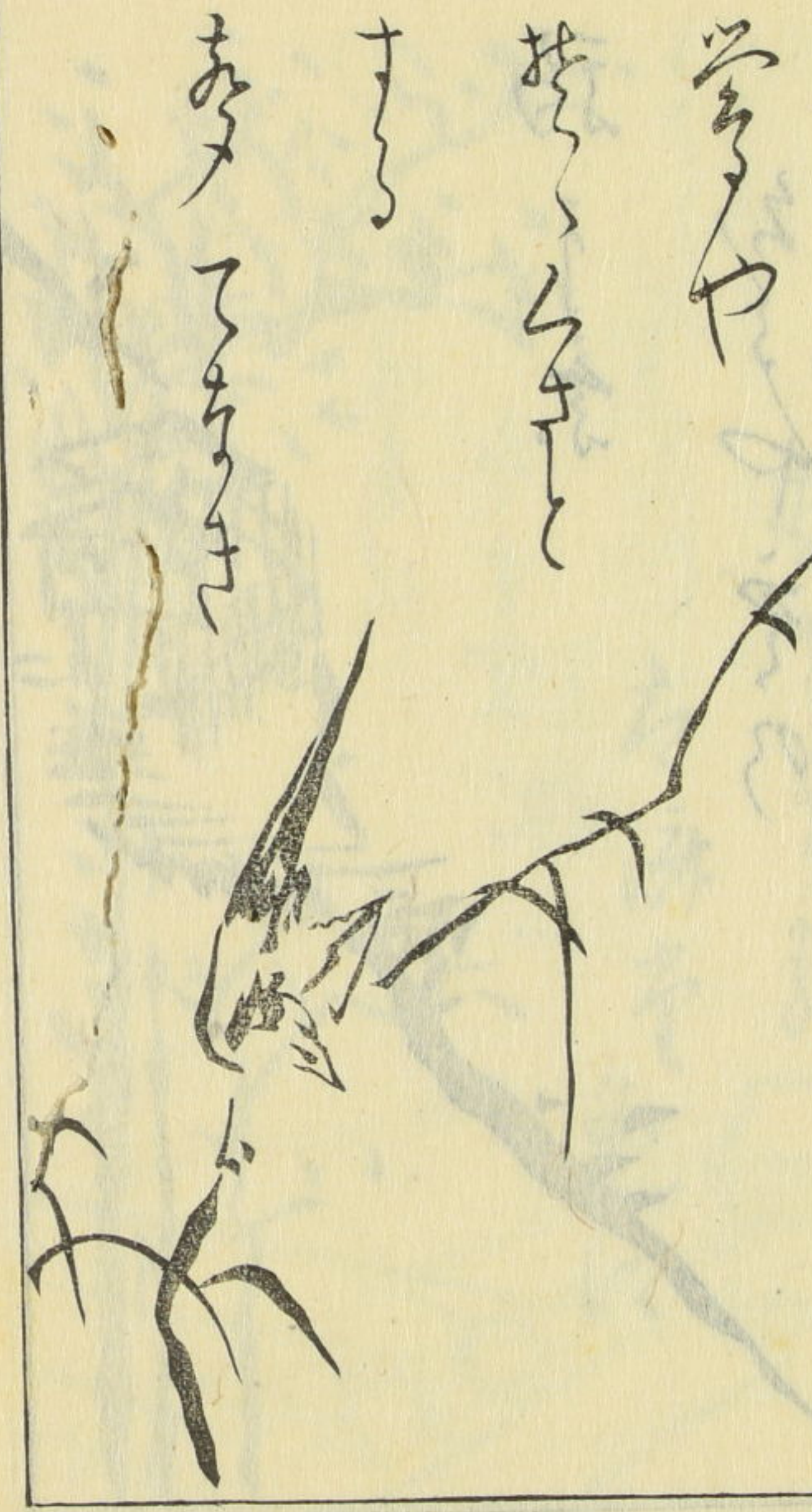
今年

右 茶園

一 英

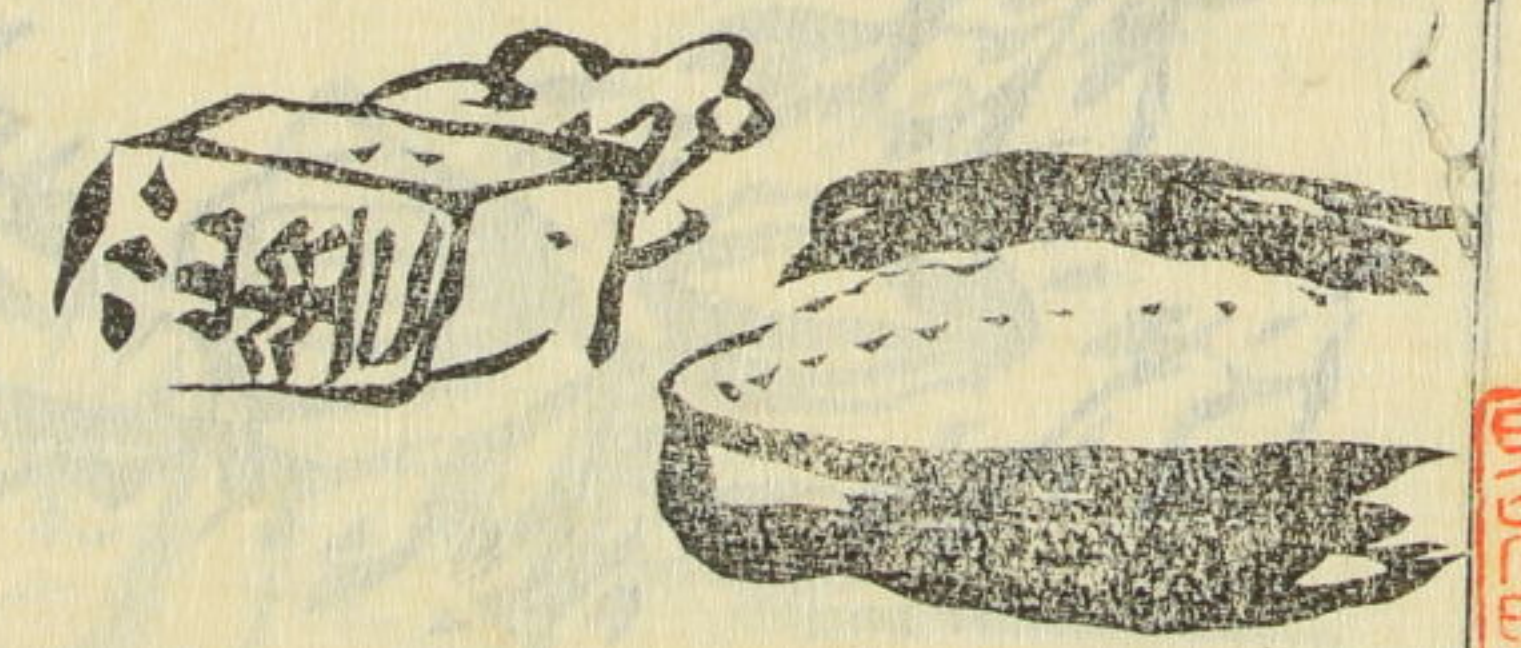


批之堂  
吳仙



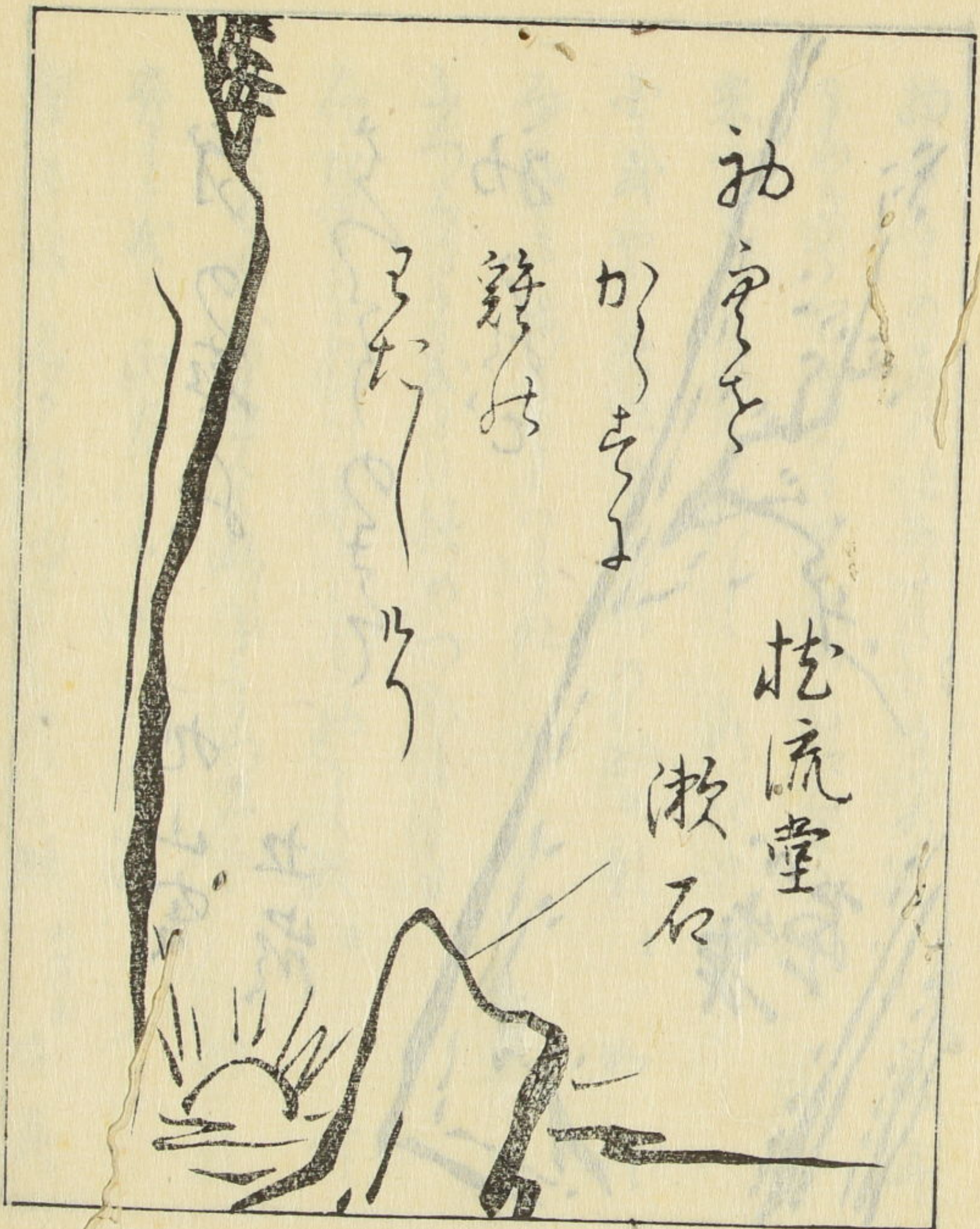
學也  
其  
其  
其

亦以  
亦以  
亦以  
亦以



批書舍

批書舍



初  
之  
を

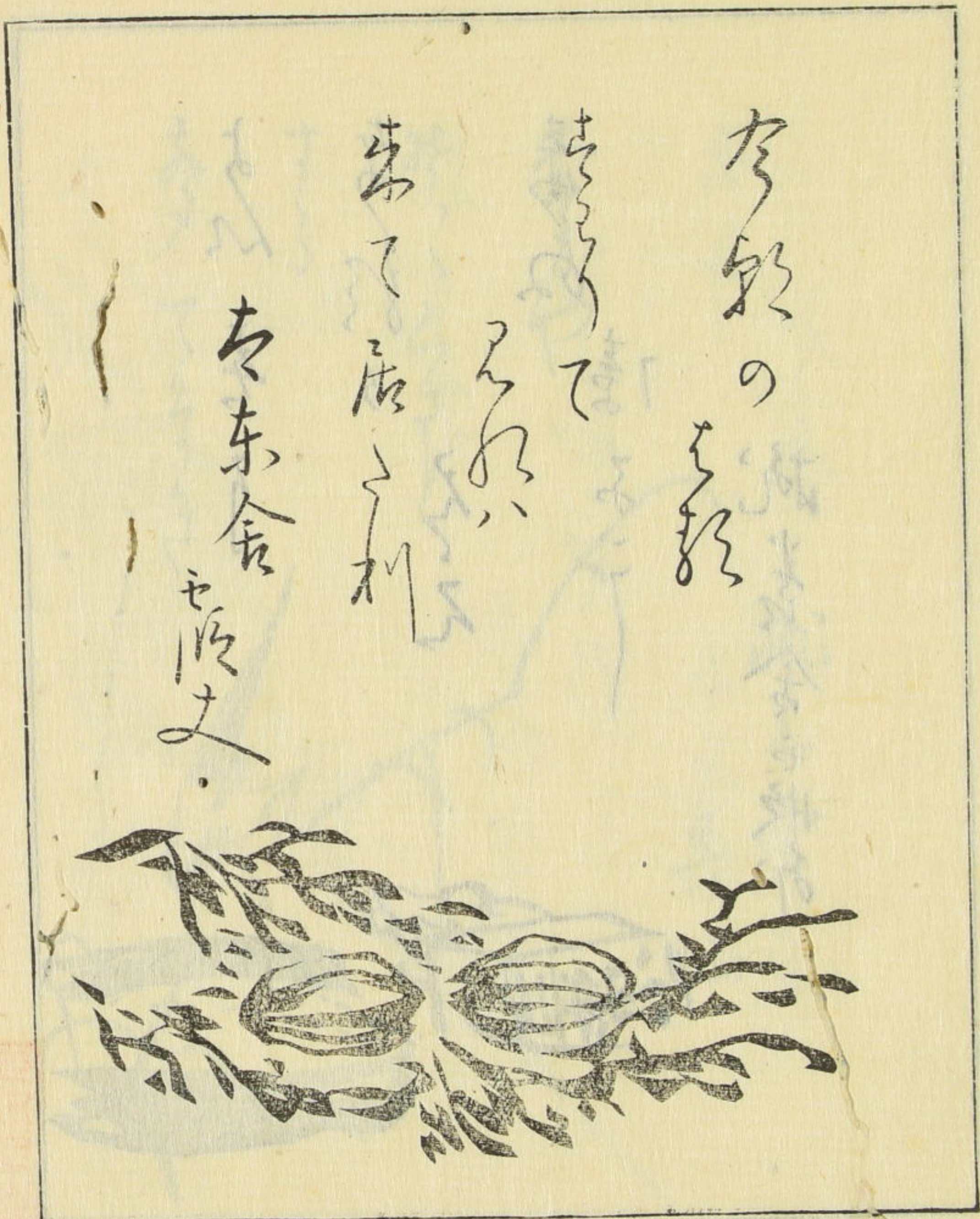
か  
き  
ま

鏡  
花

三  
つ  
り  
り

枕  
流  
堂

漱  
石



夕  
顔  
の  
花

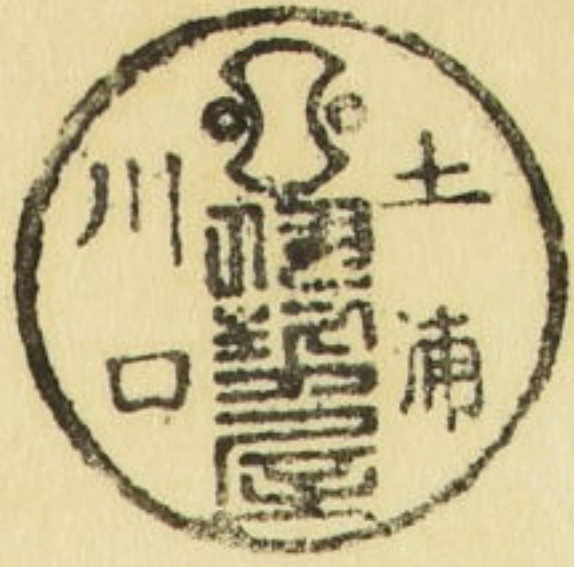
ま  
さ  
ら  
に

ふ  
れ  
は

来  
て  
居  
る  
か

右  
東  
舎

七  
段  
又



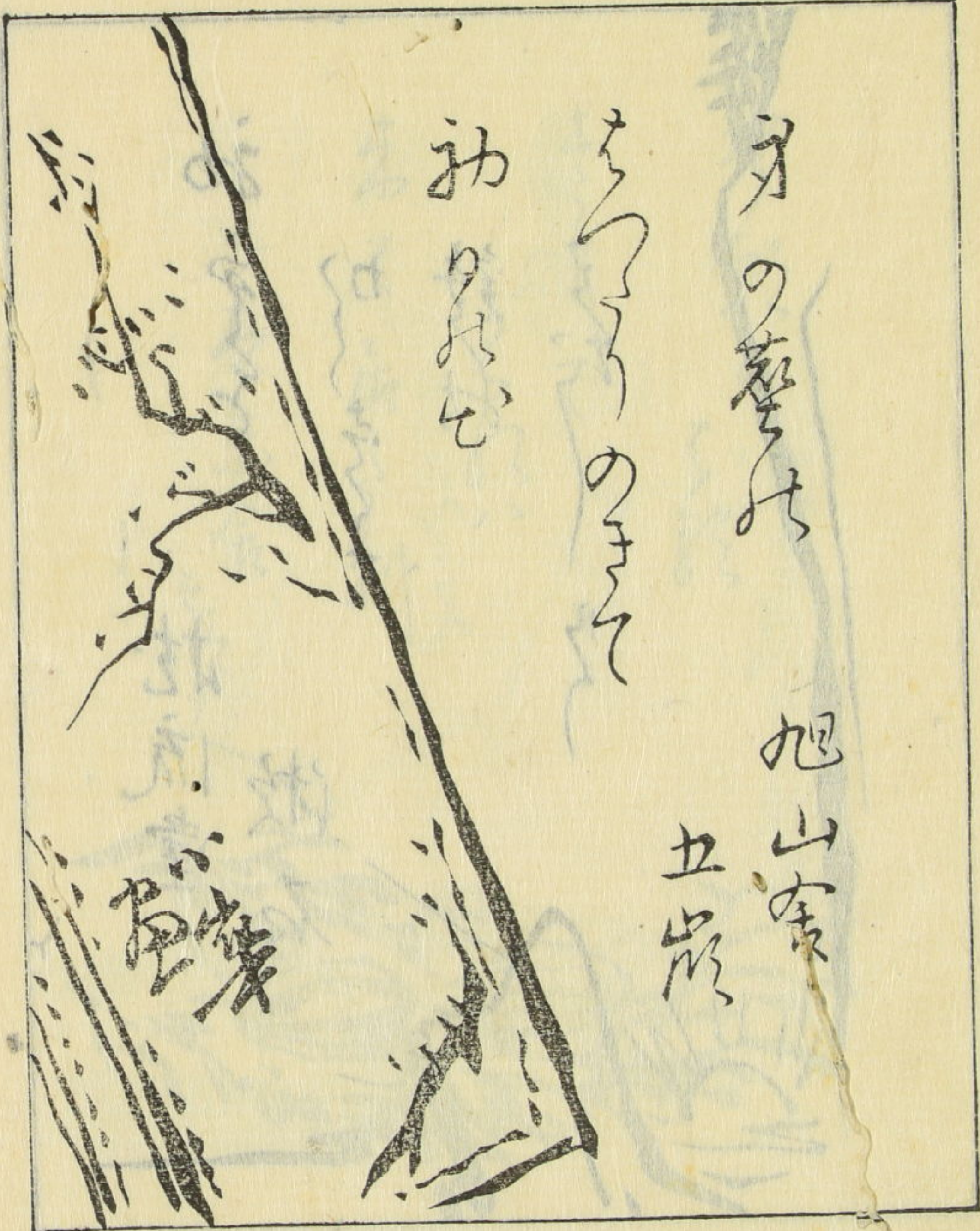
才の藝者

旭山

五郎

まづこのまて

おられ



物まのあはもあまのま

土浦

元年

あまのまのあまのま

あまのまのあまのま

あまのまのあまのま

あまのまのあまのま

あまのまのあまのま

あまのまのあまのま

あまのまのあまのま

あまのまのあまのま

あまのまのあまのま





かくのふてふりのまを、い

兩節

何きほりそる並なるまは、まの

まのふりうりのある、柳

今日の春、花のほで、柳

そこのの、花のほで、柳

明けてえき、まの守、まの色

柳、一、ま、ま、柳のたて、ま

白いまをえき、ま、ま、ま

柳、南、ま

松、南、ま

柳、お、お、お、お、お、お、お

け、中、中、中、中、中、中、中

某、月、辰

一、一、一、一、一、一、一

中、中、中、中、中、中、中

桃、水、舎

美、美、美、美、美、美、美

起、起、起、起、起、起、起

南、街、堂

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

と、と、と、と、と、と、と

玉、花、園

か、か、か、か、か、か、か

二、二、二、二、二、二、二

五、斗、弁

春柳や春のうらさしぬの春をまよ

清快中々春を井ふ松井とつらあり  
清くもよしくまの春の光の光

あゝ申とほひしよやひさのほ

万葉集 松や鶯の口はき

おとりの春ささくぬて梅も

みとくさるその廣さや 新鳥

高傳のあやや 古学のあつさ

えりの春ふよぬおとりの

小さく春のあつささるぬ春を

お終のよつさくさるその光

世宗堂

方志堂

藤原堂

徳之庵

沢月堂

江戸にほく梅松白一赤二梅

春興

燈塔の鬼灯賣やあのか

あつさくさるぬてささく梅を

春風やあつさるぬてささく

春風やあつさるぬてささく

ささくさるぬてささく梅を

初春のよ紙 ささく梅を

七竹やあつさるぬてささく

お梅やあつさるぬてささく

他邦

河

松

春

梅

松

竹

梅

一

藤おさく登りて押しの松の内  
 巴篁  
 春の山ひらくつら越て居ぬ  
 素暁  
 春柳とわささしるう着の襟  
 花柄  
 ちろくりに彩折りや着の衣  
 争象  
 様々々々々々々々々々々々々々々々  
 文衡  
 のとまやうううううううううう  
 柳成  
 おさうううううううううううう  
 梅秀  
 梅おさく登りて押しの松の内  
 柳史  
 さうううううううううううう  
 石扇

春風くは旅をく渡の所つま  
 貞彦  
 人あも病もふくくくくくくく  
 梅秀  
 春うううううううううううう  
 柳仙  
 うううううううううううう  
 一壽  
 富士んあふ二んあふ又春の旅  
 春勇  
 様控て春や彩ゆめ房うけ  
 春山  
 梅咲くうううううううううう  
 春又  
 のひらのうううううううううう  
 春介

やまのふゆをぬかす春の山  
人のまゝに流れていづるに余も  
雪や雪をまじりて春を居あはれ  
ともまじりて春をぬよ柳花  
春をよるや雪 雪の深にけり  
一葉

出てるぬかりありあうけり  
うらみの雪花ひやそきて来  
いづれもまじりてりや 松ん  
松花

松ハ赤く青をまじりて 本芽ハ  
上利ハ 松花 流れて子の白ハ  
凍りけりや春ハこころを 春羽川  
春のおや 春をまじりて 松男  
陰麗とくけりふりよの 松ハハ  
いとちや 土花 流れてのまじりて  
流れて 松の白のいつくさ  
このうら 雪をまじりて 山花  
芽花や 流れての田井の 流れて  
まじり

霞をくかく煙や去の心  
 吾ちくくの鼻にもそねくおの梅  
 志くはく氷のりや去の春  
 暮草や春と春とふいふ  
 芋甲ハ侍従 志方 志の梅  
 家居七ヤんきき 志方 志の梅  
 吾柳く申も 志方 志の梅  
 時くらの山も 志方 志の梅  
 小松也ヤ 氷くぬく 志方

松崎

秀翠

栢翁

志計

慕岫

榮山

梨岫

柳中尼

徳杖



於隈や去きゆく山のこ  
 心くとき居ぬハ白ふや梅も  
 七くや春の志方 志方  
 年 栄草  
 侍あくハ 志除おの志計  
 大尾  
 年の市 栄草と志方 志方  
 さく 志方 志方 志方  
 煉の丸 志方 志方

桂翁

水周

榮塚

志方

志方

志方

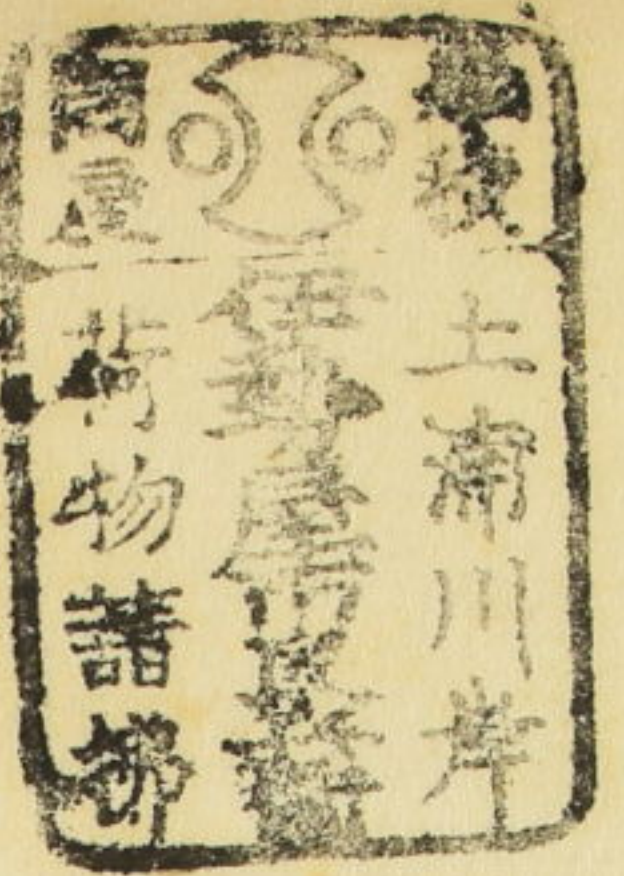
志方

志方

志方

志方

百七曲



川岸にて暮れけりをうらみ  
 暮くけり針とてんす所のさま  
 是てよまてりいそとくぬぬ  
 うそりの暮ん草もさうらうら  
 をくをえて針いそぬの山の尻根  
 市浪どれ交中の隅の泉訪て暮れぬ  
 跡よもくくもゆきのわらうら  
 をまの年たふ六忘れり  
 決りて干るも掛やうのぬぬ  
 ぬのろまて暮る思人のまきりけり

遊石  
 暮冬  
 文進  
 高古  
 葉漢  
 又雪  
 津和  
 嶋麦  
 蝶二  
 魁末

東坡上浦川岸  
物語抄